

史料目録 第112集

近現代文書目録
(その2)

令和3年3月

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館
学術資料事業部

史料目録 第112集

近現代文書目録
(その2)

The catalogue of historical collections

Vol. 112

The catalogue of personal papers

in the Modern Japanese History

No.2

National Institute of Japanese Literature, 2021

ISBN978-4-87592-200-1

ISSN2435-2055

太子少保於洋大臣其總督部堂其長也敬說

委為練兵重要需材孔亟現設北洋行營將弁學堂以廣造就而資任使

恭摺仰祈

聖鑒事竊維三軍易集一將難求將非其人以至過敵方春而各國相尚以武
相觀以習兵皆知學將皆方升才校偏碍研明方畧良由材製造就學有本
源以視一勇之夫悲恃血氣於高齊力者其為健者蓋數其不博矣伏
請上年七月二十三日

諭旨練兵必先選將而將才既由教育而成但學堂設既非旦夕可期各省學成
之員既尚不敷分調惟有先就原有將弁遴選推用等因欽此嗣准此語處
咨稱將弁必使相通文字舊日營哨各官甄別擇留今入學堂講習等
語仰見

制堂之上學書詳洵足為求將之良方他治軍之要義也查武備學術遠
徑給舉須學習四年始可畢業既畢業後又須入營歷練三年再入大
學堂肄業三年總計須八九年乃能成材現值時艱方嚴將才消乏固
亟應廣設武備學堂為三年當艾之計然如專行此項學生出仕任使實
屬緩不濟急因在省城建立行營將弁學堂一區遴選曾經帶兵員
粗識文字有志上進者作為學員訂定章程選擇各種切要學術督飭
肄習以八月為卒業之期業成考選優等即可酌委軍需職不若由
武備學堂出身者學博詣精根柢深厚然曾絲關歷成行而所學又皆
切要通用亦堪備目下將弁之選惟創辦伊始董其事者必須得人始
能經理認真不同敷衍查有指分直隸補用道雷震春饒有材畧能任
勞蒞請練武備熟悉營務堪以派充該學堂總辦即責成該道督飭諸
教官等加意訓迪實力操與併起程之大旨俾得為學成材勉期收效於
以宏學育而賞器使計無使於此者亦足仰副

朝廷練作人誦語誥誡至意除武備學堂仍一向由日善教舉外謹先將

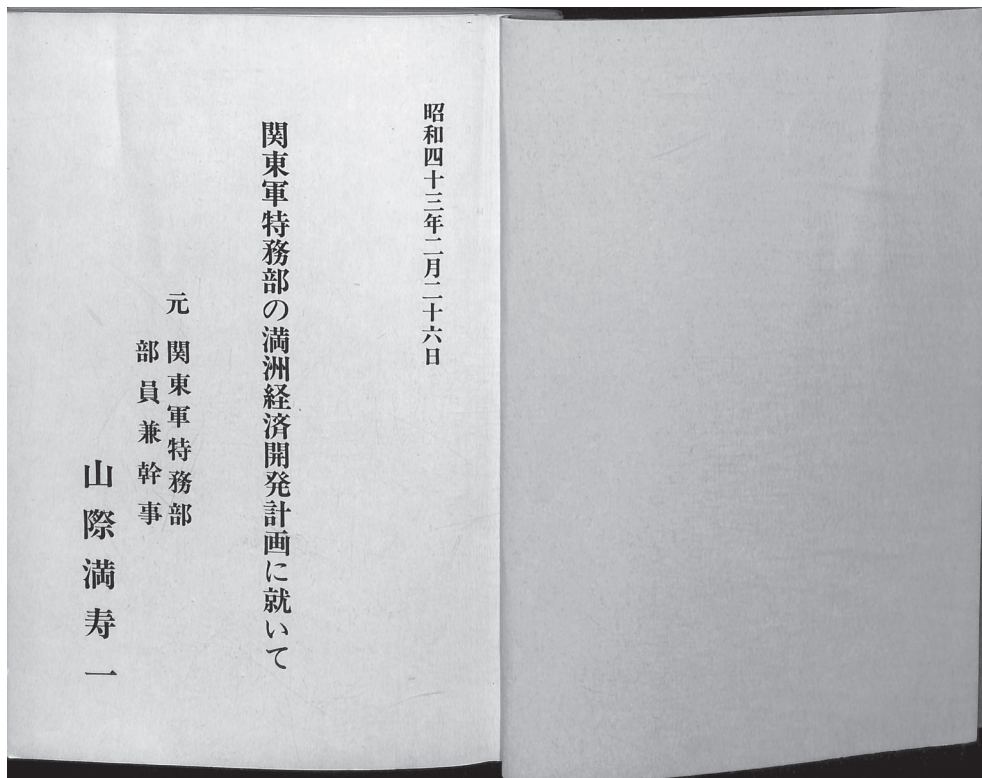
擬訂行營將弁學堂章程擬具清單呈
御覽是否有管理合恭摺具陳伏乞

皇太后
皇上聖鑒訓示謹

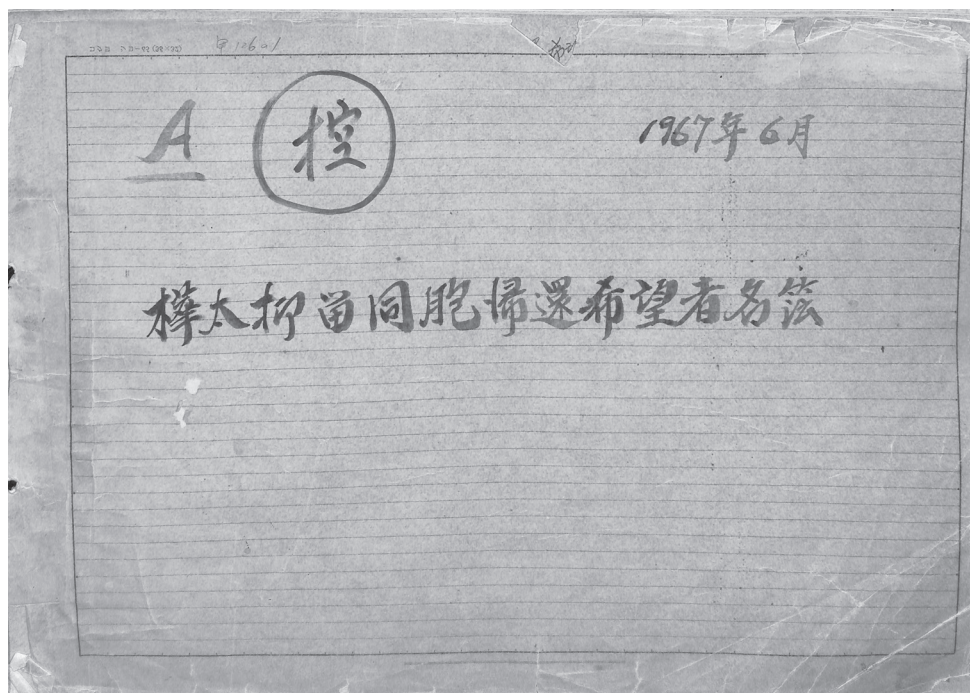
光緒二十八年五月 十六日
謹將北洋行營將弁學堂章程繕具清單呈

多賀宗之文書「北洋行營將弁學堂設立の件」(No.337)

多賀宗之文書「書簡〔公使青木と相談の上尽力願い〕」(No.894)



満洲国史編纂資料「関東軍特務部の満洲経済開発計画に就いて」(No.37)



サハリン残留韓国人帰還運動関係資料「樺太抑留同胞帰還希望者名」(No.1)

凡 例

- 1 本目録は、『史料目録』第112集として「近現代文書目録(二)」を収めた。本目録の対象は、「多賀宗之文書」・「満洲国史編纂資料」・「サハリン残留韓国人帰還運動関係資料」の3つの文書群から構成される。
- 2 目録の編成にあたっては文書群の階層構造に留意し、ISAD(G)(国際標準：アーカイブズ記述の一般原則)の考え方を参考にした。なお、個人・団体文書の場合、組織体文書と異なり、原秩序が崩壊、またはそもそも当初から体系的整理がなされていないケースが多く、それぞれの文書群の現状を踏まえて上での階層構造分析とシリーズ編成が必要になる。基本としては原蔵者の経歴、原蔵団体の活動に応じたシリーズレベル(サブ・シリーズレベルも含む)を設定したが、文書群の構造によっては形態別を加えた混合型、または形態別みのシリーズ編成を行っている。また、シリーズ(またはサブ・シリーズ)以下は文書の形態に応じてファイルまたはアイテムレベルを、フォンドが複数のフォンドから構成される文書群に関してはサブ・フォンドを設定した。
- 3 文書の集合的記述は、フォンドとシリーズのレベルで解題を記した。
- 4 文書1点ごとの記述は、①表題・作成・宛先(表題、内容摘記、注記、作成または作成→宛先)、②年代(作成年月日、年代幅、西暦年)、③数量・形態・刻字、④整理番号、の順に記載した。また、書簡に関しては、差出人が日本人・中国人で漢字・仮名表記のものは五十音順(日本語読み)、欧米人でアルファベット表記のものはアルファベット順に列記した。

表題は、冊子型文書も書付型文書も原表題もしくは柱書を取り、それが無い場合には〔 〕で表題を付与した。また、表題が無い書簡・葉書・電報・名刺については形態を記載した。さらに、原表題や柱書だけでは不十分である場合および書簡に関しては、その後に〔 〕で内容および注記事項を摘記した。さらに、複数の文書が一括されている文書の場合、表題に一括文書名を表記し、一点ごとの細目表題を一字空けて以下に列記した。作成に関しては、表題欄に表記したが、作成不明な場合で罫紙・用紙の種類から作成者が類推できるものは、「陸軍罫紙」などと補記した。なお、破損などで判読不能な箇所は□で表記した。

作成年月日に関しては、和暦と西暦を表記し、推定したものは〔 〕を付した。また、年代幅がある場合は、起点から終点までを表記した。また、書簡の発信者に関しては、記載されている発信者名に加えて利用の便を図るため肩書きが判明するものに関しては〔 〕で補記した。

数量・形態・刻字は、綴・冊・枚で表記した。また、合綴または袋などで一括されているものは一括と表記した。その他、刻字は鉛筆を含めペン書きのものは「ペン」、墨書のものは「墨書」、謄写版印刷のものは「謄写版」、活字印刷のものは「活版」、コピー複写は「コピー」、ファックス印刷は「ファックス」と表記した。
- 5 本目録が対象とした文書は、廃棄から当館受入後の整理までの過程で原秩序が失われ、整理された際の順序によって史料番号が付与されたため、目録上で文書が整理番号順に並んでいない。そのため番号による検索には不便をきたすので、文書の引用に際しては番号のほか掲載頁もできるなら

ば併記することをお願いしたい。

- 6 本目録の総括は研究部加藤聖文が担当した。また、多賀宗之文書に関しては、田中悠介（一橋大学大学院生）が、満洲国史編纂関係資料に関しては、堀内暢行（当館プロジェクト研究員）が、サハリン残留韓国人帰還運動関係資料に関しては、志田達彦（当館プロジェクト研究員）がデータ作成および編成作業にあたった。

総目次

口 絵

凡 例

総目次

近現代文書目録（その2）

多賀宗之文書目録

目録本文細目次	2
解題	4
目録本文	7

満洲国史編纂資料目録

目録本文細目次	96
解題	99
目録本文	102

サハリン残留韓国人帰還運動関係資料目録

目録本文細目次	146
解題	147
目録本文	149

多賀宗之文書目錄

多賀宗之文書目録 本文細目次

Series No.1: 公の活動	7
Sub-Series No.1: 陸軍幼年学校・陸軍士官学校	7
Sub-Series No.2: 近衛歩兵第1連隊	7
Sub-Series No.3: 保定府弁校総教習	7
業務全般	7
軍事情報	8
辞令・身分証類	9
Sub-Series No.4: 歩兵第48連隊	9
業務全般	9
辞令・身分証類	9
Sub-Series No.5: 参謀本部付（北京・承德・福州）	10
軍事情報	10
辞令・身分証類	10
Sub-Series No.6: 李村軍政署長官	11
軍事情報	11
辞令	12
Sub-Series No.7: 参謀本部付（南京）	12
軍事情報	12
辞令	13
Sub-Series No.8: 江蘇督軍顧問	13
業務全般	13
軍事情報	14
辞令	14
Sub-Series No.9: 予備役	14
中国問題	14
帝国在郷軍人会	14
Sub-Series No.10: 年代不明	15
Series No.2: 個人	16
Sub-Series No.1: 日記	16
Sub-Series No.2: 原稿・著作	16

Sub-Series No.3: 証書類	17
証書	17
祝賀	18
その他	20
Sub-Series No.4: 家族	22
多賀宗義	22
多賀茂子	24
多賀宗隼	25
多賀宇佐子	26
多賀万佐子	26
多賀淑子	26
Sub-Series No.5: 写真・絵葉書・物品類	26
写真	26
絵葉書	28
書画	31
名刺・封筒・紙片他	34
物品	36
Sub-Series No.6: 刊行物	37
書籍	37
定期刊行物	38
Series No.3: 書簡	41
Sub-Series No.1: 来信	41
Sub-Series No.2: 発信	84
Sub-Series No.3: 家族	85
Sub-Series No.4: 第三者間	90
Sub-Series No.5: 発受信者不明	92

多賀宗之文書目録 解題

(3.1.1) 史料群番号：2013Q 国文学研究資料館, National Institute of Japanese Literature

(3.1.2) 史料群名称：多賀宗之文書, The Papers of TAGA, Muneyuki

(3.1.3) 年代：1874 (明治 7) 年 - 1986 (昭和 61) 年

(3.1.5) 数量：2,080 点 (20m)

(3.2.2) 履 歴：明治 5 年 (1872) 9 月 18 日に東京市神田駿河台にて陸軍中佐多賀宗義 (旧土佐藩士) と宇佐の長男として生まれた。21 年 (1888) に成城学校から陸軍幼年学校入学。26 年 (1893) 7 月陸軍士官学校卒業。27 年 (1894) 6 月歩兵少尉、近衛歩兵第 1 連隊に所属して日清戦争に従軍するも病により一時休職。31 年 (1898) 11 月原隊復帰の後、善隣書院で中国語を学ぶ。35 年 (1902) 5 月歩兵大尉となり、翌 6 月直隷総督袁世凱の招聘により北洋軍官学校 (北洋行營将弁学堂) の教官 (保定将弁校総教習) となる。40 年 (1907) 11 月歩兵少佐。43 年 (1910) 7 月帰国。44 年 (1911) 9 月歩兵第 48 連隊大隊長。同年 12 月に参謀本部派遣将校として北京に駐在し諜報活動に従事。45 年 (1912) 2 月に承德駐在となり第一次満蒙独立運動に関与。大正元年 (1912) 9 月福州駐在武官。3 年 (1914) 8 月歩兵中佐へ進級し、第一次世界大戦による対独参戦によって占領した山東半島の李村軍政署長官 (独立第 18 師団司令部付) となる。5 年 (1916) 6 月南京駐在武官。6 年 (1917) 2 月北洋軍官学校以来の旧知であった馮国璋が南京督軍であったことから江蘇省督軍顧問となる。7 年 (1918) 1 月歩兵大佐。11 年 (1922) 8 月陸軍少将に累進して帰国。12 年 (1923) 3 月予備役編入。昭和 10 年 (1935) 10 月 23 日死去。夢城・万城と号す。また袁世凱より賀忠良・字丹臣の中国名を与えられる。

(3.2.3) 来 歴：多賀宗之文書は、宗之没後は長男宗雄氏 (新宿区高田馬場住) が保管、戦時中は防空壕に保管されていた時期もあった。戦後になると宗雄氏次男の宗紀氏に引き継がれ、1959 年に母屋を改築した際、隣接するアパートで保管されていたが、1985 年頃にアパートを改築した際、文書の大半が宗之の三男にあたる宗隼氏 (国土館大学教授・日本中世史) の自宅 (武蔵野市) へ運び出された結果、資料の大半は宗隼氏宅に保管されることになった。宗隼氏宅 (1954 年建築・1980 年改築) では、1 階の書庫に保管されていたと考えられるが、宗隼氏没後 (1994 年以降) に別棟の書庫 (コンクリート製) に移された。一方、宗隼氏宅へ移された文書以外の残存文書は、宗紀氏宅に保管されていた。

2007 年暮、当館加藤聖文が、ゆまに書房編集部上條雅道氏より知人である宗紀氏の家に残されていた文書の取り扱いについて相談を受け、2008 年 1 月 25 日に多賀家 (高田馬場) で残存文書の概要

調査を実施した。

その後、2008年暮に宗隼氏旧宅に文書が残存していることが判明し、2009年1月18日に文書の概要調査を行い、合わせて分散されている多賀宗之文書を一括して寄贈することとなり、当館へ搬入された。

多賀宗之文書は、宗隼氏保管分は文書資料中心であるが、戦時中から戦後にかけての保管状況により書簡などの劣化が激しい。なお、宗隼氏が文書の整理を行っており、重要書簡に関しては和紙で裏打ちの上、一部は原稿に翻刻されている。また、宗隼氏没後も何度か資料の出し入れが行われ、原秩序は完全に失われている。

宗紀氏保管分は、掛け軸などモノ資料が中心である。わずかに残された文書資料は水損による劣化が激しく、開披不能のものもある。こちらも原秩序は完全に失われている。

(3.3.1) 範囲と内容：多賀宗之文書は、多賀宗之の陸軍軍人時代に作成・収集された文書、刊行物が中心である。内容は大きく分けると①保定府弁校総教習時代以降の中国での活動記録を中心とした業務文書類・辞令類と写真、②書簡、③モノ資料(掛軸・書画・刊行物など)から構成される。また、文書群には父宗義の他に妻茂子および四男宗隼他家族関係の書簡を含む文書が混入している。

本目録では、3つのSeries(No.1: 公的活動・No.2: 個人・No.3: 書簡)を設定し、その下に必要に応じてSub-Seriesを設定した。まず、本文書群の中核を占めるSeries No.1「公的活動」については、10のSub-Seriesを設定した。これらは多賀の軍歴に対応するものであり、列記すると以下の通りとなる。陸軍幼年学校および陸軍士官学校時代の文書(証書・辞令)から構成される「No.1: 陸軍幼年学校・陸軍士官学校」、近衛歩兵第1連隊時代の文書(辞令)から構成される「No.2: 近衛歩兵第1連隊」、袁世凱が設立した北洋行營将弁学堂の教官として中国へ渡った時代の文書から構成される「No.3: 保定府弁校総教習」、北京から帰国後に着任した歩兵第48連隊時代の文書から構成される「No.4: 歩兵第48連隊」、再び中国へ渡って北京・承德・福州での駐在武官時代の文書から構成される「No.5: 参謀本部付(北京・承德・福州)」、第一次世界大戦参戦によって占領した山東半島の李村軍政署長官時代の文書から構成される「No.6: 李村軍政署長官」、南京の駐在武官時代の文書から構成される「No.7: 参謀本部付(南京)」、馮国璋の招聘による江蘇督軍顧問時代の文書から構成される「No.8: 江蘇督軍顧問」、予備役編入後の文書から構成される「No.9: 予備役」、年代不明文書から構成される「No.10: 年代不明」である。

次に、Series No.2「個人」については、「No.1: 日記」、「No.2: 原稿・著作」、「No.3: 証書類」、「No.4: 家族」、「No.5: 写真・絵葉書・物品類」、「No.6: 刊行物」の6つのSub-Seriesを設定した。

最後に、Series No.3「書簡」は、「No.1: 来信」、「No.2: 発信」、「No.3: 家族」、「No.4: 第三者間」、「No.5: 発受信者不明」の5つのSub-Seriesを設定した。以下、3つのSeriesおよびSub-Seriesについて解説を加える。

Series No.1「公的活動」は、多賀宗之の生涯にわたる活動の大半を占め、本文書群の中核である。なかでも多賀が中国で活動した時代にあたるSub-Series No.3からNo.10までの文書群が内容的にも

重要である。これらは当該期の中国における陸軍の情報収集活動および中国側要人と陸軍との関係を窺い知ることのできる貴重な文書群といえよう。ただし、軍事情報類のなかには破損が激しく閲覧することが容易でないものも含まれる。そうしたなかでも、第一次満蒙独立運動に関する文書は本文書群のなかでも貴重である。

Series No.2「個人」は、多賀宗之の個人活動に関わるものを中心である。公的活動に関わるものも含まれるが、証書類・写真などが中心であり、内容が伴うものではない。また、本文書群は宗之死後も遺族が保管していたことから家族関係の文書も混入している。宗之に直接関わらないものも含まれるが、Sub-Seriesとして設定した。

Series No.3「書簡」は、本文書群の半数以上を占める。青木宣純や寺西秀武、松井石根など陸軍「支那通」軍人や萱野長知、薄益三など中国に関わった民間人からの書簡も豊富である。本目録では日本人・中国人の差出人は五十音順（日本語読み）、欧米人の差出人はアルファベット順、家族間は最初に個人別発信、ついで個人別受取を年代順に列記した。第三者間については、多賀宗之の変名と思われるもの（子明・子銘・子翁）もあるが、ここに収録した。不明書簡は、差出人または受取人名が記載されていない、または破損によって判読困難なものを掲載した。本文書群は何度か移動または整理が行われたため、封筒と中身が分離していたものが多く、確認できるものは原状に戻したが、多くは封筒と中身が分離したままとなっている。

(3.4.3) 使用言語：日本語・中国語・英語・ロシア語

(3.4.4) 資料状態：一部文書は水損などによる劣化が激しく、判読が不可能なものもある。

(3.4.5) 検索手段：『史料目録 第112集』

(3.5.3) 関連資料の所在：外務省外交史料館所蔵「外務省記録」、防衛省防衛研究所戦史研究センター史料室所蔵「密大日記」などに多賀の中国での活動に関わる文書がある。また、これらの文書はアジア歴史資料センターにてデジタル公開されている。

(3.5.4) 出版物：佐々博雄「多賀宗之と中国大陸－蒙古への武器輸入計画を中心として 付、多賀宗之関係書簡目録－」（『国土館史学』第2号，1994年7月）。東亜同文会編『統対支回顧録』（原書房，1973年），宇都宮太郎関係資料研究会編『日本陸軍とアジア政策 陸軍大将宇都宮太郎日記』（1-3巻，岩波書店，2007年），尚友倶楽部編『上原勇作日記』（芙蓉書房出版，2011年）

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

Series No.1: 公的活動

Sub-Series No.1: 陸軍幼年学校・陸軍士官学校

任命状〔士官候補生〕 監軍部→多賀宗之	明治24年6月20日 (1891)	1枚・墨書	56
卒業証書〔陸軍幼年学校〕 山内長人・山内通義→多賀宗之	明治24年6月20日 (1891)	1枚・墨書	66
卒業証書〔陸軍士官学校〕 波多野毅・黒瀬義門→多賀宗之	明治26年7月25日 (1893)	1枚・墨書	65
陸軍士官学校在学考科表		1綴・墨書	928-8

Sub-Series No.2: 近衛歩兵第1連隊

辞令書〔補近衛歩兵第1連隊付〕	明治27年6月14日 (1894)	1枚・墨書	843
辞令書〔任陸軍歩兵少尉〕	明治27年6月14日 (1894)	1枚・墨書	478
辞令書〔丸亀集合地へ出張の命令〕 留守近衛師団司令部→多賀宗之	明治28年11月19日 (1895)	1枚・墨書	444
辞令書〔任陸軍歩兵中尉〕	明治29年11月5日 (1896)	1枚・墨書	835-31
辞令書〔休職被仰付〕	明治30年9月13日 (1897)	1枚・墨書	854
辞令書〔補近衛歩兵第1連隊付〕	明治31年11月22日 (1898)	1枚・墨書	857
辞令書〔第8中隊付ヲ命ス〕	明治31年11月25日 (1898)	1枚・墨書	477
辞令書〔補士官学校生徒隊付〕	明治31年12月28日 (1898)	1枚・墨書	848
辞令書〔補近衛歩兵第1連隊中隊長〕 陸軍省	明治35年5月29日 (1902)	1枚・墨書	836
辞令書〔任陸軍歩兵大尉〕 桂太郎	明治35年5月29日 (1902)	1枚・墨書	841

Sub-Series No.3: 保定府弁校総教習

業務全般

北洋行營將弁学堂設立の件(中国語) 袁世凱	光緒28年5月16日 (1902)	1枚・墨書	337
〔総教習任務関係書類〕			507
〔清国勲記並照会書〕		1封筒(6枚)・墨書	507-1-1
合同□□□問二関スル書類		1封筒・墨書	507-1-2

第1次合同〔多賀宗之の清国招聘に関する誓約書(中国語)〕 馮国璋	光緒28年6月30日(1902)	1枚・墨書	507-1-2-1
第2次合同〔多賀宗之の清国招聘に関する誓約書(中国語)〕 馮国璋	光緒30年6月初1日(1904)	1枚・墨書	507-1-2-2
第3次合同〔多賀宗之の清国招聘に関する誓約書(中国語)〕 段祺瑞	光緒32年6月初1日(1906)	1枚・墨書	507-1-2-3
清国応聘継続ノ件 多賀宗之	明治41年6月25日(1908)	1枚・墨書	507-1-2-4
清国応聘継続ノ件 多賀宗之	明治40年4月27日(1907)	1枚・墨書	507-1-2-5
渡清願〔袁世凱の招聘につき渡清許可願い〕 多賀宗之→寺内正毅	明治35年6月9日(1902)	1枚・墨書	507-1-2-6
〔契約継続願い〕 段祺瑞→丹仁		2枚・墨書	507-1-2-7
〔欽命総理練兵処王大臣〕	光緒31年4月13日(1905)	1枚・墨書	507-1-3-1
照会〔北洋将弁速成学校課程全書編訳の件(中国語)〕	光緒29年8月26日(1903)	1枚・墨書	507-1-3-2
劄〔北洋陸軍の訓練と編成の件(中国語)〕 王・賀忠良	光緒31年4月13日(1905)	1枚・墨書	507-1-3-3
札〔保定将弁速成両学堂への総副監督補充の件(中国語)〕 袁	光緒31年5月17日(1905)	1枚・墨書	507-1-3-4
合同〔多賀宗之継続雇用契約〕 段祺瑞	光緒34年6月1日(1908)	1枚・墨書	507-1-11-1
副詳〔多賀宗之満期につき褒賞〕 将弁学堂	光緒30年6月14日(1904)	1封筒(1枚)・墨書	507-1-11-2
〔南京からの引越荷物について〕	明治34年(1901)	1綴・墨書	507-19
〔陸軍速成学堂第一班への訓諭及びその答辞(中国語)〕 陸軍		1綴・活版	396
北洋武備学堂試卷(中国語)		1冊・活版	363
陸軍少将多賀宗之遺稿 北洋陸軍建設記		1綴・ペン	926-1
紙札〔「学堂職員生徒名簿」などの書込〕		1枚・ペン	328-28
保定府城図 北洋陸軍学堂測繪	光緒31年3月1日(1905)	1幅・墨書	939
保定府城図		1枚・墨書	941

軍事情報

清河城附近戦鬪露軍配備図 明治38年2月24日正午頃	明治38年2月24日(1905)	1枚・活版	1016
露軍配置一覧図 明治38年3月4日夜	明治38年3月4日(1905)	2枚・活版	1017
檄〔馬賊隊編成目的之理由要領〕	明治40年10月1日(1907)	3枚・墨書	925-66
陸軍部陸軍速成学堂学生期考成績表	光緒34年6月15日(1908)	1冊・活版	656

〔原尚志伊犁陸軍速成学堂兼学兵營總教習所赴任關係契約書(中国語)〕 □□	光緒33年2月16日 (1907)	1綴・墨書	507-1-6
輸送計画及実施略図		1封筒(1枚)・ペン	507-1-9
日誌〔伊犁惠遠城から張家口へに到る行程〕		1綴・ペン	507-2
紙片〔食糧事情に関して〕		1枚・ペン	507-3
露領中央亜細亜ニ関スル管見		1綴・墨書	507-4
山東ノ状況		1綴・ペン	507-6
武備学堂原監督尚志稟請給假回国由 欽命陸軍部尚書銜節制新疆地方文武總統伊犁等処將軍長→原		1枚・墨書	507-9

辞令・身分証類

辞令書〔任陸軍歩兵少佐〕 西園寺公望→多賀宗之	明治40年11月13日 (1907)	1枚・墨書	844
照会〔酌奨保定各洋員教習等宝星清單一件〕 雷	光緒29年4月19日 (1903)	1枚・墨書	742-6-4
執照〔給發宝星執照〕 和碩慶	光緒29年3月24日 (1903)	1枚・墨書	742-5
執照〔給發執照事〕 和碩慶	光緒32年1月18日 (1906)	1枚・墨書	742-6-5
護照〔河南一帶の遊歴(中国語)〕 督弁陸軍各項学堂廂黃旗漢軍副都統奮勇巴圖魯加一級紀錄二次段	光緒34年12月21日 (1908)	1枚・活版	400-2
論〔典売廟産嚴行禁止〕 戈大徳	明治42年10月(1909)	1枚・墨書	742-2
護照〔北京經由帰国(中国語)〕 趙→多賀宗之	宣統2年5月初9日 (1910)	1枚・活版・墨書	398
護照〔天津經由帰国(中国語)〕 趙→多賀宗之	宣統2年5月14日(1910)	3枚・活版	400

Sub-Series No.4: 歩兵第48連隊**業務全般**

宮内及日下兩少佐へ訓令ノ件通牒 福島安正→多賀宗之	明治44年2月9日(1911)	2枚・墨書	507-18
〔見習士官として帰隊した後の研究に関する答弁〕 安辺浩	明治44年6月7日(1911)	1綴・墨書	486
〔見習士官として帰隊した後の研究に関する答弁〕	明治44年6月8日(1911)	1綴・墨書	485
〔見習士官として帰隊した後の研究に関する答弁〕	明治44年6月8日(1911)	1綴・墨書	487
参訓第19号 訓令 奥保鞏→多賀宗之	明治44年11月4日 (1911)	1枚・墨書	835-38

辞令・身分証類

辞令書〔補歩兵第48連隊付〕 陸軍省→多賀宗之	明治43年7月7日(1910)	1枚・墨書	839
-------------------------	-----------------	-------	-----

辞令書〔第18師管軍法会議判士長ヲ命ス〕 第18師団司令部→多賀宗之	明治43年12月26日 (1910)	1枚・墨書	868
辞令書〔補歩兵第48連隊大隊長〕 陸軍省→多賀宗之	明治44年9月6日(1911)	1枚・墨書	855
辞令書〔第1大隊長ヲ命ス〕 第18師団司令部→多賀宗之	明治44年9月9日(1911)	1枚・墨書	476
辞令書〔清国へ出張被仰付〕 陸軍省→多賀宗之	明治44年11月4日 (1911)	1枚・墨書	840
執照〔給発宝星一座、執照一張〕 和碩慶→多賀宗之	宣統3年1月19日(1911)	1枚・墨書	742-6-1
上原多市パスポート 本多熊太郎	明治44年2月26日 (1911)	1冊・活版	507-1-4

Sub-Series No.5: 参謀本部付(北京・承德・福州)

軍事情報

守田大佐へ訓令ノ件通牒 福島安正→多賀宗之	明治45年2月8日(1912)	2枚・墨書・ペン	507-17
守田大佐ノ駐在地変更ノ件通牒 福島安正→多賀宗之	明治45年2月13日 (1912)	1枚・墨書	507-16
参訓第12号 訓令 長谷川好道→多賀宗之	明治45年2月14日 (1912)	1枚・墨書	835-37
朝鮮勤務ニ関シ注意ヲ与エラルヘキ件通牒 星野金吾 →多賀宗之	明治45年6月11日 (1912)	1枚・ペン	507-11
通牒〔滿蒙課報勤務につき指示〕 大島健一→多賀宗之	明治45年6月11日 (1912)	1枚・ペン	507-15
清国官吏行動ノ件通牒 星野金吾→多賀宗之	明治45年6月17日 (1912)	2枚・ペン	507-12
都督宛郵便物發送ニ関スル件通牒 星野金吾→多賀 宗之	明治45年6月17日 (1912)	1枚・謄写版	507-14
特別暗号ニ依ル電報ニ冠字使用ノ件通牒 児島惣次郎 →多賀宗之	明治45年6月22日 (1912)	1枚・ペン	507-13
進退伺〔モンゴルカラチン王・バイリン王への武器密輸 失敗〕 多賀宗之→宇都宮太郎・上原勇作	明治45年7月5日(1912)	1封筒(8枚)・墨書	432
秘 大正元年十月ヨリ上海通報 多賀宗之	大正1年10月(1912)	1綴・墨書・謄写 版	926-2
呉淞付近南北兩軍配置略図	大正2年2月11日(1913)	1枚・活版	464
〔旅費清算のため捺印願ひ〕 参謀本部→多賀	大正2年5月9日(1913)	1枚・墨書	602

辞令・身分証類

辞令書〔参謀本部付被仰付〕 陸軍省→多賀宗之	明治44年12月2日 (1911)	1枚・墨書	475
辞令書〔清国へ出張被仰付〕 陸軍省→多賀宗之	大正1年9月30日(1912)	1枚・墨書	852
参訓第7号 訓令 長谷川好道→多賀宗之	大正1年9月30日(1912)	1枚・墨書	835-35
辞令書〔歩兵第三連隊付〕 陸軍省→多賀宗之	大正2年10月7日(1913)	1枚・墨書	849

辞令書〔第1師管軍法會議判士長ヲ命ス〕 第1師団司令部→多賀宗之	大正3年4月4日(1914)	1枚・墨書	862
辞令書〔補歩兵第3連隊付〕 陸軍省→多賀宗之	大正3年5月11日(1914)	1枚・活版	835-4
辞令書〔歩兵第3連隊付被免〕 陸軍省→多賀宗之	大正3年5月11日(1914)	1枚・墨書	861
辞令書〔本郷連隊区管内簡閱点呼執行官ヲ命ス〕 第1師団司令部→多賀宗之	大正3年6月10日(1914)	1枚・墨書	860
執照〔奉天經由東三省・直隸省・内外蒙古一帯地方の遊歴(中国語)〕 落合→栗山晋三	明治45年2月16日(1912)	1枚・活版	400-3
執照〔直隸山西内外蒙古等地方遊歴のため(中国語)〕 小幡	明治45年4月11日(1912)	1枚・活版	399
護稟〔伊黎旅行の許可〕 伊塔→原尚志	民国3年4月26日(1914)	1枚・活版・墨書	507-7
護照〔帰国時携帯すること〕 外交部新疆交渉公署→原尚志	民国3年5月21日(1914)	1枚・墨書	507-1-8
護照〔新疆經由日本帰国〕 新疆都督→原尚志	民国3年5月22日(1914)	1枚・活版	507-1-7

Sub-Series No.6: 李村軍政署長官

軍事情報

封筒 汪〔山東膠東道即墨県知事警察署署長兼理司法事務〕→多賀〔李村軍政署長官〕	民国4年10月28日(1915)		405
照会〔日本兵の放置物を理由とした恐喝事件(中国語)〕 曹倜〔即墨県知事〕→大日本軍政署	民国3年12月22日(1914)	1枚・墨書	405 - 1
照会〔日本軍の横暴による村の被害(中国語)〕 曹倜〔即墨県知事〕→多賀〔大日本軍政委員長〕	民国3年12月23日(1914)	1枚・墨書	405 - 2
照会〔日本人名を偽称し不正を働いた者の処罰について(中国語)〕 曹倜〔即墨県知事〕→多賀〔大日本軍政委員長〕	民国3年12月24日(1914)	1枚・墨書	405 - 3
照会〔紅十字会会員への護照発給願ひ(中国語)〕 曹倜〔即墨県知事〕→多賀〔大日本軍政委員長〕	民国4年1月14日(1915)	1枚・墨書	405 - 4
照会〔日本軍雇傭の苦力の不正について(中国語)〕 曹倜〔即墨県知事〕→多賀〔大日本軍政委員長〕	民国3年12月23日(1914)	1枚・墨書	481
照会〔日本軍関係者による洋銭不正請求の件(中国語)〕 曹倜〔即墨県知事〕→多賀〔大日本軍政委員長〕	民国3年12月24日(1914)	1枚・墨書	482
処分書〔煉瓦徴用ニ関シ法規ニ違反、軽謹慎20日〕 大谷喜久蔵	大正4年7月7日(1915)	1枚・墨書	925-32
付件〔日本軍憲の要求する一万元賠償の件(中国語)〕		1枚・墨書	479
投書調査報告書	大正4年11月18日(1915)	1綴・墨書	338
普報 喇嘛教ニ就テ 多賀	大正5年3月18日(1916)	1冊・謄写版	835-39
多賀宗之閣下出品戦場に於ける諸告示集帖〔青島占領時の旅団司令部禁制布告〕	大正3年10月(1914)	1幅・墨書	983

辞令

辞令書〔任陸軍歩兵中佐〕 大隈重信→多賀宗之	大正3年8月10日(1914)	1枚・活版	835-33
辞令書〔第1師管軍法会議判士長ヲ免ス〕 第1師団司令部→多賀宗之	大正3年9月6日(1914)	1枚・墨書	859
辞令書〔独立第18師団司令部付被仰付〕 陸軍省→多賀宗之	大正3年11月8日(1914)	1枚・墨書	863
辞令書〔免本職〕 陸軍省→多賀宗之	大正4年6月24日(1915)	1枚・墨書	864
辞令書〔青島軍政署付〕 陸軍省→多賀宗之	大正5年5月2日(1916)	1枚・活版	835-9

Sub-Series No.7: 参謀本部付(南京)

軍事情報

電報原文第1号 自53号至60号 青木宣純→上原勇作	大正5年4月14日-18日(1916)	11枚・謄写版	1343
電報原文第2号 自61号至64号 井戸川	大正5年4月18日-21日(1916)	8枚・謄写版	1344
電報原文第3号 自65号至72号 井戸川	大正5年4月22日-26日(1916)	11枚・謄写版・墨書	1345
電報原文第4号 自73号至76号	大正5年4月27日-28日(1916)	6枚・謄写版・墨書	1346
電報原文第6号 自77号至86号	大正5年4月30日-5月8日(1916)	11枚・謄写版・墨書	1347
電報原文第6号 自88号至91号	大正5年5月9日-11日(1916)	6枚・謄写版・墨書	1348
電報原文第7号 自93号至100号 井戸川	大正5年5月12日-15日(1916)	11枚・謄写版・墨書	1349
電報原文第8号 自101号至108号 武藤	大正5年5月16日-30日(1916)	19枚・謄写版・墨書	1350
電報原文第9号 自119号至130号	大正5年6月1日-10日(1916)	17枚・謄写版・墨書	1351
電報原文第10号 自131号至145号 井戸川・多賀	大正5年6月11日-17日(1916)	18枚・謄写版・墨書	1352
電報原文第11号 自146号至149号 井戸川	大正5年6月19日-21日(1916)	6枚・謄写版・墨書	1353
電報原文第12号 自150号至152号 井戸川→総長・次長	大正5年6月21日-21日(1916)	4枚・謄写版・墨書	1354
電報原文第13号 自153号至162号 井戸川	大正5年6月22日-27日(1916)	15枚・謄写版・墨書	1355
電報原文第14号 自162号至177号 井上→総長・次長	大正5年6月28日-7月7日(1916)	19枚・謄写版・墨書	1356
電報原文第15号 自178号至184号 井戸川→総長・次長	大正5年7月8日-11日(1916)	10枚・謄写版・墨書	1357
電報原文第16号 自185号至187号 →総長・次長	大正5年7月13日-15日(1916)	7枚・謄写版・墨書	1328

電報原文第17号	自188号至194号	→総長・町田	大正5年7月17日-22日 (1916)	10枚・謄写版・墨書	1329
電報原文第18号	自195号至198号	→総長	大正5年7月24日-27日 (1916)	6枚・謄写版・墨書	1330
電報原文第19号	自199号至204号	→総長	大正5年7月30日-8月13日 (1916)	9枚・謄写版・墨書	1331
電報原文第20号	自205号至210号	→総長・次長	大正5年8月15日-20日 (1916)	7枚・謄写版・墨書	1332
電報原文第21号	自211号至218号	→総長・次長	大正5年8月22日-30日 (1916)	9枚・謄写版・墨書	1333
電報原文第22号	自219号至222号	→総長・次長	大正5年9月4日-9月10日 (1916)	5枚・謄写版・墨書	1334
電報原文第23号	自223号至225号	→総長・次長	大正5年9月13日-9月18日 (1916)	5枚・謄写版・墨書	1335
電報原文第24号	自226号至231号	→総長・次長	大正5年9月18日-9月27日 (1916)	6枚・謄写版・墨書	1336
電報原文第25号	自232号至233号	→総長	大正5年9月29日-9月30日 (1916)	3枚・謄写版・墨書	1337
電報原文第26号	自234号至238号	→総長	大正5年10月3日-10月6日 (1916)	6枚・謄写版・墨書	1338
電報原文第27号	自239号至243号	→総長	大正5年10月13日-10月17日 (1916)	8枚・謄写版・墨書	1339
電報原文第28号	自224号至245号	→総長	大正5年10月-10月25日 (1916)	4枚・謄写版・墨書	1340
電報原文第29号	自246号至250号	→総長・次長	大正5年10月31日-欠損 不明(1916)	6枚・謄写版・墨書	1341
電報原文第30号	自251号至252号	→総長	大正5年10月31日 (1916)-11月	4枚・謄写版・墨書	1342
来電訳文【劣化甚大のため判読不能】				1冊・謄写版	1358

辞令

辞令書〔参謀本部付被仰付〕	陸軍省→多賀宗之	大正5年6月16日(1916)	1枚・墨書	865
辞令書〔支那へ出張被仰付〕	陸軍省→多賀宗之	大正5年6月16日(1916)	1枚・墨書	866
稟〔集場移転願ひ(中国語)〕	浮山後区	大正5年(1916)	1枚・墨書	463

Sub-Series No.8: 江蘇督軍顧問

業務全般

江蘇督軍署公函〔多賀顧問聘任の件〕	馮国璋	民国6年2月3日(1917)	1枚・墨書	507
對支方針綱要・参訓第五号三	訓令 上原勇作→多賀宗之	大正6年2月24日(1917)	2枚・謄写版	835-34
陸訓第7号	訓令 大島健一→多賀宗之	大正6年2月27日(1917)	1枚・墨書	835-36
大總統軍事顧問補助官執務内規草案ノ件通報	坂西利八郎→多賀宗之	大正6年3月14日(1917)	1枚・墨書	898

江蘇督軍公署各處課職員一覽表(中国語)	民国6年3月(1917)	1枚・活版	448
支那国応聘継続ノ件 多賀宗之	大正8年1月20日(1919)	1枚・活版	925-50

軍事情報

大正9年自3月至10月第4号 支那参謀特報	大正9年3月-10月(1920)	1冊・墨書	1018
美国国勢之批評	民国9年4月6日(1920)	1綴・ペン	507-23
波蘭及中央亜細亜方面之過激派軍情形	民国9年4月初7日(1920)	1綴・ペン	507-21
外国報〔日露軍衝突について〕	民国9年4月9日(1920)	6綴・ペン	507-22
大總統為北方各省災情奇重擬訂義賑獎勵章程(中国語)	民国9年10月6日(1920)	2枚・活版	356
処罰ノ件達〔鄭家屯事件負傷者一名脱漏について譴責〕 菅野尚一→多賀宗之	大正9年12月2日(1920)	2枚・墨書	507 - 10
特報 第二号 英国对中国手段之一部情報	8年1月17日	1綴・ペン	507-24
Nanking General Famine Relief Organization H. Ray Sweetman→Friends of the Foreign Community	大正10年3月15日(1921)	1枚・活版	509 - 21
勞農露国軍部官制及事務系統一覽図表		1枚・謄写版	1014

辞令

辞令書〔任陸軍歩兵大佐〕 寺内正毅→多賀宗之	大正7年1月18日(1918)	1枚・活版	835-30
辞令書〔任陸軍少将〕 加藤友三郎→多賀宗之	大正11年8月15日(1922)	1枚・活版	835-26

Sub-Series No.9: 予備役

中国問題

檄〔对支外交強硬対応の指示〕	昭和3年5月10日(1928)	1枚・活版	508-12
上海近郊要図	昭和7年2月(1932)	1枚・活版	742-3
将官談話会月報 将官談話会	昭和8年5月(1933)	1冊・活版	909
将官談話会月報 第172号 将官談話会	昭和8年8月(1933)	1冊・活版	583
大満洲帝国修聘特使 歡迎・日滿国民大交歓会次第書	昭和9年4月(1934)	1枚・活版	509-2

帝国在郷軍人会

簡閲點呼結果一覽 帝国在郷軍人会浅草区分会→多賀宗之	大正3年(1914)	1枚・墨書	507-25
在郷陸軍軍人中現役者ト共ニ陸軍饗饌場ニ参列ヲ希望スル者ノ届出ニ関スル件通牒 佐藤直	昭和3年9月22日(1928)		119
謝状〔軍人会館建設費寄付〕 一戸兵衛→多賀宗之	昭和6年1月28日(1931)	1枚・墨書	53
講演会連絡ノ件 帝国在郷軍人会高崎支部→多賀宗之	昭和7年5月14日(1932)	1封筒(3枚)・ペン	925-62

Sub-Series No.10: 年代不明

〔軍務参考書類〕		1枚・墨書	483
徽歛曹素文號湖筆仿帖 啓彰		2枚・活版	483-1
森和永號綢緞洋貨布疋		1枚・墨書	483-2
徽歛曹素文號湖筆仿帖 啓彰		1枚・活版	483-3
有獎券		1枚・活版	483-4
紙片		1枚・活版	483-5
金陵老呂天元仁記筆品		1枚・活版	483-6
紙片		1枚・活版	483-7
〔金陵楊生生堂の商標(中国語)〕		1枚・活版	483-8
〔絹織物価格計算下書き(中国語)〕		1枚・墨書	483-9
紙片〔店の商標(中国語)〕		1枚・墨書	483-10
紙片〔青島延春堂の商標(中国語)〕		1枚・活版	483-11
裕豊永號綢緞洋貨抄莊〔店の商標(中国語)〕		1枚・活版	483-12
庚大綢漳緞絨洋貨布疋〔店の商標(中国語)〕		2枚・活版・墨書	483-13
福泰祥各種顔料兼售呂宋雪茄紙烟洋貨抄莊〔店の商標(中国語)〕		1枚・活版	483-14
專弁瀏陽粗細夏布各種国産草帽摺扇〔店の商標(中国語)〕		1枚・活版	483-15
〔金陵楊生生堂の商標(中国語)〕		1枚・活版	483-16
紙片〔在湖北軍ノ意向ニ関スル世評〕		1枚・謄写版	505
〔南軍の方略と編制(中国語)〕		1冊・活版	394
英威上將軍霧觀回津沿途秩序及籌備辦法		1冊・活版	742-6-6
決議案〔滿蒙の時局重大事態のため〕	12月	1枚・活版	778
東部蒙古各王旗境界線略図		1枚・墨書	332
紙片〔調査の件〕 多賀→須藤		1枚・墨書	339

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

Series No.2: 個人

Sub-Series No.1: 日記

手帳〔懷中日記・メモ〕〔多賀宗之〕	大正8年(1919)	1冊・ペン	743
手帳〔懷中日記・メモ〕〔多賀宗之〕	大正9年(1920)	1冊・ペン	746
手帳〔懷中日記・メモ〕〔多賀宗之〕	大正11年(1922)	1冊・ペン	747
手帳〔懷中日記・メモ〕〔多賀宗之〕	大正14年(1926)	1冊・ペン	744
手帳〔懷中日記・メモ〕〔多賀宗之〕	昭和5年(1930)	1冊・ペン	745
日誌〔駱駝旅行〕		1枚・ペン	507-26

Sub-Series No.2: 原稿・著作

桂月全集 多賀宗之		1枚・謄写版	921
支那の現状〔支那の現状〕〔多賀宗之〕		1綴・ペン	38
土佐偉人傳 多賀宗之		1枚・活版	922
土佐偉人傳〔久徳直利〕〔多賀宗之〕		1枚・謄写版	923
日支親善一点張は迂策也 多賀宗之		11枚・活版	328-136
文牘稿集 多賀宗之		1冊・活版	484
蛇行河ニ就テ(濕地ニ関スル事項) (多賀宗之)		1枚・ペン	1324
蛇行河ニ就テ(流レニ就テ) (多賀宗之)		1枚・ペン	1325
応用戦法 多賀宗之	光緒30年8月(1904)	1冊・活版・墨書	835-22
修身講座 明德学園 万城		1冊・墨書	830
日本民族の根本自覚 多賀宗之	昭和8年3月24日(1933)	1冊・活版	761
普報 喇嘛教ニ就テ 多賀	大正5年3月18日(1916)	1冊・謄写版	835-39
臨戦略範 賀忠良	光緒30年5月(1904)	1冊・活版・墨書	835-40
原稿〔送高田上人序、送役員外使回鶻序〕		1綴・墨書	507-28
和歌〔河水清〕 多賀宗之	大正4年(1915)	1枚・墨書	504-3
和歌〔海上風静〕 多賀宗之	大正15年(1926)	1枚・墨書	504-8
和歌〔山色新〕 多賀宗之	昭和3年5月(1928)	1枚・墨書	504-7
和歌〔田家の朝〕 多賀宗之	昭和3年12月22日(1928)	1枚・墨書	504-2
和歌〔社頭霊〕 多賀宗之	昭和5年(1930)	1枚・墨書	504-6
和歌〔暁鷄声〕 多賀宗之	昭和6年12月(1931)	1枚・墨書	504-5
和歌〔朝海〕 多賀宗之	昭和7年12月(1932)	1枚・墨書	504-9
和歌〔池辺鶴〕 多賀宗之	昭和9年12月(1934)	1枚・墨書	504-10

和歌〔海辺巖〕 多賀宗之		1枚・墨書	504-11
〔和歌の記述様式〕		1枚・墨書	504-1
〔和歌の記述様式〕		1枚・墨書	504-4
〔和歌の書式についての覚書〕		1枚・墨書	504-12

Sub-Series No.3: 証書類

証書

賞状〔学術優等〕 大海原尚義・鈴木政孝・坪内定益→久徳宗之	明治16年12月21日 (1883)	1枚・墨書	62
賞状〔学術優等〕 大海原尚義・鈴木政孝・坪内定益→久徳宗之	明治17年5月3日(1884)	1枚・墨書	46
叙位状〔叙正8位〕 土方久元→多賀宗之	明治27年7月20日 (1894)	1枚・墨書	837
〔寄付に対する感謝状〕 威仁・松方正義→多賀宗之	明治28年7月(1895)	1枚・活版	574
証書〔日本帝国明治27年従軍記章之証〕 大給恒・横田香苗・藤井善言→多賀宗之	明治28年11月18日 (1895)	1枚・墨書	503
下賜状〔金100円〕 大給恒→多賀宗之	明治29年3月3日(1896)	1枚・墨書	842
叙位状〔叙従7位〕 土方久元→多賀宗之	明治29年12月21日 (1896)	1枚・墨書	853
賞状〔明治29年6月三陸海嘯罹災者への金銭救恤〕 大給恒→多賀宗之	明治32年6月30日 (1899)	1枚・墨書	845
下賜状〔賜1等給〕 〔陸軍省〕→多賀宗之	明治33年11月15日 (1900)	1枚・墨書	867
叙位状〔叙正7位〕 田中光顕→多賀宗之	明治35年10月20日 (1902)	2枚・墨書	856
証書〔大日本帝国外国勲章佩用免許証〕 大給恒・横田香苗・藤井善言→多賀宗之	明治36年12月8日 (1903)	1枚・活版	496
札〔賞給3等第1宝星〕 袁→多賀宗之	光緒31年12月25日 (1905)	1枚・墨書	742-6-3
札〔賞給職銜宝星〕 袁→多賀宗之	光緒32年1月27日 (1906)	1枚・墨書	742-6-2
叙位状 大給恒→多賀宗之	明治39年4月1日(1906)	1枚・活版	373
下賜状〔勲5等瑞宝章及金250円〕 大給恒→多賀宗之	明治39年4月1日(1906)	1枚・墨書	838
証書〔日本帝国明治37年従軍記章之証〕 大給恒・横田香苗・藤井善言→多賀宗之	明治39年4月1日(1906)	1枚・活版	499
証書〔大日本帝国外国勲章佩用免許証〕 大給恒・横田香苗・藤井善言→多賀宗之	明治39年5月23日 (1906)	1枚・活版	497
下賜状〔木杯一個〕 千家尊福→多賀宗之	明治40年4月1日(1907)	1枚・墨書	54
叙位状〔叙従6位〕 田中光顕→多賀宗之	明治40年11月20日 (1907)	1枚・墨書	851
証書〔大日本帝国外国勲章佩用免許証〕 正親町実正・横田香苗・藤井善言→多賀宗之	明治44年4月19日 (1911)	1枚・活版	498

叙位状〔叙正6位〕 渡邊千秋→多賀宗之	大正1年12月28日 (1912)	1枚・墨書	846
叙位状〔勲4位瑞宝章叙勲状〕 正親町実正・藤井喜言・ 広瀬温→多賀宗之	大正3年5月16日(1914)	2枚・活版	387
証書〔大礼記念章之証〕 正親町実正・藤井善言→多賀 宗之	大正4年1月10日(1915)	1枚・活版	494
叙位状〔勲3等旭日中綬章叙勲状〕 嘉仁・正親町実正・ 藤井喜言→多賀宗之	大正4年11月7日(1915)	1枚・活版・墨書	389-1
証書〔大正4年従軍記章之証〕 正親町実正・藤井善言→ 多賀宗之	大正4年11月7日(1915)	1枚・活版	500
下賜状〔勲3等旭日中綬章及金800円〕 正親町実正→多 賀宗之	大正4年11月7日(1915)	1枚・墨書	847
彰表〔桜島爆発の罹災窮民への賑恤〕 俵孫一→多賀 宗之	大正4年12月15日 (1915)	2枚・活版・墨書	835-10
叙位状〔叙従5位〕 波多野敬直→多賀宗之	大正7年1月21日(1918)	1枚・活版	835-27
賞状〔大中華民國大總統茲授與〕 許寶衡→多賀宗之	民国8年5月24日(1919)		329
証書〔3等嘉禾章受領佩用免許証〕 兒玉秀雄・赤峰哲夫 →多賀宗之	大正8年11月22日 (1919)	1枚・活版	389-2
証書〔戦捷記章之証〕 兒玉秀雄・横田郷助・赤峰哲夫→ 多賀宗之	大正8年12月15日 (1919)	1枚・活版	502
下賜状 兒玉秀雄→多賀宗之	大正9年11月1日(1920)	1枚・活版	369
証書〔大正3年乃至9年戦役従軍記章之証〕 兒玉秀雄・ 横田郷助・赤峰哲夫→多賀宗之	大正9年11月1日(1920)	1枚・活版	493
褒状〔大正2年6月恩賜財団済生会へ金103円余寄付に付〕 阿部浩→多賀宗之	大正10年3月18日 (1921)	1枚・活版	573
叙位状〔叙正5位〕 牧野伸顕→多賀宗之	大正11年9月11日 (1922)	1枚・墨書	858
退職特別賜金証書 山梨半造→多賀宗之	大正12年3月31日 (1923)	1枚・墨書	835-29
叙位状〔欽従四位〕	大正12年4月30日 (1923)	1枚・活版	492
叙位状〔位1級被進〕	大正12年4月30日 (1923)	1枚・活版	835-25
証書〔大日本帝国外国勲章佩用免許証〕	大正12年10月2日 (1923)	1枚・活版	495
証書〔大礼記念章之証〕 天岡直嘉・伊手衡→多賀宗之	昭和3年11月16日 (1929)	1枚・墨書	850
感謝状〔陸軍学芸技術奨励寄付〕 荒木貞夫→多賀万城	昭和7年(1932)	1枚・活版	60

祝賀

祝嘏文〔天皇聖節祝辞(中国語)〕 在保定寓居日本人会	明治42年11月初3日 (1909)	1枚・墨書	414
----------------------------	-----------------------	-------	-----

恭祝天皇陛下聖寿表(中国語) 呂崇基・村民人	民国4年9月23日(1915)	1枚・墨書	423
祝賀表〔天皇聖節祝辞(中国語)〕 劉啓坤・高洪琇・劉貴珮・劉啓連	大正4年10月31日(1915)	1枚・墨書	415
祝賀表〔大日本皇帝聖誕祝い〕 段京恣	大正4年10月31日(1915)	1枚・墨書	575-1
祝賀表〔天皇陛下聖誕祝い〕	大正4年10月31日(1915)	1封筒(1枚)・墨書	575-8
祝賀表〔天皇陛下聖誕祝い〕	大正4年10月31日(1915)	1枚・墨書	575-11
祝賀表〔天皇陛下聖誕祝い〕	大正4年10月31日(1915)	1枚・墨書	575-12
祝表〔天皇陛下聖誕祝い〕	大正4年10月31日(1915)	1枚・墨書	575-13
〔大正天皇御大典祝賀表〕 紀家俊他46名	大正4年11月10日(1915)	29枚・墨書	380
道人祝賀表〔天皇陛下登宝大典の祝辞(中国語)〕 張宗諤他8名	大正4年11月10日(1915)	1枚・墨書	416
僧侶祝賀表〔天皇陛下登宝大典の祝辞(中国語)〕 法慶・能宗・海靖・界和	大正4年11月10日(1915)	1枚・墨書	419
正頌〔天皇陛下登宝大典祝賀状(中国語)〕 由玉湖	大正4年11月10日(1915)	1枚・墨書	428
〔天皇陛下登宝大典の祝辞(中国語)〕 孫洪高	大正4年11月初11日(1915)	1枚・墨書	411
祝賀表〔謹賀大日本皇帝仁義(中国語)〕 陳球清・陳恩清・陳立吉・陳立本	大正4年(1915)	1枚・墨書	417
祝賀表〔天皇陛下聖誕祝い〕 小河東町	10月31日	1枚・墨書	575-7
祝賀表〔天皇陛下聖誕祝い〕 小河東町	10月31日	1枚・墨書	575-7
〔天皇聖節の祝辞(中国語)〕 保定日本人会	11月3日	1枚・墨書	420
恭賀〔天皇陛下登宝大典の祝辞(中国語)〕 張松林			408
祝賀表〔恭賀大日本帝国天皇陛下万寿聖節(中国語)〕 李得忠・李崇蘭・藍信彦		1枚・墨書	418
祝賀表〔天皇聖節祝辞(中国語)〕 劉文堂・陳求清・王文堂		1枚・墨書	410
大甕窯頭祝賀表〔天皇聖節の祝辞(中国語)〕 大甕窯頭百姓		1枚・墨書	421
祝賀表〔祝日皇寿誕之日(中国語)〕 大河東閣町小民		1枚・墨書	422
〔恭祝賀天皇陛下登宝天禧(中国語)〕 辛玉常		1枚・墨書	424
口子町祝賀表〔慶賀天皇陛下清誕(中国語)〕 袁正工		1枚・墨書	425
祝賀表〔天皇陛下登宝大典祝賀状(中国語)〕 劉文堂		1枚・墨書	427
板橋坊祝賀表〔天皇陛下登宝大典祝賀状(中国語)〕 板橋坊百姓		1枚・墨書	429
賀表〔天皇登宝大殿(中国語)〕 李廷春		1枚・墨書	436

表正〔天皇陛下聖誕祝い〕		1枚・墨書	575-2
姜哥庄町賀表〔天皇陛下聖誕祝い〕 姜哥庄町		1枚・墨書	575-3
表正〔天皇陛下聖誕祝い〕 石湾町氏等		1枚・墨書	575-4
表正〔天皇陛下聖誕祝い〕 千哥庄町町長・会首・地保等		1枚・墨書	575-5
松山後町〔天皇陛下聖誕祝い〕 松山後町		1封筒(1枚)・墨書	575-6
南窑町祝賀表〔天皇陛下聖誕祝い〕 南窑町		1封筒(1枚)・墨書	575-9
祝賀表〔天皇陛下聖誕祝い〕 嶺西町		1枚・墨書	575-10

その他

メモ〔明日朝、節子・重子〕		1枚・ペン	926-3
書簡下半部メモ〔新宮撰歌合詠み人書上〕		1枚・ペン・墨書	926-4
メモ〔平安末から鎌倉初期の人名書上〕		1枚・ペン	926-5
メモ〔代価6500円於東急〕、紙片	昭和53年10月25日 (1978)	5枚・ペン	1370
履歷書〔多賀宗之〕		1綴・ペン	913-1
履歷書〔多賀宗之〕		1綴・ペン	913-2
履歷〔楊肇(中国語)〕		1枚・墨書	466
履歷〔王金聲(中国語)〕	民国12年(1923)	1枚・墨書	469
履歷書控		1綴・墨書	507-1-5
〔陸軍少尉昇進祝い状〕 大日本天則学祖家南北館長 →多賀		1枚・墨書	45
祝多賀宗之君任官		1枚・墨書	508-14
結婚願〔多賀宗之と安齊シゲ〕 多賀宗之〔陸軍歩兵大尉〕 →寺内正毅	明治36年8月(1903)	1綴・墨書	605
清真文明結婚証書 南京清真薫事会・道義社		活版・1封筒(3枚) ・1封筒(1枚)	490
短冊〔学修時代卒業証書〕		1枚・墨書	58
領収証	明治45年-大正15年 (1912-1926)	17枚・活版	115
領収証控 多賀万城→宮崎松男	〔昭和〕7年6月23日 (1932)	1枚・活版・ペン	328-118
領収証 秋山好古將軍銅像建設会→多賀宗之	昭和9年9月4日(1934)	1枚・ペン・活版	774
領収証〔修学旅行費決算報告、領収書〕	昭和14年10月(1939)	1封筒(2綴+1枚)・活版	925-93
領収証〔630円〕 日通液化ガス特約店有限会社堀商会 →多賀	昭和37年9月10日 (1962)	1枚・ペン・活版	925-88
〔送金受領報告〕 横浜正金銀行上海支店預金係→多賀宗之	大正9年1月(1920)	1枚・ペン	599
レシート 酒舗にいくら総本店	昭和52年12月(1977)	1枚・活版	509-32

証〔保険金領収書〕 吉野馨→多賀宗之	大正1年9月(1912)	1枚・墨書	598
郵便配達証明書	〔昭和〕2年4月(1927)	1枚・活版・ペン	328-45
郵便配達証明書	〔昭和〕2年5月(1927)	1枚・活版・ペン	328-46
郵便物配達証明書	〔昭和〕6年3月(1931)	1枚・ペン	782
第9回大日本帝国政府大東亜戦争割引国庫債券 10 円 大蔵大臣	昭和18年6月15日 (1943)	1枚・活版	925-25
第10回大日本帝国政府大東亜戦争割引国庫債券 10 円 大蔵大臣	昭和18年8月20日 (1943)	1枚・活版	925-26
恩給請求書 多賀宗之→石光真臣	大正12年4月(1923)	3枚・ペン・謄写版	835-17
新聞切抜〔福建視察1~6〕		6枚・活版	335
萱野長知新聞切抜		1枚・活版	612
訃〔李純死去(中国語)〕 幕設江蘇督軍公署→多賀宗之	民国9年10月15・16日 (1920)	1綴・活版	447
〔李純死亡に関する記事切抜(中国語)〕	民国9年10月(1920)	1枚・活版	450
訃聞(中国語) 齊濟元他8名→多賀	民国11年8月15・16日 (1922)	1封筒(1枚)・墨書	431
訃の一片〔李純死去(中国語)〕		1枚・活版	449
訃の一片(中国語)		1枚・活版	451
訃〔段芝貴逝去〕	民国3年(1914)	1綴・活版	507-20
勅語		1枚・活版	371
秀山先兄紀念 李純	民国9年10月9日-11日 (1920)	1綴・活版	446
呈〔経済困窮のため金の無心(中国語)〕 楊鈞→子明		1枚・墨書	470
奉祝 東京市		2封筒(2枚)・活版	488
〔習書〕		墨書・1枚	489
御沙汰書〔外地にて服務の天皇・皇后への労り、両者より酒肴・菓子を賜る〕		1枚・活版	501
日本国民に檄す!祖国日本を守れ 陸海軍□年将校・農民同志	昭和7年5月(1932)	1綴・墨書	508-16
二・二六事件の真相概要 堀		1綴・ペン	658
〔礼状及び和歌の下書き〕		1枚・墨書	508-17
恭頒恩賜〔恩賜を受けて詠んだ漢詩〕 立花	大正11年12月(1922)	1枚・活版	509-6
南京救済基金機関主意書(翻訳) 河西→多賀		1枚・ペン	509-20
維持会員之証	昭和7年8月(1932)	1枚・活版	618
勲章佩用心得 賞勲局	明治21年11月16日 (1888)	2部・活版	621
大礼観兵式記念		1枚・活版	655
〔合格・不合格学生一覧表〕		11枚・活版	657

[天台法華宗年分学生式一首]		1枚・墨書	762
日用修養順序		2枚・謄写版	824
[祝祭の式辞]	1935年前後	1冊・1枚・墨書	831
千利休自筆書状		1枚・活版	835-1
定置條々		1綴・墨書	835-32
札〔増韞〕		1枚・墨書	413
中日同学会設立の主旨を述べて 中日同学会		1枚・活版	925-39
大町桂月年譜		2枚・謄写版	924
人・事件及び思想 大町桂月	大正12年1月10日 (1923)	1枚・謄写版	920
檄!国民逮捕権により共産主義運動を勸減せよ 勤王会	昭和8年2月(1933)	1枚・活版	111
野火		1枚・ペン	1326
紅イ夕陽ニ就テ		1枚・ペン	1327
万事一誠心		1枚・活版	917
地図〔京都〕		1枚・墨書	925-37
地図〔中国〕		1枚・活版	33-1
地図〔劣化甚大につき披見不可〕		1枚・墨書	474
[中国人名簿]		1綴・ペン	37
[人名書上げ]		1枚・墨書	741
齊孟芳先生六旬晋六徵寿言啓(中国語)		2冊・墨書	409
鉄道沿線案内 東部鉄道管理局	大正1年10月(1912)	1冊・活版	1000
[吉川弘文館広告] 吉川弘文館		1枚・活版	33-8

Sub-Series No.4: 家族

多賀宗義

叙位状〔叙正7位〕 三条実美・土方久元→久徳宗義	明治7年3月8日(1874)	1枚・墨書	740-32
辞令書〔函館連隊長〕 陸軍省→久徳宗義	明治7年5月23日(1874)	1枚・墨書	740-31
辞令書〔東京鎮台予備砲兵第1大隊付〕 陸軍省→久徳宗義	明治9年4月29日(1876)	1枚・墨書	740-25
辞令書〔東京鎮台予備砲兵第1大隊第2小隊長〕 陸軍省→久徳宗義	明治9年5月15日(1876)	1枚・墨書	740-17
辞令書〔東京鎮台予備砲兵第1大隊第1小隊長〕 陸軍省→久徳宗義	明治11年2月2日(1878)	1枚・墨書	740-8
辞令書〔東京鎮台予備砲兵第1大隊第1中隊長〕	明治11年3月29日(1878)	1枚・墨書	740-13
叙位状〔勲5位雙旭日章叙勲状〕 陸仁・三条実美・大給恒・平井希昌→久徳宗義	明治11年6月22日(1878)	1枚・活版	388-1

叙位状〔鹿兒島逆徒征討尽力につき勲5等・年金100下賜〕 三条実美→久徳宗義	明治11年6月22日 (1878)	1枚・墨書	740-36
辞令書〔東京鎮台予備砲兵第1大隊第1中隊長、同大隊長心得〕 陸軍省→久徳宗義	明治11年10月29日 (1878)	1枚・墨書	740-33
辞令書〔砲兵会議出席〕 陸軍省→久徳宗義	明治12年1月9日 (1879)	1枚・墨書	740-12
辞令書〔任陸軍少佐〕 三条実美・中村弘毅→久徳宗義	明治12年2月24日 (1879)	1枚・墨書	740-16
辞令書〔東京鎮台予備砲兵第1大隊長〕 陸軍省→久徳宗義	明治12年2月25日	1枚・墨書	740-26
叙位状〔叙従6位〕	明治12年12月20日 (1879)	1枚・墨書	740-30
辞令書〔実施演習爲日撃、勢州龜山地方差遣〕 東京鎮台→久徳宗義	明治13年6月22日 (1880)	1枚・墨書	740-7
辞令書〔砲兵内務書第2版取調掛兼勤〕 陸軍省→久徳宗義	明治13年6月26日 (1880)	1枚・墨書	740-3
砲兵会議出席被免候事 陸軍省→久徳宗義	明治15年2月10日 (1882)	1枚・墨書	740-4
辞令書〔砲兵内務書改正取調委員〕 陸軍省→久徳宗義	明治16年12月28日 (1883)	1枚・墨書	740-34
叙位状〔勲4位旭日小綬章叙勲状〕 陸仁・柳原前光・大給恒・平井希昌・横田香苗→久徳宗義	明治17年11月13日 (1884)	1枚・活版	388-2
辞令書〔任砲兵中佐〕 三条実美・金井之恭→久徳宗義	明治18年5月25日 (1885)	1枚・墨書	740-27
辞令書〔補砲兵第2連隊長〕 陸軍省→久徳宗義	明治18年5月26日 (1885)	1枚・墨書	740-18
叙位状〔叙正6位〕 三条実美・金井之恭→久徳宗義	明治18年7月25日 (1885)	1枚・墨書	740-19
辞令書〔学術検査委員長として函館表へ出張〕 仙台鎮台→久徳宗義	明治19年9月16日 (1886)	1枚・墨書	740-29
辞令書〔御用有之上京被仰付〕 仙台鎮台→久徳宗義	明治20年3月14日 (1887)	1枚・墨書	740-28
〔日本赤十字社登録証〕 熾仁・佐野常民→多賀宗義	明治20年7月12 (1887)	1枚・活版	740-24
辞令書〔軍法会議判士長被仰付〕 陸軍省→多賀宗義	明治21年8月2日 (1888)	1枚・墨書	740-6
辞令書〔免本職、補砲兵第1連隊長〕 陸軍省→多賀宗義	明治21年11月20日 (1888)	1枚・墨書	740-10
辞令書〔砲兵射の学校へ差遣〕 第1師団司令部→多賀宗義	明治22年1月31日 (1889)	1枚・墨書	740-20
辞令書〔兼補砲兵会議議員〕 陸軍省→多賀宗義	明治22年4月20日 (1889)	1枚・墨書	740-11
辞令書〔休職〕 陸軍省→多賀宗義	明治22年7月25日 (1889)	1枚・墨書	740-5
証書〔大日本帝国憲法発布記念章授与之証〕 柳原前光・大給恒・平井希昌・横田香苗→多賀宗義・多賀宗之	明治22年11月29日 (1898)	1枚・活版	377-1

辞令書〔予備役〕 陸軍省→多賀宗義	明治26年1月26日 (1893)	1枚・墨書	740-9
叙位状〔叙従5位〕 土方久元→多賀宗義	明治26年4月11日 (1893)	1枚・墨書	740-1
叙位状〔位1級被進〕 宮内省→多賀宗義	明治26年4月11日 (1893)	1枚・墨書	740-35
贈呈状〔天則学必修秘伝書・天則学方位7ヶ年分〕 大日本天則学祖南北館→多賀宗義	明治26年7月21日 (1893)	1枚・墨書	63
証書〔日本帝国明治二十七八年従軍記章之証〕 大給恒・横田香苗・藤井喜言→多賀宗義・多賀宗之	明治28年11月18日 (1895)	1枚・活版	377-2
診断書・景況書・景状書〔久徳宗義〕 渡辺参造・稲村元資・三浦煥	明治12年10月23日 (1879)	1綴・墨書	925-31
初代多賀宗義履歴		1綴・2枚・墨書	740-2
宗義辞令書〔布のみ〕		1枚・墨書	912

多賀茂子

修業証書〔小学初等科第6級〕 福島小学校→安斉シケ	明治19年3月8日(1886)	1枚・墨書	49
修業証書〔小学初等科第5級〕 福島小学校→安斉シケ	明治19年7月28日 (1886)	1枚・墨書	43
賞状〔定期試験優等〕 福島県信太郡役所→安斉シケ	明治19年12月23日 (1886)	1枚・墨書	50
編入証〔尋常科第3年級〕 福島小学校→安斉シケ	明治20年3月4日(1887)	1枚・墨書	51
修業証書〔尋常小学科第3年級〕 福島県信太郡福島高等尋常小学校→安斉志げ	明治21年3月19日 (1888)	1枚・墨書	41
賞状〔操行優等〕 富岡總蔵→安斉志げ	明治22年3月30日 (1889)	1枚・墨書	47
試験成績表 三科古登→安斉志げ	明治23年3月19日 (1890)	1枚・墨書	64
修業証書 福島高等尋常簡易小学校→安斉しけ	明治23年3月19日 (1890)	1枚・墨書	620
修業証書〔高等小学科第2年級〕 福島県信太郡福島高等尋常小学校→安斉志げ	明治24年3月20日 (1891)	1枚・墨書	40
修業証書〔高等小学校第3年級〕 福島県信太郡福島高等尋常小学校→安斉志げ	明治25年3月14日 (1892)	1枚・墨書	52
卒業証書〔小学初等科第5級〕 涌井良平→安斉志げ	明治26年3月30日 (1893)	1枚・墨書	42
允請解職 安齊茂子→帝国婦人協会付属女子工芸学校	明治34年4月18日 (1901)	1枚・墨書	564
教員免許状〔師範学校女子部国語及漢文科高等女学校国語科〕 文部省→安齊茂子	明治36年3月30日 (1903)	1枚・墨書	39
卒業証書 高嶺秀夫→安齊茂子	明治36年3月30日 (1903)	1枚・墨書	61

任命状〔教諭委嘱〕 私立帝国婦人協会実践女学校→多賀茂子	明治45年4月15日(1912)	1枚・墨書	44
〔陸軍軍将校婦人会終身会員証〕 黒木百子→多賀シゲ子	大正9年11月30日(1920)	1枚・活版	603
須藤なほ氏書状(一) →〔多賀茂子〕	明治36年-大正4年(1903-1915)	1冊・墨書	833
須藤なほ氏書状(二) 須藤鬼一氏書状(付) →〔多賀茂子〕	明治36年-大正6年(1903-1917)	1冊・墨書	834
〔明治大正期の多賀茂子宛書簡の写し〕 →〔多賀茂子〕	明37年-大正6年(1904-1917)	1冊・墨書	832

多賀宗隼

卒園証書〔幼稚園卒園証書〕 東京市番町尋常小学校付属幼稚園→多賀宗隼	大正4年3月25日(1915)	1枚・墨書	578
修了証書〔初等学科第1年級修了之証〕 学習院→多賀宗隼	大正5年3月31日(1916)	1枚・活版	579
修了証書〔初等学科第2年級修了之証〕 学習院→多賀宗隼	大正6年3月31日(1917)	1枚・活版	580
修了証書〔初等学科第3年級修了之証〕 学習院→多賀宗隼	大正7年3月31日(1918)	1枚・活版	581
証書〔初等学科第4年級修了之証〕 学習院→多賀宗隼	大正8年3月31日(1919)	1枚・活版	582
修了証書〔初等科第5学年修了之証〕 学習院→多賀宗隼	大正9年3月31日(1920)	1枚・墨書	570
修業証書〔水練部初等科第5級〕 深井鑑一郎→多賀宗隼	大正11年9月9日(1922)	1枚・墨書	559
修業証書〔水練部初等科第4級〕 深井鑑一郎→多賀宗隼	大正12年8月10日(1923)	1枚・墨書	48
卒業証書 深井鑑一郎→多賀宗隼	昭和2年3月30日(1927)	1枚・墨書	55
短冊〔春松多寿色〕	昭和37年1月(1962)	1枚・墨書	606
通知書〔高教2等級31号級支給〕 東京都教育委員会→多賀宗隼	昭和37年7月1日(1962)	1枚・ペン・活版	925-89
受領証〔笠間書院・東京大学払込〕 反町茂雄・多賀宗隼・東京大学事務局庶務部・株式会社三菱銀行・大正大学図書館→多賀宗隼・笠間書院・日本メールオーダー・多賀淑子	昭和49年11月26日(1974-1975)	1封筒(5枚)・活版・ペン	737
日記〔遺筆〕 〔多賀宗隼〕	平成6年11月20日-(1994)		914
北洋陸軍建設記		1綴・ペン	927-1
北洋陸軍建設記		1綴・ペン	927-2
北洋陸軍建設記		1綴・ペン	927-3
公認みそら幼稚園入園案内 みそら幼稚園	昭和36年4月7日以前(1961)	1枚・活版	925-85
〔ワカバ会募金要項〕 篠塚光	昭和38年4月(1963)	1枚・活版・ペン	925-86

〔林中の住民票〕 寺前武雄	昭和61年10月(1986)	1枚・活版	913-5
箱〔上海通信〕 多賀宗集		1箱・墨書	927

多賀宇佐子

〔愛国婦人会会員登録証〕 智恵子・岩倉久子→多賀宇佐	明治37年2月10日(1904)	1枚・活版	740-22
賞状〔日露戦局功績を以て記念銅碑贈与〕 智恵子・岩倉久子→多賀うさ子	明治40年8月1日(1907)	1枚・活版	740-23
多賀宇佐子霊二十五年祭祝詞	25年	1枚・墨書	609

多賀万佐子

領収証 陸海軍将校婦人会本部→多賀万佐子	昭和7年2月22日(1932)	1枚・ペン・活版	769
----------------------	-----------------	----------	-----

多賀淑子

腸チフスパラチフス予防接種済証(追加免疫) 荒井源吉→たがよし子	昭和37年7月2日(1962)	1枚・活版・ペン	925-91
国民年金保険料納付通知書 後藤喜八郎→タガヨシコ	昭和47年4月1日(1972)	1封筒(1綴・1枚)・活版	925-82

Sub-Series No.5: 写真・絵葉書・物品類

写真

写真帳〔大日本営口軍政署〕		1冊	869
写真〔南京・多賀〕	大正10年12月(1921)	1枚	683
写真〔モンゴル相撲〕		1枚	801
写真〔天津橋〕		1枚	802
写真〔小学校集合写真〕		1枚	870-1
写真〔小学校集合写真〕		1枚	870-2
写真〔小学校集合写真〕		1枚	870-3
写真〔男子学生集合写真〕		1枚	870-4
写真〔男子学生集合写真〕		1枚	870-5
写真〔男子学生集合写真〕		1枚	870-6
写真〔女子学生集合写真〕		1枚	870-7
写真〔女子学生集合写真〕		1枚	870-8
写真〔ポンプからの放水〕		1枚	871
写真〔藤田夫妻結婚写真〕		1枚	872
写真〔井上四郎・文子夫妻結婚写真〕		1枚	873
写真〔中村友之助・康子夫妻結婚写真〕		1枚	874

写真〔中村友之助・康子夫妻結婚集合写真〕		1枚	875
写真〔貞子姉上〕		1枚	876
写真〔登山記念 藤海菩薩早吉〕	大正15年7月(1926)	1枚	877
写真〔小林貞子姉上〕		1枚	878
写真〔松浦善助・南部考秀ら集合写真〕		1枚	879
写真〔運動会〕		1枚	880
写真〔婦女子の集合写真〕		1枚	881
写真〔家族の集合写真か〕		1枚	882
写真〔祖父雄七郎五十回忌 小林 法事〕		1枚	883
写真〔家族の集合写真〕		1枚	884
写真〔中国にて軍人集合写真〕		1枚	885
写真〔中国人・軍人集合写真〕		1枚	886
写真〔中国人・軍人集合写真〕		1枚	887
写真〔軍人集合写真〕		1枚	888
写真〔軍人集合写真〕		1枚	889
写真〔軍人・婦女子の集合写真〕		1枚	890
写真〔故多賀宗隼小学校低学年〕		1枚	925-2
写真〔宗虎コピー〕		1枚	925-3
写真〔於信州満島康彦六歳〕	昭和21年(1946)	1枚	925-4
写真〔小学生〕		1枚	925-5
写真〔李教習写於自室前写〕	明治35年9月13日 (1902)	1枚	925-5-6-1
写真〔16才〕		1枚	925-5-6-2
写真〔男性の肖像写真〕		1枚	925-5-6-3
写真〔男性の肖像写真〕		1枚	925-5-6-4
写真〔男性の肖像写真〕		1枚	925-7
写真〔男性の肖像写真〕		1枚	925-8
写真〔男性の肖像写真〕		1枚	925-9
写真〔女性3名と子供1名〕		1枚	925-10
写真〔男性の肖像写真〕		1枚	925-11
写真〔駕籠で運ばれる男性〕		1枚	925-12
写真〔椅子に座る男性〕		1枚	925-13
写真〔男性4人〕		1枚	925-14
写真〔南京自宅ヨリ西側〕	10年1月	1枚	925-15-1
写真〔南京夫子廟〕	11年1月	1枚	925-15-2

写真〔南京自宅前庭〕	大正11年1月(1922)	1枚	925-15-3
写真〔南京夫子廟〕	10年1月	1枚	925-15-4
写真〔南京夫子廟〕	10年1月	1枚	925-15-5
写真〔南京夫子廟〕	10年1月	1枚	925-15-6
写真〔多賀綾葉・宇佐子・玉喜〕		1枚	925-17
写真〔男性2名〕		1枚	925-18
写真〔家族の集合写真〕		1枚	925-19
写真〔徳川公爵歓迎宴席〕	大正8年11月1日(1919)	1枚	925-20
写真〔辮髪をほどいた男性〕		1枚	925-21
ガラス乾板〔母と子供〕		1枚	925-22
写真〔男性の肖像写真〕		1枚	925-23
写真〔男性の肖像写真〕		1枚	925-24
写真〔明治□十七年九月五日充員完結□武装検査後〕		1枚	929
写真〔鈴木真一 東京九段坂 横浜真砂町〕		1枚	930
写真〔東京富士見町 塚本楊東製〕		1枚	931
写真〔纏足〕		1枚	1362
写真〔馬匪賊討伐ノ戦利品〕		1枚	1363
写真〔南京領事館眺望、石碑〕 中島薬局		1封筒(2枚)	1364

絵葉書

絵葉書		1枚・活版	33-6
絵葉書〔大正6年5月田中参謀次長南京にて撮影〕	大正6年5月(1917)	1枚・ペン・活版	244-21
絵葉書〔遊仙ヶ岡付近〕		1枚・活版	328-12
絵葉書〔達磨の図〕		1枚・活版	1057
絵葉書〔樺太ポロナイ川ノ上流〕		1枚・活版	1058
絵葉書〔南京名所燕子磯ノ遠望〕		1枚・活版	1059
絵葉書〔増上寺三門〕		1枚・活版	1060
絵葉書〔芝靈廟文昭院〕		1枚・活版	1061
絵葉書〔浅草仲見世〕		1枚・活版	1062
絵葉書〔皇居二重橋〕		1枚・活版	1063
絵葉書〔南京名所 烏龍漂〕		1枚・活版	1064
絵葉書〔(南京名所)皇陵〕		1枚・活版	1065
絵葉書〔(南京名所)夫子ノ廟〕		1枚・活版	1066
絵葉書〔(南京名所)貢院(其二)楼上ヨリ号舎ヲ望ム〕		1枚・活版	1067
絵葉書〔(南京名所)皇陵〕		1枚・活版	1068

繪葉書〔The Suma Beach〕	1枚・活版	1071
繪葉書〔製糖工場〕	1枚・活版	1072
繪葉書〔新高山〕	1枚・活版	1073
繪葉書〔清国直隸省保定府西門冬景〕	1枚・活版	1074
繪葉書〔保定府東門内大街之景〕	1枚・活版	1075
繪葉書〔保定府東門内大街之景〕	1枚・活版	1076
繪葉書〔保定府東門内大街之景〕	1枚・活版	1077
繪葉書〔保定府東門内大街之景〕	1枚・活版	1078
繪葉書〔保定府東門内大街之景〕	1枚・活版	1079
繪葉書〔保定府城壁之景〕	1枚・活版	1080
繪葉書〔保定府城壁之景〕	1枚・活版	1081
繪葉書〔保定府城壁之景〕	1枚・活版	1082
繪葉書〔Canton The emperors temple〕	1枚・活版	1083
繪葉書〔朝鮮之産業〕	1枚・活版	1084
繪葉書〔台湾風景 裏街〕	1枚・活版	1085
繪葉書〔台湾風景 台南赤嵌樓〕	1枚・活版	1086
繪葉書〔台湾風景 鷺鑾鼻〕	1枚・活版	1087
繪葉書〔台湾風景 コロタ峽〕	1枚・活版	1088
葉書〔限神光宅会趣意書〕	1枚・活版	1089
繪葉書〔鶏〕	1枚・活版	1090
繪葉書〔国威宣揚〕	1枚・活版	1091
繪葉書〔国威宣揚〕	1枚・活版	1092
繪葉書〔国威宣揚〕	1枚・活版	1093
繪葉書〔国威宣揚〕	1枚・活版	1094
繪葉書〔国威宣揚〕	1枚・活版	1095
繪葉書〔国威宣揚〕	1枚・活版	1096
繪葉書〔国威宣揚〕	1枚・活版	1097
繪葉書〔国威宣揚〕	1枚・活版	1098
繪葉書〔国威宣揚〕	1枚・活版	1099
繪葉書〔国威宣揚〕	1枚・活版	1100
繪葉書〔国威宣揚〕	1枚・活版	1101
繪葉書〔国威宣揚〕	1枚・活版	1102
繪葉書〔国威宣揚〕	1枚・活版	1103
繪葉書〔国威宣揚〕	1枚・活版	1104

絵葉書〔国威宣揚〕	1枚・活版	1105
絵葉書〔国威宣揚〕	1枚・活版	1106
絵葉書〔国威宣揚〕	1枚・活版	1107
絵葉書〔国威宣揚〕	1枚・活版	1108
絵葉書〔正行の母〕	1枚・活版	1109
絵葉書〔正行の母〕	1枚・活版	1110
絵葉書〔正行の母〕	1枚・活版	1111
絵葉書〔神武天皇御即位〕	1枚・活版	1112
絵葉書〔神武天皇御即位〕	1枚・活版	1113
絵葉書〔神武天皇御即位〕	1枚・活版	1114
絵葉書〔龜山上皇の御祈願〕	1枚・活版	1115
絵葉書〔龜山上皇の御祈願〕	1枚・活版	1116
絵葉書〔龜山上皇の御祈願〕	1枚・活版	1117
絵葉書〔龜山上皇の御祈願〕	1枚・活版	1118
絵葉書〔旅順港口の閉塞(広瀬中佐)〕	1枚・活版	1119
絵葉書〔Canton. The Three Pure Ones, Buddhas Past, Present and Future〕	1枚・活版	1120
絵葉書〔Tangku. Tempel〕	1枚・活版	1121
絵葉書〔長良川鵜飼〕	1枚・活版	1122
絵葉書〔樺太土人ノ犬糞〕	1枚・活版	1124
絵葉書〔茂林寺境内聖観世音〕	1枚・活版	1125
絵葉書〔PEKING Minggraber.〕	1枚・活版	1126
絵葉書〔General Views, Singapore.〕	1枚・活版	1127
絵葉書〔南京城内鉄道〕	1枚・活版	1128
絵葉書〔(帝都名所) 亀井戸天満宮〕	1枚・活版	1130
絵葉書〔南京名所 燕子磯ヨリ十二洞ノ遠望〕	1枚・活版	1131
絵葉書〔旅順港口の閉塞(広瀬中佐)〕	1枚・活版	1132
絵葉書〔保定府城壁之景〕	1枚・活版	1157
絵葉書〔保定府城壁之景〕	1枚・活版	1158
絵葉書〔保定府城壁之景〕	1枚・活版	1159
絵葉書〔保定府東門内大街之景〕	1枚・活版	1160
絵葉書〔清国直隸省保定府西門冬景〕	1枚・活版	1161
絵葉書〔清国直隸省保定府西門冬景〕	1枚・活版	1162
絵葉書〔清国直隸省保定府西門冬景〕	1枚・活版	1163
絵葉書〔保定府東門内大街之景〕	1枚・活版	1164

絵葉書〔保定府東門内大街之景〕

1枚・活版

1165

書画

版画〔月宮太陰天尊〕		1枚・墨書	403
版画〔梅開引春紅林結子安菊落葉〕		1枚・墨書	437
版画〔人物〕		2枚・墨書	438
版画〔人物〕		1枚・墨書	439
版画〔人物〕		1枚・墨書	440
版画〔桃献千年寿〕		1枚・墨書	441
版画〔賣胭脂富貴有余〕		1枚・墨書	442
版画〔人物〕		1枚・墨書	443
絵画〔貴人と従児〕		1枚・墨書	491
絵画【劣化甚大のため披見不可】		1幅・墨書	933
絵画〔日ノ出松鶴〕		1幅・墨書	936
絵画〔鯉〕 大明		1幅・墨書	937
絵画〔松鶴図〕 閻山朱	庚申	1幅・墨書	948
絵画〔岳飛像〕		1幅・墨書	949
絵画〔鶴の図〕		1幅・墨書	952
絵画〔東方朔〕 心斎居士		1幅・墨書	958
絵画〔人物〕 友雲呉		1幅・墨書	966
絵画〔人物〕 世昌杜		1幅・墨書	967
絵画〔大黒天〕		1幅・墨書	968
絵画〔寒山〕 錢両吉		1幅・墨書	969
絵画〔女性画〕 蘇臺唐		1幅・墨書	970
絵画〔野菜〕 司馬綉谷		1幅・墨書	971
絵画〔梅〕 普化真		1幅・墨書	979
絵画〔仏画〕 大森巧藝社		1幅・墨書	981
絵画〔富岳〕 大明		1幅・墨書	984
絵画〔子供〕 實父仇英		1幅・墨書	987
絵画〔子供〕 グンデンジャプ・アエグエ		1幅・墨書	988
絵画〔あざみ薊〕 玄山		1幅・墨書	994
絵画〔魚〕 素堂		1幅・墨書	995
絵画〔双鶏〕		1幅・墨書	943
絵画〔児童選器之図〕		1幅・墨書	996
絵画〔堇贈聊〕		1幅・墨書	997

絵画〔人物〕		1枚・墨書	1366
絵画〔人物〕		1枚・墨書	1367
水墨画〔溪谷〕 戴明説	辛酉2月2日	1幅・墨書	942
水墨画〔溪谷〕 王廷禎・兪紀琦		1幅・墨書	944
水墨画〔秋竹〕		1幅・墨書	946
水墨画〔蘭〕		1幅・墨書	947
水墨画〔春竹〕 謝鑒禮		1幅・墨書	950
水墨画〔岩〕		1幅・墨書	951
水墨画〔溪谷〕 祖塗鴨		1幅・墨書	982
水墨画〔溪谷〕 山本梅瑛		1幅・墨書	986
水墨画〔溪谷〕		1幅・墨書	991
絵画〔花〕		1幅・墨書	375
書〔落款の説明書き〕		1幅・印・墨書	376
書〔慙愧当年邴曼容〕 陶林甲→多賀宗之		1枚・墨書	378-1
書〔殷勤稽首維摩詰〕		1枚・墨書	378-2
書〔教武合途士気新〕		1枚・墨書	379-1
書〔教授英豪遊外国〕 →多賀宗之		1枚・墨書	379-2
書〔聲名洋溢在中□〕 業兆熊		1枚・墨書	379-3
書〔賀進文明煩国師〕 張文欽・国滙中・王之		1枚・墨書	382-1
書〔多演武□東老人〕		1枚・墨書	382-2
書〔□府清寒要作詩〕 汪鴻孫		1枚・墨書	384
書〔蟠桃已報三千熟〕 応章付→多賀宗之		1幅・墨書	385
書〔□篇出篋自新得〕 →多賀宗之		1幅・墨書	386
書〔飛特軍と多賀の略歴の件〕 董鴻基	光緒28年(1902)	1枚・墨書	383
書〔松鶴遐齡〕		1幅・墨書	935
書〔塩は国防富保健の重要物なり〕 宗之		1幅・墨書	938
書〔多賀への讃辞〕 英華→多賀宗之		1幅・墨書	945
書〔平生倜儻不驚俗〕 多賀		1幅・墨書	960
書〔羅浮夢〕		1幅・墨書	972
書〔賀蘭賀建賀知□〕 王振畿		1幅・墨書	973
書〔弟子堪誇百二賢〕	光緒28年(1902)	1幅・墨書	374
書〔著書作〕		1枚・墨書	975
書〔忽從滄海見名月〕 丹臣仁		1幅・墨書	976
書〔道学以外寡交□〕 丹臣仁		1幅・墨書	977

書〔兵事之餘多研究〕 馮国璋		1幅・墨書	978
水墨画〔菊〕		1幅・墨書	980
書〔楠木公首墓碑〕 筱崎□		1幅・墨書	985
書〔岳陽樓記抜粹〕		1幅・墨書	989
書〔道以德宏〕 廷禎塗→多賀宗之		1幅・墨書	990
書〔明治天皇御製写し〕 多賀万城	昭和8年(1933)	11枚・墨書	391
書〔帚半明金に奉る〕 李純		1幅・墨書	992
書〔多賀友好記念〕 馮国璋		1幅・墨書	993
書〔謹家老屋枕溪〕		1幅・墨書	998
書〔每思機動輒争基〕 鳳山		1幅・墨書	999
拓本〔Kaizerliches Bezirksamt Litsun 李村副臬司衙門〕		1枚・墨書	742-1
拓本〔恭候〕 法寄	4月21日	1枚・墨書	742-4
拓本〔送紫岩張先生北伐〕 岳飛		1幅・墨書	934
拓本〔李村占領碑〕		1幅・墨書	940
拓本〔表題欠〕		1卷・謄写版	1021
拓本〔石台孝経第二面〕 玄宗	天宝4年(745)	1枚・謄写版	1026
拓本〔石台孝経第三面〕 玄宗	天宝4年(745)	1枚・謄写版	1027
拓本〔石台孝経第四面〕 玄宗	天宝4(745)	1枚・謄写版	1025
拓本〔藏真・律公〕 懷素	貞元9年カ	1枚・謄写版	1028
拓本〔藏真律帖〕 懷素		1枚・謄写版	1029
拓本〔懷素千字文の一部〕 懷素		1枚・謄写版	1032
拓本〔懷素千字文の一部〕 懷素		1枚・謄写版	1033
拓本〔懷素千字文の一部〕 懷素		1枚・謄写版	1034
拓本〔禹王碑、楊慎積文〕		1枚・謄写版	1030
拓本〔御史台精舍碑〕 崔湜撰・梁昇卿・趙礼	開元11年(723)	1枚・謄写版	1031
拓本〔御製序并注〕		1枚・謄写版	1035
拓本〔唐法琬法師碑〕	景龍3年5月10日(709)	1枚・謄写版	1036
拓本〔京兆府府学新移石経記〕	元祐5年9月20日(1090)	1枚・謄写版	1037
拓本〔邠國公功德銘〕		1枚・謄写版	1038
拓本〔御史台精舍碑〕		1枚・謄写版	1039
拓本〔李陽水書〕		1枚・謄写版	1040
拓本〔張旭草書一部〕 張旭		1枚・謄写版	1041
拓本〔張旭草書一部〕 張旭		1枚・謄写版	1042
拓本〔張旭草書一部〕 張旭		1枚・謄写版	1043

拓本〔張旭草書一部〕 張旭		1枚・謄写版	1044
拓本〔張旭草書一部〕 張旭		1枚・謄写版	1045
拓本〔張旭草書一部〕 張旭		1枚・謄写版	1046
拓本〔張旭草書一部〕 張旭		1枚・謄写版	1047
拓本〔張旭草書一部〕 張旭		1枚・謄写版	1048
拓本〔張旭草書一部〕 張旭		1枚・謄写版	1049
拓本〔張旭草書一部〕 張旭		1枚・謄写版	1050
拓本〔張旭草書一部〕 張旭		1枚・謄写版	1051
拓本〔張旭草書一部〕 張旭		1枚・謄写版	1052
拓本〔牧愛堂三大字行書〕 朱熹		1枚・謄写版	1053
拓本〔望太白積雪〕 允礼		1枚・謄写版	1054
拓本〔賜岳鐘琪詩〕 雍正	雍正2年(1724)	2枚・謄写版	1055
拓本〔御製訓飭士子文〕	康熙41年(1702)	1枚・謄写版	1056
短冊〔表題欠〕		36枚・墨書	1020
奉天辞命 佟烜之父母	咸豊10年1月1日(1860)	1卷・墨書	959
奉天辞命	雍正139月3日(1735)	1卷・墨書	961
奉天辞命	崇禎13年10月18日(1640)	1卷・墨書	962
奉天辞命 佟烜之父母	咸豊10年1月1日(1860)	1卷・墨書	963
勅命之宝	康熙25年7月18日(1686)	1卷・墨書	964
詔書	道光22年12月16日(1842)	1卷・墨書	965
〔印章の掛け軸〕		1幅・印	974
蓮池書院 曹振聲		1卷・墨書	1368
南京南門外報恩寺琉璃塔磚記		1枚・墨書	1015
南京南門外報恩寺琉璃塔磚記		1枚・墨書	1359
掛け軸の一部		1枚	368
掛け軸の一部		1枚	1365

名刺・封筒・紙片他

名刺〔新禧の挨拶〕 津田静枝		1枚・活版	777
名刺〔少年団神宮参拝観覧願い〕 二荒芳徳		1枚・ペン	821
名札〔多賀〕		1枚・墨書	748
封筒		1枚	57
封筒〔福建視察記〕		1枚・墨書	333

封筒〔家系図及履歴ニ関スル書類〕		1枚・墨書	370
方眼紙		1枚	390
朱紙		2枚	392
封筒の一部		1枚	393
封筒〔緊要書類〕		1枚・墨書	395
封筒〔白紙のみ〕		1枚・墨書	407
封筒・便箋〔白紙〕		1封筒(2枚)	426
封筒		1枚・墨書	467
封筒		1枚	509-36
封筒〔霊ニ関スル書〕		1枚	604
封筒	19年5月16日	1枚・墨書	648
封筒 吉川弘文館		1枚・活版	659-1
封筒		1枚	691
封筒		1枚・墨書	714
封筒の一部 →東京参謀本部上原元帥別荘		1枚・墨書	739
封筒〔辞令書など〕		1枚・ペン	740
封筒〔あいこく婦人かい〕		1枚・墨書	740-21
封筒〔祝儀〕 多賀		1枚・墨書	763
封筒〔祝儀〕 多賀		1枚・墨書	764
封筒〔勅諭奉戴五十年記念〕 陸軍省		1枚・活版	822
封筒〔旅行券〕 →多賀宗之		1枚・墨書	835-19
封筒〔多賀中佐ニ与フル訓令〕		1枚・墨書	835-23
封筒		1枚	835-24
封筒〔小林家家族 主として昭和時代(淑子)〕		1枚	870
封筒		1枚	925-6
紙片		1枚	925-16
白紙		1枚	925-78
封筒〔覚〕 久徳鞆雄		1枚・墨書	925-122
封筒〔支那国情の展開〕 財団法人偕行社編集部→多賀宗之		1枚・墨書・活版	928-1
封筒の一部		1枚	925-35
封筒の一部		1枚	928-10
封筒の一部		1枚	928-57
短冊		1枚	59

紙袋〔第12期生徒素行録乙号 性行・操練・服務提要〕 紙袋〔第12期生徒素行録乙号 性行・操練・服務提要〕		1枚・墨書	330
紙袋〔葉書入り〕		1枚	331
箸袋		1枚	891-10
包紙 五味憲一(南京多賀公館)→多賀宗之	9月11日	1枚・墨書	366
紙片		1枚	342
紙片		1枚	661
紙片		1枚	928-37
紙片		8枚	1371
紙片〔条保吉郎〕		1枚・墨書	576
紙片〔軍遺墨〕		1枚・墨書	928-45
紙片〔筑波山登頂記念印〕	昭和9年6月10日(1934)	1枚・印	1320
紙片〔明治神宮参拝記念印〕	9年6月27日	1枚・印	1321
紙片〔上野駅記念印〕	9年6月9日	1枚・印	1322
紙片〔京成電車上野公園記念印〕	9年5月13日	1枚・印	1323
布片、紙片		4枚	1369
厚紙		1枚	33
白紙		2枚	367
白紙		1枚	925-92
写真用台紙		2枚	925-1
上海情報綴〔表紙〕		1枚・墨書	430
空箱〔勲記収納〕		1箱	506
紙箱〔書庫へ 宗之〕 宗之		1箱・ペン	835
外箱〔晶子ノート〕		1箱・ペン	918
箱〔「書簡未整理」とメモ書き〕		1箱・ペン	925
箱〔誥封支那辞令書 吉祥如意〕		1箱	932
アルミホイル〔廃棄〕			925-90
メモ〔廃棄〕			928

物品

花瓶		1瓶	953
花瓶〔錦城落成記念〕		1瓶	956
花瓶・台		1台	957
瓢箪・台		1個	954
燭台		1台	955

Sub-Series No.6: 刊行物

書籍

[吾妻鏡序文・首書]		1枚・活版	33-9
学生 学生文庫	大正2年1月(1913)	1冊・活版	919
陝西通志第六卷		1冊・活版	1007
[溪嵐拾葉集]十九		1枚・謄写版	925-33
校正尚友録		1冊・活版	1009
校正尚友録		1冊・活版	1010
三十三年改訂兵器学教程兵器制式図	明治33年(1900)	1冊・活版	471
支那一ヶ月旅行 佐藤綱次郎	大正9年3月28日(1920)	1冊・活版	1012
支那画家落款印譜 斎藤謙		1冊・活版	1004
支那の軍情		1冊・活版	372
支那の工芸 笠森伝繁	昭和6年8月31日(1931)	1冊・活版	910
授決圓多羅義集唐決 金沢文庫同好会	昭和11年1月25日(1936)	2冊・活版	29
真本改良絵図幼学瓊林		1冊・活版	1006
[草庵集]五十七		1枚・活版	381
天下郡国利病書〔張中程読本、雲遊勞人蔵〕		1冊・活版	465
東京大相撲		1冊・活版	1008
東京府地誌略 上		1冊・活版	916
東洋通史 第1巻～第12巻 久保天隨	明治38年(1905)	12冊・活版	1019
徒行 玉城徹	昭和61年8月10日(1986)	1冊・活版	915
南洋群島珊瑚島探検記 岡雷平		1冊・活版	1011
日本の裁縫と女礼 卷上 中島知子・岡田廣鶴	明治25年10月21日(1892)	1冊・活版	1005
標柱四書読本 興文社	明治40年4月20日(1907)	1冊・活版	30
背表紙〔Vom alten Germanien zum neuen Reich〕		1枚・活版	33-2
武備雜誌		1冊・活版	32
分類攷古捷経		1冊・活版	1013
類題草野集 上巻 木村定良		1冊・活版	1002
類題草野集 下巻 木村定良	明治31年10月30日	1冊・活版	1003
松丸殿宛秀吉消息書		1枚・謄写版	385-2
Leben Scheleiermachers Wilhelm Dilthey		1冊・活版	33-7
蓮池書院慶帖		1冊・謄写版	1022

蓮池書院慶帖		1冊・謄写版	1023
蓮池書院慶帖		1冊・謄写版	1024
[中国の手習い]		1冊・活版	1360
[中国の手習い]		1冊・活版	1361
[漢籍の一部]		5枚・活版	461
[漢籍の一部]		1枚・活版	462
[書籍の一部]		1枚・活版	613
書籍の一部〔支那通貨に関する歴史〕		1枚・謄写版	928-58
書籍の紙片			33-3

定期刊行物

燕塵 第2年第11号付録 (故張之洞訃聞) 北京燕塵会		1枚・活版	397
紀伊國屋月報7 紀伊國屋書店	昭和6年7月(1931)	1冊・活版	615
共和報号外(中国語)		1枚・活版	334
紙片〔史学雑誌 第12号第9号〕 史学会		1枚・活版	33-11
裏表紙〔思想 第121号〕 岩波書店		1綴・活版	33-4
少年世界 臨時増刊 第5巻第2号 陸軍の光 東京博文館	明治27年12月28日(1894)	1冊・活版	828
少年世界 第5巻第6号 東京博文館	明治32年3月1日(1899)	1冊・活版	22
少年世界 第5巻第7号 東京博文館	明治32年3月15日(1899)	1冊・活版	17
少年世界 第5巻第8号 東京博文館	明治32年4月1日(1899)	1冊・活版	16
少年世界 第5巻第9号 東京博文館	明治32年4月15日(1899)	1冊・活版	6
少年世界 第5巻第10号 東京博文館	明治32年5月1日(1899)	1冊・活版	15
少年世界 第5巻第11号 東京博文館	明治32年5月15日(1899)	1冊・活版	8
少年世界 第5巻第12号 東京博文館	明治32年6月1日(1899)	1冊・活版	2
少年世界 第5巻第13号 東京博文館	明治32年6月15日(1899)	1冊・活版	11
少年世界 第5巻第17号 東京博文館	明治32年8月1日(1899)	1冊・活版	12
少年世界 第5巻第22号 東京博文館	明治32年10月15日(1899)	1冊・活版	9
少年世界 定期増刊 競漕会 第7巻第6号 東京博文館	明治32年12月1日(1899)	1冊・活版	624
少年世界 第6巻第2号	明治33年(1900)	1冊・活版	67
少年世界 第6巻第3号 東京博文館	明治33年2月11日(1900)	1冊・活版	622

少年世界	第6巻第3号	東京博文館	明治33年2月15日 (1900)	1冊・活版	626
少年世界	第6巻第5号	東京博文館	明治33年4月15日 (1900)	1冊・活版	25
少年世界	第6巻第6号	東京博文館	明治33年5月15日 (1900)	1冊・活版	13
少年世界 文館	臨時増刊 満艦飾	第6巻第9号 東京博	明治33年8月15日 (1900)	1冊・活版	617
少年世界	第7巻第3号	東京博文館	明治34年2月1日(1901)	1冊・活版	14
少年世界	第7巻第6号	東京博文館	明治34年4月10日 (1901)	1冊・活版	24
少年世界 文館	定期増刊 第7巻第6号	競漕会 東京博	明治34年	1封筒(9枚)・活版	31
少年世界	第7巻第7号	東京博文館	明治34年5月1日(1901)	1冊・活版	10
少年世界	第7巻第9号	東京博文館	明治34年7月1日(1901)	1冊・活版	19
少年世界 文館	定期増刊 第7巻第14号	園遊会 東京博	明治34年10月10日 (1901)	1冊・活版	26
少年世界 文館	定期刊行 第8巻第2号	日章旗 東京博	明治35年(1902)	1冊・活版	5
少年世界	第8巻第3号	東京博文館	明治35年2月1日(1902)	1冊・活版	28
少年世界	第8巻第7号	東京博文館	明治35年5月1日(1902)	1冊・活版	625
少年世界 文館	定期増刊 第8巻第10号	博物館 東京博	明治35年7月15日 (1902)	1冊・活版	23
少年世界	第8巻第11号	東京博文館	明治35年8月1日(1902)	1冊・活版	18
少年世界	第8巻第12号	東京博文館	明治35年9月1日(1902)	1冊・活版	616
少年世界	第8巻第13号	東京博文館	明治35年10月1日 (1902)	1冊・活版	623
少年世界	第8巻第14号	裏表紙 東京博文館	明治35年10月10日 (1902)	1冊・活版	629
少年世界	第8巻第15号	東京博文館	明治35年11月1日 (1902)	1冊・活版	628
少年世界	第8巻第16号	東京博文館	明治35年12月1日 (1902)	1冊・活版	627
少年世界 博文館	臨時増刊 第5巻第16号	海軍我光 東京	明治37年7月25日 (1904)	1冊・活版	7
裏表紙〔少年世界 第5巻第9号〕	東京博文館		明治32年4月15日 (1899)	1枚・活版	21
表紙〔少年世界 第5巻第12号〕	東京博文館		明治32年5月15日 (1899)	1枚・活版	3
〔「少年世界 臨時増刊 第5巻第16号」の一部〕	東京博 文館		明治32年7月25日 (1899)	1枚・活版	584
裏表紙	東京博文館		明治32年(1899)	1枚・活版	1

裏表紙〔少年世界 第7巻第10号〕 東京博文館	明治34年7月10日 (1901)	1枚・活版	20
紙片〔少年世界 第8巻第1号〕 東京博文館	明治35年1月1日(1902)	1枚・活版	4
表紙〔少年読本 第2編 中邨秋香著白川楽翁公〕 中央日報(中国語)	民国20年8月29日 (1931)	1綴・活版	33-12 445
東京日日新聞号外 東京日日新聞社	大正10年11月25日 (1921)	2枚・活版	36
同仁 第8巻第9号 同仁会	昭和9年9月1日(1934)	1冊・活版	35
同仁 第8巻第10号 同仁会	昭和9年10月1日(1934)	1冊・活版	34
日本人 第3巻第6号 ムケイ社	昭和10年6月(1935)	1冊・活版	614
報知新聞特報〔明仁親王御命名〕 報知新聞社	昭和8年12月(1933)	2枚・活版・墨書	472
裏表紙〔歴史地理 45巻第1号〕 日本歴史地理研究会 雑誌の一部	大正14年1月1日(1925)	1枚・活版	33-10 33-5
雑誌の一部		4枚・活版	911
雑誌の一部		3枚・活版	27
雑誌の一部		1枚・活版	

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
Series No.3: 書簡			
Sub-Series No.1: 来信			
あ			
書簡〔上原多市の禁鋼1ヶ年について〕 青木宣純→多賀宗之	大正3年9月21日(1914)	1封筒(1枚)・墨書	925-29-16
書簡〔別紙の意見について善鐘秀への伝言願い〕 青木宣純→多賀〔大佐〕	大正8年1月2日(1919)	2枚・墨書	925-29-17
書簡〔食養の指教への礼状〕 青木宣純→多賀宗之	5月21日	2枚・ペン	509-7
書簡〔旗人普崇の周旋願い〕 青木宣純→多賀宗之	1月20日	1封筒(6枚)・墨書	925-29-9
書簡〔通報の件天津では問題なし、段芝貴穩便な取計に尽力〕 青木宣純→多賀宗之	2月23日	1封筒(7枚)・墨書	928-11
書簡〔中国の排日排日貨運動について〕 青木宣純→多賀〔中佐〕	7月9日	1封筒(9枚)・墨書	925-29-15
書簡〔劣化甚大につき判読不能〕 青木宣純→多賀宗之		1封筒(6枚)・墨書	925-29-10
書簡〔福田規矩造からの書簡の件〕 青木→多賀宗之	10月13日	1封筒(9枚)・墨書	925-29-21
葉書〔著書寄贈への礼状〕 青柳常永→多賀宗之	大正14年6月29日(1925)	1枚・墨書	673
書簡〔早稲田大学政治科学生長江観光のため面会願い〕 青柳篤樞→多賀宗之	6月26日	1封筒(2枚)・墨書	725
書簡〔尋ね人高等予科在学の件〕 青柳篤恒→多賀	11月31日	1封筒(4枚)・墨書	85
葉書〔挨拶状〕 青山才国→多賀宗	2年4月2日	1枚・墨書	509-19
書簡〔礼状〕 赤井春海〔財団法人軍人会館理事長〕→多賀宗之	昭和9年7月7日(1934)	1枚・活版	925-28
書簡〔松本よりの急電受領、大連へ出帆〕 赤沢宇之助〔青島軍政署李村出張所〕→多賀〔中佐〕	大正5年8月24日(1916)	1封筒(2枚)・墨書	141
書簡〔民国政府軍事顧問就任祝い、日支親善の方針〕 赤沢宇之助〔李村〕→多賀〔中佐〕〔南京日本領事館〕	〔大正〕6年3月17日(1917)	1封筒(10枚)・墨書	928-63
書簡〔活塩水販路の件、干魚送付、統帥権干犯問題〕 赤沢宇之助〔大連〕→多賀宗之	〔昭和〕5年5月27日(1930)	1封筒(3枚・2枚)・墨書	312
葉書〔進級祝い〕 浅野丈夫→多賀宗之〔歩兵中佐〕〔歩兵第3連隊本部〕	〔大正〕3年8月11日(1914)	1枚・ペン	1315
葉書〔一報願い〕 浅野正恭→多賀万城	〔昭和〕6年7月30日(1931)	1枚・墨書	818
書簡〔著書寄贈の礼状と感想〕 浅野和三郎→多賀宗之	〔昭和〕5年12月14日(1930)	1封筒(2枚)・ペン	254
葉書〔印刷物上納の運びについて〕 アサヒ印刷所→多賀宗之	〔大正〕15年10月6日(1926)	1枚・ペン	521

葉書〔年賀状、天津に分局設立〕 阿多広介(上海)→多賀宗之(直隸省保定府武備学堂)	1月1日	1枚・墨書	1198
書簡〔參堂招待への礼状〕 阿東田経清→多賀宗之	大正14年6月8日(1925)	1封筒(3枚)・墨書	300
書簡〔著書寄贈への礼状〕 阿野建虎→多賀宗之	〔大正〕15年12月15日(1926)	1封筒(3枚)・墨書	256
葉書〔書籍郵送願い〕 天本高明→多賀宗之	〔大正〕14年8月14日(1925)	1枚・墨書	815
書簡〔肺強薬送願い、南京青年会所有物件に対する賠償金の用途、在支那会員について〕 綾野茂→多賀万城	〔昭和〕6年3月21日(1931)	1封筒(2枚)・墨書	928-78
書簡〔長女の風邪薬送付願い、賠償金の寄付について〕 綾野茂(上海)→多賀万城	昭和7年1月21日(1932)	1封筒(3枚)・ペン・活版	928-49
葉書〔南満事件による引揚婦女子と南京市中の様子〕 綾野茂→多賀万城	〔民国〕20年10月8日(1931)	1枚・ペン	790
葉書〔趣意書の作成と会合の相談の件〕 浅野正恭→多賀万城	〔昭和〕9年8月29日(1934)	1枚・ペン	791
書簡〔衛戍部による送付物の没収について〕 綾野薬行(南京)→多賀宗之	昭和4年11月15日(1929)	1封筒(2枚)・ペン・活版	928-55
書簡〔強肺薬送付願い、荊薬甲購入の勧め〕 綾乃薬行(南京)→多賀宗之	昭和5年12月17日(1930)	1封筒(1枚)・ペン・活版	928-73
書簡〔蝦子腐の送付、領事館の工事一段落〕 綾野薬行(南京)→多賀宗之	昭和5年12月21日(1930)	1封筒(1綴)・ペン・活版・墨書	928-29
書簡〔送金への礼状〕 綾野薬行(南京)→多賀宗之	民国19年12月31日(1930)	1封筒(1綴)・ペン・活版	928-27
書簡〔贈り物への礼状、銀暴落により商売困難、陽暦使用の達し〕 綾野薬行(南京)→多賀宗之	民国20年1月14日(1931)	1封筒(1綴)・ペン・活版	928-24
書簡〔立替金に対し一先ず送金の件〕 綾野薬行→多賀宗之	民国20年2月10日(1931)	1封筒(1枚)・ペン	508-10
書簡〔送付の薬受領、胡漢民の監禁について〕 綾乃薬行(南京)→多賀万城	民国20年3月7日(1931)	1封筒(6枚)・ペン・謄写版	928-70
書簡〔板坂の薬代清算願い、板坂留一名刺〕 綾野薬行→多賀万城	〔昭和〕6年4月27日(1931)	1封筒(2枚)・墨書	245
書簡〔研究への礼状、神代史研究の学志家紹介〕 荒川五郎→多賀宗之	大正14年7月4日(1925)	1封筒(2枚)・墨書	925-105
書簡〔栄養主食糧印刷物・食塩について相談の申し出〕 荒川五郎→多賀宗之	5月15日	1封筒(1枚)・墨書	142
葉書〔観兵式記念写真送付への礼状〕 有賀近一郎〔習志野騎兵第14連隊第3中隊〕・藤森善正〔習志野騎兵第24連隊第3中隊〕→多賀宗之	〔昭和〕3年12月12日(1928)	1枚・ペン	190
書簡〔見舞い状、朝鮮松の実と支那の決明子の種子の効能につき教示願い〕 有賀近一郎〔習志野騎兵第14連隊第3中隊第3内務班〕→多賀宗之	2月15日	1封筒(2枚)・墨書	925-59
葉書〔御大礼大観兵式時東京滞在時の配慮への礼状〕 有賀近一郎〔習志野騎兵第14連隊第3中隊第1内務班〕→多賀宗之	4日	1枚・ペン	154

葉書〔暑中見舞い〕 有川貞彦(長春)→多賀宗之	大正14年7月(1925)	1枚・墨書	328-32
書簡〔韓家問題に関し平島達矢と提携し計査する事業について要望〕 有川貞彦→多賀宗之	昭和7年11月14日(1932)	1封筒(4枚)・墨書	925-102
書簡〔シベリア独立運動に関する洋々会講話の件〕 有馬良橋→多賀宗之	〔昭和〕3年5月8日(1928)	1封筒(1枚)・墨書	222
葉書〔面会希望につき日時指定依頼〕 有馬良橋→多賀宗之	7月1日	1枚・墨書	227
書簡〔活塩水服用怠慢の反省〕 阿波杉ノ助→多賀宗之	8月20日	1封筒(3枚)・墨書	509-29
書簡〔宗雄来訪について礼と詫び〕 安斉徳次郎→多賀宗之・多賀宗雄	〔大正〕13年4月18日(1924)	1封筒(4枚)・ペン	289
書簡〔満洲承認に関する視察談、新政府混乱に付指導願い〕 安生順一→多賀宗之	昭和7年6月15日(1932)	1封筒(1枚)・ペン	109
書簡〔「支那の将来に就きて」執筆依頼〕 安藤紀三郎〔陸軍省恩賞課長濟美編輯監督〕→多賀〔顧問〕	6月8日	1枚・墨書	507-1-18
葉書〔進歩党は北方勝利、当新聞引き立て願い〕 安藤良吉(北京)→多賀宗之(南京)	大正5年7月19日(1916)	1枚・ペン	1238

い

葉書〔貴重品贈与への礼状、水原へ帰る予定〕 飯田孝成(平壤)→多賀宗之(南京)	〔大正〕8年2月19日(1919)	1枚・ペン	1223
葉書〔詠進歌の書式と締め切りに付き〕 飯田秀真(明治神宮社務所)→多賀宗之	〔大正〕14年12月15日(1925)	1枚・ペン	328-72
書簡〔アメーバ赤痢による入院と経過報告〕 飯田幸成(朝鮮京畿道國武農場本部)→多賀宗之	大正8年6月3日(1919)	1封筒(2枚)・墨書	928-47
葉書〔講演依頼承認への礼状〕 飯森文晴(皇徳婦人会本部)→多賀宗之	〔大正〕6年9月18日(1917)	1枚・ペン	767
書簡〔加藤の研究的態度について、試験願い〕 五百木良三→多賀宗之	〔昭和〕4年10月23日(1929)	1封筒(2枚)・墨書	309
書簡〔鳥居忠恕寄転の件〕 五百木良三→多賀宗之	〔昭和〕5年2月1日(1930)	1封筒(2枚)・墨書	308
書簡〔知己への伝言・縁故の維持〕 五百木良三→多賀宗之	〔昭和〕5年3月28日(1930)	1封筒(3枚)・墨書	313
書簡〔加藤と引き合わせの件〕 五百木良三→多賀宗之	10月17日	1封筒(4枚)・墨書	311
葉書〔天皇と世界及吾人送付〕 池谷佐一郎(アサヒ印刷所)→多賀		1枚・墨書	328-83
書簡〔所属局出版図書の発売仲介願い〕 伊沢修治→多賀(保定府将弁学堂)	3月23日	1枚・ペン	751-1
書簡〔福島将軍に伺いの上書籍編集着手の願い〕 伊沢→多賀	2月4日	1枚・ペン	751-5
書簡〔所属局書稿閲覧願い、日本語学習書出版、2等書記官拜命〕 伊沢→多賀	2月17日	1枚・ペン	751-3
書簡〔野操規典ではなく野操軌典との福島将軍の指摘〕 伊沢→多賀	2月20日	1枚・ペン	751-4

葉書〔欧州の神霊界研究状況〕 石井善七(パリ)→多賀宗之		1枚・ペン	164
葉書〔年賀状〕 石田雄二→多賀〔少佐〕(清国保定)	明治42年1月1日(1909)	1枚・ペン	1152
書簡〔時局講演会出演依頼・依頼要綱〕 石橋久太郎〔館林町出征軍人後援会長〕→多賀宗之〔陸軍少将〕	昭和7年5月23日(1932)	1封筒(1綴)・ペン	133
書簡〔転役発表の件〕 石光眞臣〔第1師団長〕・原田敬一〔第1師団参謀長〕→多賀宗之〔陸軍少将〕	大正12年4月27日(1923)	1枚・墨書	892-3
葉書〔欧州行きの途上上海にて訪問の予定〕 石本貫一(ハルピン丸)→多賀宗之(江蘇省南京多賀公館)	大正8年11月16日(1919)	1枚・ペン	1231
書簡〔フランス滞在の報告〕 石本貫一(南仏)→多賀〔大佐〕	大正10年1月7日(1921)	1枚・ペン	796
書簡〔第1次大戦後の西欧諸国の実際について〕 石本貫一→多賀〔大佐〕	5月26日	4枚・ペン	928-18
書簡〔朝鮮金剛山の崔親子紹介の件〕 石本恵吉→多賀宗之		2枚・ペン	509-16
葉書〔ヴェルダン要塞訪問の所感〕 石本→多賀宗之(南京城内)	大正9年8月22日(1920)	1枚・ペン	1207
葉書〔ランスからソアッソンまでの戦跡巡りの感想〕 石本(ソアッソン)→多賀〔大佐〕(南京城内)	9月28日	1枚・ペン	1250
葉書〔著書送付願い〕 磯部州男→多賀宗之	大正14年9月14日(1925)	1枚・ペン	328-98
葉書〔著書送付願い〕 磯部州男→多賀宗之	〔大正〕14年9月26日(1925)	1枚・ペン	328-74
葉書〔神道会合の内容伺い〕 磯部州男→多賀宗之	〔大正〕14年10月10日(1925)	1枚・墨書・ペン	328-26
葉書〔著書寄贈への礼状〕 磯部州男→多賀宗之	〔大正〕14年10月25日(1925)	1枚・ペン	328-86
葉書〔雑誌送付への礼と感想〕 磯部州男→多賀宗之	大正14年11月12日(1925)	1枚・ペン	328-85
葉書〔戦友及び八幡会創設趣旨書送付への礼状〕 磯部州男→多賀宗之	大正14年11月16日(1925)	1枚・ペン	328-87
葉書〔名古屋来訪願い〕 磯部州男→多賀宗之	大正14年12月12日(1925)	1枚・ペン	328-73
葉書〔著書寄贈への礼状〕 磯部州男→多賀宗之	〔大正〕14年12月23日(1925)	1枚・墨書	328-75
葉書〔著書についての感想〕 磯部州男→多賀宗之	〔大正〕15年5月15日(1926)	1枚・ペン	328-97
葉書〔著書寄贈への礼状〕 磯部州男→多賀宗之	〔大正〕15年5月25日(1926)	1枚・ペン	328-99
書簡〔手紙および活塩水受領、手紙の感想〕 磯部州男→多賀宗之	〔大正〕15年6月10日(1926)	1封筒(2枚)・墨書	210
葉書〔帰朝報告〕 磯部正樹(東京)→多賀〔中佐〕(南京)	〔大正〕5年8月23日(1916)	1枚・ペン	1246

葉書〔返信のへ礼状〕 磯部好男→多賀宗之	大正14年1月21日 (1925)	1枚・ペン	177
書簡〔上海にて山東軍と南軍の衝突に遭難した旨〕 坂 坂瑠一(上海)→多賀宗之〔陸軍少将〕	昭和2年4月20日(1927)	1封筒(9枚)・ペン	928-39
招待状〔新年宴会〕 一木木徳郎〔宮内大臣〕→多賀宗之 〔陸軍少将〕	昭和7年12月20日 (1932)	1封筒(6枚)・活版	611
書簡〔漢洋医学闘争史寄稿への礼状〕 一貫堂薬局→	5月25日	1枚・墨書	925-101
書簡〔講演に対する返礼品への礼状〕 伊藤十郎→多賀 万城	2月27日	1封筒(2枚)・墨書	193
封筒〔本文欠〕 伊藤十郎・児童一同→多賀万城	〔昭和〕8年年2月28日 (1933)	1枚・墨書	253
葉書〔快気祝い〕 伊藤浪三(保定府東関県)→多賀宗之 (李村軍政署)	〔民国〕3年12月21日 (1914)	1枚・ペン	244-11
葉書〔改名通知に対し返信〕 井戸川辰三→多賀万城	〔昭和〕6年2月11日 (1931)	1枚・墨書	522
葉書〔支那事情に関する講演の依頼〕 稲垣賢→多賀宗 之	5月22日	1枚・ペン	793
葉書〔今朝神戸着明朝東上の予定、神戸までの様子〕 田舎領事・公子→多賀〔大佐〕(南京)	6月25日	1枚・ペン	1226
葉書〔ロシア問題の参考としてハルビン訪問〕 稲葉準 造(ハルビン)→多賀万城	〔昭和〕8年4月30日 (1933)	1枚・ペン	1299
葉書〔年賀状〕 井上一雄→多賀宗之(清国保定府)	明治38年1月7日(1905)	1枚・墨書	1169
書簡〔揮毫・講演への礼状、海帰還部隊凱旋〕 今井敬三 郎→多賀万城	〔昭和〕7年4月28日 (1932)	1封筒(1枚)・墨書	272
書簡〔連合分会時局講演会への礼状〕 今井敬三郎→ 多賀万城	4月15日	1封筒(3枚)・墨書	925-103
葉書〔今井の息子の近況の絵〕 今井正蔵(青島軍政署 李村出張所工務係)→多賀宗之(南京)	10月18日	1枚・ペン	1204
書簡〔申込の件関東軍に問い合わせの旨〕 今岡新太郎 →多賀宗之	8月4日	1封筒(2枚)・墨書	715
書簡〔朝日新聞の時局への副作用について〕 今田新太 郎(参謀本部)→多賀宗之	〔大正〕7年7月19日 (1918)	1封筒(2枚)・ペン	928-59
書簡〔長春情報について面談願い〕 今田新太郎〔参謀 本部歩兵大尉〕→多賀宗之	〔大正〕7年7月12日 (1918)	1封筒(1枚)・ペン	928-61
書簡〔長春情報受領、川島への批判〕 今田新太郎〔参謀 本部〕→多賀宗之	〔大正〕7年7月23日 (1918)	1封筒(2枚)・ペン	928-60
書簡〔煩い平癒のための祈祷の件〕 伊豫田英照(万燈 山吉祥院)→多賀宗之	〔大正〕15年12月24日 (1926)	1封筒(2枚)・墨書	298
書簡〔大正天皇崩御に付お悔やみ〕 伊豫田英照(万燈 山吉祥院)→多賀宗之	〔昭和〕1年12月27日 (1926)	1封筒(1枚)・墨書	206
葉書〔祈祷の儀終了予定の報告、上京の際面会希望〕 伊豫田英照(万燈山)→多賀宗之	〔昭和〕2年12月21日 (1927)	1枚・ペン	1274

書簡〔上京時の配慮への礼状〕 伊豫田英照〔万燈山吉祥院〕→多賀宗之	〔昭和〕5年12月15日 (1930)	1封筒(2枚)・墨書	286
葉書〔海軍機関学校より挨拶状〕 入島春清〔海軍機関学校生徒〕→多賀宗之(南京)	5月26日	1枚・ペン	1254
書簡〔鈴木荘六と多賀宗之の奉納への礼状〕 入村四郎次→多賀宗之	6月5日	1封筒(2枚)・墨書	925-58
書簡〔杜鐘岷重体、万廷献検査まで呉禄貞との出発延期、父親の容体〕 岩崎初太郎→多賀宗之	3月27日	1封筒(3枚)・墨書	928-22
書簡〔多賀家滞在時の配慮への礼状〕 岩瀬覚文→多賀宗之	昭和3年12月4日(1928)	1封筒(4枚)・ペン	76
書簡〔大観兵式にて世話になった礼状 岩瀬覚文→多賀宗之	昭和4年12月3日(1929)	1封筒(2枚)・写真1枚)・ペン・墨書	925-42
葉書〔年賀状〕 岩田次郎〔韓国龍頭山〕・たき(同)→多賀宗之(清国保定府)	1月1日	1枚・ペン	1184
葉書〔記念物送付への礼状〕 岩村俊武→多賀〔中佐〕(青島李村)	〔大正〕4年8月18日 (1915)	1枚・ペン	328-23
書簡〔国民政府外交部駐日特派員就任につき面会願ひ〕 殷汝耕→多賀宗之	3年4月5日	1封筒(1枚)・墨書	835-5
書簡〔渡航中遭難した雪村金治郎らの救出(中国語)〕 即墨県公署→多賀宗之	8月19日	1綴・墨書	336

う

書簡〔品物受領につき礼状〕 上田恭輔→多賀〔将軍〕	6月29日	1封筒(2枚)・墨書	317
葉書〔国慶日の件、例の件同意、阻止方努力の旨〕 上原平太郎→多賀万城	昭和9年2月16日(1934)	1枚・ペン	94
葉書〔請願政府へ送付〕 上原平太郎→多賀万城	昭和9年2月21日(1934)	1枚・ペン	96
書簡〔著書寄贈への礼状〕 上原勇作→多賀宗之	〔昭和〕3年12月20日 (1928)	1封筒(1枚)・墨書	267
書簡〔病状良化報告〕 上原勇作→多賀宗之	昭和5年9月16日(1930)	1枚・墨書	892-11
書簡〔宴席の誘い状(中国語)〕 丁敬臣・張鳴鑾・成蘭圃・劉子山・隋石卿・胡規臣・李漣溪・姜曉岩・傅炳昭・張俊卿・周寶山・于仙舟・蘇助臣・梁勉齋・高子女・吳蔚如・邵舫艇・張餘三・陳次治・姜東陽→多賀宗之〔李村軍政署長官〕	25日	1封筒(1枚)・活版	412
葉書〔新聞発送に付購読願ひ〕 羽旻→多賀宗之〔保定城内軍政司〕	明治38年7月22日 (1905)	1枚・ペン	244-15
葉書〔年賀状〕 内ヶ崎作三郎→多賀宗之	大正14年(1925)	1枚・活版・ペン	1276
葉書〔挨拶状〕 内田政枝→多賀宗之	〔昭和〕5年5月29日 (1930)	1枚・ペン	554
葉書〔青島への就職について祝い状〕 内田政敬→多賀宗之	大正7年11月19日 (1918)	1枚・ペン	91
書簡〔帰朝後面会の約束〕 宇都宮太郎→多賀宗之〔陸軍歩兵少佐〕(保定府)	明治43年6月1日(1910)	1枚・墨書	905

書簡〔公使青木と相談の上尽力願い〕 宇都宮太郎→多賀	〔明治45年〕2月16日 (1912)	1枚・墨書	894
書簡〔戦後時局に関する意見への礼状〕 宇都宮太郎→多賀宗之〔青島軍政署歩兵中佐〕	8月11日	1枚・墨書	897
書簡〔挨拶状〕 宇都宮太郎→多賀〔中佐〕	8月14日	2枚・墨書	925-36
書簡〔北海道の旭川の様子〕 宇都宮太郎→多賀宗之〔歩兵中佐〕(南京)	8月15日	1枚・墨書	892-10
書簡〔見舞い状〕 宇都宮太郎→多賀	10月8日	2枚・墨書	735
封筒〔735の封筒〕 宇都宮太郎→多賀宗之〔歩兵少佐〕	2年10月8日	1枚・墨書	721

え

葉書〔暑中見舞い〕 江島勝美(雲仙公園榭屋旅館)→多賀万城	〔昭和〕10年7月26日 (1935)	1枚・ペン	1279
書簡〔依頼された取寄せの件について〕 江副浜二→多賀宗之	〔大正〕6年11月29日 (1917)	1封筒(3枚)・墨書	928-54
書簡〔欧州戦後の任期、依田らのシベリア事業失敗、李村通訳外山の外蒙研究〕 江副浜二→多賀宗之	〔民国〕8年1月20日 (1919)	1封筒(4枚)・ペン	928-48
書簡〔中村・吉田事業中止につき指導願い〕 江副浜二→多賀宗之(江蘇省南京城)	7月4日	1封筒(2枚)・墨書 ・ペン	925-97
書簡〔磯谷大尉南京駐在の件、横尾大尉退職の手続、阿片問題、山東の事業着手の計画、赤沢氏を山東で雇用、平時における浪人の活用〕 江福〔大尉〕(青島軍政署)→多賀宗之	〔大正〕6年3月22日 (1917)	1封筒(6枚)・ペン ・墨書	928-72
封筒〔中身欠〕 江東田経→多賀宗之	大正6年9月1日(1917)	1枚・墨書	928-42

お

書簡〔遊歴同行の井上の借金について問合せ(中国語)〕 王陟卿〔留学生〕・王韞山〔留学生〕→	明治38年7月18日 (1905)	4枚・墨書	925-74
封筒〔中身欠、丙一件〕 汪→多賀	民国4年12月23日 (1915)	1枚・活版	364
書簡〔革命派に通ずる邦人について精査の依頼〕 青海天→多賀		1封筒(1枚)・墨書	928-13
書簡〔恢弘会評議員推薦の件〕 大井成元〔恢弘会会長・男爵〕→多賀万城	昭和7年4月8日(1932)	1封筒(1枚)・謄写版	305
葉書〔年賀状〕 大石柳(高橋写真館)→多賀宗之〔江蘇督軍顧問〕	〔民国〕3年1月1日 (1914)	1枚・活版・ペン	1239
書簡〔満蒙に関し高山少将への意見具申と紹介の要望〕 大川平隆光(満洲鉄道株式会社)→多賀宗之	大正5年8月23日(1916)	1封筒(4枚)・ペン	509-33
葉書〔八幡様に関する著書寄贈への礼状〕 大川周明→多賀宗之	3年4月1日	1枚・墨書	510
葉書〔佐久間への挨拶願い〕 大川周明→多賀宗之	5月3日	1枚・墨書	511
葉書〔振替払出金指定口座受入手続き完了の通知〕 大阪振替貯金課→多賀宗之	〔大正〕13年6月6日 (1924)	1枚・活版	328-33

書簡〔第1回支那語講習会開会式挙行通知〕 大島健一〔退職武官講習会会長〕→多賀宗之	昭和7年7月12日(1932)	1封筒(1枚)・謄写版	318
書簡〔第2回支那講習会指導への礼状〕 大島健一〔退職武官講習会会長〕→多賀宗之	昭和8年3月4日(1933)	1封筒(1枚)・墨書	268
封筒〔中身欠〕 大鏑路三郎→多賀万城		1枚・墨書	610
書簡〔広西省にて将官生徒と下士教育に従事、同省の人心動揺の様子〕 太田資事(広西省龍州鉄路局)→多賀宗之(直隸省保定府陸軍武備学堂)	明治42年3月3日(1909)	1封筒(1枚)・墨書	928-51
封筒〔中身欠〕 大田周吉多賀宗之	〔大正〕11年9月28日(1929)	1枚・墨書	561
書簡〔南京における諜報勤務従事の訓令・指示〕 大谷喜久蔵〔青島守備軍司令官〕・森岡守成〔青島守備軍參謀長〕→多賀宗之〔陸軍歩兵中佐〕	大正5年4月16日(1916)	1封筒(3枚)・墨書	835-16
葉書〔託送品を宇治に依頼に付受領願い〕 大多和保太郎(漢口)→多賀宗之(南京城内)	〔大正〕3年5月31日(1914)	1枚・ペン	1253
書簡〔劉鳳岐就職斡旋の件〕 大多和保太郎→多賀宗之	〔大正〕8年4月30日(1919)	1封筒(4枚)・墨書	585
葉書〔留守の件に関し五味への礼、宜昌へ出発の旨〕 大多和保太郎(軍艦嵯峨)→多賀宗之(南京單牌樓)	〔大正〕9年10月18日(1920)	1枚・ペン	1213
葉書〔著書送付への礼状〕 大多和保太郎→多賀宗之	大正14年7月22日(1925)	ペン	244-20
書簡〔中国の革命の概況報告、国民革命軍の北伐、露西亜の教導〕 大多和保太郎(長崎局気付軍艦嵯峨)→多賀宗之	2月21日	1封筒(13枚)・ペン	928-3
書簡〔著書寄贈への礼状〕 大林一之→多賀宗之(北京市)	大正14年7月3日(1925)	1封筒(3枚)・墨書	925-48
書簡〔著書受領と感想〕 大林一之→多賀宗之	〔大正〕14年7月26日(1925)	1封筒(3枚)・墨書	246
書簡〔著書寄贈への礼状とその感想〕 大林一之→多賀宗之	昭和4年6月24日(1929)	1封筒(3枚)・墨書	925-43
書簡〔講演への礼状〕 大原松太郎→多賀宗之	3月6日	1封筒(3枚)・ペン	291
書簡〔息子への配慮と記念品送付への礼状〕 大平勝次郎→多賀宗之	大正4年6月24日(1915)	1封筒(2枚)・墨書	509-31
書簡〔「日の御旗」寄稿依頼〕 大平松太郎→多賀宗之〔陸軍少将〕	〔大正〕8年12月24日(1919)	1封筒(1枚)・墨書	925-45
書簡〔講演の依頼〕 大平松太郎→多賀宗之	1月12日	1封筒(1枚)・墨書	639
書簡〔硫黄島地熱製塩概要報告〕 大道金松〔小笠原島父島大村支庁技手〕→多賀宗之	昭和5年11月18日(1930)	1封筒(1綴)・ペン	83
葉書〔9時頃自宅出発予定、天候について意見伺い〕 岡田熊次郎→多賀宗之	〔昭和〕5年10月25日(1930)	1枚・ペン	328-88
葉書〔木曾川・伊勢の旅につき報告〕 岡田熊次郎→多賀万城	〔昭和〕6年5月23日(1931)	1枚・ペン	526

書簡〔長春からの近況報告〕 岡津泰正→多賀万城	〔昭和〕7年7月18日 (1932)	1封筒(6枚)・ペン	283
書簡〔克爾学年成績送付の件〕 岡野克爾→多賀宗之 (支那山東省李村軍政署)	大正5年3月24日(1916)	1封筒(2枚)・墨書	72
葉書〔軍務に勉強している旨挨拶状〕 岡野克爾〔東京 近歩士官候補生〕→多賀宗之(南京)	〔大正〕8年2月3日 (1919)	1枚・墨書	1218
書簡〔陸軍士官学校の近況報告〕 岡野克爾(陸軍士官 学校第7中隊第2区隊)→多賀宗之〔歩兵大佐〕(南京)	〔大正〕8年12月14日 (1919)	1封筒(5枚)・墨書	323
葉書〔満洲国大典実施時使用ポスター類の件、北満移駐 の件〕 岡野克爾(満洲公主岑独歩13本部)→多賀宗 之	昭和9年3月6日(1934)	1枚・ペン	92
葉書〔士官学校演習の報告〕 岡埜克爾(陸軍士官学校) →多賀千城	4月25日	1枚・ペン	328-27
書簡〔入営に先立ち挨拶〕 岡野克爾→多賀宗之(南京)	11月25日	1封筒(2枚)・墨書	320
葉書〔残暑見舞い〕 岡部之三郎(奉天)→多賀万城	〔昭和〕7年8月20日 (1932)	1枚・ペン	1291
書簡〔満洲事変陣没者の忠霊塔寄贈への礼状〕 岡村 寧次〔関東軍司令部忠霊顕彰会創立委員長〕→多賀宗 之	昭和9年7月30日(1934)	1封筒(2枚)・活版	509-34
葉書〔岡村・五味南京にて面会に付挨拶状〕 岡村寧次・ 五味→多賀宗之		1枚・ペン	1267
書簡〔著書寄贈への礼状〕 岡本治平→多賀宗之	大正14年6月28日 (1925)	1封筒(1枚)・ペン	925-100
葉書〔李村に帰着報告〕 小川庄谷(済南)→多賀〔大佐〕 (南京)	5月4日	1枚・ペン	1247
書簡〔「日本民族の根本自覚」寄贈依頼〕 萩山秀雄〔朝 鮮総督府図書館長〕→多賀宗之	昭和8年6月2日(1933)	1封筒(1枚)・活版 ・墨書	139
書簡〔書籍寄贈への礼状〕 萩山秀雄〔朝鮮総督府図書 館長〕→多賀宗之	昭和8年6月12日(1933)	1封筒(1枚)・墨書 ・活版	925-55
葉書〔物騒にて袁世凱苦心、選挙にて帝制通過の由〕 奥沢良郎(済南)→多賀宗之(李村軍政署)	〔大正〕4年11月15日 (1915)	1枚・ペン	1153
書簡〔安徽省に関する件通信の依頼〕 奥平俊蔵→多賀 宗之	12月28日	1封筒(2枚)・墨書	509-17
書簡〔厄災報告遅延につき詫び状〕 尾崎信太郎→多賀 宗之	昭和3年12月6日(1928)	1封筒(3枚)・墨書	249
葉書〔国元の用件を済まし帰宅の報告〕 尾崎信太郎→ 多賀宗之	〔昭和〕4年8月13日 (1929)	1枚・ペン	101
葉書〔宇佐八幡宮より挨拶状〕 尾崎信太郎→多賀宗之 ・御令政	〔昭和〕4年10月23日 (1929)	1枚・ペン	86
葉書〔宇佐八幡宮に巡礼〕 尾崎信太郎→多賀宗之	〔昭和〕4年10月23日 (1929)	1枚・ペン	192
書簡〔神観靈察発表の件・奉呈の祓詞の件〕 尾崎信太 郎→多賀宗之	10月3日	1封筒(1枚)・墨書	315

葉書〔日本酒積送〕 長部文治郎→多賀宗之	大正12年10月29日 (1923)	1枚・墨書・活版	183
葉書〔注文品発送案内〕 長部文治郎→多賀宗之	〔大正〕12年4月27日 (1923)	1枚・活版・墨書	328-35
葉書〔酒一樽発送案内〕 長部文治郎→多賀宗之	大正12年5月6日(1923)	1枚・活版・墨書	328-36
葉書〔酒代受取状〕 長部文治郎→	大正12年11月28日 (1923)	1枚・活版・墨書	328-39
葉書〔盆栽陳列への案内状〕 小沢樑→多賀宗之	〔大正〕15年2月25日 (1926)	1枚・活版・墨書	803
書簡〔お悔やみ〕 小沢豁郎→多賀〔歩兵中尉〕	2月15日	1封筒(2枚)・墨書	592
葉書〔面会願い〕 小田綱→多賀宗之	〔大正〕14年6月27日 (1925)	1枚・墨書	328-94
葉書〔年賀状〕 織田〔中尉〕(姫路歩兵10留守隊)→多賀〔中佐〕(青島守備軍李村軍政署)	大正5年1月1日(1916)	1枚・ペン	1192
葉書〔九水より挨拶状〕 小野・依田・大林・豊島隆松・佐藤・桜井→多賀宗之・令夫人	大正11年9月16日 (1922)	1枚・ペン	1304
書簡〔新聞雑誌送付済み、士官学校教程等送付の予定、支那現況、植民地長官会議開催〕 小野弘毅(参謀本部第2部)→多賀宗之〔大佐〕	〔大正〕10年5月20日 (1921)	1封筒(3枚)・墨書	196
葉書〔挨拶状〕 小野→多賀万城	〔昭和〕8年9月14日 (1933)	1枚・ペン	928-7
葉書〔裏面剥離のため文面なし〕 小野田一→多賀〔署長〕(支那青島李村軍政署)		1枚・ペン	532
書簡〔鎌倉円覚寺官長釈宗演の支那巡錫の便宜取計らい依頼〕 小幡西吉→多賀宗之	9月19日	1封筒(3枚)・墨書	928-19
書簡〔佳書受領、李村日語学校設立計画〕 小浜宗介(李村軍政署)→多賀宗之	大正5年9月7日(1916)	1封筒(3枚)・墨書	117
葉書〔年賀状〕 小濱宗介(青島学院)→多賀宗之(安南京)	大正12年1月1日(1923)	1枚・ペン	1211
葉書〔手紙既読の旨〕 小原達明→多賀宗之	〔昭和〕5年11月25日 (1930)	1枚・ペン	328-61
葉書〔娯楽誌贈与への礼状、近況報告、帰国伺い〕 小山田謙(陸軍軍医学校)→多賀宗之(保定府)	明治42年6月25日 (1909)	1枚・ペン	1174
書簡〔洗硯会大会報告、硯石について、伊將軍病状〕 及部盛種→多賀宗之	大正11年3月19日 (1922)	1封筒(3枚)・ペン	75
書簡〔硯石の考証、病中伊崎將軍所蔵の硯〕 及部盛種→多賀宗之	大正11年4月5日(1922)	1封筒(3枚)・ペン	74
書簡〔紅絲硯や篆刻について〕 及部盛種→多賀宗之	1年4月27日	1封筒(1綴)・ペン	925-40

か

書簡〔書簡受領につき礼状(中国語)〕 果士詒→		1枚・墨書	359
葉書〔偕行社昭和5年賀詞交換会案内〕 偕行社→多賀〔少将〕	昭和4年12月(1929)	1枚・活版・ペン	98

葉書〔偕行社記事寄稿への礼状〕 偕行社編集部→多賀万城	昭和6年3月5日(1931)	1枚・ペン	785
葉書〔東京到着の報告〕 嘉悦敏→多賀宗之(清国直隸省保定府城内武主廟)	明治38年12月20日(1905)	1枚・ペン	1166
書簡〔両親の近況(中国語)〕 学耕	2月初3日	3枚・墨書	458
書簡【劣化甚大により判読不能】 学而→多賀宗之	昭和6年4月11日(1931)	1封筒(1枚)・墨書	122
書簡〔父・祖母の健康状態、兄の試験について(中国語)〕 学年	2日	2枚・墨書	457
書簡〔著書在郷軍人会により受領〕 香椎浩平→多賀万城	10月21日	1封筒(2枚)・墨書	225
葉書〔病氣全快に付祝い状〕 香椎浩平(ニューヨーク)→多賀宗之(南京大日本領事館)	大正7年1月1日(1918)	1枚・ペン	1222
書簡〔教判意見への礼状〕 香椎浩平→多賀万城	3月7日	1封筒(2枚)・墨書	701
書簡〔支那に関する名説への礼状〕 香椎浩平→多賀〔少将〕	10月14日	1封筒(1枚)・墨書	508-6
書簡【劣化甚大につき判読不能】 香椎浩平→多賀宗之		1封筒(3枚)・墨書	232
書簡【劣化甚大につき判読不能】 香椎浩平→多賀宗之		1封筒(2枚)・墨書	231
書簡〔多賀執筆「食物の贅沢」・雑誌「活人」11月号掲載の件〕 樫尾雛山(活人社)→多賀宗之	大正14年10月13日(1925)	1封筒(2枚)・ペン	71
葉書〔雑誌送付への礼状〕 梶川兼三郎→多賀宗之	[大正]14年9月22日(1925)	1枚・墨書	328-84
葉書〔飛騨高山より富山に参り滞在〕 片岡養次郎→多賀万城	[昭和]7年5月6日(1932)	1枚・ペン	537
葉書〔挨拶延引の詫び〕 片岡善治→多賀宗之	[昭和]2年1月24日(1927)	1枚・ペン	328-67
書簡〔宣教師経営関係学校について報告〕 片桐卓→多賀宗之	7月14日	7枚・ペン	77
書簡〔雪の進軍と称する唱歌不採用の旨〕 片山学校教官→多賀宗之	3月12日	1枚・墨書	713
書簡〔上海・北京諸氏面会、観光団と台福人士の会組織について〕 片山秀希(台湾総督府)→多賀宗之(福州)	[大正]15年6月13日(1926)	1封筒(4枚)・墨書	597
書簡〔珍珠分与への礼状、研究の問題未解決〕 加藤確治→多賀万城	昭和8年1月16日(1933)	1封筒(3枚)・墨書	144
葉書〔訪問日時伺い〕 加藤確治→多賀宗之	[昭和]9年9月1日(1934)	1枚・ペン	328-93
書簡〔建碑と社殿改築の件〕 加藤儀一郎→多賀宗之	昭和9年8月29日(1934)	1封筒(1枚)・ペン	270
封筒〔本対決〕 加藤房藏→多賀宗之	[大正]14年9月8日(1925)	1枚・ペン	328-92
書簡〔年賀状、日支合弁の紡績業創業の計画〕 河東田徳情→多賀宗之	大正6年1月1日(1917)	3枚・墨書	928-30
葉書〔雑誌寄贈への礼状〕 金谷範三(朝鮮龍山)→多賀宗之	[昭和]7年7月9日(1932)	1枚・ペン	328-131

葉書〔呉將軍宛贈物の転送〕 河南省洛陽兩湖巡閱使署→多賀宗之		1枚・墨書	244-6
葉書〔呉氏の帰国〕 河南省洛陽兩湖巡閱使署→多賀宗之		1枚・墨書	244-22
書簡〔懇談と著書寄贈への礼状〕 金子定一→多賀宗之	2月19日	1封筒(2枚)・墨書	835-13
葉書〔暑中見舞い〕 金田枋(奉天省洮南)→多賀宗之	昭和9年(1934)	1枚・墨書	823
葉書〔著書寄贈への礼状〕 上泉徳弥→多賀万城	[昭和]8年2月5日(1933)	1枚・墨書	548
葉書〔著者寄贈への礼状〕 亀岡泰辰→多賀宗之	[大正]15年8月18日(1926)	1枚・ペン	551
葉書〔満洲訪問途上の近況報告〕 何盛三(奉天)→多賀宗之	昭和3年3月10日(1928)	1枚・ペン	1306
書簡〔田内の迷惑行為につき警察へ届け出願い〕 萱野長知→多賀宗之	大正5年10月9日(1916)	1枚・墨書	891-7
書簡〔相談依頼〕 萱野長知→多賀宗之	大正7年4月12日(1918)	1枚・墨書	891-9
書簡〔米の輸出に関して日支提携の提案〕 萱野長知→多賀宗之(南京)	大正8年1月8日(1919)	1枚・墨書	891-8
葉書〔暑中見舞い〕 萱野長知→多賀宗之	昭和9年7月1日(1934)	1枚・ペン	928-9
書簡〔黎・段軍に対する政府からの軍費支出関し面談願い〕 萱野長知→多賀宗之	5年8月27日	1枚・墨書	907
書簡〔退院報告〕 萱野長知→多賀宗之	2月24日	1枚・墨書	891-3
葉書〔川柳送付〕 萱野長知→多賀宗之		1枚・墨書	1275
葉書〔陶々亭銀座支店にて待ち合わせの旨〕 萱野→多賀宗之	大正15年10月23日(1926)	1枚・ペン	925-29-3
書簡〔島本による治療の件〕 萱野(中外実業通信社)→宗之	18日	1枚・墨書	891-1
葉書〔暑中見舞い〕 萱野・野中→多賀〔中佐〕(南京)	大正5年8月3日(1916)	1枚・墨書	1240
葉書〔保定来訪願い、寄せ書き〕 河合→多賀宗之(北京日本公使館)		1枚・ペン・墨書	244-9
書簡〔訓練所修了式通知〕 川崎覚利→多賀宗之	昭和4年12月7日(1929)	1封筒(1枚)・謄写版	259
書簡〔訓練指導と著書寄贈への礼状〕 川崎覚利〔豊多摩郡戸塚長立第二尋常高等小学校長〕→多賀宗之〔陸軍少将〕	昭和5年11月13日(1930)	1封筒(2枚)・墨書・活版	925-117
書簡〔国祭と君代一政の件〕 川島清治郎→多賀宗之	大正11年6月30日(1922)	1封筒(3枚)・ペン	653
書簡〔日露戦争当時特別任務部隊につき返答〕 川島浪速→多賀〔將軍〕	[大正]5年3月13日(1916)	1封筒(4枚)・墨書	508-4
書簡〔著書分与願い、荒木將軍入信の件〕 川島浪速→多賀万城	[昭和]9年12月26日(1934)	1封筒(1枚)・墨書	758
封筒〔中身欠、呈多賀万城閣下〕 川島浪速→多賀万城		1枚・墨書	504
葉書〔給与金支払〕 為替貯金局→多賀宗之	大正12年8月4日(1923)	1枚・活版・ペン	182

葉書〔親類の不幸、丁が南京へ移動、新築に引越〕 竹馬(青島)→多賀宗之(南京)	川畑	[大正]5年11月1日 (1916)	1枚・ペン	1212
書簡〔書留郵便の証明〕	川村益直〔陸軍中將〕→	大正3年初秋(1914)	1枚・墨書	928-36
葉書〔画題の参考として南京城内外見物の様子〕 楽(楊州高須先生方)→多賀(南京大石橋)	間海	大正6年5月15日(1917)	1枚・ペン	1249
葉書〔謹祝健勝〕	関西第12期会→多賀宗之	昭和5年11月23日 (1930)	1枚・墨書	531

き

葉書〔助言への礼状〕	菊池武夫→多賀宗之	5年6月6日	1枚・墨書	630
葉書〔陸相との会見の件〕	貴志弥次郎→多賀万城	昭和9年6月26日(1934)	1枚・ペン	772
葉書〔味噌漬送付〕	北秋藤兵衛(とりに味噌本舗)→多賀宗之(南京城)	[大正]7年12月14日 (1918)	1枚・ペン	328-37
書簡〔塩水の注文〕	北白川宮→多賀	9月5日	1枚・墨書	660
書簡〔退役後の職業斡旋の依頼〕	北野末雄〔歩兵第48連隊付大尉〕→多賀宗之〔李村軍政官〕	[大正]4年9月18日 (1915)	1封筒(1枚)・墨書	296
葉書〔天津到着の報告〕	北山彌三郎(天津日本租界明石街)→多賀宗之	10月6日	1枚・ペン	1302
葉書〔黒川昇進、中村・寺西中佐帰国、病状報告〕	木堂直枝→多賀宗之(清国保定府)	明治42年6月6日(1909)	1枚・ペン	1178
書簡〔回章にて誤解消滅〕	木梨幹→多賀宗之	3月12日	1枚・墨書	509-15
書簡〔白哲人種の東洋政策人種の圧迫に対する政府樹立の必要性〕	木下宇三郎→多賀宗之(南京日本領事館)	明治28年5月21日 (1895)	1枚・墨書	906
葉書〔津田が入信しない旨〕	木下秀四郎→多賀宗之	皇紀2568年2月15日 (1908)	1枚・ペン	541
葉書〔申越の件約束済み〕	木下秀四郎→多賀宗之(南京)	[大正]7年7月17日 (1918)	1枚・ペン	328-110
葉書〔八幡会入会申込〕	木下秀四郎→多賀宗之	[大正]14年11月18日 (1925)	1枚・ペン	244-23
葉書〔了解不十分にて説明不可、金の短冊送付の件〕	木下秀四郎→多賀宗之	皇紀2585年12月22日 (1925)	1枚・ペン	1281
葉書〔厚情への礼状、浜松掛川行きの予定〕	木下秀四郎→多賀宗之	皇紀2586年3月7日 (1926)	1枚・ペン	1300
葉書〔当地方における神仏信仰心の欠落について〕	木下秀四郎→多賀宗之	[大正]15年5月15日 (1926)	1枚・ペン	804
葉書〔印刷物の返送、「塩の道」寄贈への礼状〕	木下秀四郎→多賀宗之	[大正]15年8月20日 (1926)	1枚・ペン	808
書簡〔滋賀県多賀神社へ旅行〕	木下秀四郎→多賀宗之	昭和3年10月26日 (1928)	1枚・ペン	147
葉書〔暑中見舞い、八幡会への同意困難の旨〕	木下秀四郎→多賀万城	皇紀2590年7月14日 (1930)	1枚・ペン	155

葉書〔渡辺が来訪の旨、病氣見舞い〕 木下秀四郎→多賀宗之		1枚・墨書	1273
葉書〔歓待の礼状、明日帰東の予定、野村への挨拶〕 木備栄之→多賀〔大佐〕(南京)	[大正9]年11月15日(1919)	1枚・ペン	1235
書簡〔列強の利権争い、送付金の受領・吉野領事ら近況〕 君谷→多賀弘城	大正3年5月7日(1914)	1封筒(4枚)・墨書	928-26
書簡〔原稿掲載の依頼〕 木村関一(日本正義団関東本部)→多賀宗之	大正15年11月18日(1926)	1封筒(1枚)・ペン	644
葉書〔志田著書の貸与を取り計らう旨〕 木村小太郎→多賀宗之	[大正]14年6月27日(1925)	1枚・墨書	328-25
葉書〔近日伺う旨〕 本村茂治(青島)→多賀宗之(李村)	[大正]5年3月23日(1916)	1枚・葉書	1200
書簡〔総司令部より近況報告〕 居正(総司令部)→	7月7日	1封筒(3枚)・墨書	1001
書簡〔炸彈爆発取り調べ報告(中国語)〕 禁営軍歩兵第4団第2営11連→	民国5年4月11日(1916)	1枚・墨書	361
葉書〔大硯の件(中国語)〕 金保唐(評事街金繡川)→多賀(南京城罵駕橋公館)	2月19日	1枚・墨書	1262

く

葉書〔旅先的那須湯本から挨拶状〕 楠枝→多賀叔父・叔母	[昭和]3年5月28日(1928)	1枚・ペン	241
葉書〔旅先の長岡温泉から挨拶状〕 楠枝→多賀宗之	[昭和]4年6月5日(1929)	1枚・ペン	243
書簡〔北方の糧道を絶ち非公式の手段を用い南北統一を促進する旨〕 楠瀬幸彦→多賀宗之(南京日本領事館)	[大正]7年11月2日(1918)	1枚・墨書	904
書簡〔内閣更迭以来の南北一視同仁、北京における文武外交団、南北協定催進、巴里会議実況の件〕 楠瀬幸彦→多賀宗之(南京日本領事館)	[大正]8年3月2日(1919)	1枚・墨書	903
葉書〔年賀状〕 久世為次郎(平壤)→多賀〔青島守備司令部中佐〕	1月1日	1枚・ペン	1151
葉書〔対支問題会合参加の依頼〕 工藤鉄三郎→多賀宗之	[昭和]5年12月18日(1930)	1枚・ペン	328-71
封筒〔中身欠〕 宮内省侍従武官府→多賀宗之		1枚・墨書	925-49
葉書〔帰朝した多賀への挨拶〕 国沢新兵衛→多賀宗之	[大正]12年3月9日(1923)	1枚・墨書	328-19
書簡〔宗虎の就職について相談〕 国沢新兵衛→多賀宗之	5年1月25日	1封筒(3枚)・墨書	928-4
書簡〔病氣完治祝い、支那情勢〕 国沢新兵衛→多賀宗之	5年12月8日	1封筒(1枚)・墨書	928-23
葉書〔面会時刻の確認〕 国武金太郎→多賀宗之	[大正]14年6月6日(1925)	1枚・墨書	328-102
書簡〔活塩水送付への礼状〕 久米巖→多賀万城	8月30日	1封筒(3枚)・墨書	632

葉書〔多賀論考への感想〕 栗田仙堂(リズム学院)→多賀宗之	[大正]14年8月6日(1925)	1枚・ペン	244-10
葉書〔年賀状〕 樽松宇平治(赤峰日本領事館)→多賀宗之(青島日本守備軍)	大正7年1月1日(1918)	1枚・墨書	1258
葉書〔年賀状〕 樽松宇平治(北京)→多賀宗之(保定府)	1月1日	1枚・ペン	1182
葉書〔年賀状〕 黒板勝美→多賀宗之	明治41年1月1日(1908)	1封筒(2枚)・墨書・ペン	925-29-1
葉書〔憲東等候補生への援助及び指導願い〕 黒川敬藏→多賀万城	[昭和]7年9月13日(1932)	1枚・ペン	328-10
葉書〔目的大阪地到着報告〕 黒市順夫(大日館)→多賀宗之	[昭和]4年5月31日(1929)	1枚・ペン	95
書簡〔雑誌「みさを」に寄稿への礼状〕 黒木百子〔陸海軍将校婦人会長〕→多賀万城	昭和9年10月31日(1934)	1封筒(1枚)・墨書	760
書簡〔俸給の件は事務局の取扱い〕 黒沢大治→多賀宗之〔陸軍少将〕	[大正]12年3月3日(1923)	1封筒(2枚)・墨書	586
葉書〔暑中見舞い〕 黒田昇(大阪貿易調査所)→多賀宗之	大正13年7月(1924)	1枚・活版・墨書	1282

け

書簡〔退院報告、受勲祝い〕 玄七郎→多賀宗之	4月17日	1封筒(3枚)・墨書	928-44
書簡〔旅行開催につき参加願い〕 [玄任齋]→多賀	昭和年10月25日	1枚・謄写版	925-41

こ

葉書〔静岡方面へ旅行〕 五想→多賀宗之	[昭和]3年1月7日(1928)	1枚・ペン	188
書簡〔芳沢大使への感謝と国際連盟批判〕 五想→多賀〔少尉〕	10月18日	5枚・ペン	263
書簡〔支那の一現状に関する講義への礼状〕 小池富次郎〔群馬県吾妻教育会長〕→多賀宗之	昭和7年5月28日(1932)	1封筒(1枚)・墨書	107
封筒〔中身欠〕 小泉馨→多賀宗之	12月13日	1枚・墨書	718
葉書〔病気全快に付祝い状〕 小泉介一(東京歩1)→多賀宗之〔陸軍歩兵大佐〕(南京)		1枚・ペン	1224
葉書〔定時総会及び木村会長追悼会開催の通知〕 皇漢医道会→多賀万城	昭和7年5月16日(1932)	1枚・謄写版	783
書簡〔文芸家追慕展覧会出品の品々準備願い〕 神代種亮〔文芸懇話会主催文芸家追慕展覧会準備委員責任者〕→多賀宗之	昭和9年9月(1934)	1封筒(1枚)・活版	588
葉書〔至急日本帰国に付京都へ向かう旨〕 高銭其(北京)→多賀〔大佐〕(南京)	[大正7]年12月12日(1918)	1枚・ペン	1208
葉書〔病気見舞い、南京より近況報告〕 高銭其(南京)→多賀宗之	大正6年11月28日(1917)	1枚・ペン	1312
葉書〔乾性脚気のため伊香保温泉にて療養中の旨〕 高銭其→多賀宗之	9月3日	1枚・ペン	1296

葉書〔本店にて臨時雇いとなった旨〕 高銭其(北京)→多賀〔大佐〕(南京)	10月15日	1枚・ペン	1237
書簡〔多賀宗之の進級及び勲章授与の件〕 江蘇督軍公署秘書処→多賀	2月5日	1封筒(1枚)・墨書	507-1-15
書簡〔帰国時の資金贈与の件〕 江蘇督軍公署軍需課→多賀		1封筒(1枚)・墨書	507-1-14
書簡〔対支・満・軍縮問題・国際連盟問題関係執筆願ひ〕 香渡信(回天時報社)→多賀万城	〔昭和〕7年7月25日(1932)	1封筒(2枚)・墨書	84
書簡〔白井執筆論考送付への礼状、片岡駿との引見願ひ〕 香渡信・池田弘(回天時報社)→多賀宗之	19日	1封筒(2枚)・墨書	591
書簡〔東斌学堂兵学科入学報告〕 国滙中→多賀	9月初10日	4枚・墨書	925-75
葉書〔年賀状〕 後藤武二郎(宏光精舎)→多賀宗之	昭和6年1月1日(1931)	1枚・活版・墨書	1268
封筒〔中身欠〕 小林角太郎→多賀宗之		1枚・ペン	569
葉書〔天津にて支店支配人と打合をした旨〕 小林陽之助(北京就鳥沢会館)→多賀宗之(南京)	大正8年4月18日(1919)	1枚・ペン	1225
葉書〔再度中国行きに付行程連絡〕 小林陽之助(北京)→多賀宗之(南京)	10月22日	1枚・ペン	1209
書簡〔蒙軍への訪問、蒙支兩軍の衝突の経過について〕 小松清→多賀〔中佐〕	大正1年9月5日(1912)	1封筒(2枚)・墨書	509-23
葉書〔年賀状〕 五味憲一(南京城内龍王廟新一號)→多賀宗之、外御一同	大正13甲子1月1日(1924)	1枚・ペン	1266
書簡〔反蔣運動、結婚報告、実子の発育、友人の就職〕 五味憲一(上海)→多賀宗之	12月19日	1封筒(7枚)・ペン	928-67

さ

書簡〔「支那の軍営」寄贈への礼状〕 財団法人偕行社庶務部→多賀宗之	〔大正〕8年9月30日(1919)	1封筒(1枚)・墨書	695
書簡〔偕行社記事原稿掲載につき礼状〕 財団法人偕行社編纂部→多賀宗之	昭和5年3月31日(1930)	1封筒(1枚)・謄写版・墨書	211
書簡〔謝金送付の件〕 財団法人東亜經濟調査局編輯部→多賀万城	昭和8年10月5日(1933)	1枚・活版・墨書	925-99
書簡〔駒井氏上京の件〕 齊藤源内→多賀宗之	〔大正〕7年7月28日(1918)	1封筒(2枚)・墨書・謄写版	925-77
葉書〔著書受領とその感想〕 齊藤→多賀宗之	大正14年10月20日(1925)	1枚・ペン	179
葉書〔原稿執筆依頼〕 佐伯龍彦→多賀宗之	〔昭和〕5年12月5日(1930)	1枚・ペン	328-70
書簡〔冊子寄贈への礼状、九州方面各支部巡回の予定〕 酒井栄蔵→多賀宗之	大正15年11月13日(1926)	1封筒(3枚)・墨書	255
書簡〔書状・冊子送付への礼状、講演依頼〕 酒井栄蔵→多賀宗之	昭和2年2月9日(1927)	1封筒(1枚)・ペン	633
書簡〔木下事務官紹介への礼状〕 酒井勝軍→多賀宗之	大正14年9月13日(1925)	1封筒(1枚)・墨書	202

葉書〔台南より近況報告〕 酒井勝軍→多賀宗之	〔大正〕15年12月9日 (1926)	1枚・ペン	328-59
葉書〔香港到着〕 酒井勝軍→多賀宗之	昭和2年11月4日(1927)	1枚・ペン	328-18
書簡〔御大典の民心への効果、祭政一致政体の件〕 酒井勝軍(国教宣明団)→多賀宗之	皇紀2588年11月26日 (1928)	1封筒(1枚)・ペン	595
葉書〔眞光文字関係写し受領、古文書の件〕 酒井勝軍(国教宣明団)→多賀宗之	〔昭和〕4年8月21日 (1929)	1枚・ペン	100
書簡〔評論送付への礼状と感想〕 酒井勝軍→多賀宗之	9月16日	1封筒(3枚)・墨書	641
書簡〔見舞い状〕 阪井真民→多賀宗之	〔明治〕44年9月6日 (1911)	1封筒(2枚)・墨書	509-30
葉書〔東郷大佐邸へ訪問〕 阪井真民(東郷大佐方)→多賀宗之〔陸軍歩兵少佐〕	〔明治〕44年10月7日 (1911)	1枚・墨書	328-42
書簡〔「元寇弘安役六百五十年記念会」発起人に加盟願ひ〕 榊原昇造→多賀宗之	2月22日	1封筒(2枚)・墨書	925-112
葉書〔表紙の件日野画廊へ委託、紹介状の依頼〕 坂野吉多郎→多賀宗之	〔昭和〕8年1月8日 (1933)	1枚・ペン	174
葉書〔講演への礼状〕 坂本正憲→多賀宗之	皇紀2592年4月2日 (1932)	1枚・ペン	795
葉書〔多賀転任挨拶状への礼状〕 昌谷忠(青島埠頭局)→多賀宗之(南京日本領事館)	大正5年7月11日(1916)	1枚・ペン	1230
葉書〔拜趨会について引見願ひ〕 桜沢→多賀宗之	4年2月8日	1枚・ペン	798
葉書〔挨拶状〕 佐々木栄志→多賀〔少将〕(明德学院)	〔昭和〕6年12月23日 (1931)	1枚・ペン	1294
葉書〔嘱託の新聞記事未読、佐久間宅へ訪問の予定〕 佐々木照山(佐々木安五郎)→多賀宗之	〔昭和〕2年1月7日 (1927)	1枚・ペン	328-64
葉書〔ワタリの住所番地と電話番号一報願ひ〕 佐々木照山(佐々木安五郎)→多賀宗之	〔昭和〕2年6月2日 (1927)	1枚・墨書	328-48
葉書〔例の件について再度出張の旨〕 佐々木政治(上海)→多賀〔中佐〕(南京日本領事館)	9月20日	1枚・墨書	1241
葉書〔魂魄二文字の意義について〕 佐々木安五郎→多賀宗之	〔大正〕15年12月20日 (1926)	1枚・ペン	328-54
葉書〔開院式出席の佐久間の連絡先教示願ひ〕 佐々木安五郎→多賀宗之	〔昭和〕1年12月25日 (1926)	1枚・墨書	328-63
書簡〔都合伺ひ、八幡会入会につき慣行伺ひ〕 佐々木安五郎〔衆議院議員〕→多賀宗之	12月27日	1封筒(2枚)・墨書	307
書簡〔異国の果物の語源〕 佐々木安五郎→多賀宗之	26日	1封筒(1枚)・墨書	635
葉書〔多賀婦朝の挨拶〕 佐々木安五郎→多賀宗之	31日	1枚・墨書	328-125
葉書〔パリより近況報告〕 佐々木安五郎(パリ)→多賀宗之		1枚・ペン	163
書簡〔企画中の事業について弁明〕 佐々木保次郎(ハルビン)→多賀万城〔陸軍少尉〕	11月14日	1封筒(2枚)・ペン	645

葉書〔副総統決定南京陪都となる、王督軍に会わず〕 佐々木安太郎(漢口)→多賀宗之(南京日本領事館)	〔大正〕9年11月6日 (1920)	1枚・ペン	1216
葉書〔在ハイラルプリアート族の悲惨な話〕 佐々木靈 山(ハルビン)→多賀宗之	旧正月13日	1枚・ペン	181
葉書〔年賀状〕 佐治喜一→多賀(少佐)(北京)	明治45年1月1日(1912)	1枚・ペン	1142
書簡〔著書その他寄贈への礼状〕 佐藤清勝→多賀 宗之	6月1日	1封筒(2枚)・ペン	223
葉書〔川島御外翁哈爾濱行・津春近安の件〕 佐藤知恭 →多賀宗之	〔大正〕7年3月31日 (1918)	1枚・墨書	787
書簡〔堀井仁欽州に向向、鄭学青との旧交、満洲国蒙人 の苦境〕 佐藤知恭→多賀万城	〔昭和〕7年4月13日 (1932)	1封筒(3枚)・墨書	235
書簡〔宗教仁事件以来の南方の状況、袁派である張元奇 と国民党、南北破裂に対する所見〕 佐藤安之助〔陸 軍歩兵中佐〕(南京)→多賀宗之(福州)	大正2年5月2日(1913)	1枚・ペン・墨書	892-2
書簡〔陳文乾による詐欺事件〕 佐藤安之助→多賀宗之	2年11月14日	1封筒(3枚)・墨書	717
書簡〔選挙出馬に付応援願ひ〕 佐藤安之助→多賀宗之	1月21日	1封筒(3枚)・墨書	662
書簡〔特別任務問合せの件〕 佐藤安之助→多賀宗之	5月13日	1封筒(2枚)・墨書	226
書簡〔劣化甚大につき判読不能〕 佐藤安之助→多賀宗 之		1封筒(3枚)・墨書	228
書簡〔劣化甚大につき判読不能〕 佐藤安之助→多賀宗 之		1封筒(2枚)・墨書	230
書簡〔著書寄贈への礼状、自著送付〕 里見岸雄→多賀 宗之	昭和4年12月15日 (1929)	1封筒(2枚)・墨書	925-111
書簡〔閣下来访願ひ〕 猿渡盛厚(大国魂神社)→多賀宗 之	〔昭和〕2年7月27日 (1927)	1封筒(3枚)・墨書	321

し

書簡〔徴兵旅費借用願ひ〕 塩川政夫→多賀宗之	大正8年6月7日(1919)	1封筒(1枚)・墨書	201
葉書〔年賀状〕 塩路浪穂(溜川鉄砦)→多賀〔李村軍政 委員長・中佐〕	〔大正〕5年1月1日 (1916)	1枚・墨書	1187
書簡〔青島滞在中の厚遇への礼状〕 塩谷時形→多賀 〔中佐〕	9月2日	1封筒(1枚)・墨書	508-7
葉書〔山口県に帰郷の報告〕 重本寅一(重本寅熊方)→ 多賀〔青島李村軍政署長・歩兵中佐〕	12月17日	1枚・ペン	1168
書簡〔活塩水送付への礼状〕 悉陀羅→多賀宗之・御内 室	大正15年1月15日 (1926)	1封筒(1枚)・ペン	634
葉書〔著書寄贈への礼状〕 悉陀羅→多賀宗之	〔大正〕15年10月30日 (1926)	1枚・墨書	520
書簡〔滋養塩水送付への礼状〕 悉陀羅→多賀宗之	〔大正〕15年11月6日 (1926)	1封筒(1枚)・墨書	208

書簡〔西岡方へ伝言の件、活塩水送付への礼状〕 悉陀羅→多賀宗之	大正15年12月10日 (1926)	1封筒(1枚)・ペン	215
書簡〔清水観世音霊玉ご開帳の案内〕 悉陀羅→多賀宗之	[昭和]3年3月27日 (1928)	1封筒(8枚)・ペン	287
封筒〔中身欠〕 悉陀羅→多賀宗之		1枚・墨書	647
書簡〔多賀退職につき挨拶〕 柴五郎→多賀宗之	大正12年3月19日 (1923)	1枚・墨書	892-14
書簡〔張紹曾の件北京へ申し送り〕 柴五郎→多賀	6月23日	1枚・墨書	892-17
書簡〔副島義一博士来駕の件、「日本」受領〕 柴田鉄平(綾乃葉行)(南京)→多賀万城	民国20年2月28日 (1931)	1封筒(5枚)・ペン・謄写版	928-68
葉書〔本日必ず出席する旨〕 柴田麟→多賀宗之	[昭和]2年5月3日 (1927)	1枚・ペン	328-53
書簡〔浜松講演会の日時と集合場所決定の通知〕 柴田麟→多賀宗之	4年2月3日	1封筒(1枚)・ペン	654
書簡〔頭山翁浜松行き特急決定〕 柴田麟→多賀宗之	2月2日	1封筒(3枚)・墨書	216
葉書〔年賀状〕 柴生田鐵猪→多賀〔中佐〕	大正5丙辰1月3日 (1916)	1枚・墨書	1154
葉書〔北海道へ赴任に付挨拶状〕 嶋倉孝之〔青島軍政署本李村出張所囑託〕→多賀宗之(南京成賀街)	9月28日	1枚・ペン	1259
葉書〔上海より明日帰国、依頼の文書佐藤少佐に渡した旨〕 島田〔中尉〕(上海朝日館)→多賀〔大佐〕(南京多賀公館)	4月14日	1枚・ペン	1260
葉書〔著書寄贈への礼状〕 島本文輔→多賀宗之	[大正]14年6月29日 (1925)	1枚・墨書	328-90
葉書〔著書寄贈への礼状〕 清水しげる→多賀宗之	[大正]14年6月24日 (1925)	1枚・ペン	816
葉書〔論考の掲載依頼〕 志村守治→多賀宗之	[大正]15年2月11日 (1926)	1枚・ペン	538
葉書〔著書寄贈への礼状〕 下位春吉→多賀宗之	[大正]14年8月27日 (1925)	1枚・ペン	328-91
葉書〔年賀状〕 下瀬謙太郎→	大正6年1月1日(1917)	1枚・活版	1123
葉書〔旅順へ出立に付挨拶状〕 下瀬→多賀宗之		1枚・ペン	1271
葉書〔雑誌への寄稿の報告〕 シモセ→多賀万城		1枚・ペン	328-16
書簡〔寄稿への礼状〕 社団法人東洋協会→多賀	昭和8年12月21日 (1933)	1枚・活版	925-57
葉書〔年賀状(中国語)〕 社准川→		1枚・墨書	1069
葉書〔書籍の注文了承、代金納入後発送〕 上海商物印書館→多賀宗之	[明治44]年10月16日 (1911)	1枚・墨書・ペン	1133
葉書〔送付の品の件(中国語)〕 上海商務印書館發行所 通訳現購處→多賀宗之	[民国]13年11月13日 (1924)	1枚・活版・ペン	1269
葉書〔書籍案内(中国語)〕 上海商務院書館→多賀宗之		1枚・ペン	1295
葉書〔注文品の発送(中国語)〕 上海大陸図書公司→多賀宗之(南京罵駕橋多賀公館)	民国11年2月3日(1922)	1枚・ペン	1232

書簡〔上海出立後の消息〕 春風〔済南府沢村公館〕→多賀〔保定府日本人教習〕	明治42年2月9日(1909)	1封筒(2枚)・ペン	925-63
書簡〔天津からトルキスタンへと到る行程について報告〕 春風→多賀〔保定府日本人教習〕	巳酉3月7日	1封筒(1枚)・墨書	507-27
書簡〔将校一同会食の余興の際に書かれた寄せ書き〕 将校及相当官一同→多賀宗之	7日	1封筒(4枚)・墨書	835-12
書簡〔陳君委任の件(中国語)〕 蔣仆賓→	15日	1枚・墨書	340
葉書〔同居人の引越(中国語)〕 徐錦華→多賀宗之	7月12日	1枚・墨書	328-5
書簡〔堀井の母死去、堀井と中国で面談不可〕 白岩龍平〔東亜興業株式会社〕→多賀宗之	11月29日	1封筒(1枚)・墨書	325
書簡〔天皇観覧の演習について〕 白川義則〔陸軍大臣〕→多賀宗之〔陸軍少将〕	昭和2年9月14日(1927)	1封筒(2枚)・謄写版	509-32
書簡〔出品物貸与願い〕 白木屋宣伝部→多賀宗之	昭和5年9月10日(1930)	1封筒(1枚)・活版 ・ペン	274
葉書〔五絶一首送付(中国語)〕 陳其采→多賀〔中尉〕		1枚・墨書	1147
葉書〔多賀の息子の病気見舞い、京都大学出向の件〕 清国直隸省保定府武備学生一同→多賀宗之〔京都東山高台寺南千瓢園〕	〔明治〕39年8月7日(1906)	1枚・ペン	1140
葉書〔托僧の品寄贈への礼状〕 信與→多賀		1枚・墨書	700

す

葉書〔著書寄贈への礼状〕 水産講習所教務課→多賀宗之	〔大正〕11年6月23日(1922)	1枚・ペン	812
書簡〔肇国会会報印刷の旨、会の維持に関し礼状〕 末永節〔肇国会〕→多賀宗之	〔昭和〕3年5月11日(1928)	1封筒(1枚)・墨書	104
書簡〔法学博士ガラバチョフ来京報告〕 末永節→多賀宗之	2年7月13日	1封筒(1枚)・墨書	650
葉書〔年賀状〕 菅野力夫→多賀宗之〔陸軍歩兵中佐〕(山東省李村)	大正7年1月16日(1918)	1枚・活版・墨書	1181
葉書〔年賀状〕 杉野耕三郎(北京)→多賀宗之(保定)	明治42年1月1日(1909)	1枚・墨書	1180
書簡〔京阪地方に用事の際の申し付け願い〕 鈴江萬太郎→多賀宗之(支那福建省福州日本領事館)	大正2年7月29日(1913)	1封筒(1枚)・墨書	593
封筒〔中身欠〕 鈴木写真館→多賀		1枚・ペン・活版	925-15
書簡〔蒙古産業協会事務所の設立〕 薄益三(蒙古産業協会)→多賀宗之	大正6年10月1日(1917)	1封筒(1枚)・墨書	756
書簡〔北京にて春木將軍らと接見後帰京〕 薄益三→多賀宗之	〔大正〕7年2月24日(1916)	1封筒(1枚)・墨書	754
書簡〔活塩水分与願い〕 薄益三→多賀	昭和2年10月1日(1927)	1封筒(2枚)・墨書	753
書簡〔活塩水販路満州へ拡大の提案〕 薄益三(満洲国奉天)→多賀宗之	昭和8年12月2日(1933)	1封筒(6枚)・ペン ・活版	755
書簡〔年賀状〕 薄益三(蒙古産業公司)→多賀宗之	1月1日	1封筒(4枚)・墨書	775

葉書〔京城より近況報告〕 薄(京城)→多賀万城	[昭和]9年1月14日 (1934)	1枚・ペン	172
書簡〔刺客の狙撃、支那官憲の注目により改名、松井大尉への会見〕 薄→多賀宗之	2年7月22日	1封筒(5枚・新聞紙紙片3枚)・墨書・活版	757
葉書〔上海に到着し機器局を見学した旨〕 鈴村〔中佐〕(上海)→多賀宗之〔歩兵大佐〕(江蘇省南京)	[明治]26年3月19日 (1893)	1枚・墨書	1203
葉書〔仙界との通信について要相談〕 須永武蔵→多賀宗之	[大正]14年6月6日 (1925)	1枚・墨書	328-128
葉書〔参邸時の配慮への礼状〕 須永武蔵→多賀宗之	大正14年6月9日(1925)	1枚・墨書	90
書簡〔新律綱領に関する見解〕 角岡知良→多賀万城	3月7日	1封筒(2枚)・墨書	269
葉書〔入営後兵営生活につき報告〕 諏訪〔朝鮮平壤歩兵第77連隊第9中隊第5班候補生〕→多賀万城	3年2月7日	1枚・ペン	528

せ

書簡〔顧問継続の契約〕 齊燮元(江蘇督軍)→多賀〔顧問〕	民国6年1月13日(1917)	2枚・墨書	507-1-21
書簡〔挨拶状、鄰疆背約につき防備を固める旨(中国語)〕 齊燮元→多賀宗之	大正13年(1924)	1封筒(1枚)・墨書	433
書簡〔多賀宗之と須藤理助への褒賞の件〕 齊燮元→多賀〔顧問〕	1月25日	1封筒(2枚)・墨書	507-1-16
書簡〔多賀宗之及び須藤理助報償の件〕 齊燮元→多賀〔顧問〕	4月27日	1封筒(2枚)・墨書	507-1-23
葉書〔落陽と西安名勝古蹟遊覧〕 清泉園→賀泉城(府城武廟多賀公館)	4月29日	1枚・墨書	1263
書簡〔支那政府より勲章下給に関する件〕 清野長太郎〔在南京領事館事務代理〕→多賀宗之〔陸軍歩兵大佐〕	大正8年6月5日(1919)	1封筒(3枚)・墨書	928-34
葉書〔投稿への礼状〕 濟美編輯係→多賀宗之	[昭和]4年4月23日 (1929)	1枚・ペン	148
葉書〔芳志への礼状〕 関明照→多賀宗之	[昭和]5年10月31日 (1930)	1枚・墨書	328-89
葉書〔本庄少佐と面会、代理者の残留は不可避の旨〕 関守造(上海アスターホテル)→多賀〔少佐〕(北京日本公使館)	[明治44]年11月23日 (1911)	1枚・ペン	1143
葉書〔年賀状〕 仙波立介→多賀宗之(南京)	大正6年1月1日(1917)	1枚・墨書	328-3
書簡〔疾病回復経過について〕 仙波立介→多賀万城	[昭和]6年9月30日 (1931)	1封筒(1枚)・墨書	248
書簡〔自己流の宿痾療養〕 仙波立助→多賀宗之	5年12月7日	1封筒(2枚)・墨書	925-118
葉書〔挨拶状〕 仙波太郎→多賀宗之(清国直隸省保定府)	明治43年1月14日 (1910)	1枚・ペン	681
葉書〔古代武具の銅板寄贈への礼状〕 仙波太郎→多賀宗之	[大正]13年9月17日 (1924)	1枚・ペン	676

書簡〔多賀の子供の腹胃病について〕 仙波太郎→多賀宗之	5年4月24日	1封筒(2枚)・墨書	509-24
書簡【劣化甚大につき判読不能】 仙波太郎→多賀宗之	3月13日	1封筒(1枚)・墨書	328-132
書簡〔福島少将からの激励の伝言〕 仙波太郎→多賀宗之(保定武廟)	12月27日	1枚・墨書	892-13

そ

書簡〔李長貴の派遣(中国語)〕 宋恩鴻→	4月24日	1枚・墨書	435
書簡〔土匪に掠われた店員の救助依頼(中国語)〕 即墨県公署→多賀〔李村軍政長官〕	12月2日	1封筒(2枚)・墨書	480
葉書〔年賀状〕 曾田孝一郎(台北)→多賀宗之(南京)	〔明治40〕年1月1日(1907)	1枚・墨書	1219
葉書〔中国東北部旅行行程報告〕 外山享一(奉天省突泉県)→多賀宗之(南京城外)	10月5日	1枚・ペン	1242
書簡〔教示と餞別への礼状〕 外山友一→多賀宗之	4年1月7日	1封筒(3枚)・墨書	640
葉書〔年賀状〕 孫叔栄(警察庁)→多賀宗之	〔民国〕6年1月1日(1917)	1枚・墨書	244-7

た

葉書〔新嘗祭二付賢所参集所へ参集ノ件〕 第1師団司令部→多賀宗之	大正12年11月20日(1923)	1枚・謄写版	240
葉書〔観桜会ニ関スル件照会〕 第1師団司令部→多賀宗之〔陸軍少将〕	大正14年3月5日(1925)	1枚・謄写版	328-31
葉書〔天皇后両陛下御結婚満二十五年ニ付参賀通知〕 第1師団司令部→多賀宗之〔陸軍少将〕	〔大正〕14年4月27日(1925)	1枚・謄写版	328-30
葉書〔皇太子妃殿下御分婉内親王御誕生ニ付参賀ノ件通牒〕 第1師団司令部→多賀宗之〔陸軍少将〕	大正14年12月7日(1925)	1枚・謄写版	534
書簡〔天皇東京に遷御の通知、地図付〕 第1師団司令部→多賀宗之〔陸軍少将〕	昭和1年12月26日(1926)	1封筒(4枚)・謄写版	928-16
書簡〔殯宮祇候に関する件〕 第1師団司令部→多賀宗之〔陸軍少将〕	昭和2年1月12日(1927)	1封筒(4枚)・活版	507-1-10
葉書〔斂葬前殯宮拜礼の儀範圍並時刻の件通牒〕 第1師団司令部→多賀宗之〔陸軍少将〕	昭和2年1月15日(1927)	1枚・謄写版	519
葉書〔大葬儀正装着用者の「マント」着用要請〕 第1師団司令部→多賀宗之〔陸軍少将〕	昭和2年1月21日(1927)	1枚・謄写版	517
葉書〔大葬儀正装着用者の「マント」着用要請〕 第1師団司令部→多賀宗之〔陸軍少将〕	昭和2年2月3日(1927)	1枚・謄写版	515
葉書〔紀元節ニ付参集参賀ノ件通牒〕 第1師団司令部→多賀宗之	昭和3年2月6日(1928)	1枚・謄写版	328-43
葉書〔観桜会ニ関スル件照会〕 第1師団司令部→多賀宗之〔陸軍少将〕	昭和3年3月7日(1928)	1枚・謄写版	328-129

書簡〔大礼使彙報ノ件〕 第1師団司令部→多賀宗之	昭和3年11月1日(1928)	1封筒(1綴・1枚)・ 謄写版	260
葉書〔神武天皇祭開催通知〕 第1師団司令部→多賀宗之	昭和4年3月30日(1929)	1枚・謄写版・ペン	151
書簡〔宮内省主催御大礼記念武道大会参観二関スル件〕 第1師団司令部→多賀宗之	昭和4年4月6日(1929)	1封筒(2枚)・謄写版	304
書簡〔大正天皇3年式年祭に関する件通牒〕 第1師団司令部→多賀宗之	昭和4年12月21日(1929)	1枚・謄写版・ペン	97
葉書〔明治天皇20年式年祭に参集の件通牒〕 第1師団司令部→多賀宗之	昭和7年7月25日(1932)	1枚・謄写版	788
書簡〔重光公使上京、神様・太平山の事等談話願ひ〕 大日本古神道実行団神洲義塾私学寮地上龍宮館春玉→多賀万城〔少将〕・奥様	昭和8年4月5日(1933)	1封筒(4枚)・ペン	138
書簡〔護国の任に尽力の決意〕 大日本古神道実行団→多賀万城・御奥様	2月28日	1封筒(7枚)・ペン	258
葉書〔旅順より挨拶状〕 田岡正樹(奉天旅順)→多賀宗之	〔大正〕3年6月8日(1914)	1枚・ペン	1138
葉書〔著書寄贈への礼状〕 田岡正樹(新京)→多賀宗之	〔大正〕7年7月12日(1918)	1枚・墨書	794
書簡〔多賀息子に関する件、時局のための活動への礼〕 田岡正樹→多賀宗之	大正8年4月17日(1919)	1封筒(2枚)・墨書	925-109
書簡〔著書寄贈への礼状、大町桂円の長逝、国沢老の破産〕 田岡正樹→多賀宗之	大正14年7月26日(1925)	1封筒(4枚)・墨書	925-107
葉書〔喘息回復の報告〕 田岡正樹(大連)→多賀宗之	〔昭和〕5年1月12日(1930)	1枚・ペン	328-41
書簡〔貴院奉答文の件援助願ひ〕 田岡正樹(大連市)→多賀宗之	〔昭和〕5年1月25日(1930)	1封筒(3枚)・墨書	106
葉書〔著作贈呈の礼と感想〕 田岡正樹(大連)→多賀万城	〔昭和〕6年3月1日(1931)	1枚・墨書	328-69
葉書〔著書寄贈への礼状〕 田岡正樹(大連)→多賀宗之	5年5月16日	1枚・ペン	781
葉書〔多賀論考への謝辞と感想〕 田岡正樹(大連)→多賀万城	1月8日	1枚・墨書	173
書簡〔弊誌50号登載奉答文・要路啓発に対し礼状〕 田岡正樹(大連市)→多賀宗之	1月15日	1封筒(3枚)・墨書	105
書簡〔貴族院一件徳川議長へ意見書提出〕 田岡正樹→多賀宗之	1月19日	1封筒(5枚)・墨書	752
葉書〔挨拶状〕 田岡正樹(大連)→多賀〔大佐〕(南京)	5月5日	1枚・墨書	1228
封筒〔中身欠〕 田岡正樹→多賀宗之	6月28日	1枚・墨書	925-70
書簡〔多賀親戚一身上の件、蔣馮対峙について〕 田岡正樹(大連)→多賀宗之	11月17日	1封筒(2枚)・墨書	928-53
書簡〔八幡会の趣旨既読、面会希望〕 高鍋日統→多賀宗之	大正15年2月28日(1926)	1封筒(2枚)・ペン	112
書簡〔馮將軍借款申し出につき意見伺ひ〕 高野→多賀		1封筒(3枚)・墨書	568

書簡〔三重高等農林学校での講話への礼状〕 高橋隆道(三重高等農林学校)→多賀宗之	昭和9年3月9日(1934)	1封筒(1枚)・墨書	130
葉書〔ドイツより近況報告、ナチスの独裁状況〕 高橋利雄(ベルリン)→多賀万城	10月5日	1枚・ペン	166
葉書〔年賀状〕 高橋松吉・房代・多祢→多賀宗之	大正6年1月1日(1917)	1枚・ペン	1319
葉書〔年賀状〕 高島貞基(韓国釜山建築所出張所)→多賀宗之(清国直隸省保定)	明治42年1月1日(1909)	1枚・ペン	1183
葉書〔残暑見舞い〕 高島貞基(釜山)→多賀	明治42年8月22日(1909)	1枚・墨書	1137
書簡〔入院見舞い状〕 高山公通→多賀〔中佐〕	明治29年10月25日(1896)	1封筒(2枚)・墨書	925-29-13
葉書〔活塩水の配達願い〕 高山公通→多賀宗之	9月28日	1枚・墨書	328-20
葉書〔年賀状〕 宅野田夫→多賀宗之	昭和6年1月1日(1931)	1枚・墨書	328-68
書簡〔印章の題字の下書き〕 武田秀山→多賀〔歩兵中尉〕	明治33年11月25日(1900)	1枚・墨書	749
書簡〔送金への礼状〕 武田秀三→多賀宗之	昭和4年12月17日(1929)	1封筒(1枚)・墨書	132
書簡〔日華辞典編纂のため寄付願い〕 武田秀三→多賀宗之	4年12月2日	1封筒(2枚)・ペン	925-115
葉書〔香花料への礼状〕 武田信道→多賀宗之	〔大正〕14年7月30日(1925)	1枚・墨書	328-34
葉書〔馮副総統との会合欠席の件〕 立花小一郎→多賀宗之〔陸軍歩兵中佐〕	5年11月30日	1枚・墨書	509-10
書簡〔総督会見につき陸軍砲工中尉各一名招聘の件〕 立花小一郎→多賀宗之	5月27日	1封筒(2枚)・墨書	509-9
書簡〔神経痛の診断について〕 立花小一郎→多賀〔少将〕	6月28日	2枚・ペン	509-35
書簡〔閲兵に関する報告の件、多賀任地へ出張の件〕 立花〔少佐〕→嘉悦〔大尉〕・多賀〔大佐〕	4月6日	1封筒(1枚)・墨書	925-29-11
書簡〔一郎紹介につきご便宜願い〕 立花〔中將〕→多賀宗之	2月2日	1封筒(2枚)・墨書	509-11
書簡〔新著郵送願い〕 立川雲平→多賀宗之	大正14年8月14日(1925)	1封筒(2枚)・墨書	637
葉書〔年賀状〕 田中(上海赫司克)→多賀宗之	〔大正13〕年(1924)	1枚・墨書	1286
書簡〔雑誌「日本及び日本人」送付への礼状〕 田中義一→多賀〔少将〕	11月5日	1枚・墨書	892-1
書簡〔明倫会評議員就任依頼〕 田中国重(明倫館総裁)→多賀宗之	昭和8年6月1日(1933)	1封筒(1枚)・活版・墨書	140
葉書〔幽居訪問するも不在の旨〕 田中遵平→多賀宗之	〔昭和〕2年5月31日(1927)	1枚・墨書	328-44
葉書〔著書寄贈への礼状〕 田中晴川→多賀宗之	〔大正〕14年8月6日(1925)	1枚・墨書	819

書簡〔崔基南との面会場所提案願い〕 田中善立→多賀宗之	2年2月27日	1封筒(1枚)・ペン・墨書	928-50
葉書〔年賀状〕 田中館浩太郎(天津歩兵隊第3中隊)→多賀宗之(清国保定府)	1月1日	1枚・墨書	1179
葉書〔張學良青天白日旗掲揚同意について〕 田鍋安之助→多賀宗之	〔昭和〕3年7月4日(1928)	1枚・ペン	125
書簡〔本多・大石の反対、宣統奉戴運動と外交政策〕 田鍋安之助→多賀宗之	7月2日	1封筒(3枚)・墨書	124

ち

書簡〔コーラン東京出版祝賀会について謝辞〕 張徳純〔満洲奉天文化清真寺回教長〕→多賀宗之〔陸軍少将〕		1封筒(2枚)・活版	509-13
--	--	------------	--------

つ

書簡〔南京での乗車切符購入その他事務処理の依頼〕 筑紫〔少将〕→多賀〔大佐〕		1枚・ペン	928-5
書簡〔活塩水送付への礼状〕 佃信夫→多賀宗之	〔昭和〕1年12月29日(1926)	1封筒(2枚)・墨書	207
書簡〔銃器保管留意了承願い〕 津崎〔戸塚警察署長〕→多賀宗之	昭和7年2月15日(1932)	1封筒(1枚)・謄写版	594
葉書〔南方の形勢について懇談願い〕 辻鐵舟(上海)→多賀宗之	昭和2年8月16日(1927)	1枚・ペン	328-79
葉書〔招待への礼状〕 辻村楠造→多賀宗之	〔大正〕14年6月4日(1925)	1枚・墨書	328-103
葉書〔北海道産スズ子送付への礼状〕 辻山富之助→多賀宗之	〔昭和〕5年10月29日(1930)	1枚・ペン	328-96
葉書〔駐在地の漢口より挨拶状〕 津田静枝(漢口松迺家)→多賀宗之〔陸軍歩兵大佐〕(南京)	大正8年11月20日(1919)	1枚・ペン	1256
書簡〔軍令部にて事情承知の旨〕 津田静枝〔軍令部第3部長〕→多賀宗之	9月20日	1封筒(2枚)・ペン	78
書簡〔公論誌の津田論考に同意の旨〕 津田次郎→多賀宗之	大正14年5月14日(1925)	1封筒(2枚)・墨書	114
葉書〔漢詩〕 津田次郎→多賀宗之	3年5月23日	1枚・墨書	557
書簡〔当地守備隊への軍用米移出願い〕 鶴淵主計(青島軍経理部)→多賀宗之	6月21日	1封筒(3枚)・墨書	928-76

て

封筒〔中身欠〕 鄭滔→多賀宗之	明治40年10月7日(1907)	1枚・墨書	925-96
葉書〔勢多郡連合分会講演件〕 帝国在郷軍人会本部→多賀宗之	〔大正〕7年4月8日(1918)	1枚・ペン	786

書簡〔吾妻郡連合分会・吾妻郡教育会開催講演会講演依頼〕 帝国在郷軍人会本部→多賀宗之	昭和7年5月6日(1932)	1封筒(2枚)・謄写版・墨書	143
書簡〔吾妻郡連合分会講演会出張の件〕 帝国在郷軍人会高崎支部→多賀宗之〔陸軍少尉〕	昭和7年5月23日(1932)	1封筒(2枚)・ペン	110
葉書〔年賀状(中国語)〕 丁福利→		1枚・墨書	1070
書簡〔11月より月謝1000円に変更〕 手塚→		1枚・ペン	925-84
書簡〔著書寄贈への礼状、支那事情講演会予定〕 寺田秋三→多賀宗之	〔大正〕14年6月29日(1925)	1封筒(6枚)・ペン	219
葉書〔済南事件の情報収集と武装解除活動の報告〕 寺田秋三(山東省済南第6師団歩兵第36総団司令部)→多賀宗之	〔昭和〕3年5月25日(1928)	1枚・ペン	516
葉書〔派遣軍の撤兵準備〕 寺田秋三(山東派遣軍第3師団司令部)→多賀宗之	〔昭和〕4年4月(1929)	1枚・ペン	149
葉書〔「済美」受領につき礼状、近況報告〕 寺田秋三→多賀宗之	〔昭和〕4年6月25日(1929)	1枚・ペン	180
書簡〔願書受領後の手続きと配属先の報告〕 寺田秋三(上海派遣第14師団司令部)→多賀宗之	〔昭和〕7年3月26日(1932)	1封筒(2枚)・ペン	328-117
書簡〔幸田が訓練した支那保安隊の規律意識について〕 幸田秋三→多賀宗之	2月6日	1封筒(4枚)・ペン	509-28
書簡〔派遣部隊の衛生について、支那の諜報と南軍と東三省の情勢報告〕 寺田秋三(第6師歩兵第36旅団司令部)→多賀宗之	6月24日	1封筒(5枚)・ペン	928-46
書簡〔支那大動乱に関する多賀の予言への賛同と意見〕 寺田秋三→多賀宗之	9月28日	1封筒(3枚)・ペン	328-8
書簡〔寄贈の論考受領〕 寺田秋三→多賀宗之		1封筒(5枚)・ペン	134
葉書〔岩倉旅団の機動隊としての活動に参加〕 寺田新三(上海南)→多賀宗之	4月10日	1枚・ペン	1298
葉書〔訪問時の非礼の詫び状、時事所感〕 寺田春二(青島)→多賀宗之(南京日本領事館)	7月11日	1枚・ペン	1233
葉書〔日本に一時帰国予定に付挨拶状〕 寺田春二(青島)→多賀宗之(南京日本領事館)	9月27日	1枚・ペン	1221
書簡〔上海における青木將軍強硬意見と松井中佐の南派悲嘆について〕 寺西秀武→多賀〔中佐〕	20年7月19日	1封筒(2枚)・墨書	509-3
書簡〔小生を段祺瑞の許に応聘せしむる件につき伺い〕 寺西秀武→多賀宗之〔陸軍中佐〕	〔明治〕23年1月17日(1890)	1封筒(3枚)・墨書	835-11
書簡〔年賀状、欧米各国による清国分割準備について〕 寺西秀武→多賀宗之〔陸軍少佐〕	大正7年1月17日(1918)	1封筒(3枚)・墨書	928-31
書簡〔南北兩派と馮国璋に対する意見同意の旨〕 寺西秀武→多賀宗之〔陸軍中佐〕	〔大正〕9年1月3日(1920)	1封筒(1枚)・墨書	509-18
書簡〔保安隊顧問就任の報告〕 寺田〔山東省済南歩兵第36旅団司令部大尉〕→多賀宗之	大正3年8月21日(1914)	1封筒(12枚)・ペン	928-20
葉書〔第3師団に留任〕 寺田(済南)→多賀宗之	〔昭和〕3年8月19日(1928)	1枚・ペン	187

葉書〔男子出生の知らせ〕 寺田〔大尉〕→多賀宗之	昭和3年11月26日 (1928)	1枚・ペン	153
葉書〔暑中見舞い〕 寺田〔新発田〕→多賀宗之	〔昭和〕5年7月17日 (1930)	1枚・ペン	160
葉書〔前便の旨取り計らい願ひ、満洲行きの噂あり〕 寺田〔上海派遣第14師団司令部大尉〕→多賀宗之	7年4月6日	1枚・ペン	1311
葉書〔興安嶺より挨拶状〕 天鬼〔蒙古巴林翁府〕→多賀宗之	7月8日	1枚・ペン	244-14

と

書簡〔徐錦華留学につき世話願ひ〕 都甲昴→多賀・令夫人	12月13日	3枚・ペン	672
葉書〔年賀状〕 杜錫珪→		1枚・墨書	1129
書簡〔著書寄贈への礼状、欧州と日本の民族主義について〕 土井明夫→多賀万城	昭和9年6月17日(1934)	2枚・ペン	674
葉書〔北欧より年賀状〕 土居昭夫→多賀万城	1月1日	1枚・ペン	185
葉書〔蘇国から北満の祖国への所感〕 土居昭夫→多賀万城		1枚・ペン	545
書簡〔馮副総統による段総理書簡の要旨とロセツタ借款問題〕 土肥原賢二(北京)→多賀宗之(南京)	21年4月21日	1枚・墨書	902
葉書〔著書受領、見舞い状(中国語)〕 道相憶(上海)→多賀宗之〔南京江蘇督軍署顧問〕		1枚・墨書	244-8
葉書〔今回の事変で略奪された高貴品について〕 堂山究相→多賀	〔昭和〕2年6月6日 (1927)	1枚・ペン	328-49
葉書〔暑中見舞い〕 堂山蔵松(金陵)→多賀宗之	〔大正〕14年7月22日 (1925)	1枚・墨書	1297
書簡〔揮毫の依頼〕 徳田てる→多賀	7月26日(1932)	1封筒(2枚)・ペン	233
葉書〔暑中見舞い〕 徳田雅子(上海)→多賀万城		1枚・ペン	167
葉書〔著書寄贈への礼状〕 徳富清一郎→多賀万城	〔昭和〕7年9月27日 (1932)	1枚・ペン	675
葉書〔上海・南京へ訪問希望の旨〕 徳明寺敬治(李村)→多賀宗之(南京)	〔大正〕6年9月13日 (1917)	1枚・ペン	1215
書簡〔書籍寄贈への礼状〕 床次竹次郎→多賀宗之	6月27日	1枚・墨書	900
書簡〔拳銃携帯の旅行又は移転の際の許可証の件〕 戸塚警察署長→多賀宗之	昭和7年10月(1932)	1封筒(1枚)・謄写版	302
葉書〔東京府衆議院議員選挙通知書〕 戸塚町役場→多賀宗之	大正14年12月15日 (1925)	1枚・活版	328-1
葉書〔挨拶状〕 等々力森蔵→多賀宗之	〔大正〕12年3月19日 (1923)	1枚・ペン	328-108
葉書〔著書寄贈への礼状〕 等々力森蔵→多賀宗之	6月24日	1枚・ペン	797
葉書〔暑中見舞い〕 富沢(北京)→多賀宗之〔陸軍歩中佐〕(南京)	大正5年8月11日(1916)	1枚・墨書	1227

葉書〔参考品送付への礼状〕 伴正雅→多賀宗之	〔昭和〕2年3月16日 (1927)	1枚・ペン	328-57
葉書〔外蒙古旅行近況報告〕 外山高一(外蒙大庫偏)→多賀宗之	大正8年1月1日(1919)	1枚・墨書	171
書簡〔戦争の推進、龍宮離宮殿建設〕 豊玉日女(日本古神道実行団地上龍宮館)→多賀万城・御奥様		1封筒(2枚)・墨書	205
書簡〔鳥居及びチエルトコーフ引見礼状、白石某との引合せ礼状、履歴提出、体調不良に付き猶予願ひ〕 鳥居忠恕→多賀宗之	〔昭和〕3年8月27日 (1928)	1封筒(3枚)・ペン	69
書簡〔鳥居忠恕略歴〕 鳥居忠恕→多賀宗之	昭和3年9月3日(1928)	1封筒(1綴)・ペン ・墨書	928-74
書簡〔モラーフスキー書簡翻訳〕 鳥居忠恕→多賀宗之	〔昭和〕3年10月4日 (1928)	1封筒(3枚)・ペン	288
書簡〔別紙翻訳閲覧に供す旨〕 鳥居忠恕→多賀宗之	〔昭和〕5年1月4日 (1930)	1封筒(2枚)・墨書	194
書簡〔政教社寄稿の原稿料の件〕 鳥居忠恕→多賀宗之	〔昭和〕5年1月13日 (1930)	1封筒(8枚)・墨書	262
書簡〔ソ連の満州事件不干渉の旨〕 鳥居忠恕→多賀宗之	昭和6年12月28日 (1931)	1封筒(1枚)・ペン	636
葉書〔チエ伺いの予定〕 鳥居忠恕→多賀宗之	昭和7年6月28日(1932)	1枚・ペン	789
書簡〔永田少将面会取計への礼状〕 鳥居忠恕→多賀万城	〔昭和〕7年7月5日 (1932)	1封筒(1枚)・ペン	236
書簡〔永田(鉄山)との面談取次への礼状〕 鳥居忠恕→多賀万城	〔昭和〕7年7月9日 (1932)	1封筒(2枚)・墨書	234
書簡〔西比利独立団内外連絡一覧図呈上の件〕 鳥居忠恕→多賀万城	〔昭和〕7年7月21日 (1932)	1封筒(2枚)・ペン	293
書簡〔世界知識社柴田賢一からの執筆依頼受領〕 鳥居忠恕→多賀万城	〔昭和〕7年8月9日 (1932)	1封筒(3枚)・ペン	257
書簡〔モラーフスキー入京、チエルトコーフ神戸行き〕 鳥居忠恕→多賀万城	昭和7年9月22日(1932)	1封筒(2枚)・ペン	290
書簡〔チエルトコーフ中国より帰国、旅行の感想〕 鳥居忠恕→多賀宗之	5年11月21日	1封筒(6枚)・ペン ・謄写版	928-64
葉書〔昇進祝ひ〕 鳥瀧五郎→多賀宗之〔歩兵中佐〕	3年8月14日	1枚・墨書	555

な

葉書〔更正証書不備につき再作成依頼〕 内閣恩給局→多賀宗之	大正12年12月1日 (1923)	1枚・謄写版・ペン	165
葉書〔活塩水製造とレワテル供給の件〕 中川外雄→多賀万城	〔昭和〕6年5月8日 (1931)	1枚・ペン	328-14
書簡〔女児出産後の経過、長女心臓病との診断〕 中川外雄→多賀宗之	6年1月10日	1封筒(2枚)・ペン ・墨書	925-110
葉書〔「離騷」送付願ひ〕 中川→多賀宗之	〔大正〕14年6月26日 (1925)	1枚・ペン	328-78

書簡〔賛助者を得る運動のための出意発表の依頼〕 永沢孝文→多賀宗之	11月1日	1封筒(3枚)・墨書	925-121
書簡〔講演依頼承引礼状、池袋駅出迎えの件〕 中柴末純→多賀宗之	〔昭和〕3年9月5日(1928)	1封筒(2枚)・墨書	68
書簡〔多賀婦国への挨拶状〕 中島晋→多賀	大正12年2月28日(1923)	1枚・活版	928-35
書簡〔旅行の経過と世話になったことへの礼状〕 中島比多吉→多賀〔大佐〕	19年3月18日	1封筒(1枚)・墨書	925-47
書簡〔例の事実現の気運〕 中島比多吉(天津)→多賀〔中佐〕(南京)	6月3日	1封筒(2枚)・墨書	686
葉書〔人事決定の件〕 中島正武→多賀宗之	〔大正〕14年11月22日(1925)	1枚・墨書	244-25
葉書〔日露教会緊急会議の件〕 中島正武→多賀宗之	〔昭和〕2年6月11日(1927)	1枚・墨書	328-47
書簡〔満洲鉄産純益に関する意見書の件〕 永田鉄山→多賀宗之	昭和8年7月10日(1933)	1枚・ペン	892-4
書簡〔満蒙問題処理に関する所見への礼状〕 永田〔大佐・陸軍省軍事課〕→多賀宗之	昭和7年1月29日(1932)	1封筒(1枚)・墨書	925-29-8
葉書〔関東都督府到着の報告〕 中谷延治→日本教官(清国直隸省保定府武備学堂)	〔明治42〕年11月2日(1909)	1枚・墨書	1185
書簡〔紛失物発見の靈感能力者紹介〕 中西女史後援会→多賀宗之	昭和6年1月15日(1931)	2枚・ペン	518
書簡〔本学綱目紛失につき靈示〕 中西女史後援会 →多賀宗之	5年11月8日	1封筒(1枚)・ペン	525
書簡〔支那政府兌換停止の商会における打撃と財政干渉の訴え〕 中根齊(中根洋行)→多賀宗之	大正5年5月31日(1916)	1封筒(4枚)・ペン	835-7
葉書〔白酒・黒酒送付〕 中村小一郎→多賀宗之	〔昭和〕3年12月5日(1928)	1枚・ペン	191
葉書〔江戸っ子昇格祝〕 中村小一郎→多賀万城	昭和7年10月10日(1932)	1枚・墨書	156
書簡〔活塩製法教授の依頼、病状全治報告〕 中村小一郎→多賀宗之	1月27日	1封筒(3枚)・墨書	646
葉書〔著書寄贈への礼状〕 中村照治→多賀宗之〔陸軍少将〕	〔大正〕14年7月6日(1925)	1枚・ペン	328-80
書簡〔樹木寄付の受領証〕 中村是公〔東京市長〕→多賀宗之	大正14年4月20日(1925)	1封筒(1枚)・タイプ	70
葉書〔就職の報告〕 中村良太郎(ハルピン駐在第10師団参謀部特務班)→多賀〔少尉〕	〔昭和〕7年8月29日(1932)	1枚・ペン	328-11
葉書〔手紙披見、高尾領事へ挨拶〕 奈良武次(陸軍省)→多賀宗之〔歩兵中佐〕(南京日本領事館)	〔大正〕5年7月9日(1916)	1枚・ペン	1210
書簡〔赤裸の支那天皇陛下へ献上〕 奈良武次〔侍従武官長〕→多賀宗之〔陸軍少将〕	昭和7年6月21日(1932)	2枚・墨書	619
葉書〔任務終了後南京への帰路の観光〕 成沢美水(北京扶桑館)→多賀宗之		1枚・ペン	1301

書簡〔講演への礼状〕 難波又四郎〔福島県信夫郡平田 村長〕→多賀万城〔少将〕	12月2日	1封筒(1枚)・墨書	925-46
---	-------	------------	--------

に

葉書〔入営につき挨拶〕 二沢信一→多賀万城	〔昭和〕7年1月15日 (1932)	1枚・ペン	780
葉書〔野外演習一段落、剣術協議会の準備〕 二沢信一 →多賀万城	昭和7年8月23日(1932)	1枚・ペン	766
葉書〔露国の攻撃に対する演習について〕 二沢信一 (歩兵28連隊3中隊)→多賀万城	8月5日	1枚・ペン	800
葉書〔奉天の土地決定〕 西岡大元(奉天)→多賀万城	昭和8年8月17日(1933)	1枚・ペン	542
葉書〔日蓮聖人の霊跡巡拝〕 西岡昊→多賀宗之	12月1日	1枚・墨書	328-60
葉書〔李村訪問時の接待への礼状〕 西川席太郎→多賀 〔中佐〕(李村軍政署)	〔大正〕4年7月1日 (1915)	1枚・墨書	1156
書簡〔革命軍の過激主義とイギリス・北軍報告〕 西沢 公雄→多賀宗之	昭和2年1月12日(1927)	1封筒(4枚)・ペン	508-1
書簡〔広東革命軍・軍閥・排英主義及び現地商店につい て〕 西沢公雄→多賀宗之	昭和2年2月21日(1927)	1封筒(4枚)・ペン	508-11
書簡〔漢口における共産団の活動について〕 西沢公雄 →多賀宗之	昭和2年6月15日(1927)	1封筒(6枚)・ペン	508-2
葉書〔小冊子送付への礼状〕 西沢公雄→多賀宗之	1月16日	1枚・ペン	87
書簡〔著書寄贈への礼状、活塩水の効能〕 西沢公雄→ 多賀宗之	2月14日	1封筒(1枚)・ペン	928-21
書簡〔武昌政府による支那公人保護活動及び共産党の 動きについて報告〕 西沢公雄→多賀宗之	3月25日	1封筒(6枚)・ペン	508-15
書簡〔南北戦争当地に波及、南軍による当地の占領、北 軍の横暴不正〕 西沢公雄(大治)→多賀宗之	10月11日	1封筒(3枚)・ペン ・墨書	928-75
封筒〔中身欠〕 西沢公雄→多賀宗之		1枚	509-26
書簡〔病氣回復、佐久間への連絡願ひ、長江の共産過激 派の動向〕 西沢(大治)→多賀宗之	昭和2年3月23日(1927)	1封筒(7枚)・ペン	928-62
書簡〔南軍の形勢、労働団の活動、当地セメント会社につ いて〕 西沢→多賀	11月20日	3枚・ペン	509-25
葉書〔年賀状〕 西田龍太→多賀宗之	明治44年1月10日 (1911)	1枚・墨書	328-106
葉書〔ある和尚の予言に付〕 西田龍太→多賀宗之(北 京日本公使館)	〔大正〕10年3月2日 (1921)	1枚・墨書	328-109
葉書〔転属昇任の祝い状〕 西田龍太→多賀宗之	〔昭和〕3年8月29日 (1928)	1枚・墨書	244-16
葉書〔田岡淮海来訪の様子〕 西田→多賀宗之・安原虎 雄・近藤義栄(保定府城内)		1枚・墨書	328-107
書簡〔座談会出席依頼〕 西原長康(大日本雄弁会講談 社キング編集局)→多賀宗之	昭和7年6月3日(1932)	1封筒(1枚)・ペン	271

葉書〔勇退帰朝祝い〕 西村貢之助外一同→多賀宗之	3月19日	1枚・墨書	239
葉書〔年賀状〕 西村新一郎→多賀宗之(清国保定府)	明治42年1月1日(1909)	1枚・ペン	1191
葉書〔暑中見舞い〕 西村忠一〔陸軍2等主計〕(支那駐屯軍司令部)→多賀万城	昭和7年7月13日(1932)	1枚・ペン・活版	1290
書簡〔岡田啓介の暴挙告発のビラ封入〕 日満クラブ→多賀宗之	昭和9年8月(1934)	1封筒(1枚)・活版	587
葉書〔中外日報3号の返送〕 新田邦達(神道修成派教務局)→多賀宗之	昭和9年10月1日(1934)	1枚・ペン	792
書簡〔日本大学開設満洲国講座講演会講演依頼、面会依頼〕 新田邦達→多賀宗之	3月30日	1封筒(2枚)・墨書	137
書簡〔殿下スコットランドに滞在の予定、着英後の近況報告〕 二宮治重→多賀	8月11日	1枚・ペン	328-4
葉書〔塘沽・天津の旅程〕 日本郵船会社支店→多賀宗之		1枚・ペン	244-3
書簡〔多賀書簡に対する所見、支那分割への意見〕 丹羽貞一(福州)→多賀宗之	大正3年5月19日(1914)	1枚・ペン	893
葉書〔年賀状(中国語)〕 任居建→多賀〔青島李村軍政署長〕		1枚・墨書	244-12

の

書簡〔講演の感想への礼状〕 野方次郎→多賀万城	昭和6年11月29日(1931)	1封筒(2枚)・墨書	925-61
葉書〔多賀帰国、近日訪問の希望〕 野口栄世→多賀宗之	3月11日	1枚・墨書	186
書簡〔著書寄贈への礼と感想〕 野口復堂→多賀宗之	7月3日	1封筒(2枚)・墨書	925-108
葉書〔年賀状〕 野口・初三郎→多賀(北京日本公使館武官室)		1枚・ペン	1144
葉書〔年賀状〕 野沢悌吾→多賀宗之(青島守備軍司令部)	大正5年1月1日(1916)	1枚・墨書	1194
書簡〔清国陸軍の参考書需要の件、外国書翻訳事業の見通し〕 野沢〔中佐〕(天津)→多賀〔少佐〕	1月21日	4枚・ペン	928-15
葉書〔遼東出発〕 野中洋教(大連)→多賀〔長官〕(李村軍政署)	[大正]4年9月11日(1915)	1枚・ペン	328-24
葉書〔岳飛作品寄贈への礼状、約束の品寄贈する旨〕 野々口政太郎→多賀宗之(清国直隸省保定府)	[明治]42年11月21日(1909)	1枚・ペン	1186
書簡〔著書を大軍令部長教育本部長へ送付〕 野村〔海軍省副官〕→多賀〔陸軍少佐〕(陸軍省)	大正3年5月4日(1914)	1封筒(1枚)・墨書	928-77
書簡〔上海へ日本操典取寄せの要望、支那学生担任困難の件〕 野村→多賀宗之	12月17日	1枚・墨書	899

は

書簡〔漢詩〕 馬福祥→		1枚・墨書	346
-------------	--	-------	-----

書簡〔外国駐在祝い〕 萩野末吉→多賀宗之〔北京日本公使〕	明治35年8月2日(1902)	1枚・墨書	895
葉書〔多賀の仕事へ労い、大演習に参加予定の旨〕 萩野末吉→多賀宗之	明治44年10月4日(1911)	1枚・ペン	1317
書簡〔支那改革とその前途〕 萩野末吉→多賀宗之	5月1日	2枚・墨書	928-33
書簡〔平漢線及び瀧海線の戦況報告〕 橋本賢吉〔橋本洋行〕→	昭和5年8月15日(1930)	1枚・活版	328-76
書簡〔面会日程の調整〕 服部宇之吉→多賀宗之	大正14年12月2日(1925)	1枚・墨書	892-15-1
書簡〔喘息の発作について〕 服部宇之吉→多賀宗之	大正15年1月11日(1926)	1封筒(1枚)・ペン	127
書簡〔意見提供への礼状、避暑中にて返事遅延〕 服部宇之吉→多賀	8月18日	1枚・墨書	723
封筒〔723の封筒〕 服部宇之吉→多賀	8月18日	1枚・墨書	724
書簡〔北村天津行きの場合の入用人物推挙願い〕 服部宇之吉→多賀宗之	12月20日	1枚・墨書	892-15-2
書簡〔報徳会幹部講習会の参加依頼〕 花田仲之助・高山公通→多賀宗之	昭和2年8月25日(1927)	1封筒(2枚)・墨書	131
葉書〔昇進祝い状〕 馬場崎豊(野砲兵第24連隊)→多賀宗之(歩兵第3連隊)	〔大正〕3年8月14日(1914)	1枚・墨書	244-17
葉書〔来訪の時間について〕 濱下吉兵衛→多賀宗之	〔昭和〕2年12月22日(1927)	1枚・墨書	328-21
書簡〔近畿地方風水害にて無事の旨〕 濱田輝雄(阪和電気鉄道株式会社)→多賀万城	昭和9年9月28日(1934)	1封筒(2枚)・ペン	589
書簡〔多賀の成功祝い、日本のため活動している旨〕 破迷老童→多賀		1枚・墨書	204
葉書〔多賀の福州赴任に際する配慮への礼状〕 早川記作(南京)→多賀宗之(福州)	大正2年6月17日(1913)	1枚・ペン	1318
葉書〔書送付への礼状〕 林桂→多賀宗之	〔大正〕7年2月1日(1918)	1枚・墨書	768
封筒〔中身欠〕 林弥三吉→多賀宗之	大正12年7月26日(1923)	1枚・謄写版	562
葉書〔祝詞への礼状、天津から近況報告〕 林〔少佐〕→多賀宗之(保定府)	大正6年2月9日(1917)	1枚・ペン	1173
葉書〔見舞い状〕 林出賢次郎(南京日本領事館)→	大正12年9月3日(1923)	1枚・活版	328-29
葉書〔病氣見舞い〕 吐山富之助→多賀宗之	〔大正〕12年3月2日(1923)	1枚・ペン	1272
葉書〔すずこ送付への礼状、大礼式の諸々について〕 吐山(奈良)→多賀宗之	〔昭和〕3年11月16日(1928)	1枚・ペン	161
書簡〔著書寄贈への礼状〕 原正男→多賀宗之	〔昭和〕6年8月5日(1931)	1封筒(2枚)・墨書	195
書簡〔李村軍政署における賭博場の件〕 原口→多賀〔中佐〕	1月25日	1封筒(4枚)・墨書	928-40

葉書〔北米旅行より帰国の報告〕 葉若龍→多賀宗之 (清国直隸省保定府)	明治42年8月15日 (1909)	1枚・ペン	1190
葉書〔年賀状〕 葉若龍・沢野→多賀宗之(清国直隸省保定府)・令夫人(同)	明治43年1月1日(1910)	1枚・墨書	1197
書簡〔三浦少佐の申し出への問合せについて返答〕 坂西利八郎〔少佐〕(天津)→多賀宗之	明治40年10月30日 (1907)	1冊・ペン・墨書	829
葉書〔中国に対する国民大会準備相談会の参加依頼〕 坂西利八郎・五百木良三→多賀宗之	昭和3年5月6日(1928)	1枚・謄写版	512
書簡〔当選祝い、中川淳彦への指導願い〕 坂西利八郎(北京)→多賀宗之(南京)	3年11月2日	1枚・墨書	908

ひ

葉書〔塩の分与願い、著述に対する感想〕 東川徳治→多賀宗之	[大正]14年6月20日 (1925)	1枚・ペン	806
葉書〔活塩水説明書受領に付礼状〕 東山亮→多賀宗之	[大正]13年7月23日 (1924)	1枚・ペン	1283
葉書〔北清新報送付への礼状(中国語)〕 土方〔砲兵少佐〕→多賀宗之〔陸軍歩兵大尉〕(北京日本公使館)	8月21日	1枚・ペン	328-105
書簡〔見舞い状〕 秀島成忠→多賀宗之	大正2年9月21日(1913)	1封筒(1枚)・墨書	565
葉書〔著書寄贈への礼状〕 姫田與吉→多賀宗之	[大正]14年6月29日 (1925)	1枚・ペン	328-95
書簡〔日本租界内における有力団体と団員についての報告〕 平瀬漸(天津総領事館)→多賀宗之(山東李村軍政署)	26年3月26日	1封筒(5枚)・ペン	835-8
葉書〔著書寄贈への礼状〕 廣瀬壽助→多賀宗之	[昭和]3年12月27日 (1928)	1枚・墨書	328-100
葉書〔武術道具購入及び慰問・金銀杯贈与など決議〕 広セ美の蔵・篠崎達二・堂山色松・鈴木増太郎・綾野公成・五味憲一→多賀万城	12月23日	1枚・ペン	1265
書簡〔外相談話について書面にて送付願い〕 広田守信〔外務省秘書官〕→多賀宗之	大正7年9月21日(1918)	1封筒(1枚)・墨書	928-25

ふ

葉書〔帰国後の状況〕 付洲才(武昌)→多賀宗之(直隸省保定府)	明治41年年8月21日 (1908)	1枚・墨書	145
書簡〔顧問聘任の契約〕 馮国璋〔領江蘇督軍事〕→多賀〔中佐〕	民国6年2月3日(1917)	1封筒(2枚)・墨書	507-1-22
書簡写し〔本署内宅火災被害〕 馮国璋→多賀宗之		1枚・墨書	631-4
書簡〔徐州への出動軍隊について伺い〕 深沢暹→多賀〔少佐〕	4月25日	1封筒(2枚)・墨書	524
書簡〔ホーリネス教会信徒の生徒神社参拝拒否の件〕 福恵道暢(滋賀県立今津中学校)→多賀宗之	1月6日	1封筒(5枚)・墨書	319

書簡〔見舞い状、立花中佐帰来の件〕 福島安正→多賀宗之	〔明治〕33年8月2日(1900)	1封筒(1枚)・墨書	509-4
書簡〔病氣全快祝い〕 福島安正→多賀宗之	9月5日	1封筒(5枚)・墨書	925-29-20
封筒〔中身欠〕 福島安正→		1枚・墨書	925-29-22
書簡〔中国遍歴の自己紹介・雇用願い〕 福田規矩造(上海)→多賀宗之	10月13日	1封筒(5枚)・墨書	925-34
書簡〔党解散後の上海への逃走、湖南での新党結成〕 福田規矩造→多賀		5枚・墨書	925-95
書簡〔出張の際に紹介の依頼〕 福田雅太郎(参謀本部)→多賀宗之〔陸軍歩兵大佐〕(南京日本領事館)	大正10年5月16日(1921)	1枚・墨書	892-16
書簡〔活塩療法の効験〕 福田雅太郎→多賀宗之	〔大正〕15年3月12日(1926)	1封筒(3枚)・墨書	264
葉書〔済南事件殉難同胞追悼会の参会依頼〕 福田雅太郎・筑紫熊七・坂西利八郎・奥平俊蔵・本多熊太郎・中島氣崢・五百木良三・白井新太郎・菊池武夫・伊藤松雄・多賀宗之・佐藤臯蔵・其他→多賀宗之	昭和3年5月11日(1928)	1枚・活版	514
書簡〔回教徒の統領、津浦鉄道開山駅就工と暴徒〕 福田(山東省)→多賀	明治42年3月22日(1909)	1封筒(1枚)・ペン・墨書	925-94
葉書〔近況報告〕 福田→多賀宗之	3年7月21日	1枚・墨書	244-18
書簡〔木内大尉の戦死〕 福地守太郎→多賀宗之〔中尉〕	〔明治〕33年8月(1900)	1枚・活版	560
葉書〔著書寄贈への礼状〕 福留千萌→多賀宗之	〔昭和〕4年5月27日(1929)	1枚・ペン	328-101
葉書〔年賀状〕 藤井幸槌→多賀宗之(北京日本公使館)	明治36年1月1日(1903)	1枚・墨書	328-104
葉書〔上京の予定〕 藤田栄介→多賀〔軍政署長〕(李村軍政署)	〔大正〕4年9月30日(1915)	1枚・ペン	328-22
葉書〔帰国通知〕 布施茂〔陸軍通訳〕→多賀宗之	〔昭和〕3年8月27日(1928)	1枚・ペン	175
葉書〔騎兵第3連隊に帰属〕 布施茂〔青島派遣軍第3師団騎兵第3連隊陸軍通訳〕→多賀宗之	〔昭和〕3年5月29日(1928)	1枚・ペン	184
葉書〔医者紹介への礼状〕 布施茂→多賀宗之	〔昭和〕4年6月17日(1929)	1枚・ペン	242
葉書〔不戦條約御推准奏請反対同盟総会案内〕 不戦條約御推准奏請反対同盟→多賀宗之	昭和4年6月30日(1929)	1枚・活版	102
書簡〔ワ・イ・モラウスキーとの会見辞退〕 船越光之丞→多賀宗之	2年5月15日	1封筒(2枚)・墨書	750
書簡〔著書寄贈への礼状、学校での講演依頼〕 文衛→多賀万城	9月23日	1封筒(3枚)・墨書	928-52
書簡〔文芸家追慕展覧会の通知・人名簿〕 文芸家追慕展覧会準備委員→多賀宗之	昭和9年7月(1934)	1封筒(3枚)・活版	925-60
書簡〔文芸家追慕展覧会出展の品返品と礼〕 文芸懇話会→多賀宗之	昭和9年9月(1934)	1封筒(1枚)・活版	652

へ

葉書〔年賀状〕 辺見勇彦(大連市西公園町)→多賀宗之	〔昭和〕6年1月1日 (1931)	1枚・ペン	1288
----------------------------	----------------------	-------	------

ほ

葉書〔斯道懇話会案内〕 補永茂助→多賀宗之	〔昭和〕2年7月6日 (1927)	1枚・ペン	328-51
葉書〔4月1日の会で面会の約束〕 補永茂助→多賀宗之	3月28日	1枚・ペン	150
葉書〔大連転居通知〕 堀純一(大連)→多賀宗之(北京 日本帝国公使館)	〔明治44〕年12月22日 (1911)	1枚・ペン	1141
葉書〔満蒙に関する堀案発表督励への礼状〕 堀洋三→ 多賀宗之	〔大正〕7年4月13日 (1918)	1枚・墨書	779
書簡〔昇勲の祝詞・妹婦嫁につき礼状〕 堀井仁(李村軍 政署)→多賀宗之〔李村軍政署歩兵中佐〕	〔大正〕5年4月27日 (1916)	1封筒(2枚)・墨書	273
書簡〔多賀息子明石滞在願い、著書寄贈、防臭消毒剤贈 与への礼状〕 堀井仁→多賀宗之	大正14年8月9日(1925)	1封筒(5枚)・墨書 ・ペン	925-68
葉書〔李村より挨拶状〕 堀井仁・頂元和尚・壱岐〔大尉〕 ・川田→多賀宗之(南京)	1月4日	1枚・墨書	1229
葉書〔著書寄贈への礼状〕 堀内文次郎・堀内信郎→多 賀宗之	大正14年11月1日 (1925)	1枚・ペン	178
葉書〔釈話材料見付次第案内〕 堀内文次郎→多賀宗 之	〔昭和〕3年3月21日 (1928)	1枚・ペン・活版	89
書簡〔支那南北和議と尼港一件について〕 本郷房太郎 →多賀宗之〔陸軍歩兵大佐〕	昭和2年6月20日(1927)	1封筒(1枚)・墨書	508-5
葉書〔近衛歩兵第2連隊に転任に付近況報告〕 本沢善 文(山上)→多賀宗之〔陸軍歩兵中佐〕(南京)	〔大正〕5年8月23日 (1916)	1枚・ペン	1220
葉書〔友人との近況報告〕 本沢善文(富士板妻廠舎)→ 多賀宗之〔歩兵中佐〕(南京)	〔大正〕5年9月20日 (1916)	1枚・ペン	1243
葉書〔軍事演習地の富士より近況報告〕 本沢善文(富 士板妻廠舎)→多賀宗之〔歩兵中佐〕(南京)	大正5年9月20日(1916)	1枚・ペン	1244
封筒〔中身欠〕 本庄繁→多賀宗之	3月28日	1枚・墨書	284
書簡〔八代大将書送付への礼状〕 本田留吉→多賀宗 之	昭和8年2月10日(1933)	1封筒(3枚)・墨書	247
書簡〔起案郵送への礼状、昇進祝い挨拶につき訪問日 程〕 本名房太郎→多賀宗之〔陸軍歩兵大尉〕	6月15日	1枚・墨書	892-12
葉書〔赴任先の朝鮮より近況報告〕 本間力弥(朝鮮平 壤守備)→多賀宗之(福州)	11月5日	1枚・ペン	1145

ま

書簡〔揮毫用紙返送の件〕 前田正実〔陸軍大臣秘書官〕 →多賀宗之	昭和9年1月16日(1934)	1封筒(1枚)・墨書 ・謄写版	925-106
-------------------------------------	-----------------	--------------------	---------

葉書〔著書寄贈への礼状〕 槇山英次→多賀宗之	〔大正〕14年6月26日 (1925)	1枚・墨書	328-77
電報〔年賀状〕 マサ→タガマンゼウ	〔昭和〕8年1月1日 (1933)	1枚・活版	553
書簡〔講演書寄贈への礼状〕 真崎甚三郎→多賀宗之	大正15年8月15日 (1926)	1枚・墨書	892-8
書簡〔梁国琦將軍会见斡旋依頼〕 町田寿二郎(支那漢口御旅館松廼家)→多賀宗之	18日	1封筒(1枚)・墨書	120
葉書〔大島次官の返印の件〕 町田行定→多賀〔中佐〕(山東省)	1月11日	1枚・墨書	925-29-6
書簡〔書簡受領につき礼状〕 町田増二郎→多賀		1枚・墨書	327
書簡〔袁世凱失脚前後における中国政治情勢〕 松井石根→多賀宗之	大正5年4月4日(1916)	1封筒(2枚)・ペン	123
書簡〔借金返納延期願い〕 松井石根→多賀宗之	〔大正〕8年5月20日 (1919)	1封筒(3枚)・墨書	707
葉書〔貴地方政変に対する慰労状〕 松井石根→多賀宗之	〔大正〕11年8月22日 (1922)	1枚・ペン	224
書簡〔万城改名を祝う漢詩〕 松井石根→多賀万城	〔昭和〕6年2月11日 (1931)	1封筒(1枚)・墨書	669
書簡〔岑春煊写真送付の件〕 松井石根→多賀宗之	21年1月7日	1封筒(1枚)・墨書	928-12
封筒〔中身欠〕 松井石根→多賀宗之	18年3月6日	1枚・墨書	835-21
封筒〔中身欠〕 □〔松〕井石根→多賀宗之		1枚・墨書	678
書簡〔株整理返金の件〕 松井喬之→多賀宗之	昭和9年6月6日(1934)	1枚・謄写版	261
書簡〔亡き夫の写真送付への礼状〕 松井俊子→多賀万城	〔昭和〕7年6月(1932)	1封筒(2枚)・墨書	508-8
書簡〔李純の状況〕 松井→多賀宗之	〔大正〕9年11月18日 (1920)	1枚・墨書	677
葉書〔支那時局に関する所見への礼状〕 松井→多賀宗之	2年4月2日	1枚・ペン	925-29-4
葉書〔高田・柴田紹介の希望〕 松井→多賀宗之	3年7月11日	1枚・墨書	659-2
書簡〔足立大尉支那にて活動自粛の要請〕 松井→多賀	3月2日	3枚・墨書	835-18
葉書〔南北形勢〕 松井→多賀宗之	3月10日	1枚・ペン	126
葉書〔西伯利問題と支那問題〕 松井(浦潮)→多賀	7月4日	1枚・ペン	679
葉書〔寒中見舞い〕 松木直亮(北満)→多賀万城	2月5日	1枚・ペン	549
葉書〔年賀状〕 松平誠(青森歩兵5)→多賀〔少佐〕(清国保定府)	明治42年1月1日(1909)	1枚・墨書	1176
葉書〔本人の病状についての説明〕 松平康国→多賀万城	〔昭和〕8年8月29日 (1933)	1枚・ペン	546
葉書〔風邪の件、「日本及日本人」の配本について〕 松平康国→多賀万城	3年4月5日	1枚・墨書	544
書簡〔息子の叙勲への祝詞への礼状〕 松平康国→多賀万城	7月3日	1封筒(2枚)・墨書	925-44

葉書〔大連より挨拶状〕 まつもと・森・神田→多賀宗之 (南京)	大正4年10月(1915)	1枚・墨書	1205
葉書〔関東大震災被災見舞い〕 丸山軌玄(青島宮前町) →多賀宗之	9月4日	1枚・ペン	1293
葉書〔挨拶状〕 丸山実照(南京)→多賀宗之	8月13日	1枚・ペン	1292

み

葉書〔多賀退任の報を受けて挨拶状〕 三浦敏子(九江) →多賀宗之	大正12年3月31日 (1923)	1枚・墨書	1307
葉書〔著書寄贈への礼状〕 水野満年(國華教育社)→多 賀宗之	9月11日	1枚・ペン	328-82
書簡〔薩哈噠州に赴任〕 溝渕登(薩哈噠亜港電信連隊) →多賀宗之	〔大正〕13年12月7日 (1924)	1封筒(2枚)・墨書	197
葉書〔著書寄贈への礼状〕 溝渕登→多賀宗之	〔大正〕14年8月9日 (1925)	1枚・ペン	817
書簡〔多賀息子お見合いの件〕 満川亀太郎→多賀万城	昭和9年5月15日(1934)	1封筒(3枚)・墨書	759
葉書〔暑中見舞い〕 南次郎→多賀万城	〔昭和〕9年7月23日 (1934)	1枚・墨書	928-38
葉書〔欠損により判読不能〕 南次□→多賀宗之	〔大正〕7年7月12日 (1918)	1枚・ペン	925-29-14
葉書〔活塩水作用の講演筆記受領〕 峯間信吉→多賀 宗之	〔昭和〕3年4月20日 (1928)	1枚・ペン	1305
書簡〔福島閣下陸軍小学堂諸教程閲覧の件、清国におけ る調査報告につき意見〕 三原辰次→多賀宗之	2月19日	1封筒(1枚)・墨書	835-6
書簡〔正太鉄道・道清鉄道・汴洛鉄道の路線図など〕 三 原辰次→多賀宗之(保定府)	10月	1枚・墨書	892-6
葉書〔田中会見につき指導願い〕 三原千尋→多賀宗之	〔昭和〕3年12月6日 (1928)	1枚・ペン	93
書簡〔大谷尊閣師との面会、頭山翁との懇談〕 三原千 尋→多賀宗之	3年10月19日	1封筒(2枚)・墨書	928-17
封筒〔中身欠〕 三宅光洛→多賀宗之		1枚・墨書	509-1
書簡〔密棗を令息に送付、税金への不満、在支日本人排 日により生活困難〕 宮崎洋行(直隸省保定府)→多 賀宗之	昭和4年4月4日(1929)	1封筒(3枚)・ペン ・活版	928-79
書簡〔酒籌送付、保定府市中共産軍嚴重警戒、時計と呼 び鈴の送付依頼〕 宮崎洋行(直隸省保定府)→多賀 宗之	昭和5年9月3日(1930)	1封筒(7枚)・ペン ・活版	928-66
書簡〔依頼の靴購入〕 宮崎洋行(直隸省保定府)→多賀 宗之	昭和7年2月21日(1932)	1封筒(3枚)・ペン ・活版	928-71
葉書〔書籍送付への礼状〕 宮崎洋行→多賀宗之	昭和7年27日(1932)	1枚・ペン	765
葉書〔著書寄贈への礼状、東京の喧噪について〕 宮崎 松男→多賀宗之	昭和7年5月29日(1932)	1枚・謄写版	784
書簡〔3年間の返済延期について〕 宮下→多賀	2月10日	1枚・墨書	218

葉書〔年賀状〕 宮島大八→多賀宗之	昭和5年1月(1930)	1枚・墨書	925-29-7
葉書〔宮地姓が遠戚に不在、不審者来訪の件〕 宮地久壽馬→多賀宗之	〔大正〕9年8月17日(1920)	1枚・ペン	529
葉書〔帰朝について追伸の旨〕 三好(ニューヨーク)→多賀宗之	大正15年6月28日(1926)	1枚・ペン	157
葉書〔ウィーンより近況報告〕 三好(ウィーン)→多賀		1枚・ペン	162

む

書簡〔特別大演習陪観に関する件〕 牟田口廉也〔参謀本部庶務課長〕→多賀宗之〔陸軍少将〕	昭和9年9月28日(1934)	1封筒(4枚)・活版・墨書	928-80
書簡〔段祺瑞に対する注意論と楽観視〕 宗方小太郎→多賀宗之	〔明治〕39年10月15日(1906)	1封筒(2枚)・墨書	566
書簡〔担当商業地区の土匪により宮田参集不可〕 村上千代吉(厦門鼓浪流菊地方)→多賀宗之	8月19日	1封筒(2枚)・墨書	217
葉書〔年賀状〕 村田契麟→多賀宗之(支那李村軍政所)	大正5年1月1日(1916)	1枚・墨書	1195
葉書〔墨小包送付への礼状〕 無量案太鈍→多賀万城	〔昭和〕9年9月13日(1934)	1枚・ペン	530

め

書簡〔顧問継続の依頼〕 名正→多賀〔顧問〕	12月25日	1封筒(2枚)・墨書	507-1-17
封筒〔中身欠〕 明治大学大同会→多賀宗之	〔大正〕9年11月13日(1920)	1枚・墨書	827

も

葉書〔暑中見舞い〕 本村義治(青島)→多賀宗之〔陸軍中佐〕(上海領事館)	〔大正〕5年8月18日(1916)	1枚・ペン	1146
葉書〔天津帰還、依頼の品送付、ベスト下火〕 森不二郎(清国天津歩兵隊)→多賀宗之〔少佐〕(久留米歩兵第48連隊本部)	明治44年3月27日(1911)	1枚・ペン	1316
葉書〔例の件は今夜送り出すに付了承願い〕 守田政枝(上海)→多賀〔少将〕(南京)	10月16日	1枚・ペン	1201
葉書〔新聞にて補職の件拜見〕 師岡鶴一→多賀宗之	明治44年9月19日(1911)	1枚・墨書	328-127
葉書〔年賀状〕 師岡鶴一→多賀宗之	〔大正〕5年1月2日(1916)	1枚・墨書	328-124
書簡〔桜花送付への礼状〕 師岡鶴一→多賀宗之	〔昭和〕5年4月9日(1930)	1封筒(6枚)・墨書	113
葉書〔珍書送付への礼状〕 師岡鶴一→多賀宗之		1枚・墨書	328-123
書簡〔おもちゃ送付への礼状〕 モロオカミエコ・師岡てる子→多賀万城・松実叔父		1枚・葉書2枚・ペン	328-6
葉書〔写真送付への礼状〕 師岡宗春→多賀宗之	明治38年9月7日(1905)	1枚・墨書	328-126

や

書簡〔森道伯伝記への寄稿願ひ〕 矢数格(漢方専門森一貫堂療院)→多賀万城	昭和7年5月12日(1932)	1封筒(1枚)・墨書・活版	925-114
書簡〔医学史に宮家伺候の一文採録の件〕 矢数格→多賀万城	昭和7年5月20日(1932)	1封筒(1枚)・墨書	252
葉書〔著書寄贈への礼状〕 柳沼喜重→多賀宗之	大正15年1月22日(1926)	1枚・墨書	176
葉書〔品物到来案内〕 藥種醫療器商丸三藥房(支那南京大功坊大街)→多賀(南京城内成賢街)	9月1日	1枚・ペン	1255
葉書〔ケープタウン到着報告〕 八島春清(ケープタウン)→多賀宗之(南京)	大正11年11月10日(1922)	1枚・ペン	328-9
葉書〔北支那警備のため天津に赴任〕 八島春清→多賀宗之	大正11年4月20日(1922)	1枚・ペン	328-52
葉書〔碇泊中のメルボルンより挨拶状〕 八島春繁(メルボルン)→多賀宗之	7月3日	1枚・ペン	328-7
葉書〔著書寄贈への礼状〕 八島春繁→多賀宗之	8月16日	1枚・ペン	328-81
葉書〔上海入港の予定日〕 八島(シンガポール)→多賀宗之(南京)	民国12年12月29日(1923)	1枚・ペン	558
葉書〔研究室訪問願ひ〕 安岡篤→多賀宗之	[大正]14年12月4日(1925)	1枚・ペン	328-2
書簡〔就職の世話への礼状、青島での暮らし〕 安垣栄一(青島)→多賀宗之	12月17日	1封筒(4枚)・ペン	925-104
葉書〔山東の名所見物〕 安垣栄一→多賀宗之		1枚・ペン	771
葉書〔年賀状〕 安多鈴一(満洲里)→多賀宗之(山東省青島)	大正4年1月1日(1915)	1枚・ペン	244-2
書簡〔靈廟建設につき西岡と面会〕 八角〔三郎〕→多賀万城	[昭和]8年5月12日(1933)	1封筒(3枚)・墨書	928-41
葉書〔年賀状〕 山内豊景→	大正13年1月1日(1924)	1枚・墨書	152
書簡〔配慮の件順調の旨、多賀妹縁組の件〕 山岡熊次→多賀宗之〔陸軍士官学校歩兵中尉〕	明治34年3月1日(1901)	1枚・墨書	892-5
書簡〔生姜の砂糖煮送付への礼状〕 山岡淑子→多賀宗之(南京)	6月11日	1枚・墨書	891-2
葉書〔年賀状〕 山縣初男(雲南省)→多賀宗之(南京)	大正8年1月1日(1919)	1枚・墨書	244-13
葉書〔雲南省の概要〕 山縣初男(雲南省辭城崇仁街庚園)→多賀宗之(南京)	大正12年1月1日(1923年)	1枚・活版・墨書	244-1
葉書〔多賀退任の報を受けて挨拶状〕 山縣初男(雲南省)→多賀宗之	3月28日	1枚・ペン	1308
葉書〔活塩の研究への意気込み〕 山口重道→多賀宗之	[大正]15年9月3日(1926)	1枚・ペン	809
葉書〔山崎氏の件無事進行、住所と名前の通知願ひ〕 山口重道→多賀宗之	[昭和]4年12月14日(1929)	1枚・ペン	99

書簡〔来訪日時指定の伺い〕 山口勝→多賀宗之	大正7年3月17日(1918)	1枚・墨書	328-135
書簡【劣化甚大につき判読不能】 山口勝→多賀宗之	大正7年3月21日(1918)	1封筒(1枚)・墨書	328-134
葉書〔講演依頼〕 山口勝→多賀宗之	大正7年8月22日(1918)	1枚・墨書	328-130
葉書〔大根と芋受領につき礼状〕 山口勝→多賀宗之	大正12年7月20日(1923)	1枚・墨書	925-29-2
葉書〔休学の報告〕 山口勝→多賀宗之	7月31日	1枚・ペン	328-133
書簡〔艇の模型の製作者及び費用の件〕 山口安郎→多賀万城	〔昭和〕6年9月27日(1931)	1枚・ペン	925-65
書簡〔年賀状〕 山口安郎・ミネ・日郎・支那子・月郎・星郎・辰郎→多賀宗之		1枚・活版	328-120
葉書〔年賀状〕 山崎瞻(重慶)→多賀宗之	大正7年1月1日(1918)	1枚・活版・墨書	1309
葉書〔年賀状〕 山崎瞻(中華民国四川省重慶)→多賀宗之(南京日本領事館)	大正9年1月1日(1920)	1枚・墨書	1236
葉書〔年賀状〕 山崎瞻(中華民国四川省重慶)→多賀宗之(南京日本領事館)	大正12年1月1日(1923)	1枚・活版	1206
書簡〔福建省富源調査の件〕 山崎直方(東京理科大学)→多賀宗之(福州)	1年12月17日	1枚・墨書	892-9
書簡〔著書に対する感想〕 山沢康助→多賀宗之	〔大正〕14年8月13日(1925)	1封筒(1枚)・墨書	328-121
葉書〔政変に関する妙見大菩薩の利益について〕 山沢康助(国寿会)→多賀宗之	〔大正〕15年2月2日(1926)	1枚・墨書	539
葉書〔宗虎到着〕 山下五三郎→多賀宗之	〔昭和〕2年3月16日(1927)	1枚・ペン	328-56
葉書〔宗虎試験終了し帰宅〕 山下五三郎→多賀宗之	〔昭和〕2年3月20日(1927)	1枚・ペン	328-55
書簡〔滿蒙鈹業委任の秘密条約の件〕 山田丑太郎→多賀万城	〔昭和〕7年8月12日(1932)	1封筒(2枚)・墨書	212
書簡〔「支那問題と蒙古岩塩」送付礼状、蒙古湖塩の件〕 山田丑太郎→多賀宗之	15日	1封筒(2枚)・墨書	82
葉書〔年賀状〕 山田厩松→多賀(中佐)(支那国山東省李村軍政署)	大正7年1月1日(1918)	1枚・墨書	1196
葉書〔塩及び活塩水の件〕 山田良之助→多賀宗之	4月7日	1枚・ペン	328-58
書簡〔講座願いとその日程〕 山田陸槌(滿蒙学校)→多賀宗之	昭和7年5月31日(1932)	1封筒(1枚)・ペン・活版	925-119
書簡〔関税会議成功と対支国策の所見への礼状〕 山梨半造→多賀宗之	大正14年11月4日(1925)	1枚・墨書	901
葉書〔招待への礼状〕 山内長人→多賀宗之	昭和6年4月30日(1931)	1枚・墨書	770
書簡〔滿洲鈹業行政関係山田所見送付への礼状〕 山内静夫→多賀宗之	〔昭和〕8月10日	1封筒(1枚)・ペン	213
葉書〔琉球を経て奄美大島に滞在〕 山内静夫→多賀宗之	4年1月18日	1枚・ペン	811

書簡〔張勳との面会、日本人の支那形勢推移の研究方〕 松本菊熊(青島市李村)→多賀宗之〔陸軍歩兵中佐〕	16年1月11日	1封筒(7枚)・墨書	925-38
---	----------	------------	--------

ゆ

招待状〔明治節宴会〕 湯浅倉平〔宮内大臣〕→多賀宗之〔陸軍少将〕	昭和9年10月20日(1934)	3枚・活版	572
招待状〔観菊会〕 湯浅倉平〔宮内大臣〕→多賀宗之〔陸軍少将〕・令夫人	昭和9年11月1日(1934)	3枚・活版	571
招待状〔新宿御苑観桜会〕 湯浅倉平→多賀宗之・令夫人	昭和10年4月12日(1935)	1封筒(4枚)・活版	146
招待状〔天長節宴会〕 湯浅倉平〔宮内大臣〕→多賀宗之〔陸軍少将〕	昭和10年4月20日(1935)	1封筒(5枚・2綴)・活版	835-28
葉書〔著書寄贈への礼状〕 湯泉庄一→多賀宗之	〔大正〕14年6月25日(1925)	1枚・ペン	814
葉書〔帰隊の報告〕 遊佐幸平〔騎兵隊第14連隊長〕→多賀宗之	昭和3年12月(1928)	1枚・ペン	600
書簡〔在郷軍人連合分会と朝光会の開催の件〕 柚原完蔵→多賀宗之	1月21日	1封筒(6枚)・ペン	642
葉書〔歓待への礼状〕 柚原(旭川)→多賀宗之(南京)	〔大正〕9年5月20日(1920)	1枚・墨書	1252

よ

葉書〔年賀状〕 楊肇(漢昌界外周文書院)→多賀宗之(南京城内罵駕橋)	大正12年1月1日(1923)	1枚・墨書	1257
葉書〔赴任先の天津より挨拶状〕 横井〔軍曹〕→多賀〔少佐〕		1枚・ペン	1148
書簡〔派清将校の候補となった旨、松浦・晴木の近況、士官学校の青年の件〕 横地長幹→多賀宗之(清国北京大日本帝国公使館)	明治36年1月4日(1903)	1封筒(3枚)・墨書	835-20
書簡〔北清行き不合格〕 横地長幹→多賀宗之〔北京大日本帝国公使〕	明治39年9月9日(1906)	1枚・墨書	896
葉書〔年賀状〕 横地長幹→多賀宗之(清国直隸省保定府将辨学堂)	明治42年1月1日(1909)	1枚・墨書	1175
葉書〔年賀状〕 横地長幹→多賀宗之(久留米歩兵第48連隊)	〔大正〕14年1月1日(1925)	1枚・墨書	1135
葉書〔著書寄贈への礼状、活塩水の効果〕 吉岡増次郎→多賀宗之	〔大正〕15年8月16日(1926)	1枚・ペン	543
書簡〔次回上京の際の面会約束〕 吉田豊彦→多賀宗之	昭和7年8月12日(1932)	1封筒(1枚)・ペン	667
書簡〔片山量平就職依頼の謝絶〕 吉田豊彦→多賀万城	昭和7年9月2日(1932)	1封筒(3枚)・ペン	221
書簡〔蒙古王・張作林を通じ日本に銃器依頼〕 吉田正男→多賀〔少佐〕	大正1年8月8日(1912)	1封筒(3枚)・墨書	508-13
葉書〔著書寄贈への礼状〕 吉田増次郎→多賀宗之	〔大正〕14年6月24日(1925)	1枚・ペン	813

書簡〔雑木の内地人への配布について〕 吉原盛武→多賀宗之	大正4年2月19日(1915)	1封筒(1枚)・墨書	135
葉書〔李村在職中の諸事への礼状〕 吉村健蔵〔大佐〕(青島)→多賀宗之〔歩兵中佐〕(南京)	〔大正〕5年8月12日(1916)	1枚・ペン	1202

り

書簡〔顧問継続の契約〕 利純(江蘇督軍)→多賀〔大佐〕	民国8年2月1日(1919)	2枚・墨書	507-1-20
書簡〔原稿受取につき礼状〕 陸軍省恩賞課支室済美編輯係→多賀宗之	6月13日	1封筒(2枚)・墨書	651
書簡〔支部講社例会講話への礼状〕 陸軍航空本部補給部立川支部乃木講社→多賀宗之	昭和9年8月17日(1934)	1封筒(2枚)・墨書	590
書簡〔陸軍学芸技術奨励金の件〕 陸軍省→多賀万城	昭和7年2月23日(1932)	1封筒(3枚)・活版	567
書簡〔寄稿への礼状〕 陸軍省恩賞課支室済美編輯係→多賀宗之	〔昭和〕5年6月14日(1930)	1封筒(1枚)・ペン	129
葉書〔来月号原稿既読につき報告〕 陸軍省人事局恩賞課支室済美編集部→多賀宗之	3年5月21日	1枚・ペン	556
書簡〔退職武官支那語講習会時間割送付〕 陸軍省内退職武官講習会幹事→多賀宗之	昭和7年8月1日(1932)	1封筒(2枚)・ペン・謄写版	214
葉書〔送金通知書〕 陸軍東京経理部→多賀宗之(支那南京日本領事館)	大正10年6月30日(1921)	1枚・ペン	158
葉書〔挨拶状(中国語)〕 劉玉崑(南京龍王廟五味)→多賀宗之	12月24日	1枚・墨書	1270
葉書〔宗雄・宗虎・宗隼元気の旨、暮れの挨拶状〕 劉鳳岐(湖北省漢口大日本総領事館警察署巡捕房)→多賀宗之	大正12年12月24日(1923)	1枚・墨書	1313
葉書〔年賀状(中国語)〕 劉鳳岐(保定城)→多賀宗之〔陸軍部転文少将〕	〔昭和〕2年1月6日(1927)	1枚・墨書	328-66
書簡〔年賀状〕 劉鳳岐→多賀宗之	〔民国〕19年12月25日(1930)	1封筒(2枚)・墨書	596
葉書〔年賀状(中国語)〕 劉鳳岐・劉玉崑(南京警察廳勤務督察處)→多賀宗之	1月1日	1枚・墨書	1287
封筒〔中身欠〕 寥宇春→多賀先生・夫人	民国2年12月12日(1913)	1枚・墨書	692
葉書〔年賀状(中国語)〕 寥宇春(北京東城觀音寺廖宅)→多賀〔顧問〕(南京大石橋東)	〔民国〕9年1月1日(1920)	1枚・墨書	1261
書簡〔陸軍部諮議官への異動、親戚の留学願い〕 寥宇春→多賀	12月12日	3枚・墨書	688

る

電報〔ヤマネコウヘイ少佐に関する金銭について〕 ルスダイゴシダンテウ〔留守第5師団長〕→タガ〔多賀砲兵中佐〕(宇品)	8月7日	1枚・ペン	835-14
--	------	-------	--------

わ

書簡〔5名への著書寄贈への礼と追加配送願ひ〕 我妻恒之助(大阪今日新聞社)→多賀宗之	大正14年6月27日(1925)	1封筒(2枚)・ペン	925-116
書簡〔著書寄贈への礼状〕 我妻恒之助(大阪今日新聞社)→多賀宗之	大正14年7月3日(1925)	1封筒(1枚)・ペン	925-113
書簡〔著書寄贈への礼状、救国思想の喚起の件〕 和田亀治→多賀万城	2月10日	1封筒(2枚)・ペン	220
葉書〔杭州から寧波の旅行、上海より帰国の予定〕 和田清(寧波)→多賀〔大佐〕(南京城内)	〔大正〕12年1月10日(1923)	1枚・ペン	1214
葉書〔年賀状〕 渡瀬(天津)→多賀宗之(保定府)	明治41年1月1日(1908)	1枚・ペン	1171
葉書〔活塩水贈与への礼状〕 渡邊新太郎→多賀宗之	〔大正〕15年6月29日(1926)	1枚・墨書	799
招待状〔観菊会〕 渡邊千秋〔宮内大臣・伯爵〕→多賀宗之〔陸軍歩兵少佐〕・令夫人	大正2年11月3日(1913)	1封筒(14枚)・活版	577
書簡〔著書送付への礼状〕 綿本大巖・フユ→多賀宗之	〔昭和〕4年8月8日(1929)	1封筒(4枚)・墨書	250
葉書〔年賀状〕 渡衛二郎(大連)→多賀宗之(北京日本公使館)・雨森良巳(同)	明治45年1月1日(1912)	1枚・ペン	1314
葉書〔暑中見舞い〕 渡俊治(ハルピン)→多賀万城	7月19日	1枚・ペン	1280
書簡〔書籍受領〕 渡俊治→多賀宗之	10月2日	1封筒(2枚)・墨書	316
葉書〔福建到着報告〕 和知鷹二→多賀宗之	〔大正〕14年10月17日(1925)	1枚・活版	540
葉書〔年賀状〕 伴宜(東洋製鉄株式会社)→多賀宗之(南京)	〔大正〕9年1月1日(1920)	1枚・墨書	1251
書簡〔図書局への紹介状の件などへの礼状〕 貫一→多賀〔大佐〕	7月16日	2枚・墨書	928-65
書簡〔上原氏の件〕 きぬ→多賀		2枚・墨書	928-32
書簡の一部 貞子→		1枚・墨書	732
葉書〔年賀状〕 重一→多賀〔中佐〕(李村軍政署)	〔大正〕5年1月1日(1916)	1枚・ペン	1155
書簡〔横井の使用とその手当〕 貴志→多賀宗之	9月19日	ペン	73
書簡〔帝都の狂変について、安否報告願ひ〕 太吉(高野抵抗療治院)→多賀宗之	10月28日	1封筒(1枚)・墨書	103
葉書〔本日上海出立に付挨拶状〕 達→多賀宗之(南京日本領事館)	大正6年9月18日(1917)	1枚・墨書	1234
書簡〔大久保豊彦の紹介〕 長知→多賀宗之	20日	1枚・墨書	891-4
書簡〔病氣回復報告〕 長知→多賀宗之	10月4日	1枚・墨書	891-5
書簡〔山東民軍問題解決後一箇混成団残留、居正君など人事の件、関前の泥棒組北京政府に拘禁された件〕 長知→多賀宗之	13日	1枚・墨書	891-6

書簡〔事業への尽力依頼〕 忍太郎(日本製塩研究所営業所)→多賀宗之	[大正]12年7月3日(1923)	1封筒(2枚)・墨書	200
書簡〔軍隊生活の近況報告〕 憲末〔熊本野砲大連隊士官候補生〕・萬嘉熙→多賀宗之	[昭和]7年7月31日(1932)	1封筒(1枚)・ペン	118
書簡〔安垣氏身上の件、旅行記、息子の満鉄採用〕 正樹→多賀	6月28日	1封筒(4枚)・墨書	925-72
葉書〔釜山より近況報告〕 宗武(釜山)→多賀万城	25日	1枚・ペン	168
書簡〔今晚面会願ひ〕 安正→多賀〔中尉〕	2月13日	1枚・墨書	925-29-23
葉書〔近況報告〕 ユキ→多賀宗之		1枚・墨書	328-111
書簡〔感冒流行に付注意〕 良熙→多賀	1月29日	1枚・墨書	509-27

外国人

書簡〔南総督へのインタビュー願ひ(英語)〕 B.Moravsky→M.TAGA〔General〕	昭和7年6月29日(1932)	1封筒(1枚)・ペン	116
書簡〔ロシア亡命者入国の見せ金用意の要望〕 ウエー・モラーフスキー→多賀〔將軍〕	昭和7年8月3日(1932)	1綴・ペン	665
書簡〔挨拶状(ロシア語)、帝国在郷軍人会講演の依頼〕 B.Moravsky→Taga〔General〕	昭和8年3月23日(1933)	2枚・活版	925-120
書簡〔南大将面会取次依頼(英語)〕 B.Moravsky→M.TAGA	6月16日(1932)	1封筒(2枚)・ペン	108
書簡〔通知(ロシア語)〕 G.CHERTKOFF(上海)→MUNEYUKI TAGA	昭和3年5月16日(1928)	1封筒(1枚)・活版	314
書簡〔書籍寄贈への礼状と感想〕 J.W.T Mason→Muneyuki Taga	昭和8年1月8日(1933)	1封筒(4枚)・ペン	776
葉書〔China Press継続購読確認(英語)〕 Sung Sogoh Ming→M. Taga(南京)	大正5年8月4日(1916)	1枚・活版・ペン	1217
書簡〔翻訳通訳の宣伝〕 ゴヤ・ボホア→多賀万城	[昭和]8年10月2日(1933)	1封筒(4枚)・ペン	295
封筒〔中身欠〕 →M. Taga〔Colonel〕		1枚	509-22

Sub-Series No.2: 発信

葉書〔見舞い状〕 多賀宗之→多賀茂子(森下医院)	[明治]43年9月16日(1910)	1枚・墨書	328-116
葉書〔山下紅利用法の問い合わせ依頼〕 多賀宗之(福州)→多賀茂子	大正2年3月7日(1913)	1枚・ペン	328-115
葉書〔贈り物添え状〕 多賀宗之→多賀茂子(福州)	大正8年4月13日(1919)	1枚・墨書	244-24
葉書〔見舞い状〕 多賀宗之→多賀茂子(森下医院)	[大正]13年9月27日(1924)	1枚・ペン	328-112
葉書〔容体に付き返信願ひ〕 多賀宗之→多賀茂子(森下医院)	[大正]13年9月28日(1924)	1枚・墨書	328-113
葉書〔開封府から偃師府までの移動について〕 多賀宗之(河南省偃師府)→多賀茂子(保定府城)	1月16日	1枚・ペン	328-114

葉書〔連合演習の件〕 多賀宗之→多賀茂子(保定府城武廟賀公館)	3月6日	1枚・ペン	244-4
書簡下書き〔夫人逝去のお悔やみ〕 多賀宗之→馮〔大總統〕	大正6年9月13日(1917)	1枚・墨書	631-3
葉書〔短歌一首〕 宗之(南京)→	大正9年1月1日(1920)	1枚・墨書	563
葉書〔多賀万城改名通知〕 多賀万城→	昭和6年2月1日(1931)	1枚・活版	1277
葉書〔現神光宅会趣意書〕 多賀万城(現神光宅会)→津久井久雄	〔昭和〕7年4月20日(1932)	1枚・活版・ペン	1278
書簡〔雪ノ進軍なる童謡について伺い〕 多賀宗之→片山〔学校長〕	6月12日	2枚・墨書	734
書簡下書き〔馮大人逝去のお悔やみ〕 多賀宗之→李〔督軍〕	12月31日	1枚・墨書	631-2
書簡下書き〔病状悪化のため辞退〕 多賀宗之→督軍		1枚・ペン	631-1
書簡下書き〔病気のため報恩できぬ旨〕 多賀宗之→		1枚・ペン	631-5
書簡下書き〔礼状、病状完治を待って帰任の旨〕 多賀宗之→		1枚・ペン	631-6

Sub-Series No.3: 家族**発信****多賀茂子**

葉書〔浦の来訪、郵船会社の船の予定、平賀の容体〕 多賀茂子→賀(保定府武廟)	明治39年6月21日(1906)	1枚・ペン	244-5
〔明治大正期の多賀茂子宛書簡の写し〕 〔多賀茂子〕→		1冊・墨書	832

多賀宗隼

書簡〔多賀宗之の妻宇佐の生家林家について問合せ〕 多賀宗隼→〔北見市役所市民課市民係〕	昭和61年10月(1986)	1枚・ペン	913-3
---	----------------	-------	-------

多賀みつえ

書簡〔アメリカでの生活の様子〕 多賀みつえ→多賀宗隼	昭和47年11月24日(1972)	1封筒(2枚)・ペン	825
----------------------------	-------------------	------------	-----

多賀宗基

葉書〔著書寄贈への礼状〕 多賀宗基→多賀宗之	〔大正〕14年8月12日(1925)	1枚・ペン	807
------------------------	--------------------	-------	-----

多賀宗将

封筒〔中身欠〕 多賀宗将→多賀万城		1枚・ペン	925-52
-------------------	--	-------	--------

受信

多賀宗義

書簡〔火薬・雷管の窃盗・管理不行届のため謹慎5日〕 堀尾晴義〔陸軍裁判長〕→久徳宗義〔東京鎮台山砲兵 第1大隊長陸軍砲兵少佐〕	明治13年6月7日(1880)	2枚・墨書	740-15
葉書〔有栖川二品親王・御息所兩殿下夜会案内〕 林董 〔宮内大書記官〕→久徳〔陸軍砲兵少佐〕	明治15年6月5日(1882)	1枚・活版	835-3
書簡〔皇居火災への金献納への礼状〕 宮内省→久徳 宗義〔従6位勲5等〕	明治17年5月2日(1884)	1枚・墨書	740-14

多賀茂子

封筒〔中身欠〕 井流しけ→多賀茂子	12月11日	1枚・墨書	729
葉書〔小冊送付への礼状〕 浅井てい→多賀茂子	〔大正〕15年11月17日 (1926)	1枚・ペン	328-62
書簡〔送金依頼〕 安斉愛子→多賀茂子	〔昭和〕6年3月30日 (1931)	1封筒(1枚)・墨書	79
書簡〔愛子の袴地送付願い、運賃費用立替願い〕 安斉 徳治郎→多賀茂子	5月26日	1枚・墨書	282
書簡〔生糸の景気など近況報告〕 安斉徳治郎→多賀茂 子	7月19日	1枚・墨書	326
書簡〔蚕糸米穀取引所解散により困窮の旨〕 安斉徳治 郎→多賀茂子	9月23日	2枚・墨書	275
葉書〔昭徳成績優秀のこと、アケビのこと〕 伊藤秀子 →多賀しげ子	11月7日	1枚・ペン	1285
葉書〔軽井沢より近況報告〕 井上芳江→多賀しげ子	〔昭和〕3年3月17日 (1928)	1枚・ペン	169
葉書〔手紙送付への礼状〕 井上芳枝→多賀茂子		1枚・ペン	523
葉書〔病氣見舞い、余分の書籍代を為替で送付済み〕 伊庭米→多賀しげ子(京都東山高台寺南千瓢園)	〔明治39〕年7月21日 (1906)	1枚・ペン	1139
封筒〔中身欠〕 伊庭よね→多賀しげ子	明治37年1月15日 (1904)	1枚・墨書	706
書簡〔月謝持参願い〕 江光忠恕→多賀茂子	〔昭和〕5年9月27日 (1930)	1封筒(2枚)・墨書	306
書簡〔劣化甚大につき判読不能〕 大久保篤→多賀茂子	9月16日	1封筒(1枚)・墨書	680
書簡〔宮様の手紙の送付願い〕 大久保→多賀志げ	〔大正〕14年4月21日 (1925)	1封筒(3枚)・墨書	203
書簡〔多賀宗之の病状、長野発宗之宛近況報告〕 大多 和康司(南京)→多賀茂子	大正6年10月5日(1917)	1封筒(1枚・7枚)・ 墨書	199
葉書〔子供を和子と命名、16日まで富士滞在予定〕 岡 野克爾→多賀茂子	8月5日	1枚・ペン	1303

書簡〔写真の送付〕 香川知恵→多賀茂子(清国直隸省保定府)	明治38年4月4日(1905)	1封筒(2枚)・墨書	925-98
書簡〔菓子送付への礼状〕 加藤このめ→多賀茂子	10月1日	1封筒(2枚)・墨書	299
書簡〔李村での多賀の様子と評判〕 川村倫通・中村忠郎〔李村野戦郵便局長〕→多賀茂子	3年12月22日	1封筒(3枚)・墨書	198
葉書〔年賀状〕 神田順→多賀茂子(大清国直隸省保定小春胡同)	明治41年1月(1908)	1枚・墨書	1172
書簡〔贈り物への礼状〕 神田順→多賀茂	昭和3年12月(1928)	1封筒(3枚)・写真1枚・墨書・活版	925-64
書簡〔送金の旨〕 北白川宮→多賀シゲ子	5月20日	1封筒(1枚)・墨書	925-83
書簡〔女学堂の件への礼状、本人神戸出帆の船にて赴任〕 清藤秋(東洋婦人会)→多賀しげ子(保定府)	3月31日	1封筒(2枚)・墨書	322
葉書〔天津・塘沽・大連・宇品を回り新橋帰着の報告〕 黒川春子・木堂奇子→多賀御奥様(清国保定府)	明治42年12月14日(1909)	1枚・ペン	1177
葉書〔旅行の記録〕 五想→多賀奥様	〔昭和〕3年1月7日(1928)	1枚・ペン	189
葉書〔茂子の同窓との交流願い、遼陽占領の祝賀〕 小溪サカエ(大阪府市立堺高等女学校)→多賀茂子(清国直隸省保定府小椿胡同)	明治37年9月7日(1904)	1枚・墨書	1170
葉書〔書籍送付の件〕 酒井勝軍(国教宣明団団長)→多賀茂子	〔大正〕15年1月10日(1926)	1枚・墨書	536
葉書〔年賀状〕 島本きく(朝鮮京城岡宮方)→多賀志げ子	1月1日	1枚・墨書	1134
葉書〔見舞い状〕 杉野ちか→多賀しげ子	〔昭和〕3年9月10日(1928)	1枚・墨書	170
葉書〔活塩水贈与への礼状〕 鈴木松子→多賀茂子	8月24日	1枚・ペン	810
葉書〔近況報告〕 須藤なほ子→多賀茂子(清国直隸省保定府)	〔明治〕37年8月7日(1904)	1枚・ペン	1199
書簡〔年賀状、日露戦争戦死者の母妻の悲しみ〕 須藤直→多賀しげ子	明治39年1月8日(1906)	2枚・墨書	722
葉書〔栗送付〕 須藤なほ→多賀茂子	〔昭和〕4年10月25日(1929)	1枚・ペン	1284
封筒〔中身欠〕 須藤なほ→	3年9月15日	1枚・墨書	710
書簡〔多賀の病気、子育ての件〕 須藤なほ→多賀茂子	8年2月2日	1封筒(4枚)・墨書	698
封筒〔中身欠〕 須藤→多賀茂子	2年8月7日	1枚・墨書	731
葉書〔年賀状〕 須藤→多賀茂子	4年1月3日	1枚・墨書	1310
葉書〔年賀状〕 関根正直→多賀茂子(清国直隸省保定府)	明治37年1月5日(1904)	1枚・墨書	925-29-5
葉書〔学位受領と書架寄贈への礼状〕 関根正直→多賀茂子(清国直隸省保定)	明治43年3月27日(1910)	1枚・墨書・活版	925-29-12
書簡〔赴任祝い、見舞いの言葉〕 田沢喜代→多賀茂子	4月23日	1封筒(2枚)・墨書	699

書簡〔宗之病気見舞い状〕 立花小一郎(保定府)→多賀茂子	5月20日	1封筒(2枚)・墨書	925-29-19
書簡〔井伊面接願い〕 中川原→多賀奥様	9月24日	1封筒(2枚)・ペン	925-69
書簡〔大臣川村倫通淋痛と相違ない旨〕 中村小一郎〔李村野戦第2局長〕→多賀茂子	4年1月5日	1封筒(3枚)・墨書	638
葉書〔和歌山到着報告、本の借用延長願い〕 橋下貞(和歌山県田辺町椿松方)→多賀茂子	〔大正〕3年8月4日(1914)	1枚・墨書	1136
書簡〔留券の送付〕 坂西利八郎→多賀茂子	3月1日	2枚・墨書	925-30
書簡〔夫の昇進祝い〕 町田梅子→多賀御奥様	〔大正〕7年1月29日(1918)	1封筒(2枚)・墨書	925-67
葉書〔近況報告〕 水野関子→多賀茂子	〔昭和〕10年1月7日(1935)	1枚・ペン	238
葉書〔注文書到着通知〕 三越呉服店地方係→多賀茂子(清国保定府)	明治3月14日(1870)	1枚・活版・ペン	1167
葉書〔多賀の息子の快気祝い〕 宮崎洋行(清国直隸省保定府)→多賀茂子(天津)	〔明治38〕年5月21日(1905)	1枚・ペン	1150
書簡〔見舞い状〕 ほーわ→多賀宗之奥様・多賀万城(明德学園)	〔昭和〕8年5月11日(1933)	1封筒(1枚)・ペン	244-26
封筒〔中身欠〕 堀江春江→多賀茂子	5年12月1日	1枚・墨書	925-53
封筒〔中身欠〕 室直→安齋しげ子	8月7日	1枚・墨書	730
封筒〔中身欠〕 室直→安齋しげ子	4月12日	1枚・墨書	925-76
葉書〔活塩水の小冊子送付への礼状〕 山岡淑子→多賀茂子	8月18日	1枚・ペン	552
書簡〔金銭受取の確認〕 山本茂→多賀茂子	明治37年2月(1904)	1封筒(1枚)・墨書	925-71
葉書〔病気見舞い〕 劉鳳岐(南京大石橋多賀公館)→多賀茂子(上海交路篠崎醫院)		1枚・墨書	1289
書簡〔宗雄試験合格祝い、送金への礼状、母の見舞い〕 阿以子→多賀茂子	4月3日	1枚・墨書	278
書簡〔浴衣地送付と送金への礼状、日課試験の件〕 愛子→多賀茂子	6月1日	1枚・墨書	277
書簡〔授業料送金への礼状、英書と辞典の送付願い〕 愛子→多賀茂子	9月9日	3枚・墨書	281
書簡〔手紙受領につき礼状、近況報告〕 しげ→茂子	12月11日	3枚・墨書	690
書簡〔寺垣と加藤の娘との婚約〕 孝子→多賀茂子	11月8日	1封筒(1枚)・墨書	671
書簡〔園芸や華道について周知願い〕 千尋→しげ子	8月10日	3枚・墨書	703
書簡〔手の怪我の経過〕 貞子→多賀奥様	6月18日	3枚・墨書	728
書簡〔結婚の報告、戦争の不安〕 直→多賀大奥様	7月6日	3枚・墨書	726
書簡〔清国の寒さ、浅野姉の近況〕 直→多賀奥様	12月11日	4枚・墨書	733
書簡〔明後日の送別会の件〕 直→安齋しげ子	12日	3枚・墨書	727

書簡〔しげ子の母逝去へのお悔やみ、関根へ品物送付〕 直子→しげ子	8月18日	3枚・墨書	716
書簡〔子供の近況〕 なほ→多賀令夫人	明治40年12月9日 (1907)	4枚・墨書	685
書簡〔多賀の息子の近況、姉滞在中の世話係願い〕 な ほ→多賀御夫人	明治40年(1907)	1枚・墨書	684
書簡〔新築落成の写真〕 なほ→しげ子	明治40年(1907)	1枚・墨書	709
書簡〔子育ての様子〕 なほ→多賀茂子	明治41年2月1日(1908)	6枚・墨書	704
書簡〔帰省の挨拶〕 なほ→志げ子	明治41年(1908)	4枚・墨書	663
書簡〔橋本結婚の件、育児の件〕 なほ→多賀御夫人	明治42年2月(1909)	4枚・墨書	689
書簡〔姑病没のお悔やみ〕 なほ→茂子	明治42年11月28日 (1909)	6枚・墨書	666
書簡〔辰丸事件、福島旅行の報告、家族写真所望〕 なほ →御奥様	4月11日	3枚・墨書	696
書簡〔2人の子供の成長について〕 なほ→多賀令夫人	6月29日	1枚・墨書	668
書簡〔子供について伺い、橋本の結婚、多賀の馬の記事 の件〕 なほ→茂子	15日	4枚・墨書	682
書簡〔あい子へ送金への礼状〕 ふよ→多賀しげ子		1枚・墨書	279
書簡〔静養所滞在、引越報告〕 京→多賀茂子	1月29日	1封筒(3枚)・墨書	736
書簡〔異国に滞在する相手への励まし〕 もと子→茂子	2月10日	1枚・墨書	712
書簡〔写真の送付〕 米子→茂子		2枚・墨書	697
書簡〔弟の逝去〕 米子→茂子		3枚・墨書	719

多賀愛子

書簡〔文通願い、静岡県の中学生〕 市川美代子→多賀 愛子	昭和38年2月12日 (1963)	1封筒(1綴)・ペン	925-90
---------------------------------	----------------------	------------	--------

多賀克之

書簡〔別紙名刺李純民へ交付の願い〕 関水→多賀克之	20日	1枚・墨書	925-27
---------------------------	-----	-------	--------

多賀まさ子

書簡〔老人会決定事項報告〕 大久保沢子・林ふす・永井 とく子・堀内・団もと子・水野咲子→多賀まさ子	[昭和]7年4月9日 (1932)	1封筒(5枚)・墨書	237
書簡〔見舞い状、自身の怪我の経過〕 中川→多賀まさ子	8月12日	2枚・墨書	925-56
封筒 西条鴨二→多賀万佐□	9年8月12日	1枚・墨書	925-79

多賀宗雄

書簡〔須走旅行の件〕 大町芳衛〔桂月〕→宗雄	8月12日	1枚・墨書	892-7
葉書〔近影を送付する旨〕 岡野克爾→多賀宗雄	[昭和]2年1月29日 (1927)	1枚・ペン	328-65

多賀宗虎

葉書〔出張にて不在の詫び状〕 山立三郎→多賀宗虎	8月6日	1枚・ペン	601
--------------------------	------	-------	-----

多賀宗隼

書簡〔贈り物の代金と返品について〕 岡野克子→宗隼	5月4日	3枚・ペン	925-87
書簡〔林中住所についての返答〕 北見市役所市民課市民係→多賀宗隼	昭和61年10月22日 (1986)	2枚・ペン	913-4
書簡〔蔗軒日録の一部筆写〕 下村效→多賀宗隼	27日	1封筒(3枚)・墨書	826
封筒〔中身欠〕 丸茂一仁→多賀宗隼		1枚・ペン	913
封筒〔中身欠〕 →多賀宗隼		1枚・活版	738
封筒〔中身欠〕 →多賀宗隼		1枚・ペン	925-29

多賀宗光

書簡〔写真送付への礼状、面会願い〕 佐久間→多賀宗光	2月10日	3枚・墨書	607
----------------------------	-------	-------	-----

多賀淑子

葉書〔パーマサマーキャンペーン実施の件〕 ビューティオオタニ→多賀淑子	昭和26年7月14日 (1951)	1枚・謄写版	285
書簡〔下駄と洋服作りの内職、芋作り、稲刈り〕 房子→淑子		1綴・ペン	925-80

Sub-Series No.4: 第三者間**あ行**

書簡〔挨拶状(中国語)〕 王占元→子明	9月8日	2枚・墨書	354
葉書〔残暑見舞い〕 尾形淑子→明德学園園長	[昭和]8年8月22日 (1933)	1枚・ペン	328-15

か行

書簡〔年賀状〕 靳雲鶚→子明	1月7日	3枚・墨書	349
書簡〔華瀛倶楽部会議について質問(中国語)〕 呉錫承→子銘	9月11日	1枚・墨書	352
書簡〔イスラム教改宗の経緯〕 呉徳城→蒼浪	3月20日	2枚・ペン	509-14
書簡〔漢詩〕 江朝宗→子明		2枚・墨書	348

さ行

書簡〔中国の国防・日本・朝鮮・欧米列強との関係(中国語)〕 史久光→子明		4枚・墨書	434
書簡〔年賀状(中国語)〕 徐謝錚→子明	1月9日	2枚・墨書	341

書簡〔演説への感想(中国語)〕 蔣雁祈→子明	3月27日	4枚・墨書	355
書簡〔来客を固辞しひきこもりの状況(中国語)〕 蔣雁祈→子明		4枚・墨書	350
葉書〔日支問題などの連盟諸会議に対して意見願 い〕 勢多郡各団体連合会→瑞西国寿府国際連盟事 務局事務総長	皇紀2592年12月6日 (1932)	1枚・活版	547

た行

書簡〔露国参謀官に投獄された件及び徴兵猶予願 い〕 多市→斉藤	9月25日	1枚・墨書	507-5
葉書〔明日兄弟会の由〕 高山通→大東同志会	9年6月29日	1枚・墨書	773
書簡〔書簡受領、原函陳へ送付済(中国語)〕 田中玉→ 子明	3月25日	2枚・墨書	356
書簡〔挨拶状(中国語)〕 張敬堯→子明	11月16日	3枚・墨書	353
書簡〔療養の経過報告(中国語)〕 張猶曾→子銘	30日	3枚・墨書	345
葉書〔注文のポストカード発送通知〕 千代洋行(上海) →田阪照拍館(南京)		1枚・ペン	1245
書簡〔北京政府の財政の維持上借款について〕 辻岡三 郎(北京)→依田丑之助(山東李村軍政署)	大正5年3月19日(1916)	1封筒(8枚)・墨書 ・ペン	928-43
書簡〔体調不良の報告〕 楊開甲→子銘		2枚・墨書	460

な行

葉書〔活塩水発送の件〕 西川武正→大同協会	[昭和]2年6月17日 (1927)	1枚・墨書	328-50
-----------------------	-----------------------	-------	--------

は行

書簡〔国体南北官民一致の主張を討論、羊の衣類提供の 件(中国語)〕 馬福祥→子明		3枚・墨書	347
書簡〔多賀大尉帰国につき薪水給与〕 馮国璋→立花 〔少佐〕	中歴壬寅6月30日	1封筒(1枚)・墨書	507-1-12
葉書〔年賀状(中国語)〕 北京扶幸館→佃信夫		1枚・墨書	328-38
書簡〔皖軍への解雇手当、借金の件(中国語)〕 鮑貴卿 →子明		2枚・墨書	351

ま行

書簡〔軍政攪乱の件〕 前田良太(青島憲兵隊)→壺岐 〔騎兵大尉〕(李村軍政署)	4年7月8日	1封筒(2枚)・墨書	294
書簡〔挨拶状〕 真辺→山田数一	14日	1封筒(4枚)・墨書	928-14
書簡〔年末に礼をする旨〕 宮城→御兄上・御婦上	8月10日	2枚・墨書	608

や行

書簡〔活塩水事業について〕 吉田親教(大連)→柴田麟	〔昭和〕3年12日(1928)	1封筒(3枚)・ペン	209
----------------------------	-----------------	------------	-----

ら行

書簡〔徐司令電稿翻訳の清書の送付(中国語)] 李純啓 →子銘	3月22日	1枚・墨書	343
書簡〔備船の件魯督より電報未受領(中国語)] 李純啓 →子銘	2月24日	2枚・墨書	344
書簡〔葛君の専門学校官費生受験の件(中国語)] 兪紀 琦→子翁		2枚・墨書	459
書簡〔華安公司依頼受領の件(中国語)] 隆建章→子明		4枚・墨書	360
書簡〔書簡受領につき礼状] 劉秉鏞→子明	3月10日	1枚・墨書	455

Sub-Series No.5: 発受信者不明

葉書〔年賀状] →多賀宗之	〔大正〕8辛亥1月11日 (1919)	1枚・墨書	244-19
葉書【欠損につき判読不能】 →多賀宗之	大正12年11月29日 (1923)	1枚・墨書	328-40
葉書〔在宅の日取りと活塩水、印刷物宣伝の件] →多 賀宗之	〔大正〕15年8月17日 (1926)	1枚・ペン	533
電報〔ミナアツマルオイデ] →多賀宗之	〔昭和〕2年8月29日 (1927)	1枚・ペン	251
書簡【未開封】 →多賀万城	〔昭和〕8年3月3日 (1933)	1枚・ペン	550
葉書【表面付着につき判読不能】 →多賀万城	〔昭和〕8年8月19日 (1933)	1枚・ペン	328-17
葉書〔漢詩] →多賀宗之	3年1月28日	1枚・墨書	513
書簡〔近況報告、小包送付] →むねゆき・おしけ	1月11日	1封筒(3枚)・墨書	925-73
葉書【欠損につき判読不能】 →多賀宗之〔中佐)(山東 李村軍政)	1月23日	1枚・墨書	928-28
書簡〔福島少将閣下より清国行きの件] →多賀〔中尉)	5月5日	1枚・墨書	928-2
葉書〔リオデジャネイロ到着報告] (リオデジャネイ ロ)→多賀宗之(南京)	9月6日	1枚・ペン	1248
書簡〔彼の地へ出張すべき旨] →多賀宗之	9月29日	2枚・墨書	694
書簡〔外地の滞在と医師について] →多賀弘城	12月13日	4枚・墨書	705
書簡【劣化甚大につき判読不能】 →多賀宗之		1封筒(1枚)・墨書	229
書簡【劣化甚大につき判読不能】 →多賀宗之		1封筒(1枚)・墨書	265
書簡【劣化甚大につき判読不能】 →多賀宗之		1封筒(4枚)	266
封筒〔中身欠] →多賀宗之		1枚・墨書	324

封筒〔中身欠〕 →多賀宗之		1枚・ペン	328-119
封筒〔中身欠〕 →多賀宗之		1枚・墨書	473
書簡〔中村が涎を流しておあづけしている旨〕 →多賀〔長官〕		1封筒(1枚)・墨書	508-3
書簡〔多賀の著書を野操規典と命名〕 →多賀		1枚・ペン	751-2
書簡〔贈り物への礼状〕 →賀		1枚・墨書	527
書簡〔出産祝い〕 →多賀奥様	明治38年10月12日 (1905)	1枚・墨書	708
書簡〔奥様という呼称への不満、精神修養・学問・移住殖民の件〕 →しげ子	明治39年(1906)	1枚・墨書	702
葉書〔稽古の延期願い〕 →多賀しげ子	6年9月6日	1枚・墨書	928-6
書簡〔子供の成長について〕 →茂子	2月16日	1枚・墨書	687
書簡〔男子出産祝い〕 →茂子	4月16日	4枚・墨書	693
葉書〔近況報告、奈良見物〕 →多賀しげ子	28日	1枚・ペン	159
書簡〔しげ子宅訪問願い〕 →安斉しげ子	4月2日	1封筒(4枚)・墨書	664
封筒〔中身欠〕 →多賀宗皐		1枚・ペン	925-29
招待状〔食事会〕 →王瑚(座設省公署)	11日	1枚・活版	401
書簡〔任官の祝い(中国語)〕 →子明		1枚・墨書	357
書簡〔陳大斌の経歴について議論(中国語)〕 →子明		3枚・墨書	358
招待状〔食事会〕 →齊燮元(席設督軍署)	2日	1枚・活版	402
封筒〔中身欠、藩憲崔大人〕 →藩憲崔		1枚・墨書	453
封筒〔中身欠〕 →陳		1枚・墨書	468
書簡〔入蒙に際しての忠告〕 春風→		1枚・墨書	507-8
書簡〔手紙・写真受領につき礼状〕	明治37年7月(1904)	1枚・墨書	711
書簡〔女子分娩報告〕	明治40年8月16日 (1907)	1枚・墨書	670
葉書〔李村旧舎前庭の写真葉書〕	大正5年8月31日(1916)	1枚・ペン	1193
葉書〔年賀状〕	1月13日	1枚	328-13
書簡〔前欠(中国語)〕	3月22日	1枚・墨書	456
書簡【劣化甚大につき判読不能】	3月28日	3枚・墨書	297
葉書〔上野にて観覧会见物の所感〕	5月5日	1枚・ペン	1188
葉書【褪色のため判読不能】	8月26日	1枚・ペン	805
書簡〔服薬方法について〕		1枚・墨書	136
書簡〔磐城地方経費の件〕		1枚・墨書	276
書簡〔辞書と袴の送付願い〕		1枚・墨書	280
書簡〔銅版と鉛版の比較(中国語)〕		1枚・墨書	452

書簡〔内務府銀庫失火の消火に対する褒賞(中国語)〕		1枚・墨書	454
書簡【劣化甚大につき判読不能】		1封筒(1枚)・墨書	509-5
書簡【劣化甚大につき判読不能】		1封筒(1枚)・墨書	509-8
書簡【劣化甚大につき判読不能】		1封筒(2枚)・墨書	509-12
書簡【劣化甚大につき判読不能】		1封筒(3枚)・墨書	720
書簡〔馮の事を段に問合せの件〕		1枚・墨書	835-15
箱〔「書簡未整理」とメモ書き〕		1箱・ペン	925
書簡〔梁士詒による日英米法各国公使宴会の要望(中国語)〕		1封筒(2枚)・ペン	925-29-18
書簡〔梁士詒による日英米仏国公使宴会の件、彼による陝西省東西や土匪の状況説明〕		10枚・墨書	925-29-24
書簡〔渡清の思い、欧西列強の暴虐〕		4枚・墨書	925-54
書簡〔昨夜吉祥寺北口喫茶店にて談義、米軍の伝単〕		3枚・ペン・活版	925-81
書簡下半部メモ〔新宮撰歌合詠み人書上〕		1枚・ペン・墨書	926-4
封筒〔中身欠、内照会一件寄南京(中国語)〕	民国8年2月26日(1919)	2枚・墨書	406
封筒〔中身欠〕	大正2年5月1日(1913)	1枚・墨書	928-56
葉書〔進級報告〕		1枚・ペン・活版	88
葉書【写真の一面のみ】		1枚・活版	328-122
紙袋〔葉書入り〕		1袋・墨書	331
葉書〔奉祝皇孫出生〕		1枚・活版	535
葉書〔ご無音の故心得る旨〕		1枚・墨書	820
葉書〔駐屯地異動にて東京赴任の報告〕		1枚・ペン	1189
葉書〔語学習得が捗らない様子〕		1枚・ペン	1264

滿洲国史編纂資料目錄

滿洲国史編纂資料目録 本文細目次

Series No.1: 原稿	102
Sub-Series No.1: 建国	102
Sub-Series No.2: 総務	102
Sub-Series No.3: 外交	103
Sub-Series No.4: 司法	103
Sub-Series No.5: 財経	103
Sub-Series No.6: 鉱工	104
Sub-Series No.7: 協和会	104
Sub-Series No.8: 地方	105
Sub-Series No.9: 治安	106
Sub-Series No.10: 興農	107
Sub-Series No.11: 開拓	108
Sub-Series No.12: 交通	109
Sub-Series No.13: 建設	109
Sub-Series No.14: 文教	110
Sub-Series No.15: 学芸	110
Sub-Series No.16: 民生	111
Sub-Series No.17: 蒙古	111
Sub-Series No.18: 敗戦	112
Series No.2: 座談会記録	113
Series No.3: 口述記録	115
Series No.4: 複（筆）写資料	118
Sub-Series No.1: 関東軍	118
Sub-Series No.2: 建国	119
Sub-Series No.3: 外交	119
Sub-Series No.4: 協和会	120
Sub-Series No.5: 祭祀	120
Sub-Series No.6: 総務	120

Sub-Series No.7: 地方	121
Sub-Series No.8: 治安	122
Sub-Series No.9: 財政	123
Sub-Series No.10: 經濟	123
Sub-Series No.11: 鉦工	124
Sub-Series No.12: 興農	124
Sub-Series No.13: 開拓	125
Sub-Series No.14: 交通通信	125
Sub-Series No.15: 建設	125
Sub-Series No.16: 礼教	126
Sub-Series No.17: 学芸	126
Sub-Series No.18: 民生	126
Sub-Series No.19: 蒙古	127
Sub-Series No.20: 戰時	127
Sub-Series No.21: 終戰	128
Sub-Series No.22: 裁判	128
Series No.5: 業務資料	129
Sub-Series No.1: 総論	129
Sub-Series No.2: 政府	129
Sub-Series No.3: 財政經濟	129
Sub-Series No.4: 鉦工業	130
Sub-Series No.5: 興農開拓	131
Sub-Series No.6: 交通通信	132
Sub-Series No.7: 建設	132
Sub-Series No.8: 蒙古	138
Sub-Series No.9: 地図	138
Series No.6: 稿本	139
Series No.7: 編纂事務	140
Series No.8: 滿蒙終戰史編纂	140
Series No.9: 物品・写真帳	141

Sub-Fonds: 滿蒙同胞援護會	142
Series No.1: 事務	142
Series No.2: 滿洲國史編纂	142

満洲国史編纂資料目録 解題

(3.1.1) 史料群番号：2018D 国文学研究資料館, National Institute of Japanese Literature

(3.1.2) 史料群名称：満洲国史編纂資料, The Materials for Compilation of the History of Manchukuo

(3.1.3) 年代：1904 (明治 37) 年 - 1977 (昭和 52) 年

(3.1.5) 数量：864 点 (19m)

(3.2.2) 履 歴：敗戦直後より旧満洲国大使館を中心として満洲関係の駐日主要会社代表者などによって 1945 年 8 月 30 日に外務省より設立認可を受けた「財団法人満洲国関係帰国者援護会」が、1946 年 3 月 15 日に再組織化されたのが「財団法人満蒙同胞援護会」である。一方、戦時中に満洲国・満鉄・その他満洲関係機関の関係者らによって結成されていた社団法人満洲会 (1942 年 5 月 25 日内閣総理大臣認可) が、1946 年 11 月 29 日に「社団法人国際善隣倶楽部」に改組された (1947 年 7 月 18 日外務省認可)。国際善隣倶楽部は満蒙同胞援護会とは一貫して表裏一体の関係にあり、1972 年 6 月 30 日に満蒙同胞援護会が歴史的使命を終えたとして解散した後は、在職証明書発給などの業務を継承した。その後、1972 年 5 月 1 日に国際善隣倶楽部は「社団法人国際善隣協会」と改称 (同月 25 日に外務大臣認可。2012 年 4 月に一般社団法人となる)。

満蒙同胞援護会は 1959 年 1 月から「満洲引揚史」の編纂に着手し、1962 年 1 月に『満蒙終戦史』を刊行していたが、それに続く事業として 1966 年 7 月から『満洲国史』の編纂がはじまり、1970 年から翌 71 年にかけて『満洲国史 総論』・『満洲国史 各論』の 2 冊が刊行された。

(3.2.3) 来 歴：『満洲国史』刊行後、編纂資料は満蒙同胞援護会の業務を引き継いだ国際善隣協会 で保管されていた。しかし、保管状態は良好ではなく、資料が外部に持ち出されていた時期もあった。2007 年から 2 年間、当館加藤聖文が資料整理を行ったが、2016 年 3 月に国際善隣協会より当館加藤聖文宛に保管資料の処理に関する相談があり、同月末に現物を確認した際、当館への資料寄贈の意志が伝えられ、同年秋に資料の搬入が行われた。

(3.3.1) 範囲と内容：満洲国史編纂資料は、1960 年代に満蒙同胞援護会によって行われた『満洲国史』 (全 2 巻) 編纂の基礎資料となったもので、旧満洲国関係者の座談会記録、関係者が保持していた満洲国文書、関係者の手記類などから構成される。当資料は、国内では現存していない満洲国政府が作

成した文書の他に、関係者らによる口述記録や未刊行の手記類を大量に含んでおり、満洲国研究の基礎的資料といえる。

満洲国史編纂の際、多くの資料が集められたが、満蒙同胞援護会ではこれらの資料を分類した部内用の目録（「旧満蒙関係資料目録 附属資料一覧表」）を作成していた。本目録はこれに準拠して編成した。また、『満洲国史』においても典拠資料が記載されており、一部は「旧満蒙関係資料目録」に掲載されているものと一致する。ただし、『満洲国史』記載分の典拠資料および「旧満蒙関係資料目録」掲載資料のすべてが当館所蔵分と一致するわけではなく、2007年の整理の際にすでに失われたものも多い。

本目録では、9つのSeries（No.1: 原稿・No.2: 座談会記録・No.3: 口述記録・No.4: 複（筆）写真料・No.5: 業務資料・No.6: 稿本・No.7: 編纂事務・No.8: 満蒙終戦史編纂・No.9: 物品・写真帳）を設定し、その下に必要に応じてSub-Seriesを設定した。まず、Series No.1「原稿」については、建国・総務・外交・司法・財経・鉱工・協和会・地方・治安・興農・開拓・交通・建設・文教・学芸・民生・蒙古・敗戦の18のSub-Seriesを設定した。これらは『満洲国史』の章立てにほぼ対応したものである。

Series No.2「座談会記録」とSeries No.3「口述記録」は、満洲国関係者の座談会または口述および手記からなる。なお、座談会記録のうち「建国座談会」は第2回および第4回分が欠落しているが、第1回から第3回までは『満洲現代史資料1－第一回・第二回・第三回建国座談会－』として刊行されており、欠落した第2回分はそれで補うことが可能である。

Series No.4「複（筆）写真料」は、関東軍・建国・外交・協和会・祭祀・総務・地方・治安・財政・経済・鉱工・興農・開拓・交通通信・建設・礼教・学芸・民生・蒙古・戦時・終戦・裁判の22のSub-Seriesを設定した。このSeriesはもともと複写資料であるため劣化が激しく、判読不能な資料が多い。

Series No.5「業務資料」は、総論・政府・財政経済・鉱工業・興農開拓・交通通信・建設・蒙古・地図の9つのSub-Seriesを設定した。このSeriesに含まれる資料は、満洲国時代の原文書が多く含まれているのが特徴である。

Series No.6「稿本」は、満洲国史の稿本、Series No.7「編纂事務」は、編纂時の回覧簿と目録であり、Series No.8「満蒙終戦史編纂」は満洲国史編纂以前に行われていた満蒙終戦史編纂関係の事務文書であり、何らかの理由から混入したと考えられる。

Series No.9「物品・写真帳」は、国際善隣協会に保管されていたもので、満洲国史編纂資料とは異なる資料群であるが、旧満蒙同胞援護会から引き継いだ満洲国に関連するものとして同じ資料群とした。

この他、本目録はSub-Fondsとして「満蒙同胞援護会」を設定した。これは2019年度に古書店を通じて購入した資料群である。満洲国史編纂資料とは異なる資料群であるが、満蒙同胞援護会旧蔵資料であること、満洲国史編纂に関わる事務文書が含まれていたことから本目録に掲載した。Seriesとして事務・満洲国史編纂の2つを設定した。なお、当館では「満蒙同胞援護会預金返還請求事件記録」（2003A）も所蔵しているが、この記録も本資料群と関連するものである。

(3.4.3) 使用言語：日本語

(3.4.4) 資料状態：複写物の多くは経年劣化によって文字が消滅しており、ほとんど判読できない。

(3.4.5) 検索手段：『史料目録 第112集』

(3.5.3) 関連資料の所在：国立国会図書館憲政資料室所蔵「片倉衷関係文書」および国文学研究資料館所蔵「山口重次文書」には満洲国史編纂に関わる事務書類が含まれる。また、滋賀大学経済経営研究所所蔵「満洲引揚資料」は、満蒙同胞援護会旧蔵資料が流出したものであり、国際善隣協会も含めた業務文書が混在している。

(3.5.4) 出版物：坂東勇太郎編著『社団法人国際善隣協会五十年のあゆみ』（国際善隣協会，1992年），国際善隣協会編『満洲現代史資料1 - 第一回・第二回・第三回建国座談会 -』（大湊書房，1981年），満洲国史編纂刊行会編『満洲国史 総論 / 各論』（満蒙同胞援護会，1970-71）

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

Series No.1: 原稿

Sub-Series No.1: 建国

□編第一章 満蒙の地政学的考察と民族興亡の概観 高橋源一		1綴・ペン	1
第二建国工作 野沢正雄・倉沢辰夫		1綴・ペン	2
満洲建国の一コマ-馬占山を奔らせた男- 島一郎		1綴・ペン	3
総論第二編第五章 建国 高橋源一	8月5日	1綴・ペン	4
満洲に遺した満洲青年連盟の足跡 升巴倉吉	昭和43年1月(1968)	1綴・ペン	5
王永江 田島富穂→藤川宥二	昭和43年12月2日 (1968)	1綴・ペン	6
一.実業的開庁前後 二.于沖漢の政見 三.満洲国の恩 賞事情 四.興安北省长凌陞の悲運 五.満洲国立中 央博物館創設 藤山一雄		1綴・ペン	7
総論第一編第四章 東三省の税政と保境安民思想 第五章 満蒙問題解決への世論の動向 高橋源一		1綴・ペン	8
吉林省公署開設当時の概況 山本紀綱	昭和43年9月30日 (1968)	1綴・ペン	9
奉天省政府樹立の経緯 升巴倉吉	昭和43年1月(1968)	1綴・ペン	10
満洲建国史の意義 宮崎專一	昭和42年10月(1967)	1綴・ペン	11
総論第二編第四章 建国運動の進展 高橋源一		1綴・ペン	12
総論第一編第二章 目覚める支那と易幟の満洲、第三 章 危殆に瀕した満蒙における日本の特殊権益 高 橋源一		1綴・ペン	13
事変当時の産業復興工作について 赤瀬川安彦		1綴・ペン	14
総論第二編第一章 満洲事変の突発 第二章 新満 蒙建設への躍動 第三章 政局の転換と東三省の 安定 高橋源一		1綴・ペン	15
(秘)満洲建国裏面史 満洲会・筑紫熊七・財団法人満蒙 同胞援護会	昭和17年5月22日 (1942)	1綴・ペン	16

Sub-Series No.2: 総務

鄭孝胥と駒井徳三 上野巍	昭和50年(1975)	1綴・ペン・墨書	17
大陸の夢は生きている 星野直樹	昭和50年(1975)	1綴・ペン・墨書	18
満洲国の国籍問題 升巴倉吉	昭和43年9月25日 (1968)	1綴・ペン	19
満洲国土地制度確立について 村井宇一〔元地政総 局事業処長〕	昭和41年12月5日 (1966)	1綴・ペン	20
人事政策制度について 峯良平		1綴・ペン	21

内務資料康六九月号 監察制度の強化刷新 大塚忠夫〔総務庁参事官(ママ)〕	康德6年9月(1939)	1綴・ペン・活版	22
監察論 寺岡健次郎		1綴・ペン	23
一.監察院編 二.地方行政編 渡辺文兵衛		1綴・ペン	24
審計〔満洲国史審計の部〕 永田信熊〔元審計局審計官〕	昭和43年4月30日(1968)	1綴・ペン	25
弘報 高橋源一		1綴・ペン	26
国務総理張景恵を偲ぶ 平山一男〔元国務院総務庁官房会計科長〕		1綴・ペン	27

Sub-Series No.3: 外交

満ソ国交関係史 亀山一二	昭和42年10月27日(1967)	1綴・ペン	28
北鉄買収〔北満鉄道(東支鉄道)に関する「ソヴィエト」連邦の権利の満洲国への譲渡に関する交渉〕 亀山一二	10月3日	1綴・ペン	29
満華国交民生部時代のこと 関屋悌藏		1綴・ペン	30
満洲国・スペイン関係 松村寛		1綴・ペン	31
旧東北軍巨頭と接して 東南アジア外交 上村辰巳→山口重次	昭和42年3月30日(1967)	1綴・ペン	32
対日・対独外交 加藤日吉→甲島敏夫〔満洲国史編纂刊行会会長〕	昭和42年8月27日(1967)	1綴・ペン	33

Sub-Series No.4: 司法

満洲国法制の概要 中根不羈雄	昭和42年10月(1967)	1綴・ペン	34
司法官として 鵜飼敏文・鵜飼康文 前野茂	昭和42年5月28日(1967)	1綴・ペン	35
満洲国司法史 前野茂 藤川宥二	昭和42年10月9日(1967)	1綴・ペン	36

Sub-Series No.5: 財経

関東軍特務部の満洲経済開発計画に就いて 山際満寿一〔元関東軍特務部部員兼幹事〕	昭和43年2月26日(1968)	1冊・活版・ペン	37
龍烟鉄鉞開発史 山際満寿一〔元龍烟鉄鉞株式会社理事長〕	昭和42年4月1日(1967)	1冊・活版	37
関東軍の満蒙財政金融方策と満洲中央銀行の創業 五十嵐保司	昭和42年9月10日(1967)	1綴・ペン	38
満洲中央銀行の創立と通貨の安定 日満為替安定策の確立 長谷川長治→古海〔主査・満洲国史編纂委員〕	昭和42年9月13日(1967)	1綴・ペン	39
満洲国建国前後における内国税制度の整理経過 富樫甚作		1綴・ペン	40

一.事変前に於ける在満邦人の商況について 二.満洲国の統制組合について(含追加) 三.満洲国揺籃時代の思い出 石崎広治郎→満洲国史編纂刊行会		1綴・ペン	41
満洲国関税史要 今里進三	昭和44年5月15日(1969)	1綴・ペン	42
満洲国の貿易統制 隠岐猛男→係り	3月27日	1綴・ペン	43
積欠善後處理に就いて 原田孝一→前川〔編集主任〕	2月13日	1綴・ペン	44
興農金庫 公門仲		1綴・ペン・コピー	45
満洲中央銀行創立前後の事情 梅震		1綴・ペン	46

Sub-Series No.6: 鉱工

鉱業史 赤瀬川安彦	昭和44年1月5日(1969)	1綴・ペン・活版	47
株式会社奉天造兵所の沿革竝終焉 奉造会・中元寺一翁〔元兵工廠顧問奉天造兵所技師〕・武藤茂作〔奉天造兵所技師孤家子工場長〕・本田義三郎〔奉天造兵所理事製造部長〕→国史編部		1綴・ペン	48
満洲国特許発明局の想出 専優美〔元満洲国特許発明局総務科長〕		1綴・ペン	49
工業行政(大同元年3月～康徳2年1月) 瀬崎清		1綴・ペン	50
鉱工行政概況 野尻哲二		1綴・ペン	51

Sub-Series No.7: 協和会

協和会の創建(一)-協和党時代- 山口重次・小沢開作・財団法人満蒙同胞援護会		1綴・ペン	52
協和会(I) 天野寛	昭和45年5月(1970)	1綴・ペン	53
協和会(II) 天野寛	昭和45年5月(1970)	1綴・ペン	54
協和会(III) 天野寛	昭和45年(1970)	1綴・ペン	55
協和会改組の一節-特に青年訓練、蒙古実務学院- 雨谷菊夫		1綴・ペン	56
協和会の思出と印象に残る人々 一水伝	5月18日	1綴・ペン	57
齐齐哈尔を中心とする協和会の工作について 米倉駿		1綴・ペン	58
協和会露人部について 丸田孝一		1綴・ペン	59
民族協和と治外法権撤廃 奉天市政と協和会 矢部 僊吉	昭和50年(1975)	1綴・ペン・墨書	60
印度志士の来満とアジア的自覚の昂揚その他 長尾郡太		1綴・ペン	61
昭和十七年から十八年にかけての熱河省の協和会運動 梅本長四郎→藤川	2月28日	1綴・ペン	62
満洲帝国協和会科学技術連合部会の業績 赤瀬川安彦		1綴・ペン	63

東辺道及び熱河における協和青年行動隊の活動について 佐藤公一		1綴・ペン・コピー	64
--------------------------------	--	-----------	----

Sub-Series No.8: 地方

自治指導部の活動 (附)協和会運動 駐日学生の指導 協和会 紀井一		1綴・ペン	65
人民と共に歩いた自治県づくりの軌跡 鯉沼呢	昭和50年7月25日 (1975)	1綴・ペン・墨書	66
地方行政-自治指導部より終戦当時まで- 石丸三郎		1綴・ペン	67
県参事官たりしの想痕 滝本実春	昭和50年(1975)	1綴・ペン・墨書	68
「五族同邦」と県づくり 田中鈞一	昭和50年(1975)	1綴・ペン・墨書	69
傷痕の県政 石垣貞一	昭和50年(1975)	1綴・ペン・墨書	70
富裕県の復興 古田伝一		1綴・ペン	71
扶余県における増産工作その他 川島真一〔元扶余県 庶務課長〕		1綴・ペン	72
東滿総省の設立 櫛田文雄		1綴・ペン	73
地方行政での体験 柴崎章雄		1綴・ペン	74
村建設要綱 川島馨〔元地方処参事官兼街村班長・総 務庁事務官〕	昭和23年8月23日 (1948)	1綴・ペン	75
自興村 川島馨〔元総務庁地方処参事官兼街村班長事 務官〕	昭和43年8月9日(1968)	1綴・ペン	76
地方行政機構の特殊措置 村井宇一〔元東滿総省簡任 参事官〕	昭和41年12月3日 (1966)	1綴・ペン	77
国民隣保組織について 豊島弘明		1綴・ペン	78
興亜塾 多々良庸信	12月18日	1綴・ペン	79
吉林省長春県新開河地区の開拓事業 森本繁和〔元吉 林省長春県産業科開拓股長・現鳥取農業改良普及所 長〕→藤川宥二〔満洲国史編纂刊行会〕	昭和43年11月18日 (1968)	1綴・コピー(一部 判読不可)・ペン	80
満洲国を人民とともに築いた自治指導部 甲斐政治	昭和50年9月22日 (1975)	1綴・ペン	81
通化省臨江県における県づくり、錦洲省における興亜 塾運動 野沢正雄	昭和50年(1975)	1綴・ペン・墨書	82
四平省の米穀供出・間島省の治安対策その他 崔三豊 (ソウル市)		1綴・ペン	83
大雄峯会ならびに自治指導部の活動とくに鉄峯県政府 について 甲斐政治		1綴・コピー(一部 判読不可)・ペン	84
一.自治指導部自治訓練所 二.北滿に於ける建国当初 の県建設 鯉沼呢	昭和42年12月20日 (1967)	1綴・ペン	85
地方自治・協和会・合作社運動の体験記 石川博見	4月3日	1綴・ペン	86

蒙古独立自治軍、昌図県自治指導員として、資政局自治訓練性を迎えて 多々良庸信→満洲国史編纂刊行会	昭和42年9月5日(1967)	1綴・ペン	87
地方のある事件、建国前における民族協和の先覚者たち 森山誠之→藤川宥二〔満洲同胞援護会〕	昭和44年6月17日(1969)	1綴・ペン	88
満洲建国史(実験村、満洲ところどころ) 岩崎久男→藤川	昭和43年2月20日(1968)	1綴・ペン	89
軍警統一問題 竹村茂昭		1綴・ペン	90
地方行政について 盛長次郎→藤川宥二	昭和43年8月3日(1968)	1綴・ペン	91

Sub-Series No.9: 治安

満洲国の想出(通化省) 小石沢英光	昭和49年(1974)	1綴・ペン・墨書	92
第一章.国内匪団の活動概況 篠田六三		1綴・コピー・ペン	93
国軍の建設 佐久間亮三		1綴・ペン	94
第二章 治安工作 篠田六三		1綴・コピー・ペン	95
警察の整備と発展(全) 谷口明三・宗敏雄・谷口新次	昭和44年3月24日(1969)	1綴・ペン	96
満洲国軍史に対し追加訂正意見 八木聞一		1綴・ペン・謄写版	97
東辺道治安肅整工作 富永義雄〔通化省警務科長〕		1綴・ペン	98
満洲事変の勃発と日系警察官の採用 魁生政五		1綴・ペン	99
国軍日系軍官の国境調査(兵要地誌) 篠田六三		1綴・謄写版・ペン	100
治安工作 蘭星会		1綴・コピー・ペン	101
国内匪団の活動概況 蘭星会		1綴・コピー・ペン	102
満洲事変 健軍時代(昭和七年 昭和九年)(軍政部時代) 篠田六三		1綴・コピー・ペン	103
支那事変 整軍時代(昭和九年 昭和十四年) 治安部時代 篠田六三		1綴・コピー・ペン	104
建国初期 国軍の出動(熱河及北支外征) 篠田六三		1綴・コピー・ペン	105
大東亜戦争 練軍時代(昭和一四年 昭和二十年)(軍事部時代) 篠田六三→甲斐政陽	昭和43年11月11日(1968)	1綴・コピー(一部文字擦れ)・ペン	106
国軍軍政機構 篠田六三		1綴・コピー(一部文字擦れ)・ペン	107
国軍の募兵と国兵法 篠田六三		1綴・コピー・ペン	108
国軍日系軍官の国境調査(兵要地誌) 篠田六三		1綴・コピー(一部文字擦れ)・ペン	109
ノモンハン事件 篠田六三→孫川		1綴・コピー(一部判読不可)・ペン	110
ノモンハン事件(訂正分)国軍関係資料 八木春雄→藤川宥二		1綴・謄写版・ペン	111

北辺振興について、ノモンハンと張景恵総理 山田成利〔元関東軍第4課参謀〕		1綴・ペン	112
山海関東羅城弁事処について、東辺道治安肅正工作与山城鎮事件 峯良平		1綴・ペン	113
東南満地区治安肅正工作並熱河地区治安肅正工作の背景と成果について 緒方浩		1綴・コピー(一部文字擦れ)・ペン	114
治安工作時代-集団部落-保甲制度- 前嶋昇		1綴・ペン	115

Sub-Series No.10: 興農

特産物・食糧の流通と統制 高貝一郎		1綴・ペン	116
農政の展開 井上実		1綴・ペン・コピー	117
農政の展開 半沢	昭和43年9月20日(1968)	1綴・ペン・活版	118
中共の食糧問題と東北地方 中村孝二郎〔元満洲国立開拓研究所所長〕	11月18日	1綴・ペン	119
太平洋戦争後の興農増産政策 高倉正		1綴・謄写版・ペン	120
盤山県の水田造成 木村凡夫〔元盤山県副県長〕		1綴・ペン	121
農地造成 二星豊彦〔元満鉄経済調査会職員・元満洲農地開発公社盤山工事事務所最後の長・盤山鯉城開拓団団長・現前田建設株式会社調査役〕		1綴・ペン	122
県または民間の農地造成 木下真治〔元興農部農政局農地科長・幾久建設株式会社取締役〕		1綴・ペン	123
農業土木の研究 千種虎正		1綴・ペン	124
農地開発事業の進展 任田新治		1綴・ペン	125
農地造成(2)浜江省防水開発事業 山本隆道〔元防水開発事業局整地所長・技正〕	昭和42年10月(1967)	1綴・ペン・謄写版	126
増産出荷の督励について(糧穀・車馬・労務) 渡辺政之助		1綴・ペン	127
農地造成 千葉進		1綴・ペン・謄写版	128
北満における小麦の育種研究 永野義治〔元克山農事試験場技正教育科長・元哈爾濱農事試験場技佐種芸科長・元満洲国立農事試験場哈爾濱支場長技正・現農林省中国農事試験場長〕		1綴・ペン	129
農地造成 中村孝二郎〔元満洲国立開拓研究所所長〕・井上実	昭和45年6月21日(1970)	1綴・ペン	130
勸農模範場建設時代 横内友之		1綴・ペン	131
農産の開発 井上実	昭和45年7月15日(1970)	1綴・ペン・コピー	132
満洲農業とその特質 村越信夫		1綴・ペン・コピー	133
蚕桑と俱に二十三年 湯川秀夫	昭和43年3月3日(1968)	1綴・ペン	134
プラウ農法の導入について 須田政美	昭和43年(1968)	1綴・ペン・コピー	135

満洲の土壤 大村収〔日本大学教授農学博士・元哈爾濱農事試験場技正〕		1綴・ペン・活版	136
合作社運動-その理想と実際- 桜井五郎〔元綏化県興農合作社理事長〕	昭和50年(1975)	1綴・ペン	137
綏化県の合作社運動 桜井五郎〔元綏化県興農合作社理事長〕		1綴・ペン	138
合作社運動をかえりみて 橋本一天→藤川		1綴・ペン	139
興農合作社運動の展開 田島富徳→藤川宥二	4月15日	1綴・ペン	140
満洲農機具改良略史 藺村光雄		1綴・ペン	141
賽馬事業 曾根一雄	昭和45年7月21日(1970)	1綴・ペン	142
満洲の馬術 山中崇圭→平馬敏夫	昭和43年(1968)	1綴・ペン	143
畜産の開発 西林貞幸→藤川宥二	昭和45年6月30日(1970)	1綴・ペン・活版・コピー	144
満洲国の畜産 砂川泰夫		1綴・コピー・ペン	145
林業の開発 松川恭佐		1綴・ペン・活版・コピー	146
水産の開発 阿部達夫		1綴・ペン	147
盤山県の漁業 志村忠一		1綴・ペン	148
大豆その他農作物の品種改良と改良品種の普及 石川正示		1綴・ペン	149
満洲国立熊岳城農事試験での園芸試験研究活動、満洲国果樹園芸の試験研究と改善について 永井喬〔旧満洲国立熊岳城農事試験場園芸科長〕→井上	1月22日	1綴・ペン	150
興農政策特に糧穀の緊急増産集荷について、開拓政策について 稲垣征夫		1綴・ペン	151
満洲国建国当初の棉花の改良増殖事業 馬場章		1綴・ペン	152

Sub-Series No.11: 開拓

満洲開拓要史 五十子卷三〔元満洲国開拓総局長〕		1綴・ペン	153
開拓 中村孝二郎		1綴・ペン	154
満洲開拓事業草創期の回顧 森重千夫		1綴・ペン	155
開拓 長谷川誠一〔元満洲拓植公社・現駒澤大学教授〕		1綴・ペン	156
開拓適地調査 紀藤喜男〔日本農協林機株式会社〕	3月17日	1綴・ペン	157
開拓協和運動覚え 浅川四郎	昭和43年5月4日(1968)	1綴・ペン・墨書	158
満鮮拓殖会社の生い立と行跡について 紅林桂次		1綴・ペン	159
荒野に眠る拓魂-満洲開拓を想う 五十子卷三	昭和50年(1975)	1綴・ペン	160

Sub-Series No.12: 交通

満洲事変と交通通信政策 中野良次→藤川	昭和42年6月26日 (1967)	1綴・ペン	161
鉄路総局創立の経緯 下津春五郎	昭和42年9月20日 (1967)	1綴・ペン	162
小運送業の統制 土岐小八郎		1綴・ペン	163
国営自動車開設の経緯 塚原俊一郎		1綴・コピー・ペン	164
満洲国の自動車行政 佐伯健〔満洲国政府交通部鉄路 司自動車科長〕		1綴・ペン	165
水運行政、終戦時の新京 島崎庸一		1綴・ペン	166
日満間海上輸送統制について 松隈敏雄→藤川宥二	8月4日	1綴・ペン	167
水運 附満鉄改組問題 井戸川一〔日南市長〕		1綴・ペン	168
満洲の航空 松岡信敏→藤川	昭和42年1月30日 (1967)	1綴・ペン	169
航空・観象 伊地知綱彦		1綴・ペン・活版	170
満洲国郵政 平良民		1綴・ペン・活版	171
満洲国の通信事業 中谷彦太		1綴・ペン	172
無線の接収と通信の復旧 中谷彦太		1綴・ペン	173
満洲放送事業の実態 金沢覚太郎〔元満洲放送総局副 局長・現日本民間放送連盟参与〕		1綴・ペン	174
満洲の電政 満洲電々の事業を中心として 松尾松太 郎〔旧満洲電電調査局長〕	昭和43年2月17日 (1968)	1綴・ペン	175
(一)満鮮鴨緑江共同技術委員会(二)北満に於ける水運 以上に伴う航路標識設置・水路改修工事の概況 橋 内徳自		1綴・ペン	176

Sub-Series No.13: 建設

建設総論 本間徳雄		1綴・ペン	177
満洲国の道路 町田義知		1綴・ペン	178
北辺に拓いた国道 吉村富之助		1綴・ペン	179
哈大道路建設の背景とその概要 大島秀信〔元満洲国 交通部国防道路建設処技佐・現世紀建設株式会社取 締役社長〕		1綴・ペン	180
河川・港湾 本荘秀一	昭和45年3月10日 (1970)	1綴・ペン	181
満洲の治水-そのことはじめ-思い出すままに- 後藤憲 一→藤川	1月6日	1綴・コピー・ペン	182

浜江省防水開発 太田長四郎〔専修美唄農工短期大学教授・元浜江省防水開発事業局第1処長〕→平島敏夫	9月9日	1綴・ペン	183
大東港 黒田重治		1綴・ペン・活版	184
建国秘話内田技士遭難記 矢崎高儀		1綴・コピー・ペン	185
満洲の建築について 葛岡正雄		1綴・ペン・コピー	186
奉天の都邑計画 佐藤九郎→藤川	10月9日	1綴・ペン・コピー	187
哈爾濱都邑計画の回顧 山崎桂一〔明星大学理工学部・元哈爾濱特別市公署技正〕	昭和43年4月(1968)	1部・活版・ペン	188
都市計画概況 浜田秀雄		1綴・ペン・コピー	189
国都建設史 伊地知綱彦		1綴・ペン	190
水力電気(工事) 空閑徳平		1綴・ペン	191
満ソ水路会議について、北満の水運、乾岔子島事件の真相 堀内竹次郎	昭和42年11月(1967)	1綴・ペン	192
第二松花江水没処理 荒川海太郎〔吉林省水没地処理委員会事務局長・吉林省総務科長〕		1綴・ペン	193
電源開発に関する満鮮交渉 落合兼行	昭和42年11月10日(1967)	1綴・ペン	194
電源開発 本間徳雄		1綴・ペン	195
満鉄に於ける鴨緑江水力発電調査研究の経緯 坂口忠	昭和42年9月(1967)	1綴・コピー(一部判読不可)・ペン	196
満鉄に於ける鴨緑江水力発電調査研究の経緯 坂口忠	昭和42年9月(1967)	1綴・コピー(一部判読不可)・ペン	197

Sub-Series No.14: 文教

教育の根本方針の確立 長尾郡太	5月27日	1綴・ペン	198
満洲国教育の一断面 寺田喜治郎		1綴・ペン	199
教科書の行政と編審 加藤将之		1綴・ペン	200
留学生制度 山下知彦	昭和43年7月28日(1968)	1綴・ペン	201
建国大学について 青本敏彦		1綴・ペン	202
満洲国の社会教育の発祥期 岡田七雄		1綴・ペン	203
満洲建国の意義・建国大学創設の趣旨 作田莊一		1綴・ペン	204

Sub-Series No.15: 学芸

満洲文化の追憶 杉村勇造〔満日文化協会理事・大東文化大学名誉教授〕	昭和50年(1975)	1綴・ペン・墨書	205
満蒙原住民の人類学的研究 今村豊〔元京城帝大教授〕		1綴・ペン	206
省立林東史蹟保存館 島田正郎		1綴・ペン	207
満洲芸文の顛末 磯部秀見	11月23日	1綴・ペン	208

熱河新東方文化顕揚会 青本敏彦		1綴・ペン	209
白頭山登頂記、黒河の追憶 川辺青陽		1綴・コピー(一部文字擦れ)・ペン	210
満洲演劇普及運動と宣撫工作活動 藤川公成	13日	1綴・ペン	211
満洲国の美術 池辺貞喜→藤川宥二	昭和45年2月26日(1970)	1綴・ペン	212

Sub-Series No.16: 民生

満洲国労務新体制確立の過程 升巴倉吉	昭和43年4月(1968)	1綴・ペン	213
満洲国に於ける薬事制度と薬業の変遷 香山万寿雄		1綴・ペン	214
満洲国の阿片制度史 船戸宗二〔北海道税理士会副会長〕→満洲国史編さん会	10月2日	1綴・ペン	215
義倉制度について 川口守一→藤川宥二	昭和43年10月13日(1968)	1綴・ペン	216
満洲国における白系露人教育 後藤春吉→藤川宥二	昭和42年10月10日(1967)	1綴・ペン	217
在満ロシア・エミгранト 坂口清治→平島敏夫〔満洲国史編纂会会長〕	4月13日	1綴・ペン	218
阿片麻薬断禁政策について 藤原慶一郎〔秋田県医師会長〕		1綴・コピー・ペン	219
阿片専売 天野作蔵		1綴・ペン	220
克山病 荒川二六郎	昭和43年8月11日(1968)	1綴・ペン	221
満洲国阿片麻薬断禁記録 山像虎興・飛塚久助	昭和44年8月3日(1969)	1綴・ペン	222
満洲国に於ける阿片麻薬断禁方策概見 波多久		1綴・ペン	223
匪襲にもめげず開発に挺身、鶴岡炭鉱の労務状況について 森田太郎		1綴・ペン	224

Sub-Series No.17: 蒙古

満洲建国前に於けるモンゴル独立運動 郡司彦	昭和43年12月(1968)	1綴・コピー・ペン	225
蒙古匪六百五十名の帰順 日和崎棟男→平島敏夫		1綴・ペン	226
奈曼事件 坂本登→国史編纂委員	1月24日	1綴・ペン	227
満洲蒙古をめぐることども 橋本重雄	昭和50年(1975)	1綴・ペン	228
蒙地問題とその推移、熱錦蒙地の沿革 中島栄夫→満洲国史編纂刊行会		1綴・ペン	229
凌陞事件 岡部理		1綴・コピー(一部判読不可)・ペン	230
三河地方の憶い出 岡部理		1綴・コピー(一部判読不可)・ペン	232
ラマ教の研究とその改革 高綱信次郎		1綴・ペン	231
建国当初の興安省、蒙古雑話 坂水悟郎→郡司彦		1綴・ペン・写真	233

前郭旗の終戦前後、莫力達瓦旗地区治安状態 七→平島敏夫〔満洲国史編纂刊行会会長〕	寺田茂	1月16日	1綴・ペン	234
興安警察局の創設と興安西省各旗県の点描 〔阿魯科爾沁旗参事官〕→藤川宥二	川野鼎三	3月19日	1綴・コピー(一部判読不可)・ペン	235
ノモンハンにおける興安軍士の集団離脱について	川野鼎三		1部・コピー(一部判読不可)・ペン	236
純蒙地帯扎魯特旗治政の悲願	坂本不二男	昭和44年3月31日 (1969)	1綴・コピー・ペン	237
ブリアート蒙古族出身の烏爾金將軍	岡本俊雄		1綴・コピー・ペン	238
興安警備軍(蒙古軍)の建設の経緯並びに初期活動梗概 本間誠			1綴・ペン	239

Sub-Series No.18: 敗戦

引揚前後の資料	山岸金三郎		1綴・コピー(判読不可)・謄写版	240
満洲国の協力者は漢奸なりや、混乱中の民族交流	森山誠之	昭和50年(1975)	1綴・ペン・墨書	241
一.最後の満洲国・新京特別市諮議会に於けるソ連軍に 白旗・降参の決議 二.建国讃頌並反歌	藤山一雄		1綴・ペン	242
満洲国軍終戦記録	篠田六三		1綴・コピー(一部文字擦れ)・ペン	243
満洲国軍終戦余録(日系軍官は死せず)	篠田六三		1綴・コピー(一部文字擦れ)・ペン	244
満洲国軍終戦記録(冀東地区鉄石部隊の巻)	篠田六三		1綴・コピー(一部文字擦れ)・ペン	245
満洲国軍終戦記録(吉林第二軍管区・錦洲)	篠田六三		1綴・コピー(一部文字擦れ)・ペン	246
国軍の兵力と編成・装備	篠田六三		1綴・コピー(一部文字擦れ)・ペン	248
満洲国軍終戦記録、国軍の人事と恩賞、武功章と金鷄勲章	篠田六三		1綴・コピー(一部文字擦れ)・ペン	247

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
Series No.2: 座談会記録			
第一回建国座談会(各機関代表第一次) 中国調査委員会	昭和41年7月23日 (1966)	1綴・ペン	249
第三回建国座談会(満洲事変前に於ける在留邦人の状況) 中国調査委員会	昭和41年12月17日 (1966)	1綴・ペン	250
第五回建国座談会(建国運動)	昭和42年3月20日 (1967)	1綴・ペン	251
第六回建国座談会 協和会(前期)	昭和42年5月19日 (1967)	1綴・ペン	252
第七回建国座談会 協和会後期	昭和42年5月19日 (1967)	1綴・ペン	253
第八回建国座談会(学者グループ)	昭和42年6月27日 (1967)	1綴・ペン	254
第九回建国運動座談会(文化関係)	昭和42年8月19日 (1967)	1綴・ペン	255
第十回建国座談会(大臣・秘書官座談会)	昭和42年10月2日 (1967)	1綴・ペン	256
第十一回建国座談会「建国神廟の創建と教学錬成」	昭和42年11月28日 (1967)	1綴・ペン	268
第一二回建国座談会-保安局分室関係- 加藤豊隆〔愛知県支部長〕→藤川	昭和43年2月3日(1968)	1綴・ペン	269
保健衛生・阿片断禁関係座談会	昭和42年10月30日 (1967)	1綴・ペン	257
建国大学関係座談会	昭和44年4月24日 (1969)	1綴・ペン	258
大同学院関係座談会	昭和43年11月5日 (1968)	1綴・ペン	259
監察・審計関係座談会	昭和42年8月28日 (1967)	1綴・ペン	260
人事制度座談会	昭和43年8月24日 (1968)	1綴・ペン	261
大陸科学院座談会	昭和43年5月4日(1968)	1綴・ペン	262
勤奉座談会	昭和43年4月5日(1968)	1綴・ペン	263
半田敏治・蛸井元義氏追悼座談会録音	昭和42年12月5日 (1967)	1綴・ペン・活版・コピー(一部判読不可)	264
故中野琥逸先生追悼座談会		1部・ペン	265
満洲国を語る 門脇事務官を囲んで	4月29日	1綴・コピー・ペン	266
皆川豊治・富之丞回想談		1綴・コピー(一部文字擦れ)・ペン	267
地方制度座談会	昭和43年8月30日 (1968)	1綴・ペン	270

土龍山事件(軍警統一問題)	昭和43年7月26日 (1968)	1綴・ペン	271
西南区特別工作座談会 ・斉藤弼洲・藤川宥二	鵜池勇次・佐藤朝海・金沢辰夫 昭和43年8月29日 (1968)	1綴・ペン	612

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
Series No.3: 口述記録			
満洲国創業に際し関東軍のとられた政治・経済面の経緯 竹下義晴〔前関東軍参謀〕	昭和29年6月28日 (1954)	1綴・ペン	272
満洲国軍史編纂起草参考資料取材状況 南博・山田金弥・八木春雄・篠田六三	昭和43年3月15日 (1968)	1綴・活版・謄写版 ・ペン	273
満洲建国後の鉄道委託経営及び同鉄道管理条約に関する日本政府の閣議決定等 後宮淳〔元陸軍大将・元満鉄管理官〕	昭和42年9月22日 (1967)	1綴・ペン	274
一、満洲建国の近因 二、建国初期の重大政策 駒井徳三〔元満洲国国務院総務庁心得〕	4月19日	1綴・ペン・墨書	275
一、青年連盟と建国 二、税関接収の真相 三、最近の中共事情 平島敏夫・角野久造・緒方俊郎		1綴・ペン・墨書	276
一、皇帝側近事情 二、張作霖 三、満鉄終末の様相 四、皇帝の親話 五、武藤大使赴任と石丸少将 石丸志都磨		1綴・ペン・墨書	277
一、満洲建国について 二、満洲建国について(協和会発生の経緯) 三、満洲国軍について 四、満洲建国精神及び日系官吏としての心得 花谷正〔元奉天特務機関〕	昭和29年10月14日 (1954)	1綴・ペン・墨書	278
口述断片(満洲および華北事情について) 太田外世雄・松木侠・岡虎一・粟屋秀夫・石光・奥村信義・高橋源一・西川伍朔・西山→坪川與吉		1綴・ペン	279
武藤富男氏の「治外法権撤廃」に関する口述 武藤富男〔元満洲国司法部刑事第1課長〕	昭和43年3月30日 (1968)	1綴・ペン	280
孫文と日中交渉 佐藤慎一郎	昭和43年2月2日(1968)	1綴・ペン	282
労務統制 大島一男	昭和43年3月27日 (1968)	1綴・ペン	281
満洲建国 飯沢重一	昭和43年9月11日 (1968)	1綴・ペン	283
編纂打ち合わせ会 片倉衷・古海忠之	昭和43年9月17日 (1968)	1綴・ペン	284
自治指導部、依蘭事件等 井上実→石川伝二	昭和43年7月24日 (1968)	1綴・ペン	285
満洲国労務統制問題 福田治夫・飯沢重一・角張繁・大島一夫(ママ)・小松仁平・斉藤弼洲・藤川宥二	昭和43年9月21日 (1968)	1綴・ペン	286
開拓用地の買収工作について 岩尾精一	昭和43年7月11日 (1968)	1綴・ペン	287
建国大学について 青本敏彦	昭和43年5月1日(1968)	1綴・ペン	288
勤奉制度の発想 武井一夫	昭和43年6月14日 (1968)	1綴・ペン	289
満洲国建国前後における内国税制度の整理経過 韓雲階	昭和42年10月6日 (1967)	1綴・ペン	290

張飛卿氏談話(満洲事変における日本側との交渉について) 張飛卿	昭和42年10月31日 (1967)	1綴・ペン	291
古海忠之先生放送記録(自身と関東軍との関係と、終戦前後の関東軍の動向について) 古海忠之〔元満洲国総務庁次長〕	昭和43年8月12日 (1968)	1綴・ペン	292
高倉正氏口述(満洲国政府での仕事について) 高倉正〔元満洲国総務庁企画局副局長〕	昭和43年6月22日 (1968)	1綴・ペン	293
木田清氏口述(満洲国教育行政について) 木田清	昭和43年6月16日 (1968)	1綴・ペン	294
自治指導部の活躍 中西敏憲	昭和29年12月1日 (1954)	1綴・ペン	295
協和会について 小山貞知・山口重治(ママ)〔元満洲国協和会中央事務局委員〕	4月21日	1綴・ペン	296
自治指導部と資政局に就て 笠木良明〔元自治指導部連絡課長・元満洲国資政局長〕	昭和29年5月11日 (1954)	1綴・活版・ペン・ 墨書	297
満洲事変より日中戦争まで 和知鷹二〔元関東軍参謀・元支那駐屯軍参謀〕	昭和43年7月24日 (1968)	1綴・ペン	298
満洲建国の経緯(協和会の生れた経緯) 松本侠〔元総務庁次長・元大同学院長〕	昭和30年6月25日 (1955)	1綴・ペン	299
満洲中央銀行創設の経緯 山成喬六〔元中央銀行副総裁〕	昭和29年7月23日 (1954)	1綴・ペン	300
満洲建国について 板谷希一〔元総務庁次長〕	昭和29年10月20日 (1954)	1綴・ペン	301
満洲建国の根本について 真崎甚三郎〔元陸軍大将〕	昭和30年11月16日 (1955)	1綴・ペン	302
満洲建国について 荒木貞夫〔元陸軍大将〕	昭和30年12月23日 (1955)	1綴・ペン	303
片倉衷先生口述メモ 片倉衷〔元関東軍参謀〕	昭和43年(1968)	1綴・ペン	304
満洲建国について 片倉衷〔元関東軍参謀〕	昭和29年(1954)	1綴・ペン	305
民族協和と建国大学・大同学院の設立 片倉衷〔元関東軍参謀〕	昭和43年5月23日 (1968)	1綴・ペン	306
満洲建国前史(一) 片倉衷〔元関東軍参謀〕	昭和43年5月30日 (1968)	1綴・ペン	307
建国前史(作戦準備) 片倉衷〔元関東軍参謀〕	昭和43年6月6日(1968)	1綴・ペン	308
東北満工作・溥儀工作・龍江進出 片倉衷〔元関東軍参謀〕	昭和43年6月13日 (1968)	1綴・ペン	309
奉天市政・溥儀脱出・北満、錦州作戦 片倉衷〔元関東軍参謀〕	昭和43年6月21日 (1968)	1綴・ペン	310
建国満工作 片倉衷〔元関東軍参謀〕	昭和43年6月28日 (1968)	1綴・ペン	311
蒙古政策・北満平定・建国工作(溥儀擁立、政府人事) 片倉衷〔元関東軍参謀〕	昭和43年7月4日(1968)	1綴・ペン	312
リットン調査団・馬占山工作・駒井長官就任・南司令官着任・日満議定書 片倉衷〔元関東軍参謀〕	昭和43年7月11日 (1968)	1綴・ペン	313

満洲国軍 片倉衷〔元関東軍参謀〕	昭和43年7月18日 (1968)	1綴・ペン	314
産業開発五ヵ年計画 片倉衷〔元関東軍参謀〕	昭和43年7月25日 (1968)	1綴・ペン	315
治外法権撤廃 片倉衷〔元関東軍参謀〕	昭和43年8月6日(1968)	1綴・ペン	316
日満関係の基本と国際問題 片倉衷〔元関東軍参謀〕	昭和43年8月13日 (1968)	1綴・ペン	317
帝制実施と統治組織 片倉衷〔元関東軍参謀〕	昭和43年8月20日 (1968)	1綴・ペン	318
北辺振興 片倉衷〔元関東軍参謀〕	昭和43年8月27日 (1968)	1綴・ペン	319
内蒙及び蒙疆問題 片倉衷〔元関東軍参謀〕	昭和43年9月5日(1968)	1綴・ペン	320
協和会 片倉衷〔元関東軍参謀〕	昭和43年9月11日 (1968)	1綴・ペン	321
極東軍事裁判について 片倉衷〔元関東軍参謀〕	昭和43年9月19日 (1968)	1綴・ペン	322
地方行政を語る 櫛田文男	昭和43年7月13日 (1968)	1綴・ペン	323
地方制度について(地方処時代) 柏村信雄	昭和43年5月28日 (1968)	1綴・ペン	324
敗戦の記録(其ノ一)	昭和23年6月(1948)	1綴・ペン・墨書	749
敗戦の記録(其ノ二) 私の行動		1綴・ペン・墨書	750
阿片(アジアの悲劇、魔葉の正態)・錦熱蒙旗について 石丸三郎	昭和43年1月(1968)	1綴・ペン	611

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

Series No.4: 複(筆)写資料

Sub-Series No.1: 関東軍

行警一致の問題 山口清勝	10年3月18日	1綴・ペン	325
満洲国関係重要事項記録 片倉衷〔陸軍省軍務局軍務課〕		1綴・コピー(一部判読不可)	326
片倉資料(労働統制・公役制度・産業開発等) 総務庁・関東軍司令部・関東局		1綴・コピー	327
満蒙問題に就て 板垣征四郎〔陸軍歩兵大佐〕	昭和6年5月29日(1931)	1綴・コピー	328
満洲事変の本質 本庄繁〔元関東軍司令〕	昭和20年10月(1945)	1綴・活版・謄写版	329
南満洲鉄道線路爆破状況調査書 関東軍	昭和6年9月23日(1931)	1綴・コピー	330
満蒙に於ける占領地統治に関する研究		1綴・コピー	331
速戦即決の備へ 片倉衷		1綴・コピー(一部文字擦れ)	332
電撃作戦 片倉衷		1綴・コピー(一部文字擦れ)	333
片倉資料(治安関係) 関東軍司令部		1綴・コピー(一部判読不可)	334
既得権益から新満蒙の建設へ 片倉衷		1綴・コピー(一部判読不可)	335
反張独立の機運各地に 片倉衷		1綴・コピー(一部判読不可)	336
関東軍所信に邁進 片倉衷		1綴・コピー(一部判読不可)	337
内田満鉄総裁の奮起 片倉衷		1綴・コピー(一部判読不可)	338
溥儀脱出行 片倉衷		1綴・コピー(一部判読不可)	339
龍江進撃 片倉衷		1綴・コピー(一部判読不可)	340
自治指導部 片倉衷		1綴・コピー(一部判読不可)	341
全満建国運動の進展 片倉衷		1綴・コピー(一部判読不可)	342
錦洲敵策の覆滅 片倉衷		1綴・コピー(一部判読不可)	343
興安蒙古工作 片倉衷		1綴・コピー(一部文字擦れ)	344
北満平安 片倉衷		1綴・コピー(一部文字擦れ)	345
建国準備 片倉衷		1綴・コピー	346

東北行政委員会の設立 片倉衷		1綴・コピー(一部文字擦れ)	347
保安局官制・治安維持会起工改廃要綱・鉄道特殊警察調整要綱 関東軍司令部・東条英機〔中央治安維持会委員長〕		1綴・コピー(一部判読不可)	348
満洲帝国指導方針要綱・対満洲国根本観念確立の要に付て・満洲国の内面指導に付て 参謀本部・関東軍司令部		1綴・コピー(一部判読不可)	349
満洲国統治行政機構改革要綱 辻正信〔関東軍第3課〕	昭和11年11月9日(1936)	1綴・活版	350
関東軍司令官の満鉄に対する指示権につき(甲号)・関東軍司令官の満鉄に対する指示権(附録) 関東軍参謀部	昭和6年6月24日(1931)	1綴・コピー	351

Sub-Series No.2: 建国

建国前後の事情(目録) 松井仁夫	昭和30年1月14日(1955)	1綴・ペン	352
満洲国建国大要(特に建国工作、建国運動について)		1綴・活版・ペン	353
満洲国建国小史 満洲国資政局弘法処	大同1年6月(1932)	1綴・コピー	354
建国(大同二年度満洲国現勢)	昭和8年12月31日(1933)	1綴・コピー	355
満洲事変の思い出 守島伍郎〔元外務省垂細垂局第1課長〕	昭和41年9月(1966)	1綴・活版	356
自治指導部・資政局関係資料 自治指導部	昭和6年(1931)	1綴・活版・コピー	357
満洲建国記 金井章次〔上田新聞〕	昭和40年2月15日(1965)	1綴・活版	358
満洲事変後軍部監督下に在る施政及び建国の運動と準備 趙欣伯		1綴・コピー	359
青年大陣容を布地せよ 笠木良明〔大東亜建設社〕	昭和15年3月5日(1940)	1綴・ペン	360
自治指導部鉄峯政府について 甲斐政治	昭和43年(1968)	1綴・コピー(一部判読不可)	610

Sub-Series No.3: 外交

米国新聞記者の見た日本と満洲 日本新聞協会		1綴・コピー	361
満華日三国国交調整の概観	康德8年1月(1941)	1綴・ペン	362
満洲国の外交(満洲国現勢より)		1綴・コピー(一部判読不可)	363
北支問題弁論根拠案(満洲事変に於ける北支内蒙古関係及中共) 片倉衷	昭和21年11月22日(1946)	1綴・コピー(一部判読不可)	364
世界的見地より見たる満洲問題 ジョルジ・ボノー〔仏国文学博士〕	昭和7年5月(1932)	1綴・コピー(一部判読不可)	365
治外法権撤廃(満洲国現勢より抜粋)		1綴・コピー(一部判読不可)	366

Sub-Series No.4: 協和会

満洲国と協和会 尾崎秀実	昭和15年12月(1940)	1綴・ペン	367
満洲国の根本理念と協和会の本質 関東軍司令部	昭和11年9月18日(1936)	1綴・コピー・ペン	368
千振の概況(附、協和会千振分会概況) 満洲帝国協和会中央本部開拓科	[昭和14]年(1939)	1綴・活版	369
民族協和の危機とその発展 真井潔	昭和18年4月24日(1943)	1綴・コピー	370
満洲帝国協和会関係資料 石川博見・古市春彦	[康德6]年(1939)	1綴・活版・コピー(一部判読不可)・ペン	371
協和会運動基本要綱(附、植田声明) 満洲帝国協和会	康德10年(1943)	1綴・ペン・コピー(一部判読不可)	372
協和会行動綱領の制定と国民運動の発展 佐藤岩之進	昭和20年4月7日(1945)	1綴・コピー	373
満洲帝国協和会の本質其他に就て・満洲帝国協和会に就て 片倉衷[日本外交協会]		1綴・コピー(一部判読不可)	374
建国精神と王道・国本維新の道考・国本の確立(建国大学研究院研究期報より抜萃) 西晋一郎・重松信弘・作田荘一	康德9年(1942)	1綴・コピー(一部判読不可)	375

Sub-Series No.5: 祭祀

建国神廟関係 張景恵[國務総理]・神社新報社・中国調査室	康德7年7月15日(1940)	1綴・コピー・活版	376
林出日記より(満洲国皇帝行走として)・清朝皇帝系図 林出資次郎	昭和40年(1965)	1綴・コピー(一部判読不可)	377
国本奠定と惟神の道 八束清貫	康德8年12月5日(1941)	1綴・ペン	378

Sub-Series No.6: 総務

組織法・帝位継承法	大同1年1月(1932)	1綴・コピー(一部判読不可)	379
満洲国基本国策大綱 満洲帝国政府	康德9年12月8日(1942)	1綴・コピー(一部判読不可)	380
満洲国の文官制度 双川喜文	昭和16年1月(1941)	1綴・ペン・コピー	381
臨時国勢調査報告(第一巻 全国編) 國務院総務庁 臨時国勢調査事務局	康德7年(1940)	1綴・コピー	382
国民手帳制度について 指紋管理局	慶徳10年7月(1943)	1綴・ペン	383
臨時国勢調査の結果を顧みて(抜萃) 広庭等	康德7年12月(1940)	1綴・ペン	384
民籍関係法例集 政府広報	康德10年12月21日(1943)	1綴・コピー・ペン	385
地籍整理とその諸政に及ぼす影響(附 土地等級審査委員会官制) 相良政行	康德9年9月(1942)	1綴・ペン	386

満洲国官吏の北支人事往来 鳥谷寅雄〔満洲国産業部資料科〕	康德4年11月(1937)	1綴・活版・ペン	387
満洲帝国暫行民籍法解説 新関勝芳	康德5年3月28日(1938)	1綴・コピー(一文文字擦れ)	388
観察制度に就て(附 法令集) 木村常治・政府広報	康德10年12月(1943)	1綴・ペン・コピー	389
今次行政機構改革の要点 溝部孝〔総務庁参事官〕	康德10年10月(1943)	1綴・ペン	390
監察制度の強化刷新 大塚忠夫〔総務庁参事官〕	康德6年6月(1939)	1綴・ペン・活版	391
山口重次氏の満洲国史編纂意見 山口重次〔元満洲国協和会中央事務局次長〕	昭和39年6月17日(1964)	1綴・ペン	392
満洲国秘話 武藤富男〔明治学院院長〕	昭和42年2月15日(1967)	1綴・活版	393
満洲国秘話 武藤富男〔明治学院院長〕	昭和42年2月15日(1967)	1綴・活版	394
我邦の監察制度に就て 高綱信次郎	康德8年9月(1941)	1綴・ペン	395
軍司令官より駒井長官以下満洲国官吏に与ふる要望事項(案) 三宅光治〔関東軍参謀長〕	昭和7年5月(1932)	1綴・コピー	396
特任官・特任官待遇・前官礼遇人名簿 國務院総務庁□□寮		1綴・ペン・コピー(一部判読不可)	397

Sub-Series No.7: 地方

郷村建設理論(抜萃) 梁漱溟・池田克己	昭和15年10月10日(1940)	1綴・コピー(一部判読不可)	398
王永江の県知事学 小宮圭一	康德9年8月(1942)	1綴・ペン・コピー	399
地方行政機構の改革について 松木俠	康德8年2月(1941)	1綴・ペン	400
撫松県人参問題調査報告(附、通化省山貨統制規則人参販売価格) 呂俊福〔農林科長〕	康德5年2月(1938)	1綴・ペン・コピー	401
地方行政の総合性に就て 古谷鳳	康德7年12月(1940)	1綴・ペン	402
「村建設要綱」をめぐる二人の対話 野津朗	康德11年1月(1944)	1綴・コピー・ペン	403
村建設要綱	康德12年6月1日(1945)	1綴・ペン・コピー	404
「村建設要綱」をめぐる二人の対話 野津朗	康德11年1月(1944)	1綴・ペン	405
国民隣保組織に関する解説	康德8年3月(1941)	1綴・ペン	406
満洲国に於ける市の組織及構成上の特異性		1綴・ペン	407
地方財政制度の全面的整備要綱	康德8年1月(1941)	1綴・ペン	408
地方行政に於ける中央と地方-興農合作社設立を巡る動きから- 東哲郎	康德7年7月7日(1940)	1綴・ペン	409
村建設要綱	康德12年6月1日(1945)	1綴・コピー	410
地方人事当面の重要問題 岡本忠雄	康德8年6月(1941)	1綴・ペン	411
地方行政運営の重点-特に隣保共助制度、協和会との関係- 菅太郎〔地方処長〕	康德8年5月(1941)	1綴・ペン	412

各県臨時改組弁法その他 地方税制		1綴・ペン・コピー	413
国民隣保組織の実績を視る 橋本不二男	康德8年8月(1941)	1綴・ペン	414
満洲の地方行政 山本和一	康德7年11月(1940)	1綴・ペン	415
東満地方行政以降の改正に就て 柏村信雄		1綴・ペン	416
黒河省特別完成廃止及県制県官制施行並に嫩江県編入に関する小考		1綴・ペン	417
一、地方処の新設と地方行政当面の諸問題 二、県制現場記(其の一)-募兵実施を中心として- 牛島晴男〔企画処事務官〕		1綴・コピー	418
地方行政の総合化への一考察 川島馨	康德8年(1941)	1綴・ペン	419
「村建設要綱」をめぐる二人の対話 野津朗	康德11年1月(1944)	1綴・コピー	420
奉天省村落自治体の発展過程(王永江の区村制度) 関口要蔵〔奉天省事務官〕	康德5年4月(1938)	1綴・ペン	421
地方行政の刷新強化に就て	康德11年8月(1944)	1綴・ペン	422
地方行政当面の重点 門脇惇	康德7年(1940)	1綴・ペン	423
自興村設置に就て 川島馨	康德9年6月(1942)	1綴・ペン	424
街村育成の諸問題-主として村建設要綱を中心として- 川島馨	康德11年(1944)	1綴・ペン	425

Sub-Series No.8: 治安

一心隊事件〔藤川宥二〕	昭和43年6月17日(1968)	1綴・コピー	426
四角地帯の匪賊	昭和8年(1933)	1綴・謄写版	427
満洲国軍参考資料 1.富田佐一メモ 2.政府広報写し 3.年表 4.終戦時の国軍(一部) 5.篠田氏よりの訂正書類 6.国軍史引用資料一覧表〔藤川宥二〕		1綴・ペン・コピー	428
北辺振興計画の概要-第一年度実績-	康德8年(1941)	1綴・ペン	429
鉄警の沿革	昭和38年1月30日(1963)	1綴・謄写版	430
北辺振興計画概要 岩野見斉	康德7年5月(1940)	1綴・ペン	431
永田美那子の宣撫工作 永田美那子	昭和42年6月15日(1967)	1綴・ペン・謄写版	432
張鼓峰事件と国境問題	昭和13年9月(1938)	1綴・ペン	433
江防艦隊写真帳より	康德2年10月(1935)	1綴・コピー	434
今次警察体制刷新整備の概要(附 防空特別措置法) 門脇惇	康德11年8月(1944)	1綴・ペン	435
満蘇国境紛争事件の全貌	昭和12年7月(1937)	1綴・コピー(一部判読不可)	436

ソ連の対支積極的援助の可能性の有無 岸谷一郎 | 昭和6年11月7日(1931) | 1綴・コピー | 437

Sub-Series No.9: 財政

満洲国税関概史(抜萃)	康德11年(1944)	1綴・コピー(一部文字擦れ)	438
地方税の増税に就て 浜田健治	康德9年2月(1942)	1綴・ペン	439
地方費予算概論 渡辺文兵衛	4月	1綴・ペン	440
明治以降卸売物価指数	[昭和43]年(1968)	1綴・ペン・コピー	441
地方財政調整資金特別会計について 図師亮[内務局]	康德5年6月(1938)	1綴・ペン	442

Sub-Series No.10: 経済

金融合作社七年史(抜萃)	康德6年12月30日(1939)	1綴・コピー(一部判読不可)	443
満洲国国籍並会社国籍 及資本方策	昭和10年9月(1935)	1綴・コピー(一部判読不可)	444
最近の金融事情 横山[經濟部金融司長]	康德9年12月(1942)	1綴・ペン	445
満洲国特殊会社概況 満蒙同胞援護会	康德9年(1942)	1綴・ペン	446
満洲産業統制方策の転換 島崎憲一	康德7年5月(1940)	1綴・ペン	447
満洲計画経済の諸問題 松山茂二郎	康德7年6月(1940)	1綴・ペン	448
満洲の経済並に金融に就いて 田中鉄三郎[前南満洲中央銀行総裁]	昭和15年7月(1940)	1綴・謄写版	449
満洲経済政策に就いて 池松勝	昭和15年1月16日(1940)	1綴・ペン	450
満洲国経済統計(長島勝介氏蔵)		1綴・コピー(一部判読不可)	451
大東亜金融圏と満洲金融機構 北村善吉		1綴・ペン	452
満洲国経済建設論 河西太一郎	昭和16年5月(1941)	1綴・ペン	453
満洲中支経済会議報告書 伊藤博[經濟部参事官]	康德8年3月(1941)	1綴・活版	454
満洲経済の役割とその進路 遠山信夫	昭和16年10月(1941)	1綴・ペン	455
日満支経済の結合政策 山崎靖純[山崎経済研究所長]	昭和13年2月(1938)	1綴・ペン	456
朝鮮銀行概況 朝鮮銀行回顧録より抜粋 飯泉幹太・津村甚之助		1綴・ペン	457
日満支ブロック経済と株式会社 日産移駐問題 江口行雄[彦根高商教授]	昭和13年2月(1938)	1綴・ペン・コピー	458
聖山随想 青木一男	昭和34年1月(1959)	1綴・コピー(一部文字擦れ)	459
聖山随想 青木一男	昭和34年1月(1959)	1綴・コピー(一部文字擦れ)	460
産業部関係法令集		1綴・ペン・活版	461

本邦輸移入品取引改善ニ関スル提唱-北満現地調査終了ニ際シテノ断想- 臨時産業調査局第1科第3班	康德3年11月1日(1936)	1綴・活版	462
満洲国為替管理法の改正強化に就て 横山龍一〔満洲国經濟部金融科長〕	昭和13年1月(1938)	1綴・ペン	463
満洲国産業開発 第二次五年計画基本要綱		1綴・ペン・謄写版	464
産業開発五ヶ年計画 第三年度実績総括表 満洲国政府	康德7年5月(1940)	1綴・コピー	465
康德元年度実業部署管要求予算中臨時産業調査局設置ニ関スル件 実業部総務司	康德1年3月(1934)	1綴・活版	466
満洲評論 一.特種会社制度の再吟味(特種会社制度と満業) 二.産業資金調達と特殊会社機構 三.満洲戦時経済の現段階 四.満洲、華北間の金融紐帯強化 徳田忠成・石野三作・岩崎健克		1綴・コピー	467
満洲の紙幣制度 日本銀行調査局	昭和42年11月(1967)	1綴・コピー	468

Sub-Series No.11: 鉱工

鮎川の満洲進出 安部楠太郎	昭和12年(1937)	1綴・ペン	469
満業創設の経緯 片倉衷〔当時関東軍参謀〕	昭和26年9月18日(1951)	1綴・コピー(一部文字擦れ)	470
満業の創設(日産の満洲移転)の経緯 片倉衷〔当時関東軍参謀〕	昭和26年9月18日(1951)	1綴・コピー(一部文字擦れ)	471
満洲の塩業		1綴・コピー	472
満洲国鉱業部門資料 赤瀬川安彦		1綴・ペン	473
鉱業行政の現況 原幸夫〔經濟部鉱山司鉱務科長〕	康德10年11月(1943)	1綴・ペン	474
康德七年度工務司関係主要政策要綱集	康德7年(1940)	1綴・活版	475
満洲国工業行政関係資料集(人事・機構を含む) 1.中小企業の移転 2.技能者育成 3.北支への日系官吏 4.各種工業の増産体制	昭和16年4月12日(1941)	1綴・活版	476
機会工業科引継事項	康德8年5月(1941)	1綴・活版	477
東北(満洲)方面に於ける電力事業の歴史的研究(一九五五年頃まで)		1綴・ペン	478
満洲評論 一.満洲石炭統制の現段階 二.特輯 満洲石炭増産問題 1.満洲炭鉱業の隘路とその打開策 2.炭鉱労務対策の視覚 津川勇・杉戸弥・天沢不二郎		1綴・コピー	479

Sub-Series No.12: 興農

興農増産施策の重点 黄富俊〔興農部大臣〕	康德10年9月(1943)	1綴・ペン	480
----------------------	---------------	-------	-----

農産物蒐荷促進に就て 阮振鐸〔經濟部大臣〕	康德10年9月(1943)	1綴・ペン	481
集蒐を顧みて 渡辺泰臣	康德11年2月(1944)	1綴・ペン	482
重要特産物配給統制について 農務司特産科		1綴・ペン	483
決戦下の興農政策 牧野克己	康德11年1月(1944)	1綴・ペン	484
決戦蒐荷と各部の対策 編輯部	康德10年9月(1943)	1綴・ペン	485
満洲農業開発十ヵ年計画要綱 興農部	康德7年8月24日(1940)	1綴・活版	486
移植農機具工場所要資金調 満洲拓殖公社	康德7年12月(1940)	1綴・活版	487
興農部大観 文書科	康德7年9月16日(1940)	1綴・活版	488
畜産開発の現況 井上実〔興農部技士〕	康德11年6月(1944)	1綴・ペン	489
農産物増産蒐荷方策と新穀収買価格に付て 結城清太郎	康德8年8月(1941)	1綴・ペン	490
日満を通ずる食糧の自給態勢の確立を期す 稲垣征夫〔興農部次長〕	康德11年3月(1944)	1綴・ペン	491
一、農業政策前進のために(覚え書) 二、農産物蒐荷より増産へ 横山敏男・二宮武治	昭和17年8月22日(1942)	1綴・コピー	492
興農合作社関係資料(満洲における農業政策の諸問題・満洲農業概要・興農合作社運動の躍進) 満洲評論社・満洲事情案内所	康德7年(1940)	1綴・コピー	493

Sub-Series No.13: 開拓

緊急増産と北満開拓 上田知作〔北安省開拓庁長〕	康德11年9月(1944)	1綴・ペン	494
満洲国開拓根本政策基本要綱(満洲現地案)	昭和14年1月10日(1939)	1綴・コピー	495

Sub-Series No.14: 交通通信

満鉄調査部論 吉田公平	昭和16年9月(1941)	1綴・ペン	496
日本の戦時海運統制(船舶運営会々史抜萃) 船舶運営会	昭和22年6月(1947)	1綴・コピー(一部判読不可)	497
交通部関係		1綴・コピー(一部文字擦れ)	498
交通行政の滲透を期し機構の改革を加ふ 田岡八郎〔交通部次長〕	康德11年3月(1944)	1綴・ペン	499
国際運輸株式会社沿革小史	昭和18年12月30日(1943)	1綴・ペン	500

Sub-Series No.15: 建設

技術夜話(松花江「豊満ダム」建設の思い出) 山本将雄		1綴・活版	501
満洲国の国都建設 佐野利器〔工学博士〕・久路会・建築学会新京支部	昭和8年6月22日(1933)	1綴・コピー・活版・フィルム	502
国境建設関係綴 産業部	康德6年3月(1939)	1綴・活版	503

悠久の豊満ダムは生きている 空閑徳平	昭和54年2月15日 (1979)	1綴・コピー	745
--------------------	----------------------	--------	-----

Sub-Series No.16: 礼教

満洲帝国文教年鑑(抜萃) 満洲帝国民生部	康德5年5月(1938)	1綴・コピー(一部文字擦れ)	504
満洲国少数民族教育事情(抜萃) 文教部学務司	康德1年3月(1934)	1綴・コピー	505
大同学院	康德5年10月27日 (1938)	1綴・コピー・ペン	506
文教審議会答申及建議(附 文教錬成所官制・文教審議会官制)	康德11年10月(1944)	1綴・コピー(一部文字擦れ)・ペン	507
学校教育(満洲年鑑)	昭和20年(1945)	1綴・コピー(一部判読不可)	508
満洲国の宗教教育に就て 青野洞門	康德7年5月(1940)	1綴・ペン	509
満洲国内の喇嘛教 高綱信次郎	康德2年6月(1935)	1綴・コピー	510
満洲風土記 寺田喜治郎		1綴・活版	511
建国大学・建国大学研究院要覧(康德十一年度) 建国大学	康德11年(1944)	1綴・コピー(一部判読不可)	512
一、満洲国の教育 二、現下の満洲国初等教育について 池田孝・佐々一郎	昭和14年2月18日 (1939)	1綴・コピー	513
文教審議会答申及建議・文教審議会及国民体育錬成所官制 張景恵[文教審議会会長]	康德11年10月(1944)	1綴・コピー(一部判読不可)	514

Sub-Series No.17: 学芸

美術関係・満洲の文化 春山行夫	康德5年(1938)	2綴・コピー	515
満洲文化の創建 大瀧重直	昭和17年9月(1942)	1綴・ペン	516
大陸科学院要覧(抜萃) 満洲国々務院	康德6年6月(1939)	1綴・コピー	517

Sub-Series No.18: 民生

労務行政の現状に就て 大島一男[民生部労務科長]	康德10年10月(1943)	1綴・ペン	518
満洲労働事情綜覧 満鉄経済調査会	昭和11年(1936)	1綴・コピー・ペン	519
人民総服役制問題の再燃 橋本不二夫	康德8年12月(1941)	1綴・ペン	520
満洲労働統制方策 満鉄経済調査会	昭和10年11月(1935)	1綴・コピー	521
国民勤労奉公制の理念 于長運[勤労奉公局参事官]	康德10年10月(1943)	1綴・ペン	522
満洲国国民勤労奉公隊 半田敏治[大同学院教授・満洲国協和会中央本部委員]	昭和40年7月(1965)	1綴・コピー(一部判読不可)	523
一、労務管理の再出発 二、労務管理より観たる労需問題 天沢不二郎・津川勇	昭和20年1月27日 (1945)	1綴・コピー	524
一、満洲労務管理の課題 二、満洲戦時労務態勢の方途 見玉繁夫・天沢不二郎	昭和17年8月1日(1942)	1綴・コピー	525

馴鹿鄂倫春族 鷺崎研太〔治安部参謀司調査課長〕	康德6年10月20日 (1939)	1綴・コピー(一部判読不可)	526
満洲に於ける鄂倫春族の研究 第一篇 鷺崎研太〔治安部参謀司調査課長〕	康德6年9月15日(1939)	1綴・コピー(一部判読不可)	527
「オロチヨン」民族の沿革 治安部分室	康德7年7月(1940)	1綴・コピー(一部判読不可)	528
「オロチヨン」民族の特質 治安部分室	康德7年5月(1940)	1綴・コピー(一部判読不可)	529
増産蒐荷と禁煙行政(附 阿片禁煙協会法) 幸康一〔禁煙総局〕	康德10年8月(1943)	1綴・ペン・コピー	530
労工中の阿片魔薬癮者対策(昭和製鉄所に於て実施された対策について) 幸康一〔禁煙総局技生〕	康德11年1月15日 (1944)	1綴・ペン	531
満洲の労務新体制 福田晴夫	康德9年2月(1942)	1綴・ペン	532
国内労務体制整備の急務 床田順一〔黒河省動員科長〕	康德11年2月(1944)	1綴・ペン	533
康德七年版 満洲労働年鑑抜萃(符 労働年鑑抜萃) 満洲勞工協会編	康德8年(1941)	1綴・コピー	534
労務、勤奉関係法規集 政府広報	康德5年2月26日(1938)	1綴・ペン・コピー	535

Sub-Series No.19: 蒙古

蒙政機構整備に就て 竹村茂昭〔総務庁参事官〕	康德10年9月18日 (1943)	1綴・ペン	536
蒙旗の土地制度に就て(符 蒙地管理要綱) 嶺北		1綴・ペン・謄写版	537
蒙旗行政の重点 黒田正七郎	康德8年6月(1941)	1綴・ペン	538
終戦後の興蒙対策の破滅 岡部理		1綴・コピー(一部判読不可)	539
興安総署における終戦処理 岡部理		1綴・コピー(一部判読不可)	540
蒙古語と蒙古語調査委員会の設置について 萩原長一郎〔建国大学助教授〕	康德11年5月(1944)	1綴・ペン	541

Sub-Series No.20: 戦時

対時局建言 片倉衷〔関東軍参謀〕	昭和7年3月15日(1932)	1綴・コピー(一部判読不可)	542
急速なる戦力化により決戦の時に応えん 青木実〔經濟部次長〕	康德11年3月(1944)	1綴・ペン	543
戦時予算 政府広報	康德8年(1941)	1綴・コピー	544
一、戦時インフレーションと平衡資金制度 二、満洲物価の情勢と物価対策 鯨井祥蔵・西條愛一郎	昭和20年3月10日 (1945)	1綴・コピー	545
戦時法令・要綱集 政府広報	康德8年(1941)	1綴・コピー	546
終戦時における佳木斯特務機関の活動概況		1綴・コピー	746

Sub-Series No.21: 終戦

新京崩るゝの日(終戦当時の状況) 宮崎專一		1綴・活版	547
ソ連軍による在満産業施設(電力その他)被害調査		1綴・活版	548
昭和史の天皇	昭和43年4月(1968)	1綴・活版	549
悲惨な満洲国崩壊の日 一水伝	昭和42年6月1日(1967)	1綴・活版	550
終戦後における満洲(中国東北)日本人状況“中国東北社会の変革と日本民族百万の移動” 山本紀綱〔満蒙同胞援護会〕		1綴・コピー(一部判読不可)	551
一.東北公司関係報告並びに残された業務完結対策案 二.金塊搬出顛末報告 中村孝〔東北公司創設者〕	昭和38年8月15日(1963)	1綴・活版	552
終戦記録 来民開拓団の終焉 曠野の涯…労街基開拓団… 大青森郷開拓団遭難記 ウランバトルのかんざし草 新京の状況 鎌田慎一・石原努・川浪元・清水正二郎・小野寺直助ほか		1綴・ペン	553

Sub-Series No.22: 裁判

戦犯 奉天日記 脇野充義	昭和28年11月3日(1953)	1綴・コピー(一部文字擦れ)	554
板垣征四郎被告手記 満洲事変要点雑記 板垣征四郎	昭和21年8月(1946)	1綴・コピー(一部文字擦れ)	555
片倉衷証人関係 極東国際軍事裁判速記録 片倉衷	昭和22年3月(1947)	1綴・コピー(一部文字擦れ)	556
満洲建国の真義 片倉衷		1綴・コピー(一部文字擦れ)	557
満洲事変の原因(事変直前における緊迫せる事態) 片倉衷		1綴・コピー(一部文字擦れ)	558
石原中将供述書 石原完爾		1綴・コピー	559
満洲事変冒頭陳述(案) 片倉衷		1綴・コピー	560
満洲事変弁論骨幹案 片倉衷	昭和21年年11月16日(1946)	1綴・コピー(一部判読不可)	561
満洲事変が侵略戦争に非ず且国際法條約協定に反せざる立証 片倉衷		1綴・コピー(一部文字擦れ)	562
武部六蔵判決記録		8枚・コピー	747

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

Series No.5: 業務資料

Sub-Series No.1: 総論

満洲問題之解決 高橋作衛〔法学博士〕	明治37年2月17日 (1904)	1冊・活版	783
--------------------	----------------------	-------	-----

Sub-Series No.2: 政府

満洲国政府組織表 国際善隣協会		1綴・謄写版	563
北支の欧米文化勢力に対する対策私案 守谷猛雄〔支那駐屯軍囑託〕	昭和10年12月14日 (1935)	1綴・活版	599

Sub-Series No.3: 財政経済

列国の支那に於ける経済的姿勢 小野儀七郎		1綴・活版	603
満支国境経済調査報告書 井上立〔山海関税関〕	康德2年5月(1935)	1冊・活版	728
関東洲を中心とする関税制度改正案 鳥山〔産業部大連執務室事務官〕	康德5年3月(1938)	1綴・活版	569
北支経済工作第一次草案 満洲国産業部大臣官房	康德4年7月(1937)	1綴・活版・謄写版	576
北支経済工作ニ関スル基本的考察その他 鳥谷寅雄〔満洲国産業部資料科〕	康德4年10月(1937)	1綴・活版	577
北支経済工作に関する件 満洲国産業部	康德4年10月(1937)	1綴・活版	578
北支工作要綱 満洲国産業部	康德4年10月(1937)	1綴・活版	579
北支経済之現状ト列国権益之概要 東亜産業協会	康德2年1月(1935)	1綴・活版	580
北支経済工作に関する基本的考察 鳥谷寅雄〔満洲国産業部資料科〕	康德4年11月(1937)	1綴・活版	729
輸入品調査関係書類 鳥谷〔事務官〕	康德3年5月(1936)	1綴・活版	571
対支貿易政策 支那駐屯軍司令部	昭和11年3月(1936)	1綴・活版・謄写版	592
河東塩々務業叢集 支那駐屯軍司令部	昭和13年(1938)	1綴・活版・謄写版	593
北支産業調査(含冀東) 支那駐屯軍司令部	昭和10年9月(1935)	1綴・活版	594
河北省財政 支那駐屯軍司令部	昭和10年12月(1935)	1綴・活版	595
北支貿易資料 支那駐屯軍司令部	昭和10年(1935)	1綴・活版	596
天津の紡績問題 支那駐屯軍司令部	昭和11年2月(1936)	1綴・活版	597
中国に於ける日本紡績事情 乙囑託班工業班	昭和11年2月(1936)	1綴・活版	598
天津に於ける紡績工業・中国沙廠一覽表 乙囑託班工業班・南満洲鉄道株式会社	昭和11年2月(1936)	2綴(1封筒)・活版	606

Sub-Series No.4: 鉱工業

中国油田略図		1枚・ペン	748
北平機会工業調査 支那駐屯軍司令部	昭和10年11月(1935)	1綴・活版	589
龍烟鉄鉱開発ニ関スル参考資料(同文二冊) 支那駐屯軍司令部	昭和11年6月(1936)	1綴・活版	590
重要産業統制関係綴 国際善隣協会		1綴・活版	564
産業開発五箇年計画 烏谷事務官〔臨時産業調査局〕	康德3年(1936)	1綴・活版	565
産業開発五ヶ年計画第三年度実績総括表 満洲国政府	康德7年5月(1940)	1綴・活版	567
論文〔機械工業関係〕 烏谷寅雄		1綴・活版	570
停戦地区内の工業概況 支那駐屯軍司令部	昭和11年12月(1936)	1綴・活版・ペン	585
北支セメント工業対策案 乙囑託班工業班	昭和11年4月(1936)	1綴・活版	600
山東省の燐寸工業 青島在勤員事務所	昭和10年5月(1935)	1綴・謄写版	601
河北省四県金鉱区一覧表		1綴・活版	602
河北省の一般資源に就て 小野儀七郎	昭和10年10月7日(1935)	1綴・活版	604
支那鉱業時報 第74号 南満洲鉄道株式会社地質調査所	昭和5年8月28日(1930)	1冊・活版	731
支那鉱業時報 第81号 特輯号 南満洲鉄道株式会社地質調査所	昭和9年9月1日(1934)	1冊・活版	732
支那鉱業時報 第81号 特輯号 南満洲鉄道株式会社地質調査所	昭和9年9月1日(1934)	1冊・活版	733
支那鉱業時報 第82号 南満洲鉄道株式会社地質調査所	昭和9年12月1日(1934)	1冊・活版	734
支那鉱業時報 第82号 南満洲鉄道株式会社地質調査所	昭和9年12月1日(1934)	1冊・活版	735
支那鉱業時報 第83号 南満洲鉄道株式会社地質調査所	昭和10年9月1日(1935)	1冊・活版	736
支那鉱業時報 第83号 南満洲鉄道株式会社地質調査所	昭和10年9月1日(1935)	1冊・活版	737
支那鉱業時報 第83号 南満洲鉄道株式会社地質調査所	昭和10年9月1日(1935)	1冊・活版	738
支那鉱業時報 第84号 南満洲鉄道株式会社地質調査所	昭和11年5月1日(1936)	1冊・活版	739
支那鉱業時報 第85号 南満洲鉄道株式会社地質調査所	昭和11年6月1日(1936)	1冊・活版	740
支那鉱業時報 第86号 南満洲鉄道株式会社地質調査所	昭和11年10月15日(1936)	1冊・活版	741
満洲炭鉱株式会社概要 満洲炭鉱株式会社	康德4年3月(1937)	1冊・活版	742

Sub-Series No.5: 興農開拓

北支農村対策 支那駐屯軍司令部満鉄経済調査会	昭和11年3月(1936)	1綴・活版・ペン	591
棉花 小野		1綴・活版	608
順徳に於ける羊毛皮調査・平綏沿線の畜産概況 支那駐屯軍司令部	昭和10年6月7日(1935)	1綴・謄写版	609
地質調査報告書附図	昭和10年5月(1935)	1封筒(11枚)・活版	743
満洲の我移民村 岸井寿郎〔東京日日新聞前政治部長・現営業局次長〕	昭和9年1月16日(1934)	1冊・謄写版	782
康徳五、六年度農産開発五ヶ年計画及実績 産業部農政司	康徳6年4月3日(1939)	1綴・活版	566
察哈爾省特別調査報告(第一班) 満洲経済調査会	昭和10年1月(1935)	1綴・活版	583
冀察一般資料 小野儀七郎	昭和10年10月(1935)	1綴・活版・謄写版・コピー	605
長蘆塩田調査報告書 満洲経済調査会	昭和11年1月(1936)	1綴・活版・謄写版	582
察哈爾省資源調査隊張家口班報告書 第二部 農業・畜産 満洲経済調査会	昭和10年9月(1935)	1綴・活版	581
察哈爾省資源調査張家口班報告書(商業編) 満洲経済調査会	昭和10年9月(1935)	1綴・活版・コピー	584
北支食糧の需給に関する研究 支那駐屯軍司令部	昭和10年11月(1935)	1綴・活版	586
冀東区資料 小野儀七郎	昭和11年2月(1936)	1綴・活版	607
第二次冀東農村実態調査報告書 統計篇 南満洲鉄道株式会社	昭和12年9月1日(1937)	1冊・活版	730
満洲国基本国策大綱他	康徳9年(1942)	1封筒・墨書	744-1
懇談事項の取扱 大東亜省	昭和18年10月18日(1943)	1綴・謄写版	744-2
満洲大豆の問題	7月28日	3枚・謄写版	744-3
満洲国基本国策大綱他 満洲帝国政府	康徳9年12月8日(1942)	1綴・謄写版	744-4
戦時緊急農産物増産方策要綱 国務院	康徳10年1月20日(1943)	1綴・謄写版	744-5
農産物輸出価格引上に関する件		1綴・謄写版	744-6
大東亜審議会第十部会の運営に関する件	昭和18年7月24日(1943)	1綴・謄写版	744-7
満洲増産対策懇談会		1綴・謄写版	744-8
鉄鉦応急増産対策要綱 満洲国政府	康徳10年10月10日(1943)	1綴・謄写版	744-9
アルミニウム緊急増産対策要綱 満洲国政府	康徳10年10月10日(1943)	1綴・謄写版	744-10
満洲農業関係参考資料		1綴・謄写版	744-11
満洲国農政年表(暫定稿)		1綴・謄写版	744-12

開拓民並青年義勇隊入植確保の為採るべき方策		1綴・謄写版	744-13
満洲国主要農産物増産計画対照表		1枚・謄写版	744-14
消費者負担となるべき金額表		1枚・謄写版	744-15
軍需、輸出、国内別負担額表		1枚・謄写版	744-16
農産物販売価格引上額その他表	康德11年7月(1944)	1綴・謄写版	744-17
緊急農地造成計画一覽表 開拓総局	康德10年10月10日(1943)	1綴・謄写版	744-18
対日輸出農産物増産確保方策		1綴・謄写版	744-19

Sub-Series No.6: 交通通信

輸送関係調査要綱案 臨・産・調	康德3年(1936)	1綴・活版	568
国際運輸株式会社関係書類 一、満洲農産物増産蒐荷及配給部面ノ合理化類考 一、満洲農産物小運送円滑化ニ関スル件 一、大東亞戦前夜ノ社業概況 一、戎克貿易 一、第一回業務調査委員会議事録 一、小運送統制ヲ目途トスル実行計画説明		1綴・活版	572
歴代社長訓示集 国際運輸株式会社		1綴・活版	573
国際運輸株式会社関係切抜帖		1綴・活版・ペン	575
国際運輸株式会社社報その他		1綴・活版	574

Sub-Series No.7: 建設

冀東地区内治水・水利・運河計画案 支那駐屯軍調査部本荘囑託	昭和11年3月(1936)	1綴・活版	588
新京吉林国道 国道局新京建設処	康德2年6月(1935)	1綴・活版	614
実験村建設記録 蓋平県和尚村公所	昭和13年1月(1938)	1綴・コピー	613
満洲国並接壤地域水系別河川誌満洲国河川概説 関東軍参謀部	昭和10年3月(1935)	1綴・コピー	615
試験報告第一三二号 (松花江)北満地方凍結状態調査に就て(中間報告) 南満洲鉄道株式会社中央試験所沙河研究所	昭和8年8月(1933)	1綴・コピー	616
河川の治水(第3回満洲国道路講習会講演集抜萃) 橘内徳治[交通部航路司]		1綴・活版・コピー	617
治水計画二伴フ拓地第一次計画案 国道局第2技術処	康德3年5月(1936)	1封筒・活版・謄写版	618
満洲河川の特異性に就て 橘内徳治[工学士交通部水路司河川工務科長]		1綴・コピー	619
満洲の河川に就て 原口忠次郎[土木局第2工務処長]	康德4年7月・9月(1937)	1封筒・コピー	620
満洲の河川 照井隆三郎[交通部治水調査所長・交通部技正]	昭和18年9月(1943)	1封筒・活版・コピー	621

満洲国河川図 遼河松花江浸水図 北満河川主要地距離図		1封筒・活版・コピー	622
満洲河川要覧 交通部航路司調査科	康德6年2月(1939)	1冊・コピー	623
一.GAGING STATIONS FOR MANCHURIAN RIVERS(水位) 二.年等雨量図 大同元年度 康德元年度 〃 二年度 〃 三年度 日本河川協会・国道局		1封筒・活版・コピー	624
地図区域一覧表		1封筒(11枚)・謄写版	625
満洲国河川基本調査 佐藤純孝〔交通部治水調査処技佐〕	康德10年1月6日(1943)	1冊・コピー	626
満洲国河川図(特大)		1封筒・謄写版	627
康德四年度降水量蒸発量逐月変遷図	康德4年(1937)	1封筒・ペン	628
鴨緑江岸図		1封筒・謄写版	629
満洲平均気温及降水量図 満洲国産業界大臣官房資料科	康德6年4月(1939)	1冊・活版	630
満洲国並接壤地域水系別河川誌附表水系別量水標個所水位年表 関東軍参謀部	昭和10年3月(1935)	1冊・謄写版	631
満洲国並接壤地域水系別河川誌附表水系別量水標個所水位年表 関東軍参謀部	昭和10年3月(1935)	1冊・コピー	632
満洲国並接壤地域水系別河川誌附表降雨量統計年表 関東軍参謀部	昭和10年3月(1935)	1冊・謄写版	633
満洲国並接壤地域水系別河川誌附表降雨量統計年表 関東軍参謀部	昭和10年3月(1935)	1冊・コピー	634
満洲国並接壤地域水系別河川誌附表水系別河川調査表 関東軍参謀部	昭和10年3月(1935)	1冊・活版	635
満洲国並接壤地域水系別河川誌附表水系別河川調査表 関東軍参謀部	昭和10年3月(1935)	1冊・コピー	636
満洲国並接壤地域水系別河川誌附表降雨量並蒸発量年表 関東軍参謀部	昭和10年3月(1935)	1冊・謄写版	637
満洲国並接壤地域水系別河川誌附表降雨量並蒸発量年表 関東軍参謀部	昭和10年3月(1935)	1冊・コピー	638
黒竜江江図(第1)シルカ河口至黒河(第1図至第30図)水路部	昭和17年1月22日(1942)	1綴・活版	639
黒竜江江図(第2)黒河至ハバロフスク(第1図至第40図)水路部	昭和17年1月22日(1942)	1綴・活版	640
北満河川湖距離表 哈爾濱海軍測量隊	昭和11年5月(1936)	1綴・活版	641
北満河川湖距離表 Distance Table for Navigable Rivers in Northern Manchuria 哈爾濱海軍測量隊	昭和11年5月(1936)	1綴・コピー	642
北満河川湖距離表 哈爾濱海軍測量隊	昭和11年5月(1936)	1綴・コピー	643

額爾克納河水系河川調査表		1冊・謄写版	644
烏蘇里河 撫遠支流至湖系予河口 海軍測量隊	昭和11年4月(1936)	1綴・コピー	645
烏蘇里河 撫遠支流至湖系予河口 USSURI RIVER Translation 海軍測量隊	昭和11年4月(1936)	1綴・コピー	646
黒竜江水系路誌 下巻 水路の改良工事施設篇 南満洲鉄道株式会社庶務部調査課	大正13年8月10日(1924)	1冊・活版	647
穆稜河・興凱湖連絡運河計画案 土木局第2工務処	康德4年6月(1937)	1封筒(4枚)・活版・コピー	648
北満湿地調査ノ成果ニ基ク湿地及地質分布一覽図 関東軍参謀部	昭和15年4月(1940)	1冊・コピー	649
満洲国水路報 第2年第5号 第14号 松花江沿岸主要地水位記録 哈爾濱海軍測量隊	昭和12年7月1日(1937)	1冊・コピー	650
満洲国水路報 第1年第6号(第6号)(松花江水運の沿革 沿岸都邑) 哈爾濱海軍測量隊	昭和11年6月1日(1936)	1冊・コピー	651
松花江改修計画説明書附図 交通部	康德5年11月(1938)	1冊・コピー	652
阿什河附替計画平面図 日本河川協会		1封筒・コピー	653
東松花江江図 哈爾濱至同江 第二版 満洲国治安部	康德5年(1938)	1綴・活版	654
東松花江江図 哈爾濱至同江 第二版 満洲国治安部	康德5年(1938)	1綴・コピー	655
嫩江水系河川調査表(1)		1綴・謄写版	656
嫩江水系河川調査表(2)		1綴・謄写版	657
松花江水系河川調査表		1綴・謄写版	658
松花江水位図 (附)石材物理試験成績表	昭和12年(1937)	コピー	659
哈爾濱における松花江洪水(付表9) 佐藤俊久		1封筒(59枚)・謄写版	660
松花江流量調査		1封筒・ペン・謄写版	661
(仮製)松花江江図(哈爾濱至同江)Sungari River Charts Карта Ръки Сунгари 山川(義夫) [海軍少佐]	昭和8年3月(1933)	1冊・活版	662
松花江改修計画図五十万分之一		1封筒・活版	663
松花江下流部烏蘇里江平面図(五十万分ノ一) 満洲国治安部		1封筒・活版	664
第二松花江ノ水運調査資料 南満洲鉄道株式会社総務部事務局調査課	大正6年10月20日(1917)	1冊・コピー	665
松花江水系資料 第壹卷(水位、気象、流泥、結水) 交通部治水調査処	康德2年(1935)	1綴・コピー	666
松花江水系資料 第貳卷(水位、気象、流泥、結水) 交通部治水調査処	康德3年(1936)	1綴・コピー	667
北満河川主要寄港地日月出没時刻表(附薄明時間表) 哈爾濱海軍測量隊	昭和13年(1938)	1綴・活版	668

河川調査箇所要項記入図(附図九枚) 関東軍参謀部		1封筒(1綴・9枚)・活版・コピー	669
南滿運河に関する書類 第2技術処利水科	昭和9年4月(1934)	1綴・活版・ペン	670
奉天営口間国道局運河計画図面 国務院国道局第2技術処利水科		1封筒(5枚)・青写真	671
奉天運河橋計画洪水量の考察・康德三年度遼河水系に於ける結水解氷状況 山崎浩・交通部遼河治水調査処	康德6年4月(1939)	1綴・コピー	672
鞍山営口間運河計画案(附図3) 国務院国道局利水科	康德2年3月(1935)	1封筒(1綴・3枚)・活版・青写真	673
営口運河港計画計算書・一般平面図 交通部遼河治水調査処	康德6年5月(1939)	1封筒(1綴・10枚)・活版・コピー	674
遼河・綏芬河図們江・大凌河水系河川調査表	昭和9年6月(1934)	1綴・謄写版	675
南滿洪水図	康德4年5月(1937)	1封筒(6枚)・コピー	676
柳河治水工事竣功記念	康德9年10月(1942)	1封筒(1綴・1枚)・写真・青写真	677
伊通・懷德方面地図		2封筒(6枚)・コピー	678
竣工せる営口水道 大野巖〔滿鉄鉄道総局水道課長〕	昭和12年1月(1936)	1綴・コピー	679
LIAO RIVER IMPROVEMENT SCHEMES RIVER BUREAU MANCHUKOU GOVT	昭和17年(1942)	1綴・活版	680
大凌河・灤河・その他水系河川調査表	昭和8年11月(1933)	1綴・コピー	681
遼河本流鄭家屯・営口間視察報告 本間徳雄〔第2技術処長〕・照井隆三郎〔第2技術処技佐〕・廣松捷次郎・末谷重松	康德3年12月(1936)	1綴・活版	682
遼河本流鄭家屯・営口間視察報告 本間徳雄〔第2技術処長〕・照井隆三郎〔第2技術処技佐〕・廣松捷次郎・末谷重松	康德3年12月(1936)	1綴・コピー	683
河川調査位置記入 遼河鄭家屯営口間河道略図 縮尺十万分ノ一		1封筒・コピー	684
遼河筋唐家窩棚流量調査成果表 唐家窩棚流量曲線図 同 流量観測箇所横断面図 同 (外遼河)流量曲線図 同 (外遼河)流量観測箇所横断面図 同 水位変化図表 唐家窩棚流量観測成果表 同 (外遼河)流量観測成果表		1封筒・コピー	685
遼河工程局1924年工事年報 遼河工程局	大正13年(1924)	1綴・ペン	686
遼河下流部東方地区 海域河、八里河改修計画案 交通部	康德4年(1937)	1封筒・活版・コピー	687
遼河関係流量表 遼河系流量基件 交通部滿鉄経済調査会	康德4年12月(1937)	1封筒・活版・謄写版・コピー	688

遼河の改修に就て(複18p) 附 会議速記録 28p 付図 3枚 説明書附図 8枚 交通部		1封筒(57枚)・ペン・コピー	689
遼河支流計画書		1封筒(20枚)・活版・謄写版・ペン・写真	690
遼河治水計画大要 交通部治水調査処	康德10年6月(1943)	1封筒・コピー	691
遼河水系治水計画概要 交通部治水調査処	康德9年8月(1942)	1封筒・コピー	692
遼河水系図 縮尺五十万分之一 西遼河氾濫新河湿地区域図 縮尺十万分之一	康德4年4月・8月(1937)	1封筒・活版	693
鴨緑江多獅島		1封筒・コピー	694
鴨緑江平面図		1封筒・謄写版	695
安東江岸防水壁及樋門設計書 安東省民生庁土木科	康德5年(1938)	1冊・ペン・謄写版	696
コンクリート指導講習会速記録(安東江岸防水壁工事参考) 曾根講習所	昭和20年7月(1945)	1綴・活版	697
鴨緑江筋五万分之一地形図迎門崗(河口)より白頭山まで		1封筒・活版	698
朝鮮河川調査一覽図		1封筒・活版	699
康德七年度(1940年)遼河水系資料(水位、気象、流泥、結水) 交通部治水調査処	康德9年1月(1942)	1冊・コピー	700
大遼河貯水池計画書 国道局第2技術処	康德1年6月(1934)	1綴・活版	701
撫順運河計画案(南満運河計画ノ一部) 国道局第2技術処	康德1年11月(1934)	1綴・活版	702
南満運河計画資料(撫營)	昭和9・10年	1封筒・ペン・活版	703
南満運河添付資料 一 平面図 二 縦断面図 三 奉天支線縦断面図 四 標準横断面図 五 可動堰構造図 六 ガードロック構造図 七 中間水閘構造図 八 第一号水干 九 暗渠(其ノ一)構造図 一〇 暗渠(其ノ二)構造図 一一 蘇子河前山貯水池堰堤ヶ所横断面図 一二 蘇子河前山貯水池最後部堰堤断面図 一三 前山貯水池性能曲線図 一四 蘇子河前山貯水池容量曲線図 利水科		1封筒・謄写版	704
太子河身窩貯水池計画概要 第2技術処利水科	康德2年6月(1935)	1綴・活版	705
松花江の利水★松花江堰堤工事概要★鏡泊湖水力発電計画工事概要 照井隆三郎[交通部治水調査処長]・國務院水力電気建設局★		1綴・コピー	706

鴨緑江水力発電計画案・鴨緑江水豊堰堤設計図・第二次満鮮鴨緑江共同技術委員会議事概要 満鉄経済調査委員会	昭和12年4月(1937)	1封筒(2綴・25枚)・活版・謄写版	707
鴨緑江堰堤技術委員会関係書目録(一) 鴨緑江水電株式会社	昭和13年9月(1938)	1封筒(2綴・1枚)・謄写版	708
鴨緑江堰堤技術委員会関係書目録(二)		1封筒・ペン	709-1
鴨緑江水豊発電地点に於ける流量調査の件 安東省民政庁土木課長→原田〔交通部航路司技正〕・青木〔内務技士〕	康德4年11月25日(1937)	1綴・活版・謄写版	709-2
水豊堰堤工事仕様書		1綴・活版	709-3
水豊堰堤安定度計算に於て使用せる資料及計算公式		1綴・謄写版	709-4
水豊里		1枚・活版	709-5
骨財採取地		1枚・活版	709-6
流筏施設概要(案)		1枚・謄写版	709-7
コンクリート調査表		1枚・活版	709-8
鴨緑江水力発電株式会社堰堤用ポルトランドセメント仕様書	昭和13年(1938)	1枚・活版	709-9
鴨緑江水力発電株式会社堰堤用ポルトランドセメント仕様(案)	昭和13年8月1日(1938)	1綴・活版	709-10
鴨緑江水力発電株式会社堰堤用ポルトランドセメント仕様(案)	昭和13年8月1日(1938)	1綴・活版	709-11
水豊貯水池満洲国側余剰水放水計画書 朝鮮鴨緑江水力発電株式会社・満洲鴨緑江水力発電株式会社 京城出張所・長津江水電株式会社・朝鮮送電株式会社・端豊鉄道株式会社・平北鉄道株式会社・鴨北鉄道株式会社京城出張所		1綴(1封筒+図表11枚)・活版	709-12
鴨緑江発電工用用混凝土試験成績書 京城土木出張所		1綴・活版	709-13
鴨緑江発電工用用混凝土試験成績書 京城土木出張所		1綴・活版	709-14
使用水量計画表		1綴・謄写版	709-15
鴨緑江・青水里日平均流下量表		1綴・謄写版	709-16
降水量一覧表		1綴・謄写版	709-17
豊満ダム写真帳 社団法人日本河川協会→小宮秀信〔在日米軍第29技術大隊〕		1封筒(1封筒+写真23枚)・写真・ペン	710
第二松花江水力発電計画書及び調査資料 國務院水力電気建設局	康德4年4月(1937)	1綴・活版	711
水豊発電所工事一部実施施行認可申請書 野口遵〔朝鮮鴨緑江水力発電株式会社取締役社長・満洲鴨緑江水力発電株式会社理事長〕→南次郎〔朝鮮総督〕	昭和13年(1938)	1綴・活版	712
発送電計画書 満洲帝国産業部	康德5年12月1日(1938)	1綴・活版	713

安東港模型試験写真集		1綴・写真・活版	714
開得海堰堤工事写真(安東) 交通部彰武土木工程処	康德7年11月(1940)	1封筒(段ボール1枚+1封筒+写真2枚)・写真	715
鴨緑江河口港整備調査資料 原口〔技正〕		1綴・活版・ペン	716
竣功報告図 満洲帝国政府交通部安東航務局→原口〔技正〕		1封筒(10枚)・活版	717
大東港建設関係書類 企画委員会幹事会	康德6年2月16日(1939)	1綴・活版	718
大東港建設関係図面 満洲帝国政府交通部安東航務局工事股	康德5年1月20日(1938)	1封筒(13枚)・活版・写真・ペン	719
哈爾濱河口の治水工事 哈爾濱事務所運輸課〔鴨緑江の青写真〕	昭和5年5月(1930) 大正5年(1916)	1綴・活版 1封筒(11枚)・青写真	720 721
安東港模型試験報告 青木楠男〔内務技師〕・松尾春雄〔内務技師〕		1綴・活版	722
技術夜話 山本将雄〔日本大学工学博士〕	昭和27年11月3日(1952)	1綴・活版	723
道路講習会講演集(第二回満洲国道路講習会講演集～第五回満洲国道路講習会講演集) 日本ポルトランドセメント同業会道路部	昭和12年9月(1937)	4冊・活版	724
奉天都市計画図 奉天市公署工務処建設科		1封筒(1枚)・活版	725
哈爾濱都邑計画説明書・哈爾濱都邑計画図 哈爾濱特別市公署都市建設局	康德3年3月(1936)	1封筒(1綴・1枚)・活版	726
土木事業より観たる満洲国 藤根寿吉	昭和9年4月(1934)	1綴・謄写版	727
松花江豊満ダム及び発電所工事記録写真帳 山本将雄	昭和27年11月3日(1952)	1冊・活版	788

Sub-Series No.8: 蒙古

外蒙古ノ牧畜 支那駐屯軍司令部	昭和11年4月(1936)	1綴・活版	587
-----------------	---------------	-------	-----

Sub-Series No.9: 地図

満洲帝国分省地図並地名総覧 国際地学協会		1冊・活版	785
地図〔満洲各地航空図〕 参謀本部陸地測量部	昭和14年7月25日(1939)	4枚・地図	786
地図〔新京地域〕 大日本帝国陸地測量部	昭和13年(1938)	6枚・地図	787

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
Series No.6: 稿本			
総論 第一編 事変前	昭和44年1月27日 (1969)	1綴・謄写版・ペン	752
総論 第一編 事変前	昭和44年1月27日 (1969)	1綴・謄写版	767
各論 第一編 政府		1綴・謄写版・ペン	758
各論 第一編 政府	昭和43年10月3日 (1968)	1綴・謄写版	770
総論 第二編 創建期(一)	昭和44年2月20日 (1969)	1綴・謄写版・ペン	753
総論 第二編 創建期(二)	昭和44年9月18日 (1969)	1綴・謄写版・ペン	754
総論 第二編 創建期	昭和44年2月22日 (1969)	1綴・謄写版	766
各論 第二編 協和会、第三編 地方	昭和45年5月26日 (1970)	1綴・謄写版・ペン	759
各論 第二編 協和会、第三編 地方	昭和45年5月26日 (1970)	1綴・謄写版	771
総論 第三編 整備期	昭和44年6月30日 (1969)	1綴・謄写版・ペン	755
総論 第四編 繁栄期	昭和44年6月10日 (1969)	1綴・謄写版・ペン	756
総論 第四編 繁栄期	昭和44年6月10日 (1969)	1綴・謄写版	768
各論 第四編 治安	昭和43年11月27日 (1968)	1綴・謄写版	772
総論 第五編 戦時及び戦後	昭和44年7月18日 (1969)	1綴・謄写版	757
総論 第五編 戦時及び戦後	昭和44年7月18日 (1969)	1綴・謄写版	769
各論 第五編 外交、第六編 司法、第十四編 蒙古	昭和43年12月12日 (1968)	1綴・謄写版・ペン	760
各論 第七編 財政経済	昭和44年9月30日 (1969)	1綴・謄写版・ペン	761
各論 第七編 財政経済	昭和44年9月30日 (1969)	1綴・謄写版	773
各論 第八編 鉦工業、第十二編 文教	昭和44年11月5日 (1969)	1綴・謄写版・ペン	762
各論 第八編 鉦工業、第十二編 文教	昭和44年11月5日 (1969)	1綴・謄写版	774
各論 第八・九編 興農開拓	昭和45年7月9日(1970)	1綴・謄写版	775
各論 第十編 交通通信	昭和44年1月27日 (1969)	1綴・謄写版・ペン	763

各論 第十編 交通通信	昭和45年1月27日 (1970)	1綴・謄写版	776
各論 第十一編 建設	昭和45年3月9日(1970)	1綴・謄写版・ペン	764
各論 第十一編 建設	昭和45年3月19日 (1970)	1綴・謄写版	777
各論 第十三編 民生	昭和43年10月31日 (1968)	1綴・謄写版	765

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

Series No.7: 編纂事務

編集原稿回覧簿	昭和43年5月(1968)	1冊・ペン	778
旧満蒙関係資料目録附属資料一覧表/目次 1.原稿 2.座談会記録 3.口述記録 4.複(筆)写真料 5.業務 資料	昭和52年1月調(1977)	2綴・コピー	779
[日中韓朝・東南アジア教育状況資料]	昭和47年(1972)	31綴・謄写版	781

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

Series No.8: 満蒙終戦史編纂

[満蒙終戦史編纂経過]		1封筒・ペン	751-1
満洲引揚史目録		2綴・活版	751-2
		2綴・2枚・謄写版	751-3
第二 地図		2枚・謄写版	751-4
第三 図表		2枚・謄写版	751-5
満蒙終戦史目次		1綴・謄写版	751-6
[満洲国終戦史送り状雛形、発刊のことば] 平島敏夫 [満蒙同胞援護会会長]	昭和35年(1960)	1綴・1枚・謄写版	751-7
予約依頼状 平島敏夫[満蒙同胞援護会会長]	昭和35年(1960)	1綴・ペン	751-8
原稿抜取表		1綴・ペン	751-9
[大平定雄との編集打合せ書類]		1綴・ペン	751-10
[仕上がり調整書類]		1綴・ペン	751-11
民会残務整理委員会記録	昭和29年6月14日 (1954)	4綴・3枚・活版	751-12
遣送帰国の日僑俘携帯証券書類処理弁法		6綴・活版	751-13
[第5編第3章に関するメモ書き]		1枚・ペン	751-14

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

Series No.9: 物品・写真帳

満洲建国前旧紙幣標本帖 満洲中央銀行		1冊・紙幣	784
〔豊満ダム・発電所建設写真帳〕		1冊・活版	789
満洲帝国写真大観		1冊・活版	790
アルバム〔満洲帝国協和会活動〕 満洲帝国協和会		1冊・写真	791
ラッシュフィルム〔チモール島〕 株式会社JIP		1ケース・フィルム	792

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

Sub-Fonds: 満蒙同胞援護会

Series No.1: 事務

満蒙援記録 満蒙同胞援護会	昭和20年8月30日 (1945)	簿冊・ペン・謄写版	5
基金訴訟関係書類副綴 三井三菱銀行分 満蒙同胞援護会	昭和21年12月13日 (1946)	簿冊・ペン・謄写版	6
財団法人満蒙同胞援護会便覧 満蒙同胞援護会	昭和22年(1947)	1冊・謄写版	1
年度予算書決算書 満洲同胞援護会	昭和22年(1947)	簿冊・謄写版・活版	8
理事会記録控 恩給法改正期成同盟	昭和30年12月22日 (1955)	簿冊・謄写版	12
恩給改正に関する会議及参考資料 半沢富次	昭和31年(1956)	簿冊・謄写版	9
恩給法改正運動の重要経過記録請願等	昭和31年(1956)	簿冊・謄写版	10
[恩給方改正運動関連]	昭和31年(1956)	簿冊・謄写版・活版	11
満洲における日ソ開戦後死亡者数及び墓地概況 援護局調査課	昭和42年4月10日 (1967)	1冊・謄写版	2
参考[関係団体及び所属員名簿]		簿冊・ペン・謄写版	7

Series No.2: 満洲国史編纂

満洲国の思想的原点—石原莞爾の人と思想— 三品隆以	昭和42年11月21日 (1967)	1冊・謄写版	3
満洲国政府関係組織表資料綴 満蒙同胞援護会		簿冊・謄写版・活版	4
満洲国史編纂関係 満蒙同胞援護会	昭和42年月日(1967)	簿冊・謄写版	13
満洲国史編纂のための寄付募集の件 満蒙同胞援護会	昭和43年月日(1968)	簿冊・謄写版	14
図書並資料目録合本 満洲国史、引揚史関係 満蒙同胞援護会		簿冊・謄写版・活版	15
編纂関係手控張 満蒙同胞援護会	昭和41年5月25日 (1966)	1冊・ペン	16
満洲国史(稿本)8冊綴			17
1国史	昭和44年月日(1969)	簿冊・謄写版	17-1
1-1国史	昭和44年月日(1969)	簿冊・謄写版	17-2
2国史	昭和44年月日(1969)	簿冊・謄写版	17-3
2-1国史	昭和44年月日(1969)	簿冊・謄写版	17-4
3国史	昭和44年月日(1969)	簿冊・謄写版	17-5

3-1国史
4国史
4-1国史

昭和44年月日(1969)	簿冊・謄写版	17-6
昭和44年月日(1969)	簿冊・謄写版	17-7
昭和44年月日(1969)	簿冊・謄写版	17-8

サハリン残留韓国人帰還運動関係資料目録

サハリン残留韓国人帰還運動関係資料目録 本文細目次

Sub-Fonds No.1: 朴魯学	149
Series No.1: 日記	149
Series No.2: 樺太抑留帰還韓国人会	149
Sub-Series No.1: 業務記録	149
Sub-Series No.2: 名簿	151
Sub-Series No.3: 書簡	152
Sub-Series No.4: 刊行物	154
Series No.3: 家族関係	154
Sub-Fonds No.2: 樺太抑留韓国人帰還請求訴訟裁判実行委員会	156
Series No.1: 訴訟資料	156
Series No.2: 書簡	157
Series No.3: 刊行物	158
Sub-Fonds No.3: 新井佐和子	160
Series No.1: サハリン再会支援会	160
Series No.2: 執筆活動	164
Series No.3: 刊行物	178

サハリン残留韓国人帰還運動関係資料目録 解題

(3.1.1) 史料群番号：2008B 国文学研究資料館, National Institute of Japanese Literature

(3.1.2) 史料群名称：サハリン残留韓国人帰還運動関係資料, The Materials of the Return Movement from Sakhalin to Korea

(3.1.3) 年代：1958 (昭和 33) 年 - 2007 (平成 19) 年

(3.1.5) 数量：730 点 (18m)

(3.2.2) 履 歴：サハリン残留韓国人の帰還をめぐる運動は、1958 年 1 月に妻の堀江和子氏ら家族とサハリンから日本へ帰還した朴魯学氏らが、「樺太抑留帰還者同盟」を結成 (2 月に「樺太抑留帰還在日韓国人会」を経て「樺太帰還在日韓国人会」へと改称) して始めた運動であった。その後、この運動を日本国内で支援する動きがあらわれ、樺太抑留韓国人帰還請求訴訟裁判実行委員会が組織されて 1975 年 12 月に「樺太残留者帰還請求裁判」が提訴され、国家賠償を求める裁判闘争へと変容した。この過程で運動の方向性をめぐる対立が顕在化していった。その後、1988 年 3 月 14 日に朴魯学氏が死去、樺太帰還在日韓国人会を李義八が引き継いだため、堀江和子氏と長男圭三および支援者であった新井佐和子氏らが「サハリン再会支援会」を立ち上げた。すでに運動の分裂が決定的になるなか、1989 年 6 月には訴訟が取り下げられて裁判は終結。1990 年 2 月にサハリン再会支援会も解散した。その後は、新井氏が個人的に執筆活動を続けている。

(3.2.3) 来 歴：2005 年 12 月、工藤信彦氏 (全国樺太連盟理事) より、当該資料の管理者である新井佐和子氏 (1930 年生) が資料の引き受け先を探しており、相談に乗って欲しいとの連絡を当館教員の加藤が受けた。2006 年 4 月 22 日に加藤らが新井氏宅 (つくば市) を訪問し、資料の確認を行った。資料は帰還運動を実質的に一人で行っていた朴魯学氏の活動に関わるもので、1988 年 3 月の朴氏死後は妻の堀江和子氏 (1927 年生) の許にあったが、長年運動を支援していた新井氏に資料の管理を託し、新井氏宅で保管されていた。

その後、4 月 27 日に加藤が新井氏と堀江氏に都内で会い、堀江氏がまだ手許に所持していた資料 (残留韓国人名簿など) を確認。この資料は新井氏の許に送った後、すべての資料を当館で引き取ることになり、5 月 20 日に当館へ搬入、2007 年 7 月 10 日に堀江和子氏より正式に寄贈を受けた。なお、その後も新井氏より断続的に執筆関係および個人関係の資料の寄贈を受けた。

(3.3.1) 範囲と内容：敗戦後に南樺太に残留した韓国人の祖国への帰還運動を展開した朴魯学・堀江和子夫妻に関わる資料。朴氏の日誌・メモ、サハリン残留韓人名簿、樺太抑留帰還韓国人会・樺太抑留韓国人帰還請求訴訟裁判実行委員会・サハリン再会支援会の団体事務文書、裁判訴訟関係記録、家族再会時の写真、残留者から朴氏宛の手紙、新井佐和子氏の執筆関係などから構成される。これらの資料は支援者であった新井佐和子氏が整理・管理していた。なお、名簿などは堀江氏が保管していたが、一部が韓国のテレビ局に貸し出されて未返却になったものもある。

本資料群は、大きく分けると3つの運動体（樺太抑留帰還韓国人会・樺太抑留韓国人帰還請求訴訟裁判実行委員会・サハリン再会支援会）によって集積したものであり、それらを反映させるために、本目録では、3つのSub-Fonds (No.1: 朴魯学・No.2: 樺太抑留韓国人帰還請求訴訟裁判実行委員会・No.3: 新井佐和子)を設定し、それぞれにSeries、さらには、その下に必要に応じてSub-Seriesを設定した。

まず、Sub-Fonds No.1「朴魯学」については、日記・樺太抑留帰還韓国人会・家族関係の3つのSeriesを設定し、さらに、「樺太抑留帰還韓国人会」には、業務記録・名簿・書簡・刊行物の4つのSub-Seriesを設定した。

Sub-Fonds No.2「樺太抑留韓国人帰還請求訴訟裁判実行委員会」については、訴訟資料・書簡・刊行物の3つのSeriesを設定した。

Sub-Fonds No.3「新井佐和子」については、サハリン再会支援会・執筆活動・刊行物の3つのSeriesを設定した。

(3.4.3) 使用言語：日本語・韓国語・ロシア語

(3.4.4) 資料状態：ファックスなどで経年劣化により文字が判読しづらいものもある。

(3.4.5) 検索手段：『史料目録 第112集』

(3.5.3) 関連資料の所在：韓国国立日帝強制動員歴史館に朴魯学受信の手紙(1,350通)および「樺太抑留同胞帰還希望者名簿 二」が所蔵されている。これらはもともと朴魯学氏の元にあったもので、朴魯学氏の死後、妻の堀江和子氏が名簿などの資料を韓国のテレビ局へ貸し出した際に何らかの事情で返却されなかったものと思われる。

(3.5.4) 出版物：新井佐和子『サハリンの韓国人はなぜ帰れなかったのか』（草思社文庫，2016年），長澤秀『遺言－「樺太帰還在日韓国人会」会長、李義八が伝えたいこと』（三一書房，2019年），大沼保昭『サハリン棄民－戦後責任の点景』（中公新書，1992年）

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

Sub-Fonds No.1: 朴魯学

Series No.1: 日記

檀記四二九二年一月起一九五九年度日記 朴魯学	昭和34年(1959)	1冊・ペン	20
一九五九・十月九日より〃六〇、七月八日迄檀記 四二九二年拾月起日記 朴魯学		1冊・ペン	21
日記1960-7 朴魯学		1冊・ペン	22
日記 朴魯学	昭和37年(1962)	1冊・ペン	23
朴魯学半生涯 朴魯学	昭和45年(1970)	1綴・謄写版・ ペン	24
〔朴魯学日記の状態に関するメモ〕 喜多		1枚・ペン	25
一九六六年九月二十一日より六七年六八年七二年迄 十二月三十一迄〔日脱ママ〕日誌		1冊・ペン	26
日誌No3〔丁間資料: 隅谷三喜男発朴魯学宛切手寄付礼 状2枚〕		1冊・ペン	27
日誌No4〔丁間資料: 孫致奎帰国関係メモ、隅谷三喜男 発朴魯学宛切手寄付礼状、アジアに対する戦後責任 を考える会発朴魯学宛サハリン裁判進捗報告〕		1冊・ペン	28
朴魯学行動記録 新井		126枚・ペン	29
〔朴魯学行動記録コピー〕		128枚・謄写版	30

Series No.2: 樺太抑留帰還韓国人会

Sub-Series No.1: 業務記録

〔韓国より証人来日及び中蘇離散家族会関連資料〕			46
メモ〔人名、地名、金銭書付〕		1冊・ペン	46-1
メモ〔金銭、物品書付〕		1枚・ペン	46-2
メモ〔日韓日常会話文対応表〕		1綴・ペン	46-3
中蘇離散家族会(第15回定期総会)	昭和59年8月15日 (1984)	1冊・活版・ペン	46-4
支援金支給の申請 堀江和子→新井佐和子		1封筒(1綴)・謄 写版	47
李徳林氏永住帰国予定表		1枚・活版	53-1-2
一紙〔真岡駅前住宅地図〕		1枚・謄写版	53-1-3
テレグラム〔2月22日新潟到着予定に付〕	昭和60年2月15日 (1985)	1封筒(1枚)・謄 写版	53-1-4
市・府民税(所得・課税)証明書	昭和61年7月15日 (1986)	1枚・活版・カー ボン	53-1-9

登録済証明書	昭和61年7月15日 (1986)	1枚・活版・謄写版	53-1-10
請願書(韓国語) 車順伊(ハンゲル文字)	昭和60年7月21日 (1985)	1枚・謄写版	53-1-11
戸籍[姜順任]		10枚・謄写版	53-1-13
請願書		1綴・謄写版	53-1-14
書簡[樺太抑留韓国人に関する公開質問状への回答] 水田三喜男→朴魯学	昭和49年6月17日 (1974)	1封筒(2枚)・活版	53-2-2-1
書簡[樺太抑留韓国人に関する公開質問状への回答] 水田三喜男→朴魯学	昭和49年6月17日 (1974)	2枚・活版	53-2-2-2
[サハリン残留韓国人帰還関連]			53-2-3
[活動記録断簡]		1枚・謄写版	53-2-3-1
答弁第二〇号 内閣衆質九八第二〇号 中曽根康弘→福田一	昭和58年5月13日 (1983)	1綴・謄写版	53-2-3-2
サハリン残留韓国朝鮮人問題訪ソ交渉メモ 五十嵐広三	昭和62年9月9日(1987)	1綴・謄写版	53-2-3-3
独身者調査	昭和60年3月23日 (1985)	1綴・ペン	53-2-6
サハリンからの一時訪日予定	昭和62年(1987)	1綴・謄写版	53-2-7
目録		1綴・謄写版	53-2-8
一紙[南樺太地図]		3枚・ペン・謄写版	53-2-9
【封筒のみ】 朴魯学→新井佐和子	昭和61年7月15日 (1986)	1枚・ペン	53-2-10
サハリン家族再会記録[個人ごと調査表、写真、礼状等] 新井		1冊(39件)・ペン・活版	68
サハリン家族再会者記録Ⅱ[家族ごと調査表、写真、礼状等]		1冊(16件)・ペン・謄写版	69
来日予定表(カレンダー)		13点・ペン・活版	75
招請関係一式		1封筒	77
招請関係、見本一式(含、北朝鮮籍者、別様式)		17枚・ペン・活版	77-1
サハリン家族照会資料[在留者からの照会関連メモ]	昭和63年4月(1988)	8枚・ペン・活版	77-2
一時帰国再会資料[来日訪親者リスト等]		27枚・ペン・活版	77-3
[招請状写]		21枚・活版	77-4
招請状関係(入国手続書類)[雛形、ロシア語訳、在日本縁故者名簿]		51枚・活版	77-5
ロシア語、参考メモ[帰還事業事務メモ等]		17枚・ペン・活版	77-6
招請状用紙(関係書類)[招待状関係機関宛書簡等雛形]		31枚・活版	77-7
[公的書類雛形、帰還事業手続経過のメモ]		17枚・ペン・活版	77-8

サハリン帰還運動アーカイブズ [堀江圭三]→[加藤聖文]	[平成20年4月(2008)]	1個・USBフラッシュメモリ	102-2
------------------------------	-----------------	----------------	-------

Sub-Series No.2: 名簿

樺太抑留同胞帰還希望者名簿 朴魯学	昭和42年6月(1967)	1綴・謄写版	1
在韓招請状付送者索引 1975年度以降 朴魯学		1綴・謄写版	2
一九七六年度以降 韓国(日本)入国許可者 身元保証書	昭和51年7月5日(1976)	1綴・謄写版	3
樺太韓国人帰還希望者名簿 No2 樺太帰還韓国人会	昭和52年12月31日(1977)	1綴・謄写版	4
一紙[抑留韓国人名簿 No7]	昭和49年(1974)	1枚・謄写版	5-1
一紙[抑留韓国人名簿 No8]	昭和49年(1974)	1枚・謄写版	5-2
引揚者名簿[丁間資料:新聞尋ね人欄スクラップ] 朴魯学	昭和50年7月1日(1975)	1冊・ペン	6
死亡者名簿		1冊・ペン	7
招請状[丁間資料:Ким сан хи発堀江和子宛書簡封筒、新井佐和子との外務省訪問に付覚書断簡]		1冊・ペン	8
ノート[抑留韓国人名簿D]		1冊・ペン	9
ノート[抑留韓国人名簿E・丁間資料:金泰炯ソ連国内住所メモ]		1冊・ペン	10
北韓移住者 朴魯学		1冊・ペン	11
死亡者簿 朴魯学		1冊・ペン	12
ノート[抑留韓国人名簿G・丁間資料:名簿、崔暎沢発堀江和子宛抑留者招請に付書簡、氏名メモ]		1冊・ペン	13
ノート[抑留韓国人名簿H・丁間資料:李文沢に付覚書、Сон ги чер 発朴魯学宛書簡封筒、陸判福発朴魯学宛書簡封筒、終戦詔勅コピー、「細川」[侵略発言]に対する識者の見解]冊子、藤森研発朴魯学宛暑中見舞、人物写真3枚]	昭和55年(1979)	1冊・ペン	14
ノート[抑留韓国人名簿I・丁間資料:Се ок чу л 発堀江和子宛招請依頼書簡]		1冊・ペン	15
1966年度樺太韓国人帰還希望者分布状態 朴魯学		1枚・謄写版	16
樺太抑留同胞帰還希望者名簿 朴魯学	昭和42年6月20日(1967)	1枚・謄写版	17
樺太抑留同胞帰還希望者名簿 朴魯学	昭和42年6月(1967)	1枚・墨書	18
樺太韓国人帰還希望者名簿 No2 樺太帰還在日韓国人会	昭和53年12月31日(1977)	1綴・ペン・謄写版・墨書	19
姓別索引[丁間資料:樺太抑留帰還韓国人会活動抜粋コピー]	昭和51年11月(1976)	1冊・ペン	33
ノート[抑留韓国人名簿A・丁間資料:名簿など雑記紙片、李起喆・安小順・安英学身元保証書、招請依頼書簡]		1冊・ペン	34
ノート[抑留韓国人名簿C]		1冊・ペン	35

ノート〔抑留韓国人名簿F・丁間資料:名簿コピー〕	1冊・ペン	36
--------------------------	-------	----

Sub-Series No.3: 書簡

〔残留韓国・朝鮮人招請関係書簡〕		66
巖寿甲氏申請書類関係記録〔サハリンから日本へ定住帰国するための申請書、調査書、領収書、メモ〕	41枚・1綴・1封筒(4枚)・ペン・活版	66-1
書簡〔弟捜索願〕 崔暎沢→新井佐和子	昭和62年3月14日(1987) 1封筒(5枚)・ペン	66-2
書簡〔巖寿甲死去に付哀悼の意〕 李計勲→新井佐和子	昭和62年3月22日(1987) 1封筒(2枚)・ペン	66-3
書簡〔崔暎沢の件に関し照会〕 新井佐和子→巖寿甲	昭和60年7月29日(1985) 1封筒(1枚)・ペン	66-4
書簡〔巖寿甲帰国申請経過〕 崔暎沢→朴魯学	昭和61年4月10日(1986) 1封筒(1綴)・謄写版・ペン	66-5
書簡〔巖寿甲帰国申請書の件〕 巖寿甲→朴魯学	昭和61年4月2日(1986) 1封筒(1綴)・謄写版・ペン	66-6
書簡〔招待状の氏名訂正願〕 巖寿甲→新井佐和子	昭和58年8月31日(1983) 1封筒(1枚)・ペン	66-7
書簡〔招待状送付礼状〕 巖寿甲→新井佐和子	昭和59年3月15日(1984) 1封筒(1枚)・ペン	66-8
書簡〔帰国問題に付巖寿甲との交渉困難の旨〕 崔暎沢→新井佐和子	昭和60年10月9日(1985) 1封筒(2枚)・ペン	66-9
書簡〔年末グリーティングカード〕 巖相憲→新井佐和子	昭和61年12月23日(1986) 1封筒(1枚)・ペン	66-10
書簡〔巖相憲宛巖寿甲死去に付哀悼の意〕 巖相憲→新井佐和子	昭和62年3月20日(1987) 1封筒(2枚・1綴)・ペン	66-11
書簡〔巖寿甲死去に付哀悼の意〕 崔鐘鈞→新井佐和子	昭和62年3月19日(1987) 1封筒(2枚)・ペン	66-12
書簡〔巖寿甲帰国申請に付照会〕 巖相憲→新井佐和子・朴魯学・ヨシオカ・タカオカ・ミハラ	昭和59年1月(1984) 1封筒(1枚)・ペン	66-13
書簡〔招待状送付に付戸籍簿送付願〕 巖相憲→新井佐和子	1封筒(1枚)・ペン	66-14
〔崔暎沢、徐吉順、招請関係資料〕		70
書簡〔帰宅報告、訪日時への礼〕 崔暎沢→堀江和子	昭和63年5月18日(1988) 1封筒(2枚)・ペン	70-1
書簡〔返信への礼状〕 崔暎沢→堀江和子	昭和61年5月8日(1986) 1封筒(2枚)・ペン	70-2
書簡〔年賀状〕 崔暎沢→堀江和子	平成3年1月1日(1991) 1封筒(5枚)・ペン	70-3
書簡〔クリスマスカード〕 崔暎沢→堀江和子	昭和60年12月16日(1985) 1封筒(5枚)・ペン	70-4
書簡〔井上氏と接見、訪サハリン歓迎〕 崔暎沢→堀江和子	昭和60年8月19日(1985) 1封筒(5枚)・ペン	70-5
書簡〔崔氏再招請に付〕 新井佐和子→広沢美子	昭和62年8月20日(1987) 1封筒(2枚)・ペン	70-6

書簡〔崔氏査証申請必要書類提出依頼〕 外務省→ 新井佐和子	昭和60年1月29日 (1985)	1封筒(3枚)・謄 写版・ペン	70-7
書簡〔招請礼状〕 崔暎沢→新井佐和子	昭和61年1月17日 (1986)	1封筒(2枚)・ペン	70-8
書簡〔招請に付〕 崔暎沢→新井佐和子	昭和62年7月4日(1987)	1封筒(2枚)・ペン	70-9
書簡〔永住帰国希望に付〕 崔暎沢→新井佐和子	平成1年9月30日(1989)	1封筒(1枚)・ペン	70-10
書簡〔招請対象、妻弟の住所に付、新井発徐舜臣宛訪 日依頼案文〕 崔暎沢→新井佐和子	昭和62年4月29日 (1987)	1封筒(2枚)・ペン	70-11
書簡〔朴判寿氏ら招請許可、成長順氏の招請依 頼〕 崔暎沢→新井佐和子	昭和63年11月6日 (1988)	1封筒(4枚)・ペン	70-12
書簡〔鎌田氏と接見、李斗勲氏の噂〕 崔暎沢→新井 佐和子	昭和63年9月25日 (1988)	1封筒(4枚)・ペン	70-13
書簡〔招請状受領、巖寿甲氏遺品に付、不明男性東京 駅前写真〕 崔暎沢→新井佐和子	昭和62年12月8日 (1987)	1封筒(4枚)・ペン	70-14
書簡〔弟の新盆に際し家族で韓国に一時帰国希 望〕 崔暎沢→新井佐和子	平成1年1月27日(1989)	1封筒(5枚)・ペン	70-15
書簡〔旅券受領、日程通知〕 崔暎沢→新井佐和子	昭和63年2月17日 (1988)	1封筒(2枚)・ペン	70-16
書簡〔滝沢達夫氏訪サハリン中止に付〕 崔暎沢→新 井佐和子	昭和63年8月24日 (1988)	1封筒(5枚)・ペン	70-17
書簡〔書簡受領、弟からの返信無し〕 崔暎沢→新井 佐和子	昭和60年11月24日 (1985)	1封筒(2枚)・ペン	70-18
書簡〔招請願、クリスマスカード〕 崔暎沢→新井佐 和子	昭和61年12月15日 (1986)	1封筒(2枚)・ペン	70-19
書簡〔訪日時の礼、帰国の状況、5月20日付新井発崔宛 返信〕 崔暎沢→新井佐和子	昭和60年5月2日(1985)	1封筒(2枚)・ペン	70-20
書簡〔訪日に際し日本側の許可に付〕 崔暎沢→新井 佐和子	昭和60年1月23日 (1985)	1封筒(2枚)・ペン	70-21
崔暎沢書類〔招請関係公的書類等〕		1封筒・謄写版・ ペン	70-22
〔朴判寿関係資料〕		4綴・7枚・ペン・ 活版	71
書簡〔朴判寿招請に付〕 崔暎沢→新井佐和子	昭和63年7月13日 (1988)	1封筒(2枚)・ペン	71-1
葉書〔朴氏弟長女身元通知〕 向田規美恵→新井佐 和子	昭和63年5月20日 (1988)	1枚・ペン	71-2
書簡〔弟家族の消息通知依頼〕 朴判寿→新井佐和子	昭和63年7月29日 (1988)	1封筒(1枚)・ペン	71-3
書簡〔弟家族情報通知〕 朴判寿→新井佐和子	昭和63年6月15日 (1988)	1封筒(1枚)・ペン	71-4
書簡〔朴氏弟の消息に付〕 朴必寿→新井佐和子	昭和63年5月23日 (1988)	1封筒(5枚)・ペ ン・謄写版	71-5
〔朴氏弟消息関係〕	昭和63年(1988)	5枚・謄写版	71-6

詔書依頼書〔朴判寿家族〕 サハリン再会支援会	昭和63年(1988)	1枚・謄写版	71-7
李徳林、永住帰国関係			72
〔李徳林氏帰国報道関係〕	平成1年(1989)	1冊・5枚・謄写版	72-1
〔李徳林氏帰国公的書類関係〕	平成1年(1989)	26枚・ペン・謄写版・活版	72-2
〔解散宣言案文〕	平成1年(1989)	7枚・ペン	72-3
〔韓元洙始終帰国関係〕			73
書簡〔渡航申請書〕 韓元洙→ナホトカ領事館	昭和63年2月25日(1988)	1枚(重複2部)・謄写版	73-1
書簡〔韓氏日本永住手続終了〕 崔暎沢→堀江和子会長	昭和63年7月26日(1988)	1封筒(2枚)・ペン	73-2
書簡〔韓元洙身元情報〕 韓元洙→朴魯学	昭和63年2月25日(1988)	1封筒(1枚)・ペン	73-3
〔韓氏永住帰国公的書類〕	昭和63年(1988)	27枚・謄写版・活版・ペン	73-4
〔韓氏帰国関係報道〕	昭和63年(1988)	8枚・謄写版・活版	73-5
〔韓氏帰国事務書類〕	昭和63年(1988)	16枚・謄写版・活版	73-6
写真〔韓元洙〕	昭和29年(1954)	2枚・写真	73-7

Sub-Series No.4: 刊行物

堀江さんから雑資料			53-2
忘却の海峡〔丁間資料:小倉ひろ子発朴魯学宛書簡〕 中日映画社「忘却の海峡」製作上映実行委員会		1冊・活版	53-2-1
日本帝国韓国併合侵略画報写真史 張在述		1枚・活版	53-2-5
日本帝国韓国併合侵略画報写真史 樺太抑留帰還韓国人会・張在述(編集)	昭和48年9月1日(1973)	1冊・謄写版	74
新聞記事〔「韓国人の妻、サハリンの夫と46年ぶり再会 づらい抱擁…」〕、「ソ連入港感激の対面 大戦が裂いた肉親同士 韓国・仁川」他〕		3点(3枚)・活版	81-3
新聞記事「サハリン朝鮮人の家族再会 滞在費など問題 残し日赤が“窓口代行”へ」		1枚・活版	81-4
新聞記事〔「政府、韓国との戦後処理に本腰」〕、「墓参地拡大に前向き 北方領土事務協議でソ連局長」〕、「日韓外相協議」〕		3部(3枚)・謄写版・活版	81-11
新聞記事「この人に聞く サハリン韓国人を支援 30年間で80家族の再会を実現 堀江和子」	昭和63年9月25日(1988)	1枚・活版	81-12

Series No.3: 家族関係

堀江一家引揚証明書他	昭和33年1月16日(1958)	1点・ペン・活版	53-1
------------	------------------	----------	------

請願〔厳寿甲招請〕(ロシア語) 厳相連〔招請人〕・新井正夫〔保証人〕→エドゥアルド・アンヴロースニエヴィチ〔ソ連外務省〕	昭和61年11月17日(1986)	1枚・活版	53-1-1
申請〔厳寿甲招請〕(ロシア語) 新井佐和子〔招請人〕→□□〔領事部長〕	昭和58年9月1日(1983)	1枚・謄写版・ペン	53-1-5
ロシヤソヴィエツト連邦社会主義共和国婚姻証明(ロシア語・日本語併記)	昭和23年7月18日(1948)	1枚・活版・ペン	53-1-6
出生証明書(ロシア語)	昭和32年4月26日(1957)	1枚・活版・ペン	53-1-7
出生証明書(ロシア語)	昭和28年5月13日(1953)	1枚・活版・ペン	53-1-8
申請〔厳寿甲招請〕(ロシア語) 新井佐和子〔招請人〕→□□〔領事部長〕	昭和58年8月5日(1983)	3枚・謄写版・鉛筆	53-1-12
引揚証明書	昭和33年1月14日(1958)	1綴・謄写版	53-1-15
寒山寺楓橋夜泊詩		1封筒(1枚)・拓本	53-2-4-1
如泉青磁 如泉青磁研究所		1枚・活版	53-2-4-2
朴、堀江ソ連証明書			59
〔出生証明書並びに婚姻証明書コピー〕		8枚・謄写版	59-1
書簡〔朴魯学逝去時悔状礼状〕 堀江和子(代筆:新井)	昭和63年3月26日(1988)	1枚・ペン	81-1-1
書簡〔朴魯学逝去時悔状礼状〕 堀江和子	昭和63年3月25日(1988)	1枚・ペン	81-1-2
書簡〔朴魯学葬儀・埋葬報告案文〕 堀江和子	昭和63年3月25日(1988)	2枚・ペン	81-20
書簡〔母和子遺品の写真整理データ送付に付〕 堀江圭三→加藤聖文	平成20年4月13日(2008)	1封筒(1枚)・活版・ペン	102-1
集う 堀江圭三→加藤聖文	平成20年9月12日(2008)	1封筒(1枚)・活版	103-1
集う 〔堀江圭三〕→〔加藤聖文〕	〔平成20年9月12日(2008)〕	1枚・謄写版	103-2

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

Sub-Fonds No.2: 樺太抑留韓国人帰還請求訴訟裁判実行委員会

Series No.1: 訴訟資料

朴魯学証言		1綴・謄写版	31
[朴魯学証言コピー]		24枚・謄写版	32
裁判資料			37
樺太抑留韓国人帰還請求裁判趣意書 樺太抑留韓国人帰還請求訴訟裁判実行委員会	昭和50年(1975)	1綴・活版	37-18
中ソ離散家族会報(韓国語) 中ソ離散家族会	昭和60年7月15日(1985)	1枚・活版	37-19
準備書面(二二) 有賀正明外一七名→東京地方裁判所民事第三部	昭和63年3月16日(1988)	3枚・活版	37-22
争訟事件に関する事項の照会について(回答) 外務省アジア局北東アジア課長→東京法務局訟務部長	昭和53年11月21日(1978)	2枚・謄写版	37-23
訴状提出に当つての樺太訴訟弁護団のアピール	昭和50年12月1日(1975)	1綴・謄写版	37-24
争訟事件に関する事項の照会について(回答) 外務省アジア局北東アジア課長→東京法務局訟務部長	昭和53年11月21日(1978)	2枚・謄写版	37-25
訴状 柏木博・有賀正明・原後山治・浜秀和・泉博・久々湊道夫・伊藤まゆ・有賀信勇・川崎隆司・内田晴康・菅原克也・榊一夫・藍谷邦雄・佐藤博史・斎藤則之・森田昭夫・高木健一→東京地方裁判所	昭和50年12月1日(1975)	1綴・活版	37-26
カラフト抑留者留守家族支援の会	昭和57年6月(1982)	1枚・活版	37-27
サハリン裁判支援会名簿 新井[佐和子]	昭和58年4月17日(1983)	1冊・ペン	37-28
[無教会・キリスト教会・大学関係・作家・一般日本人・報道関係者分サハリン裁判支援会名簿]		8枚・ペン	37-28-1
趣意書[「アジアにたいする戦後責任を考える会」設立の呼びかけ並びに設立総会への案内] 大沼保昭・中村尚司・幼方直吉・高木健一・梶村秀樹・内海愛子・田中宏・有吉克彦	昭和58年3月14日(1983)	1枚・活版	37-28-2
「アジアに対する戦後責任を考える会(仮称)」規約(案)		2枚・活版・ペン	37-28-3
趣意書(案)		1枚・活版	37-28-4
[送還要請関連韓国語新聞スクラップコピー] 中央日報	昭和58年3月2日(1983)	1枚・活版	37-28-5
メモ[1957年8月1日～1978年9月30日の全帰還者内訳等]		1枚・活版	37-28-6
樺太残留韓国人の帰還を実現しよう!! 在日本大韓民国婦人会中央本部		1枚・活版	37-28-7
葉書[記録映画「侵略」上映並びに懇談会案内] 沢地久枝→新井佐和子	昭和57年7月14日(1982)	1枚・活版・ペン	37-28-8

書類送付の件		1枚・活版・ペン	37-28-9
メモ〔岩重議員へ陳情に行ったグループ〕		3枚・ペン	37-28-10
〔3月9日の答弁覚書、覚書並びに名簿、韓国観光旅行者への振込金受取書〕		2綴・1枚・ペン	37-28-11
メモ〔「丁奎先」「丁奎泰」兄弟〕		1枚・ペン	37-28-12
一紙〔中区山下町の手書き地図〕		1枚・ペン	37-29
第51回カラフト裁判	昭和62年3月18日 (1987)	1綴	59-2
樺太裁判〔樺太残留者帰還請求訴訟事件〕		1綴・活版	76

Series No.2: 書簡

書簡〔招請状手続間に合わない件に付〕 金潤璜→新井佐和子	昭和57年11月18日 (1982)	1封筒(3枚)・謄写版	37-3
書簡〔樺太裁判実行委員会解散に付〕 三原令→新井佐和子	昭和62年9月4日(1987)	1封筒(3枚)・謄写版	37-4
書簡〔出入国緩和に関するタス通信記事翻訳文〕 新井佐和子→岩崎美和子	平成1年11月20日 (1989)	1封筒(2枚)・謄写版・ペン	37-5
【封筒のみ】 樺太抑留韓国人帰還裁判実行委員会→岡本石子・きよみ	昭和54年12月(1979)	1枚・ペン	37-6
書簡〔田末順の写真送付に付〕 朴魯学→新井佐和子	昭和60年10月21日 (1985)	1封筒(1枚)・ペン	37-7
書簡〔礼状〕 河榮希→新井佐和子	昭和58年8月14日 (1983)	1封筒(1枚)・ペン	37-8
書簡〔サハリン宛手紙執筆依頼〕 新井佐和子→春山勲	4月25日	1封筒(1枚)・ペン	37-9
葉書〔暑中御見舞並びに三原氏の傲慢さに付〕 張在述→新井佐和子	昭和57年8月2日(1982)	1封筒(1枚)・ペン	37-10
書簡〔三原氏の傲慢さに付所感〕 張在述→新井佐和子	昭和57年8月5日(1982)	1綴・ペン	37-11
書簡〔書籍紹介〕 陳野守正→新井佐和子	昭和58年8月1日(1983)	1封筒(1枚)・ペン・活版	37-12-1
一紙〔JCA出版新刊案内〕		3枚・活版	37-12-2
書簡〔朴氏と三原氏の決裂に付所感〕 陳野守正→新井佐和子	昭和62年10月13日 (1987)	1封筒(5枚)・ペン	37-13
書簡写〔M(三原カ)氏の策謀に付注意喚起〕 新井佐和子→原後山治	昭和58年8月8日(1983)	1封筒(2枚)・ペン	37-14
書簡〔サハリンの朝鮮人訪日実現の会発足に付〕 サハリンの朝鮮人訪日実現の会→林栄子	昭和62年7月末(1987)	1封筒(5枚)・謄写版	37-15-1
払込通知票		1枚・活版	37-15-2
書簡〔弁護団と実行委員会の発想の相違に付所感〕 陳野〔守正〕→新井〔佐和子〕	昭和58年4月28日 (1983)	1枚・ペン	37-17

Series No.3: 刊行物

在サハリン同胞早期帰還を	昭和58年3月9日(1983)	1枚・活版	37-1
樺太裁判実行委員会ニュース最終号(第47号) 樺太抑留韓国人帰還請求裁判実行委員会→新井佐和子	昭和59年9月30日(1984)	1封筒(1枚)・活版	37-2-1
樺太裁判の実行委解散	昭和59年10月15日(1984)	1枚・活版・ペン	37-2-2
樺太裁判実行委員会ニュース第45号 樺太抑留韓国人帰還請求訴訟実行委員会→新井佐和子	昭和58年8月15日(1983)	1封筒(2枚)・活版	37-16-1
払込通知票		1枚・活版	37-16-2
サハリン裁判ニュース 無教会関係機関誌(聖書の日本、その他)			55
聖書の日本477号	昭和51年6月(1976)	1冊・活版	55-1
聖書の日本478号	昭和51年7月(1976)	1冊・活版・ペン	55-2
聖書の日本483号〔丁間資料:政池仁宛払込通知票〕	昭和52年1月(1977)	1冊・活版	55-3
聖書の日本484号	昭和52年2月(1977)	1冊・活版・ペン	55-4
聖書の日本519号	昭和55年5月(1980)	1冊・活版	55-5
十字架の言(187)第十六巻第七号 高橋三郎	昭和55年7月(1980)	1冊・活版・ペン	55-6
永遠の日本(58) 岩島公	昭和54年7月(1979)	1冊・活版・ペン	55-7
東京独立新聞 東京独立新聞社	昭和55年7月15日(1980)	1枚・活版	55-8
東京独立新聞 東京独立新聞社	昭和56年11月15日(1981)	1枚・活版	55-9
樺太裁判実行委員会ニュース第23号 樺太抑留韓国人帰還請求訴訟実行委員会	昭和53年10月25日(1978)	1冊・活版	55-10
樺太裁判実行委員会ニュース第25号 樺太抑留韓国人帰還請求訴訟実行委員会	昭和54年2月28日(1979)	1冊・活版	55-11
樺太裁判実行委員会ニュース第26号 樺太抑留韓国人帰還請求訴訟実行委員会	昭和54年5月25日(1979)	1冊・活版	55-12
樺太裁判実行委員会ニュース第27号 樺太抑留韓国人帰還請求訴訟実行委員会	昭和54年10月1日(1979)	1冊・活版	55-13
樺太裁判実行委員会ニュース第32号〔丁間資料:「樺太裁判」支援の会入会案内〕 樺太抑留韓国人帰還請求訴訟実行委員会	昭和55年10月1日(1980)	1冊・活版	55-14
樺太裁判実行委員会ニュース第29号 樺太抑留韓国人帰還請求訴訟実行委員会	昭和55年1月25日(1980)	1冊・活版	55-15
樺太裁判実行委員会ニュース第30号 樺太抑留韓国人帰還請求訴訟実行委員会	昭和55年3月25日(1980)	1冊・活版	55-16
樺太裁判実行委員会ニュース第31号 樺太抑留韓国人帰還請求訴訟実行委員会	昭和55年5月25日(1980)	1冊・活版	55-17
樺太裁判実行委員会ニュース第33号 樺太抑留韓国人帰還請求訴訟実行委員会	昭和55年11月25日(1980)	1冊・活版	55-18

樺太裁判実行委員会ニュース第35号 人帰還請求訴訟実行委員会	樺太抑留韓国	昭和56年4月5日(1981)	1冊・活版	55-19
樺太裁判実行委員会ニュース第36号 人帰還請求訴訟実行委員会	樺太抑留韓国	昭和56年6月25日 (1981)	1冊・活版	55-20
樺太裁判実行委員会ニュース第37号 人帰還請求訴訟実行委員会	樺太抑留韓国	昭和56年8月15日 (1981)	1冊・活版	55-21
樺太裁判実行委員会ニュース第36号 人帰還請求訴訟実行委員会	樺太抑留韓国	昭和56年6月25日 (1981)	1冊・活版・ペン	55-22
樺太裁判実行委員会ニュース第37号 人帰還請求訴訟実行委員会	樺太抑留韓国	昭和56年8月15日 (1981)	1冊・活版	55-23
樺太裁判実行委員会ニュース第38号 人帰還請求訴訟実行委員会	樺太抑留韓国	昭和56年11月15日 (1981)	1冊・活版	55-24
樺太裁判実行委員会ニュース第39号 人帰還請求訴訟実行委員会	樺太抑留韓国	昭和57年2月1日(1982)	1枚・活版	55-25
樺太裁判実行委員会ニュース第40号 国人帰還請求訴訟実行委員会	樺太抑留韓	昭和57年6月5日(1982)	1冊・活版	55-26
樺太裁判実行委員会ニュース第42号 人帰還請求訴訟実行委員会	樺太抑留韓国	昭和57年11月25日 (1982)	1枚・活版	55-27
樺太裁判実行委員会ニュース第41号〔丁間資料:樺太 抑留韓国人帰還訴訟実行委員会宛払込通知票〕 樺 太抑留韓国人帰還請求訴訟実行委員会		昭和57年9月15日 (1982)	1冊・活版	55-28
樺太裁判実行委員会ニュース第44号 国人帰還請求訴訟実行委員会	樺太抑留韓	昭和58年4月15日 (1983)	1枚・活版	55-29
樺太裁判実行委員会ニュース第45号 人帰還請求訴訟実行委員会	樺太抑留韓国	昭和58年8月15日 (1983)	1冊・活版・鉛筆	55-30
「樺太裁判」支援の会入会案内 還請求訴訟裁判実行委員会	樺太抑留韓国人帰		1枚・活版	55-31

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

Sub-Fonds No.3:新井佐和子

Series No.1: サハリン再会支援会

[サハリン再会支援会解散関係]			57-5
書簡〔サハリン再会支援会解散通知及び通知控〕 新井佐和子→堀江和子	平成1年2月(1989)	1封筒(4枚・2綴)	57-5-1
カラフト抑留者留守家族支援の会	昭和57年6月(1982)	1枚・活版	57-5-2
ご挨拶〔サハリン再会支援会解散〕 堀江和子・堀江圭三・秋田蘭子・三浦貞子・滝沢達夫・新井佐和子	平成1年2月(1989)	2綴・活版	57-5-3
統一日報	平成1年2月24日(1989)	1枚・活版・ペン	57-5-4
[招請関係書類]			57-7
〔招請依頼書簡〕			57-7-1
〔招請関係書類コピー〕	昭和63年12月22日(1988)	3綴・17枚・謄写版	57-7-1-1
書簡〔招請の件並びに血圧計不具合に付〕 崔暎沢→新井佐和子	昭和63年6月30日(1988)	1封筒(2枚)・ペン	57-7-1-2
書簡〔サハリン観光団到着予定問合せ〕 崔暎沢→新井正夫・新井佐和子	昭和61年2月18日(1986)	2枚・ペン	57-7-1-3
書簡〔招請状依頼〕 崔暎沢→新井佐和子		2枚・ペン	57-7-1-4
〔招請依頼書など〕 崔暎澤→新井佐和子		1綴・7枚・ペン	57-7-2
サハリン再会支援会 八八.四～八九.二(残務1年)		1ファイル・ペン・活版	81
サハリンからの一時訪日予定者(招請状発送分)〔高木側招請者〕 高木健一法律事務所		1綴(11枚)・謄写版	81-2
サハリン再会支援会 予算報告書 63年実績より サハリン再会支援会	昭和63年10月26日(1988)	1綴(8枚)・謄写版	81-5
1988年度来日方親者 サハリン再会支援会		1綴(4枚)・謄写版・ペン	81-6
解散宣言・案文 サハリン再会支援会		6枚・ペン	81-7
書簡〔李徳林氏韓国への永住帰国に付断簡〕 →方		1枚・ペン	81-8
〔訪韓事業協力への礼状案文〕		2部(2枚)・ペン	81-9
書簡〔季刊誌恵贈への礼状〕 新井佐和子→五十嵐広三〔社会党〕	平成1年4月31日(1989)	1枚・ペン	81-10
〔新井佐和子日程1987年10・12月〕 新井佐和子		2枚・ペン	81-13
来日訪親者 サハリン再会支援会		1綴(4枚)・謄写版	81-16
来日予定者 サハリン再会支援会		1綴(3枚)・謄写版	81-17
アエロフロート 冬期時刻表 アエロフロート	昭和63年(1988)	1枚・謄写版	81-18

〔李徳林氏永住帰国に付〕 サハリン再会支援会	平成1年4月10日(1989)	1部(7枚)・謄写版	81-19
〔招請申請許可通知案文〕 サハリン再会支援会		1枚・ペン	81-21
書簡〔家族再会に関するサハリンからの手紙〕 金東文→堀江和子	昭和62年11月20日(1987)	14枚・謄写版	81-22-1
書簡〔一時帰還に際し親類の消息確認依頼〕 山下俊男→サハリン再会支援会	平成1年7月5日(1989)	1封筒(1枚・コピー4枚)・ペン・謄写版	81-22-2-1
書簡〔日本テレビ番組企画より「山下俊男氏親類消息調査結果」返書〕 日本テレビ放送網株式会社「ルックルックこんにちは・涙のご対面」スタッフ一同→新井佐和子	平成1年9月4日(1989)	1封筒(1枚)・謄写版	81-22-2-2
〔サハリン残留韓国人韓国一時帰国関連記事並びにメモ等〕	昭和63年(1988)	12枚・活版・謄写版・ペン	81-23-1
書簡〔サハリン残留韓国人洪太兎メモ回覧願〕 李義八〔樺太帰還在日韓国人会会長〕→サハリン残留韓国・朝鮮人問題関係各所	平成1年1月10日(1989)	1綴(4枚)・謄写版	81-23-2
日本への入国審査申請手続案内 外務省領事移住部査証室	昭和62年9月(1987)	1冊・活版	81-24
サハリン関係来信 一九九四年まで			83
書簡〔近況報告並びに領収証礼状〕 李丙生→新井佐和子	〔昭和55〕年6月15日(1980)	1封筒(1枚)・ペン	83-1
葉書〔新年挨拶〕 田末順→新井佐和子	平成6年1月1日(1994)	1封筒(1枚)・ペン	83-2
書簡〔曆恵贈礼状並びに近況報告〕 С И М У Л Ь Ю Н (沈乙允カ)→新井佐和子	平成5年2月25日(1993)	1封筒(1枚)・ペン	83-3
書簡〔カレンダー礼状並びに近況報告〕 方明照→新井佐和子	平成4年1月4日(1992)	1封筒(1枚)・ペン	83-4
書簡〔日本訪問招請状依頼〕 崔暎沢→新井佐和子	平成5年6月20日(1993)	1封筒(5枚)・ペン	83-5
書簡〔カレンダー礼状並びに近況報告〕 崔暎沢→新井佐和子	平成5年1月28日(1993)	1封筒(2枚)・ペン	83-7
書簡〔新年挨拶〕 方明照→新井佐和子	平成5年1月1日(1993)	1枚・ペン	83-8
書簡〔新年挨拶〕 沈乙允・朱玉蓮→新井佐和子	平成3年1月1日(1991)	1封筒(1枚)・ペン	83-9
書簡〔サハリン帰還報告並びに日本訪問歓待礼状〕 崔暎沢→新井佐和子	平成3年12月5日(1991)	1封筒(1枚)・ペン	83-10-1
書簡〔新年挨拶〕 崔暎沢→新井佐和子	平成3年12月5日(1991)	1枚・ペン	83-10-2
書簡〔新年挨拶並びにカレンダー送付願〕 田末順→新井佐和子	平成4年1月1日(1992)	1封筒(1枚)・ペン	83-11
書簡〔新年挨拶礼状並びに近況報告〕 沈乙允・朱蓮子→新井佐和子	平成4年1月15日(1992)	1封筒(1枚)・ペン	83-12
書簡〔近況報告並びに韓国語新聞記事翻訳送付〕(83-14のコピー) 方明照→新井佐和子	平成3年9月21日(1991)	2枚・謄写版	83-13
書簡〔近況報告並びに韓国語新聞記事翻訳送付〕 方明照→新井佐和子	平成3年9月21日(1991)	1封筒(2枚)・ペン	83-14

【封筒のみ】 茂澤繁・いづみ→新井佐和子	平成3年10月9日(1991)	1枚・ペン	83-15
メモ〔ロシアの闇銀行為替レート並びに物価〕		1枚・ペン	83-17
書簡〔樺太裁判弁護団態度表明に付礼状並びに謝罪〕 新井佐和子→樺太裁判弁護団諸先生	昭和58年6月27日(1983)	3枚・ペン	83-18
書簡〔手紙並びに小包送付礼状〕 方明照→新井佐和子	平成3年4月30日(1991)	1封筒(1枚)・ペン	83-19
書簡〔書籍送付お礼並びにビデオカメラ部品調達願(83-21-3のコピー) 方明照→新井佐和子	平成3年1月30日(1991)	1封筒(2枚)・謄写版	83-21-1
〔ビデオカメラ部品領収証並びに送付伝票コピー〕	〔平成3年4月9日(1991)〕	1枚・謄写版	83-21-2
書簡〔書籍送付礼状並びにビデオカメラ部品調達願〕 方明照→新井佐和子	平成3年1月30日(1991)	2枚・ペン	83-21-3
〔送金先住所氏名〕	平成3年4月10日(1991)	1枚・ペン	83-21-4
書簡〔堀江新住所問合せ〕 右田千代→新井佐和子	平成3年4月8日(1991)	1封筒(5枚)・ペン	83-25
書簡〔カレンダー送付礼状〕 田末順→新井佐和子	平成3年4月8日(1991)	1封筒(1枚)・ペン	83-27
書簡〔食品類送付礼状〕 崔暎沢→新井佐和子	平成3年2月6日(1991)	1封筒(2枚)・ペン	83-28-1
メモ〔崔暎沢住所〕		1枚・ペン	83-28-2
〔聖家族イラスト〕		1枚・印刷	83-31-2
書簡〔近況報告〕 野口重人→新井佐和子	〔昭和55年6月9日(1980)〕	1封筒(2枚)・ペン	83-33
書簡〔品物送付礼状〕 片文志・岩谷節子→新井佐和子	〔昭和54年11月13日(1979)〕	2枚・ペン	83-36
書簡〔新年挨拶〕 李斗勲→新井佐和子	〔昭和57年12月15日(1982)〕	1封筒(1枚)・印刷	83-42
葉書〔サハリン裁判実行委員会の件に付見舞〕 山口協一→新井佐和子	昭和57年8月22日(1982)	1枚・ペン	83-46
書簡〔原稿校正依頼並びに留守家族援護の会設立に付所感〕 陳野守正→新井佐和子	5月5日	3枚・ペン	83-50
書簡〔病気見舞の送金お礼並びに京淑病状報告〕 金玉昌→新井佐和子	〔昭和55年3月18日(1980)〕	1封筒(4枚)・ペン	83-52
葉書〔□□の趣各方面への注意喚起に付〕 原後山治→新井佐和子	〔昭和58年8月11日(1983)〕	1枚・ペン	83-53
【封筒のみ】 朴世玉→李義八	〔昭和63年6月20日(1988)〕	1枚・ペン	83-54
葉書〔実行委員会ニュース第38号送付礼状〕 金敬得→新井佐和子	昭和56年1月19日(1981)	1枚・ペン	83-57
書簡〔活動再参加激励並びにこれまでの非礼に付詫状〕 三原令→新井佐和子	12月24日	1封筒(12枚)・ペン	83-59
書簡〔三浦和男住所並びに電話番号通知〕 松館→新井佐和子	昭和56年8月11日(1981)	1封筒(3枚)・ペン	83-60-1
書簡写〔サハリン残留日本人番組感想〕 新井佐和子→松館忠樹		2枚・謄写版	83-60-3

書簡〔活動激励〕 林韞全→新井佐和子	〔昭和63年5月1日〕 (1988)	1封筒(1枚)・ペン	83-61
葉書〔残暑見舞〕 南咲江→新井佐和子	〔昭和54年8月25日〕 (1979)	1枚・ペン	83-62
書簡〔活動激励〕 新井重作→新井佐和子	〔昭和56年4月27日〕 (1981)	1封筒(4枚)・ペン	83-63
書簡〔裁判結果に関して慰撫〕 有賀正明→新井佐和子	〔昭和58年5月4日〕 (1983)	1封筒(2枚)・墨書	83-66
〔衆議院議長と参議院議長への署名用紙〕		1枚・謄写版	83-70
葉書〔手紙受取に付礼状並びに裁判傍聴所感〕 陳野守正→新井佐和子	〔昭和54年11月7日〕 (1979)	1枚・ペン	83-71
書簡〔相談なしの番組放映に付詫状〕 大貫康雄・小宮英美→新井佐和子	昭和60年3月4日(1985)	1封筒(1枚)・ペン	83-74-1
名刺〔小宮英美〕		1枚・活版	83-74-2
葉書〔年賀状〕 新井佐和子→坂巻隆男	昭和57年1月(1982)	1枚・活版・墨書	83-76
書簡〔活動中止に伴う金銭問題に付意見〕 椿本悦子→新井佐和子	〔昭和59年1月27日〕 (1984)	1封筒(2枚)・ペン	83-77
葉書〔一時帰国運動団体重複に付意見〕 陳野守正→新井佐和子	〔昭和59年1月9日〕 (1984)	1枚・ペン	83-78
書簡〔一時帰国運動の方向性に付意見〕 陳野守正→新井佐和子	昭和59年1月16日 (1984)	1封筒(4枚)・ペン	83-79
書簡〔年賀状〕 李斗勲→新井佐和子	〔昭和58年12月9日〕 (1983)	1封筒(1枚)・活版・ペン	83-80
〔ブレジネフ宛書簡執筆及び京都の親戚連絡先通知依頼下書〕 →趙おばさん		1枚・ペン	83-81
書簡〔近況報告並びに露文タイプライター返却如何問合〕 吉岡アキ→新井佐和子	〔昭和59年10月19日〕 (1984)	1封筒(2枚)・ペン	83-82
葉書〔群像への抗議の件検討中に付〕 牧田松子→新井佐和子	〔昭和57年9月24日〕 (1982)	1枚・ペン	83-83
書簡〔近況報告〕 杉原道子→新井佐和子	12月19日	1封筒(5枚)・ペン	83-84
書簡〔年賀状〕 巖相憲	昭和60年12月24日 (1985)	1枚・墨書・活版	83-85
葉書〔恵与金札状〕 金敬玉→新井佐和子	〔昭和56年2月9日〕 (1981)	1枚・ペン	83-86
書簡〔家族再会礼状〕 李斗勲→新井佐和子	昭和57年5月14日 (1982)	1封筒(1枚)・ペン	83-88
【封筒のみ】 李斗勲→新井佐和子	〔昭和57年11月5日〕 (1982)	1枚・ペン	83-89
書簡〔裁判参席不可能に付詫状〕 李斗勲→新井佐和子	昭和57年11月26日 (1982)	1封筒(1枚)・タイブ・ペン	83-90
書簡〔慰問の手紙及び寄付金札状〕 禹浩榮→新井佐和子	昭和57年11月30日 (1982)	1封筒(1枚)・ペン	83-91
書簡〔新井美和子近況報告〕 李斗勲→新井佐和子	昭和57年4月29日 (1982)	1封筒(1枚)・タイブ・ペン	83-92

書簡〔近況報告〕 李斗勲→新井佐和子	昭和58年1月25日 (1983)	1封筒(1枚)・タイ プ・ペン	83-93
書簡〔贈物礼状〕 李斗勲→新井佐和子	昭和58年3月24日 (1983)	1封筒(1枚)・タイ プ・ペン	83-94
書簡〔8月15日付朝日新聞サハリン裁判記事送付 願〕 李斗勲→新井佐和子	昭和57年9月6日(1982)	1封筒(2枚)・ペン	83-95
書簡〔高麗大学大学院入学決定に付通知〕 遠山明夫 →新井佐和子	昭和57年2月11日 (1982)	1封筒(2枚)・ペン	83-96
【封筒のみ】 新井佐和子→巖相憲		1枚・ペン	83-97
葉書〔樺太帰還在日韓国人会30周年記念懇親会招待 状〕 朴魯学→新井佐和子	昭和63年1月24日 (1988)	1封筒(1枚)・活 版・墨書	83-98
葉書〔韓国の弟へ手紙送付願〕 И Н Э Н С y (尹□ □)→新井佐和子	〔昭和63年2月20日〕 (1988)	1枚・ペン	83-99
書簡〔近況報告〕 李斗勲→新井佐和子	昭和57年7月25日 (1982)	1封筒(1枚)・ペン	83-100-1
カラフト抑留者留守家族支援の会	昭和57年6月(1982)	1枚・活版	83-100-2
書簡〔クリスマスカード〕 大貫康雄		1枚・活版・ペン	83-101
書簡〔年賀状〕 尹爽鐘・林醞全→新井佐和子	〔平成1年12月4日〕 (1989)	1封筒(1枚)・活 版・ペン	83-102
書簡〔年賀状〕 尹爽鐘・林醞全・朴順全→新井佐和子		1封筒(1枚)・活 版・ペン	83-103
書簡〔肉親金甲同搜索の件顛末〕 金玉昌	平成2年7月(1990)	1封筒(2枚)・ペン	83-106-1
メモ〔金玉昌に付〕		1枚・ペン	83-106-2

Series No.2: 執筆活動

ノート〔抑留韓人名簿並びに朴魯学日記抜粋・丁間資 料:南樺太地図、李重善挨拶状コピー〕 新井佐和子	昭和63年11月7日 (1988)	1冊・ペン・謄写版	37-20
サハリンメモ 活動記録〔丁間資料:招請書類雛形、活動 記録断簡〕 新井佐和子	昭和55年7月26日 (1980)	1冊・ペン	37-21
日韓併合時代その他			38
在日朝鮮人関係資料集成第四巻 朴慶植編		1綴・謄写版	38-1
在日朝鮮人の処遇政策確定過程にみられる若干の問 題について-一九四五年～一九五二年- 加藤晴子	昭和59年3月(1984)	1冊・活版	38-2
「官幹旋」と土建労働者-「道外幹旋」を中心に- 広瀬 貞三	平成3年10月(1991)	1綴・謄写版	38-3
一紙〔朝鮮人の待遇に関する事項〕		1枚・謄写版	38-4
募集ニ依ル朝鮮人労働者ノ状況(一九三九)		1枚・謄写版	38-5
募集ニ依ル朝鮮人労働者ノ状況(一九三九)		5枚・謄写版	38-6
書簡〔書籍送付お礼並びに韓国親族法・相続法改正法 文翻訳同封〕 古田修→新井佐和子		1封筒(10枚)・活 版・墨書	38-7

朝鮮総督府時局対策調査会諮問案参考書(内鮮一体ノ強化徹底ニ関スル件) 朝鮮総督府	昭和13年9月(1938)	1綴・謄写版	38-8
朝鮮徴兵準備読本 朝鮮軍報道部	昭和17年10月15日(1942)	1綴・謄写版	38-9
『法律全書』	昭和13年(1938)	1綴・謄写版	38-10
『旧法令集』 我妻	昭和43年(1968)	1綴・謄写版	38-11
一紙〔法律全書〕	昭和18年(1943)	1綴・謄写版	38-12
一紙〔法律全書〕	昭和18年(1943)	1綴・謄写版	38-13
一紙〔法律全書〕	昭和13年(1938)	1枚・謄写版	38-14
朝鮮植民地統治時代産業資料 新井健→新井正夫	平成3年(1991)	1封筒(13枚)・謄写版	38-15
〔角田房子・大沼保昭・高木健一・五十嵐広三・三原令関係資料〕			39
角田資料			39-1
青丘文化 36・37合併号 辛基秀	昭和63年6月5日(1988)	1冊・活版	39-1-1
〔角田房子関連新聞記事スクラップ〕		4枚・活版・謄写版	39-1-2
書簡〔角田房子著書に対する投書原稿〕 岩崎美和子	平成7年9月21日(1995)	2枚・謄写版	39-1-3
大沼資料 →新井正夫	平成7年9月17日(1995)	29枚・ペン・活版	39-2
〔大沼保昭関連新聞記事スクラップ〕		21枚・活版・謄写版	39-2-1
〔大沼保昭『サハリン棄民』出版講演会案内コピー〕		1枚・謄写版	39-2-2
書簡〔サハリン残留朝鮮人永住帰国者療養院完成に付〕 大沼保昭→新井正夫	平成11年4月12日(1999)	1封筒(3枚)・活版・謄写版・写真	39-2-3
書簡〔在外研究からの帰国挨拶コピー〕 大沼保昭	平成4年8月(1992)	1枚・謄写版	39-2-4
高木弁護士参考資料			39-3
書簡写〔韓 WON SOOらの帰還に付非難〕 李斗勲→草川	昭和63年8月31日(1988)	1枚・謄写版	39-3-1
〔五十嵐広三記事スクラップ〕	昭和63年10月10日(1988)	1枚・活版	39-3-2
メモ〔高木健一事務所住所及び電話番号〕		2枚・ペン	39-3-3
メモ〔社会党パチンコ疑惑記事への投書下書〕		1枚・ペン	39-3-4
書簡〔帰還者の不満に付〕 李斗勲→新井佐和子	昭和63年8月31日(1988)	1枚・謄写版	39-3-5
サハリン残留韓国朝鮮人問題議員懇談会役員会	昭和63年10月25日(1988)	1枚・謄写版	39-3-6
事務局通信25号 アジアに対する戦後責任を考える会	昭和63年1月20日(1988)	3枚・謄写版	39-3-7
メモ〔戦時に戻ったり平時の原則に則したり〕	平成6年年1月14日(1994)	1封筒(2枚)・謄写版	39-3-8

〔高木健一記事スクラップ〕		1綴・5枚・謄写版	39-3-9
書簡〔帰還者の不満に付〕 李斗勲→新井佐和子		1綴・活版・ペン	39-3-10
日赤外事部長訪ソ時のソ赤に対する要望(メモ)		1枚・謄写版	39-3-11
12.23サハリンからの親族再会訪日予定者	昭和63年12月17日 (1988)	1綴・謄写版	39-3-12
〔サハリン残留韓国・朝鮮人招請費用に付要望書〕 サハリン残留韓国・朝鮮人援護会→原文兵衛 〔サハリン残留韓国・朝鮮人問題議員懇談会会長〕	昭和63年12月29日 (1988)	1綴・謄写版	39-3-13
葉書〔事務局通信24号〕 アジアに対する戦後責任を 考える会→新井佐和子	昭和62年12月1日 (1987)	1枚・活版・ペン	39-3-14
葉書〔事務局通信26号〕 アジアに対する戦後責任を 考える会→新井佐和子	昭和63年7月18日 (1988)	1枚・活版	39-3-15
書簡〔韓国語翻訳の伝手なく手紙読解不可能に付詫 状下書〕 〔新井佐和子〕→李斗勲		1枚・ペン	39-3-16
高木健一資料 新井〔佐和子〕	平成6年10月24日 (1994)	2枚・ペン	39-3-17
書簡〔株式会社SDC脱税疑惑と高木健一事務所の関 係に付〕	昭和62年10月7日 (1987)	2枚・謄写版・ペ ン	39-3-18
高木事務所関係、裁判関係資料			39-4
サハリンからの一時訪日予定者(招請状発送分)		1枚・謄写版	39-4-1
〔サハリン問題関連新聞記事スクラップ〕		2枚・活版・謄写版	39-4-2
招待状〔李徳守・李錦秀・李光海招待〕 角谷昌範	昭和63年2月18日 (1988)	1綴・謄写版	39-4-3
招待状〔文光日・白汝女・文美子招待〕 神沢昇	昭和63年2月18日 (1988)	1綴・謄写版	39-4-4
書簡〔招請状送付〕 神沢今日子〔高木健一法律事務 所〕→朴魯学	昭和63年2月22日 (1988)	1枚・ペン	39-4-5
〔招請手順書コピー〕		1枚・謄写版	39-4-6
〔戦後責任を考える会関連新聞記事スクラップ及び そのコピー〕		2枚・活版・謄写 版・ペン	39-4-7
戦後責任第4号〔丁問資料:アジアに対する戦後責任 を考える会発新井佐和子宛事務局通信3枚及び会費 領収証2枚〕	昭和62年(1987)	1冊・活版	39-4-8
サハリン残留韓国・朝鮮人問題を考える国会議員懇 談会(仮称)設立趣旨書(案) 設立発起人	昭和62年2月(1987)	1綴・謄写版	39-4-9
趣意書〔アジアにたいする戦後責任を考える会設 立〕 大沼保昭・中村尚司・幼方直吉・高木健一・梶村 秀樹・内海愛子・田中宏・有吉克彦	昭和58年3月14日 (1983)	1枚・活版	39-4-10
〔サハリン残留韓国・朝鮮人問題を考える国会議員懇 談会〕予定議員案		1綴・謄写版	39-4-11
アジアにたいする戦後責任を考える講演会		1枚・活版	39-4-12
アジア・太平洋地域戦後補償国際フォーラム		2枚・謄写版	39-4-13

40何年たっても消えぬ傷 アジア・太平洋地域戦後補償国際フォーラム		1枚・活版・ペン	39-4-14
「八・一五市民による追悼の集い」呼びかけ人のお願い 呼びかけ人一同	平成5年8月(1993)	1綴・活版・謄写版・ペン	39-4-15
[アジアに対する戦後責任を考える会事務局通信20号コピー]	昭和62年2月(1987)	1枚・謄写版	39-4-16
[サハリン残留韓国人議員懇談会関連新聞記事スクラップコピー]		1綴・謄写版	39-4-17
五十嵐資料			39-5
書簡[五十嵐広三・高木健一・大沼保昭への糾弾記事掲載依頼] 堀江和子		1綴・謄写版	39-5-1
書簡写[五十嵐広三宛『サハリン残留韓国・朝鮮人問題と日本の政治』回収要求] 堀江和子→新井佐和子		1封筒(1綴・1枚)・謄写版	39-5-2
[五十嵐広三関連週刊誌記事スクラップ]		3綴・1枚・活版・謄写版	39-5-3
三原令資料			39-6
樺太抑留韓国人帰還請求裁判のこと 三原令		4枚・謄写版・ペン	39-6-1
[三原令新聞記事スクラップ]	昭和58年4月15日(1983)	1枚・活版	39-6-2
[大沼保昭関連資料]		3枚・謄写版・活版	40
この時期羽田首相が買い込んだ3冊の本	平成6年5月29日(1994)	1枚・謄写版	41
[韓国留守家族関連資料]			42
葉書[事務局通信22号] アジアに対する戦後責任を考える会→新井佐和子	昭和62年6月5日(1987)	1枚・活版	42-1
韓国留守家族訪日	昭和62年5月(1987)	1綴・活版	42-2
書簡[李会長ら箱根案内礼状及び箱根観光ホテル監査役礼状写送付] 山崎知子→新井佐和子	[昭和62]年6月8日(1987)	1封筒(4枚)・ペン・謄写版	42-3
メモ[五十嵐謙司住所及び電話番号]		1枚・ペン	42-4
書簡[訪日案内礼状](韓国語) 李斗勲→新井佐和子	昭和62年6月10日(1987)	1封筒(1枚)・ペン	42-5
[李斗勲新聞記事スクラップ]	昭和62年6月5日(1987)	2枚・活版・謄写版	42-6
[残留韓国人帰還関連新聞及び週刊誌記事スクラップ]		1封筒(12枚・1綴)・活版・謄写版	43
李恢成「サハリンへの旅」問題関係資料			44
メモ[李恢成十四及び電話番号]		1枚・鉛筆・ペン	44-1
私の在日韓国・朝鮮人論(1)	昭和62年7月(1987)	1綴・謄写版・ペン	44-2
ニューヨークタイムズ掲載 美和子訳文			45
[非日本人の日本における地位に付英語文献]		2枚・謄写版	45-1
訳者のことば		3枚・謄写版	45-2

50. 朝鮮人の地位及び取扱に関する総司令部渉外局 発表		1枚・ペン	45-3
カラフト抑留韓国人 新井美和子	昭和54年12月(1979)	1綴・謄写版	45-4
[日韓条約関係]			48
財産・請求権問題処理及び経済協定の諸問題 杉 山茂雄	昭和40年9月(1965)	1綴・謄写版	48-1
一日本人が見た日韓関係 田中明	平成4年(1992)	1綴・謄写版	48-2
日韓国交正常化の舞台裏 河野(国務相)-丁(総理)秘 密交渉		1枚・謄写版	48-3
現代史再訪104 日韓交渉秘話	平成4年1月14日(1992)	2枚・謄写版	48-4
[中ソ離散家族会資料、「在サハリン韓国人帰還」に関す る記事など]			49
「在サハリン韓国人帰還」実現へ努力惜しまず	平成8年12月3日(1996)	7枚・謄写版	49-1
中蘇離散家族会(第15回定期総会)	昭和59年8月15日 (1984)	23枚・謄写版	49-2
樺太裁判実行委員会ニュース第44号	昭和58年4月15日 (1983)	4枚・謄写版	49-3
た帝国議会衆議院秘密会議速記録(前欠)	平成8年12月7日(1996)	1枚・謄写版	49-4
[朝鮮半島情勢関係国会議事録]			50
帝国議会(S.18.3.3 19.2.1 20.1.31)速記録 朝鮮半島関 係 →新井佐和子	平成8年12月20日 (1996)	1点・活版・ペン	50-1
書簡[帝国議会衆議院秘密会議速記録コピー送付に 付] オノザワ→新井佐和子	平成8年12月(1996)	1枚・謄写版	50-1-1
た帝国議会衆議院秘密会議速記録(前欠)	平成8年12月7日(1996)	1枚・謄写版	50-1-2
市制中改正法律案外四件委員会 朝鮮統治ノ方針ニ 付テ		1綴・謄写版	50-1-3
鉄道敷設法戦時特例外一件委員会 朝鮮ニ於ケル総 動員物資数量並ニ治安情況		1綴・謄写版	50-1-4
農林中央金庫法中改正法律案委員会 朝鮮、台湾、満 洲ニ於ケル食糧需給事情		1綴・謄写版	50-1-5
草川事ム所より昭和18~19年衆議院秘密会議速記録 (朝鮮人関係) その他資料樺太裁判ニュース1983.4 日本人引揚時の情況 統一日報1982.3.10「ソ連と粘り 強く交渉」		1点・ペン・活版	50-2
サハリン残留韓国・朝鮮人補償請求事件		1枚・謄写版	50-2-1
ソ連“少数民族”の出国ビザ発給緩和	昭和62年9月1日(1987)	1枚・謄写版	50-2-2
「在サハリン韓国人帰還」実現へ努力惜しまず	昭和57年3月10日 (1982)	1枚・謄写版	50-2-3
日本人が作ったインドネシア「慰安婦」問題		1枚・謄写版	50-2-4
樺太裁判実行委員会ニュース第44号 樺太抑留韓 国人帰還請求訴訟実行委員会		1綴・謄写版	50-2-5

第九十六回国会衆議院予算委員会第一分科会議録 (皇室費、国会、裁判所、会計検査院、内閣、総理府(経済企画庁、国土庁を除く)及び法務省所管並びに他の分科会の所管以外の事項)第四号	平成8年12月3日(1996)	1綴・謄写版	50-2-6
無力化した「国民の代表」	平成8年12月7日(1996)	1枚・活版	50-2-7
樺太関係新資料 小野沢〔草川事務所〕	平成10年4月9日(1998)	1点・活版・ペン	51
私の樺太 サハリンの記 須田政美		1綴・活版	51-1
樺太の出稼ぎ―林業編― 野添憲治・田村憲一編		1綴・活版	51-2
樺太の出稼ぎ―漁業編― 野添憲治・田村憲一編		1綴・活版	51-3
ほるぶ出版伊藤孝司著高木健一解説「樺太棄民」コピー	平成3年10月22日 (1991)	1点・ペン	52
強制連行・置き去りにされた人々		1枚・謄写版	52-1
写真記録樺太棄民 伊藤孝司著・高木健一解説		78枚・謄写版	52-2
提訴に至るまで(50.12.1)訴訟記録集「忘却の歲月」	昭和50年12月1日 (1975)		54
忘却の歲月	昭和57年6月(1982)	1冊・活版・ペン	54-1
戦後補償訴訟取り下げへ	平成7年6月26日(1995)	1枚・謄写版	54-2
「在サハリン韓国人」支援を見直せ 新井佐和子	平成7年4月5日(1995)	1枚・謄写版	54-3
妻第8号 樺太抑留帰還韓国人会に協力する妻の会	昭和50年9月1日(1975)	1冊・活版	54-4
〔原稿資料〕			56
名簿	昭和42年6月(1967)		56-1
1966年度樺太韓国人帰還希望者分布状態	昭和43年(1966)	1枚・謄写版	56-1-1
在サハリン同胞肉親再会一時帰日で一条の光	昭和60年6月27日 (1985)	1枚・謄写版	56-1-2
樺太抑留同胞帰還希望者名簿No1	昭和42年6月(1967)	1綴・謄写版	56-1-3
公開質問状 朴魯学→竹内紀男	昭和60年11月5日 (1985)	1綴・謄写版	56-2
メモ〔帰還者出国日〕		1枚・ペン	56-3
〔書簡類〕			56-4
書簡〔年賀状〕 権熙恵・金山起→新井佐和子	平成3年1月1日(1991)	1封筒(2枚)・ペン	56-4-1-1
書簡〔新井佐和子著書感想〕 権熙恵→新井佐和子	平成2年12月19日 (1990)	1枚・ペン	56-4-1-2
書簡〔出国手続完了に付〕 崔暲沢→新井佐和子	昭和59年9月14日 (1984)	1封筒(5枚)・ペン	56-4-2
〔日本人の対応に付非難文〕 金永根・山本小政	昭和51年2月11日 (1976)	1綴・ペン	56-4-3
メモ〔招請諸費用〕	平成3年1月21日(1991)	1枚・鉛筆	56-5
メモ〔来日者及び招請者〕		2枚・ペン	56-6

〔新聞記事スクラップ〕			56-7
在サハリン韓国・朝鮮人韓国訪問の可能性ソ連外務省担当官も認める	昭和63年3月(1988)	1枚・謄写版	56-7-1
ソ連赤十字議長在サハリン韓国・朝鮮人韓国訪問の可能性示唆	昭和63年3月5日(1988)	1枚・謄写版	56-7-2
書簡〔毎日新聞の心情的な記事に付所感〕 佐藤勝巳→新井佐和子	〔平成3〕年3月2日(1991)	1封筒(1枚)・ペン	56-7-3
戦後初サハリン・コルサコフ市に入る 大泊面影も今はなく	昭和63年3月5日(1988)	1枚・謄写版	56-7-4
ソ連-稚内定期航路ワニノ線も検討		1枚・謄写版	56-7-5
ユジノサハリンスク教育大北大と学術交流計画		1枚・謄写版	56-7-6
在サハリン韓国・朝鮮人韓国訪問の可能性ソ連外務省担当官も認める	昭和63年3月(1988)	1枚・謄写版	56-7-7
〔新聞記事スクラップ〕		1綴・謄写版	56-7-8
祖国へ！ サハリンに残された人たち	昭和63年4月1日(1988)	1枚・謄写版	56-7-9
サハリン残留朝鮮・韓国人ソウル五輪応援団に	昭和63年3月16日(1988)	1枚・活版・鉛筆	56-7-10
サハリン残留韓国・朝鮮人問題解決にいま一歩 土井訪ソに期待	昭和63年3月29日(1988)	1枚・謄写版	56-7-11
現実を直視し歴史の検証を 戦後世代と「過去」への責務	平成4年8月16日(1992)	1枚・活版・ペン	56-7-12
メモ〔TBSモーニングアイ「サハリン忘郷の韓国人」放映時間〕	平成7年8月10日(1995)	1枚・ペン	56-7-13
極寒のサハリンを訪ねて 残された人々は今…	平成3年2月7日(1991)	1枚・謄写版	56-7-14
アジアへの優越感なくせ		1枚・活版	56-7-15
残留韓国人の訴えかなえて	平成4年12月16日(1992)	1枚・活版・ペン	56-7-16
サハリン残留韓国人1万3千人が帰国希望 日本政府に援助を訴え	平成4年12月9日(1992)	1枚・活版・ペン	56-7-17
引揚資料		7枚・活版	56-8
書簡〔文献メモ〕 新井	平成3年8月19日(1991)	1枚・ペン	56-8-1
樺太引揚げ同胞の現況 樺太協会	昭和20年10月25日(1945)	6枚・謄写版・鉛筆	56-8-2
〔新聞記事スクラップ〕			56-9
樺太庁統治からソ連占領までサハリンに資料眠る	平成4年12月4日(1992)	1枚・活版	56-9-1
「隠された歴史」に検証の光	平成2年6月18日(1990)	1枚・活版・ペン	56-9-2
シベリア抑留のソ連側資料邦人死者は6万4000人		1枚・活版	56-9-3
「対日参戦」見直し機運も	平成2年6月16日(1990)	1枚・活版・ペン・鉛筆	56-9-4
緊急移住呼びかけソ連のユダヤ人10万人に	平成3年8月23日(1991)	1枚・活版	56-9-5

「強制連行」の虚構	平成7年10月10日 (1995)	1綴・活版	56-10
〔新聞記事スクラップ〕			56-11
指導者の誤算	平成2年8月17日(1990)	1枚・活版	56-11-1
強制連行の実態雄弁に	平成2年10月31日 (1990)	1枚・活版	56-11-2
大震災朝鮮人虐殺国会で謝罪決議を	平成2年8月17日(1990)	1枚・活版	56-11-3
〔雑資料〕		2綴・11枚・ペン・ 活版	56-12
葉書〔蔵書整理進捗状況伺〕 岡本書店→朴魯学	〔平成2年2月7日〕 (1990)	1枚・墨書	56-12-1
書簡〔新年挨拶〕 黄明秀〔大韓民国国会保社委員長 国会議員〕→新井佐和子	〔平成2年〕辛未1月1日 (1990)	1封筒(2枚)・活 版・墨書	56-12-2
第5回北海道日ソ友好親善サハリン「道民の船」の旅	昭和61年(1986)	1枚・謄写版	56-12-3
書簡〔峯本幸子住所通知〕 堀江和子→新井佐和子	平成1年3月6日(1989)	1封筒(5枚)・ペ ン・謄写版	56-12-4
〔サハリン残留韓国人関係文献〕		22枚・謄写版	56-12-5
朝鮮内における賃金(日当)昭和17年		2枚・謄写版	56-12-6
【クリアフォルダのみ】		1個・クリアフォ ルダ	56-13
原稿資料			57
メモ〔在日ソ連領事部領事宛書簡雛形及び人名〕		1綴・2枚・ペン	57-1
書簡〔李徳林裁判原告の件不承知〕 方明熙→新井 佐和子	昭和63年12月4日 (1988)	1枚・ペン	57-2
〔朴魯学葬儀関係〕			57-3
〔朴魯学葬儀関連新聞記事スクラップ〕		6枚・活版・謄写 版	57-3-1
式次第〔朴魯学葬儀〕	昭和63年3月19日 (1988)	1枚・活版	57-3-2
御会葬御礼〔朴魯学葬儀〕	昭和63年3月19日 (1988)	1封筒(1枚)・活版	57-3-3
その他要求事項		1枚・ペン	57-3-4
サハリン韓国人招請に関する費用 朴魯学	昭和62年7月30日 (1987)	1枚・ペン	57-3-5
電報〔宛先のみ〕 朴魯学→李文沢	昭和63年3月20日 (1988)	1枚・謄写版	57-3-6
〔出生証明書及び婚姻証明書コピー〕(ロシア語)		4枚・謄写版	57-3-7
書簡写〔朴魯学死去通知〕 新井佐和子〔堀江和子代 筆〕	昭和63年3月26日 (1988)	1枚・謄写版	57-3-8
補足付記	昭和45年10月17日 (1970)	1綴・謄写版	57-3-9
性別索引		1綴・謄写版	57-3-10

[サハリン残留韓国人関係新聞記事・文献・国会議事録コピー]		3綴・2枚・謄写版・ペン	57-4
在サハリン韓国人支援事業計画(実施基本要領)		1綴・活版	57-6
[サハリン裁判終結関係]			57-8
[裁判終結報道スクラップ]	平成1年6月15日(1989)	4枚・活版・謄写版	57-8-1
争訟事件の終了について(通知) 東京法務局長	平成1年6月20日(1989)	1綴・謄写版	57-8-2
一九七六年度以降韓国(日本)入国許可者身元保証書		1綴・謄写版	57-8-3
1966年度樺太韓国人帰還希望者分布状態 朴魯学		1枚・謄写版	57-8-4
参考資料			57-9
書簡[堀江氏への不満に付] 柳秋子→道上尚史	6月19日	1綴・謄写版	57-9-1
[永住帰国・補償推進パイロットプロジェクト関連記事]		4枚・謄写版	57-9-2
明暗分けた台湾籍の在韓華僑と中国籍の朝鮮族同胞		1綴・2枚・謄写版	57-9-3
サハリン残留朝鮮人のいま サトウカツミ	平成7年3月6日(1995)	3枚・謄写版	57-9-4
[サハリン残留韓国人問題新聞記事スクラップ]	平成1年1月12日(1989)	3枚・活版	57-10
草川昭三			57-11
書簡[寄付金領収証送付に付] 草川昭三事務所→新井佐和子	平成1年12月28日(1989)	1封筒(2枚)・ペン	57-11-1
第百二十回国会衆議院予算委員会議事録第二十三号 草川昭三事務所→新井佐和子	平成3年3月14日(1991)	1封筒(1綴)・活版	57-11-2
カラフト抑留者留守家族支援の会	昭和57年6月(1982)	1枚・活版	57-11-3
[草川昭三関連新聞記事及びパンフレットスクラップ] 草川昭三事務所→新井佐和子	平成1年12月30日(1989)	7枚・ペン	57-11-4
[ヤルタ協定関連新聞記事スクラップ]		10枚・活版・謄写版	57-12
[サハリン残留韓国人問題新聞記事スクラップ]		6枚・活版	57-13
【クリアフォルダのみ】		1個・クリアフォルダ	57-14
[樺太抑留帰還韓国人会関係資料コピー]		6枚・謄写版	58
朝鮮研究 162	昭和52年1月(1977)	1冊・活版	60
葉書[韓国人帰還事業について所感] 陳野守正→新井佐和子	昭和58年4月30日(1983)	1枚・ペン	61
サハリン同胞一時帰還対象者名簿No.1 樺太帰還在日韓国人会	昭和58年年10月15日(1983)	6枚・謄写版	62
掲載論文(1)			63
現代コリア 日本フォーラム「サハリン」			63-1
日本至留 JAPAN Forum ソウルフォーラム社	平成2年(1990)	1冊・活版	63-1-1
[サハリン残留韓国人問題関係原稿並びに雑誌記事コピー]		5綴・14枚・謄写版・ペン	63-1-2

〔諸君、サハリン残留韓国人問題関係原稿、新聞・新聞記事切抜き・コピー、葉書・支払明細書〕 新井佐和子・産経新聞社・株式会社文芸春秋	平成3年5月(1991)	1冊・2綴・4枚・1封筒(1枚)・活版・謄写版・ペン	63-2
〔新井佐和子寄稿新聞記事切抜き及びコピー〕 京阪新聞社・産経新聞社		5枚・活版・謄写版	63-3
原稿〔サハリン抑留韓国人賠償問題について〕 新井佐和子	平成2年8月20日(1990)	2綴・謄写版・ペン	63-4
従軍慰安婦			63-5
〔従軍慰安婦に関する原稿・雑誌記事〕 新井佐和子・吉岡忠雄		2綴・3枚・謄写版	63-5-1
週刊時事、現代コリア、朝日ジャーナル		3冊・活版	63-5-2
新井佐和子寄稿雑誌記事コピー 日本政策研究センター	平成6年11月1日(1994)	2綴・1枚・謄写版	63-6
「明日への選択」インタビュー記事、補足書簡		1冊・2綴・ペン・活版	63-7
日本フォーラム			63-8
書簡〔論文転載願〕 株式会社ジャパンエコー→新井佐和子		1封筒(4枚)・ペン・謄写版	63-8-1
現代コリア 第303号 亜紀書房	平成4年6月15日(1992)	1冊・活版	63-8-2
書簡〔NHKスペシャル「遅すぎた帰還」の問題点〕 新井佐和子		1綴・1枚・ペン・活版	63-9
書簡〔『日本政治』掲載の故朴魯学写真撤回要求〕 堀江和子→五十嵐広三〔サハリン残留韓国・朝鮮人問題議員懇談会事務局長〕	平成6年3月(1994年)	1枚・ペン	63-10-1
書簡〔樺太越境の女優岡田嘉子について〕 新井佐和子→白石一文		2枚・ペン	63-10-2
書簡〔サハリン問題の複雑性について〕 新井佐和子→白杵		4枚・謄写版	63-10-3
〔ヤルタ秘密協定についての投稿記事切抜き〕 新井佐和子		1綴・1枚・活版	63-11
【クリアフォルダのみ】		1個・クリアフォルダ	63-12
掲載論文(2)			64
サハリン残留補償はでっち上げだ 新井佐和子	平成6年12月(1994)	4綴・謄写版	64-1
〔サハリン残留補償裁判関係雑誌、新聞記事切抜き〕		1冊・6枚・ペン・活版・謄写版	64-2
慰安婦問題にもの申す 新井佐和子	平成9年1月(1997)	1綴・謄写版	64-3
「広辞苑」が載せた朝鮮人強制連行のウソ 新井佐和子	平成10年5月(1998)	2綴・謄写版	64-4
“四万三千”『サハリン残留コリアン補償』の虚構 月曜評論社	平成7年6月25日(1995)	1枚・謄写版	64-5
強制連行 言葉のオソロシサ 新井佐和子	平成11年5月15日(1999)	1冊・1封筒(1枚)・活版	64-6

「大沼教授に韓国修交勲章」に思う 新井佐和子	平成11年(1999)	1綴・活版	64-7
〔大沼保昭批判記事及びコピー〕 新井佐和子・佐藤勝巳		3綴・謄写版・活版	64-8
編集者へ 産経新聞社	平成12年5月1日(2000)	1綴・活版	64-9
「広辞苑」にみる歴史認識の歪み―強制連行 新井佐和子		6枚・活版	64-10-1
「朝鮮人百万人強制連行」のウソ 新井佐和子	平成12年8月25日(2000)	1冊・1綴・活版・謄写版	64-10-2
「女子挺身隊」のこと 昭和史研究所会報 新井佐和子	平成16年8月10日(2004)	3枚・謄写版	64-11-1
「強制連行」を考えるために 第1～第4回 新井佐和子		21枚・謄写版	64-11-2
NHKがカットした拉致被害者家族の言葉 新井佐和子	平成14年10月15日(2002)	1冊・活版	64-11-3
「サヨナラ、サヨナラ」と言い残して全員自決した電話交換手の碑「氷雪の門」を忘れるな 新井佐和子	平成15年1月(2003)	6枚・謄写版	64-11-4
新井 出版関係メモ			64-12
堀江和子氏聞取調査 加藤聖文	平成19年7月10日(2007)	1枚・DVD	64-12-1
書簡〔第2章送付並びに構成再考願〕 草思社→新井佐和子	平成8年9月24日(1996)	1封筒(5枚)・ペン	64-12-2
年表原稿 草思社編集部	平成9年11月13日(1997)	5枚・謄写版	64-12-3
あとがき	平成9年12月(1997)	13枚・謄写版	64-12-4
1997年 切り抜き“サハリン”地図〔真岡町地図、日中口朝トレース図〕 いわさきまな→新井佐和子	平成9年(1997)	4枚・ペン・謄写版	64-12-5
ノート〔樺太の朝鮮人移入に関する覚書〕		1冊・ペン	64-12-6
サハリン関係覚え書〔サハリン抑留韓国人関係メモ、原稿、記事切抜・コピー〕 新井佐和子	平成5年3月(1993)	1綴・ペン・活版・謄写版	64-12-7
ソ赤役員質問事項、朝鮮人の身分(国籍)に関する件〔シベリア抑留日ソシンポジウム招待券、国立国会図書館資料請求票、メモ〕 →新井佐和子	平成2年6月20日(1990)	1封筒(4枚)・ペン・活版	64-12-8
サハリン抑留韓国人・従軍慰安婦・戦後補償問題係書類〔雑誌・書籍原稿、新聞・雑誌記事切抜・コピー、地図、メモ、紙片〕		102枚・13綴・ペン・活版・謄写版	64-12-9
【クリアフォルダのみ】		1個	64-13
【袋のみ】		1枚	65
〔新井佐和子寄稿記事・原稿・参考資料コピー〕		53枚・謄写版	67
写真〔韓元洙・李徳林・金秉坤・文洪錫・高木事務所・朴家墓地〕		5綴・活版	78
議事録		1冊・ペン・活版	79
書簡〔雑誌『現代コリア』への礼状案〕 新井佐和子		2部(3枚)・ペン	81-14

書簡〔新聞記事への批判案文〕 新井佐和子		1枚・ペン	81-15
〔記事・書簡・メモコピー〕			82
書簡写〔サハリンの生活変化について〕 方明照→新井佐和子	平成3年9月21日(1991)	2枚・謄写版	82-1
書簡写〔樺太在留者帰還について〕 韓栄相→草川昭三	昭和63年12月13日(1988)	1枚・謄写版	82-2-1
書簡写〔樺太在留者帰国について返書〕 草川昭三・草川事務所・堀江和子・新井佐和子→韓栄相	昭和63年12月21日(1988)	1枚・謄写版	82-2-2
〔サハリン未帰還者記事、「在ソ同朋一次帰還崔氏等コピー〕		4枚・謄写版	82-3
書簡〔K・J VOICE 5周年記念事業趣旨書添状〕 宣一九→新井佐和子	平成5年11月16日(1993)	1封筒(2枚)・ペン	83-6-1
書簡〔記念事業趣旨書、要領、アンケート内容〕 宣一九		1綴(3枚)・活字	83-6-2
書簡〔『韓日研究』バックナンバー送付通知〕 宣一九→新井佐和子	平成1年11月7日(1989)	1封筒(2枚)・ペン	83-16
書簡〔『諸君』5月号送付礼状並びに現金送付に付〕 小岩順子→新井佐和子	〔平成3〕年5月7日(1991)	1封筒(4枚)・ペン	83-20
書簡〔書籍価格問合〕 小岩順子→新井佐和子		1封筒(4枚)・ペン	83-22
書簡〔サハリン裁判関連書送付礼状〕 小岩順子→新井佐和子	〔平成3年4月12日〕	1封筒(2枚)・ペン	83-23
書簡〔書籍追加購入申込〕 小岩順子→新井佐和子	〔平成3年4月9日〕	1封筒(5枚)・ペン	83-24
書簡〔『現代コリア』送付礼状並びに送金済の書籍送付願〕 小岩順子→新井佐和子	〔平成3年4月4日〕	1封筒(5枚)・ペン	83-26
書簡〔書籍追加購入申込〕 小岩順子→新井佐和子	〔平成3年3月29日〕(1991)	1封筒(4枚)・ペン	83-29
書簡〔書籍代送金に付〕 小岩順子→新井佐和子	〔平成2年12月17日〕(1990)	1封筒(2枚)・ペン	83-30
書簡〔ネグリジェ送付礼状並びにカレンダー送付に付〕 小岩順子→新井佐和子	〔平成2年11月20日〕(1990)	1封筒(1枚)・ペン	83-31-1
書簡〔書籍送付礼状並びに米送付に付〕 →新井佐和子		1封筒(1枚)・ペン	83-32-1
伝票〔米送付〕		1枚・活版・ペン	83-32-2
葉書〔年賀状〕 政池仁・ユキエ→三原令	昭和56年1月1日(1981)	1枚・ペン	83-34
書簡〔書籍送付礼状〕 小岩順子→新井佐和子	12月8日	2枚・ペン	83-35
葉書〔新勤務地通知〕 和田博夫→新井佐和子	〔昭和56年7月22日〕(1981)	1枚・ペン	83-37
葉書〔近況報告〕 平林ときわ→新井佐和子	〔昭和56年7月30日〕(1981)	1枚・ペン	83-38
葉書〔年賀状〕 三原令・前田一夫→新井佐和子	昭和53年1月1日(1978)	1枚・活版・ペン	83-39
航空書簡〔三原事務局長病氣見舞〕 宣一九→新井佐和子	〔昭和5□〕年11月27日(198□)	1枚・ペン	83-40

葉書〔ルポルタージュ執筆依頼〕 陳野守正→新井佐和子	〔昭和57年12月14日〕 (1982)	1枚・ペン	83-41
書簡〔近況報告〕 陳野守正→新井佐和子	昭和57年12月1日 (1982)	1封筒(4枚)・ペン	83-43-1
図書室月報 国立市公民館	昭和57年10月5日 (1982)	1枚・活版	83-43-2
戦争への道を許さない 吉村奈保子		1枚・活版	83-43-3
中国における満洲族・朝鮮族の現状 陳野守正		1枚・活版	83-43-4
書簡〔近況報告〕 吉岡→新井佐和子	〔昭和57年9月〕18日 (1982)	1封筒(1枚)・ペン	83-44
葉書〔残暑見舞〕 小林正→新井佐和子	〔昭和57年8月18日〕 (1982)	1枚・ペン	83-45
書簡〔『シオン通信』75号並びに写真2枚送付添状〕 小林正→新井佐和子	〔昭和57年9月15日〕 (1982)	1封筒(2枚)・ペン	83-47-1
シオン通信No.75	昭和57年9月(1982)	1冊(2枚)・活版	83-47-2
写真〔中山先生〕	昭和57年7月22日 (1982)	1枚・写真	83-47-3
写真〔栗山姉・私・尾関姉・先生〕	昭和57年7月22日 (1982)	1枚・写真	83-47-4
書簡〔近況報告〕 陳野守正→新井佐和子	〔昭和57〕年4月23日 (1982)	1封筒(2枚)・ペン	83-48-1
〔『妻』第7号記事コピー〕		1枚・謄写版	83-48-2
書簡〔サハリン裁判活動に付所感〕 陳野守正→新井佐和子	〔昭和57〕年5月1日 (1982)	1封筒(5枚)・ペン	83-49
書簡〔拙著贈呈しない件に付詫状〕 陳野守正→新井佐和子	〔昭和57〕年3月2日 (1982)	1封筒(2枚)・ペン	83-51-1
〔『凍土の会会報』第19号記事コピー〕	昭和57年2月28日 (1982)	1綴・活版	83-51-2
葉書〔残暑見舞〕 小岩順子→新井佐和子	〔昭和57〕年8月9日 (1982)	1枚・墨書	83-55
葉書〔ニュース第39号感想〕 協(山口協一カ)	昭和56年12月19日 (1981)	1枚・ペン	83-56
書簡〔近況報告〕 小林正→新井佐和子	〔昭和〕57年(1982)	1封筒(5枚)・ペン	83-58
社会を告発する!!PART4	〔昭和56年8月〕(1981)	1枚・活版	83-60-2
書簡〔美和子奨学金獲得の事情に付報告〕 金玉昌→新井佐和子	〔昭和56年2月9日〕 (1981)	1封筒(5枚)・ペン	83-64
書簡〔踏査旅行からの帰国に付報告〕 宣一九→新井佐和子	〔昭和5□年11月7日〕 (198□)	1枚・ペン	83-65
書簡〔品物送付礼状並びに鈴木康平一家近況報告〕 中平健吉→新井佐和子	昭和58年4月1日(1983)	1封筒(2枚)・ペン	83-67
葉書〔年賀状〕 政池仁・ユキエ→新井正夫 全佐和子	昭和54年1月1日(1979)	1枚・活版・ペン	83-68
葉書〔『聖書の日本』・切手3万円分・国連への陳情書送付報告〕 水野崇→新井佐和子	昭和55年12月25日 (1980)	1枚・ペン	83-69

葉書〔クリスマス祝賀並びに「忘却の海峡」感想〕 秋田稔→新井佐和子	〔昭和53〕年12月23日 (1978)	1枚・ペン	83-72
葉書〔聖書の日本読者名簿など入手不可能に付詫状〕 武敏代→新井佐和子	〔昭和53〕年12月16日 (1978)	1枚・ペン	83-73
葉書〔戦争責任を考える会国際シンポジウム不参加に付〕 陳野守正→新井佐和子	〔昭和59年8月12日〕 (1984)	1枚・ペン	83-75
書簡〔イベント案内〕 李斗勲→新井佐和子	〔昭和63年2月10日〕 (1988)	1封筒(1枚)・活版	83-87-1
名刺〔李斗勲〕		1枚・活版	83-87-2
書簡〔『現代コリア』寄稿の事情に付〕 →上杉千年	〔平成5〕年12月18日 (1994)	2枚・ペン	83-104
〔原稿草稿〕		2枚・ペン	83-105
〔1990年7月1日付朝鮮日報記事スクラップ〕	〔平成2年7月1日〕 (1990)	1枚・活版	83-106-3
葉書〔韓国三部作「サハリン」への協力願〕 角田房子→新井佐和子	〔平成1年1月18日〕 (1989)	1枚・ペン	83-107
〔写真及び論説送付礼状コピー〕 権熙恵→草川昭之先生事ム所	〔平成2年7月30日〕 (1990)	4枚・謄写版	83-108
書簡〔中蘇離散家族会第14次定期総会招請状〕 李斗勲→椿本方	昭和58年7月(1983)	1封筒(1枚)・活版	83-109
葉書〔「サハリンの空に流れる木霊」送付礼状〕 小岩順子→新井佐和子	〔平成2年11月23日〕 (1990)	1枚・ペン	83-110
葉書〔書籍送付礼状〕 荒木和博→新井佐和子	〔平成2〕年12月2日 (1990)	1枚・ペン	83-111
書簡〔三原氏の言動とそれへの新井氏同調に付意見〕 水野崇→新井佐和子	〔昭和55〕年7月5日 (1980)	1封筒(5枚)・ペン	83-112
写真〔サハリン関係〕		37枚・写真	84
雑誌記事〔樺連情報、正論〕	平成19年(2007)	2枚・活版	85
サハリン資料〔日本포럼 JAPAN Forum 1990年第6号、写真〕 ソウルフォーラム社	平成2年(1990)	1冊・2枚・活版	86
〔名刺並びに住所メモ一括〕		93枚・活版・ペン ・墨書・謄写版	87
メモ帳〔名簿、ハングル文字練習〕		1冊・ペン	88
国会手帖 平成3年 国家手帳社	平成3年(1991)	1冊・ペン	89
手帳〔メモ、記事、住所録〕		1冊・ペン・活版	90
メモ〔1987年度、1988年度〕		72枚・ペン	91
献体手帳 1985 篤志解剖全国連合会	昭和60年(1985)	1冊・ペン	92
手帳〔83〕	昭和58年(1983)	1冊・ペン	93
手帳〔昭和57年〕	昭和57年(1982)	1冊・ペン	94
手帳〔1981年〕 科学新興社	昭和56年(1981)	1冊・ペン	95
カードファイル〔名刺一括 1988～1990〕		1冊・活版	96

カードファイル〔名刺一括〕		1冊・活版	97
ノート・ファイル〔樺太帰還韓国人関係連絡先一覧、支援者芳名録・会員住所・弔辞・写真〕		2冊・2枚・1封筒 (1綴)・活版・ペン ・謄写版	98
外地及外国引揚者保護関係一件集 社会局引揚援護課 書簡〔送付品目録〕 新井佐和子	昭和20年12月(1945) 〔平成〕18年6月26日 (2006)	1綴・謄写版 1封筒(1枚)・ペン	100 101
書簡〔堀江氏転院後帰宅希望のため今週退院に付〕 あ らい	〔平成19〕年9月2日 (2007)	1枚・ペン	104-2
死亡報告取消通知書 寺越友枝→新井佐和子	〔平成27〕年5月2日 (2015)	1封筒(1枚)・謄 写版・ペン	105-2
親と子・兄と弟24年の空白を越えて再会 認定の海(朝鮮語)	〔平成13〕年12月20日 (2001)	37枚・謄写版 122枚・謄写版	105-3 105-4
〔寺越友枝氏新聞記事コピー〕 日記 〔手帳写真コピー〕 満州日報		12枚・謄写版 81枚・謄写版 45枚・謄写版 4枚・謄写版	105-5 107 108 109
メール〔新井要之助英文手紙日本語訳に付〕 新井道 夫→Masaki.Arai@jp.yokogawa.com・araiguma@ olive.ocn.ne.jp・araik@morioka-schole-h.ed.jp・ kiyoshigearai@aol.com・ks-inui@wa3.so-net.ne.jp・ mono150328@r5.dion.ne.jp・nmac-arai-fam@meg. winknet.ne.jp・nobu-arai@mta.biglobe.ne.jp	平成16年9月23日 (2004)	3枚・活版	110
日露大戦裏面史大草原に戦う謎の騎馬隊井戸川辰三将 軍と蒙古馬賊		66枚・謄写版	111
写真〔井戸川辰三・井戸川よね子・沼田家・よね子葬儀〕		1封筒(4枚)・写 真	112-1
書簡写〔井戸川家・沼田家・保田家よりの預かり品目録〕	〔平成〕18年6月22日 (2006)	1枚・謄写版	112-2
〔日南新聞及び中国北東部地図コピー〕 上原勇作を思う 上原尚作	平成14年3月31日 (2002)	2枚・謄写版 1綴・活版	112-3 112-4
書簡〔陸軍大学卒業者及び井戸川辰三部下名簿コピー〕 横井→井戸川進		1綴・謄写版	112-5

Series No.3: 刊行物

サハリンの韓国人はなぜ帰れなかったのか 新井佐和 子	平成10年1月5日(1998)	1冊・活版	80
日本帝国韓国併合侵略画報写真史 張在述〔樺太抑留 帰還韓国人会〕	昭和48年9月1日(1973)	1冊・活版	99
正論	平成19年10月(2007)	1冊・活版	104-1

北朝鮮にいる息子よわが胸に帰れ 寺越友枝	平成12年12月31日 (2000)	1冊・活版	105-1
米国特派員が撮った日露戦争	平成17年5月12日 (2005)	1冊・活版	106
興亜記		14枚・謄写版	112-6-1
爆破行秘史		30枚・謄写版	112-6-2
名士、映画を語る 井戸川渉		121枚・謄写版	113
自叙伝 井戸川三郎	平成元年11月3日 (1989)	1綴・謄写版	114
分隊長の手記 棟田博	昭和14年11月20日 (1939)	1冊・活版	115
敵中横断三百里 山中峯太郎	昭和6年3月5日(1931)	1冊・活版	116
続分隊長の手記 棟田博	昭和15年7月5日(1940)	1冊・活版	117
決死爆破行 大島与吉	昭和17年2月6日(1942)	1冊・活版	118
ある歩兵の日露戦争従軍日記 茂沢祐作	平成17年3月25日 (2005)	1冊・活版	119

史料目録 第112集
近現代文書目録 (その2)

印刷発行 令和3年3月31日
発行者 人間文化研究機構 国文学研究資料館
編集 学術資料事業部
〒190-0014
東京都立川市緑町10-3
電話 050-5533-2900 (代)
印刷 株式会社アズディップ

©人間文化研究機構 禁無断複写

(本目録は国文学研究資料館史料館の『史料館所蔵史料目録』(第78集まで発行)を継続しています。)

ISBN 978-4-87592-200-1
ISSN 2435-2055



9784875922001

ISBN 978-4-87592-200-1

ISSN 2435-2055